

# 甲府市内遺跡VI

— 平成13～14年度試掘調査報告書 —

2009

甲府市教育委員会



13-5 朝氣遺跡



13-18 地藏北遺跡



14-25 十丁遺跡①



14-25 十丁遺跡②



14-35 武田城下町遺跡



14-65 船山遺跡 ①



14-65 船山遺跡②



14-69 緑が丘二丁目遺跡

## 序

甲府市は、奥秩父山塊の名峰で長野県との県境をなす金峰山（標高2599m）を北端とし、南端は富士五湖の一つ精進湖の付近まであり、山梨県の中央を南北に三日月形に縦断する位置に所在します。

戦国の雄武田信虎が永正16年（1519）に居館を現在の古府中町（現武田神社）に構え、甲斐国の中として命名したことにより「甲府」の歴史が幕を開け、現在、およそ500年の歳月を数えます。

中世の城下町と近世の城下町を基盤に発展した甲府市について、太宰治は著書「新樹の言葉」の中で、その様子を「シルクハットを倒（さか）さまにして、その帽子の底に、小さい小さい旗を立てた、それが甲府だと思えば、間違いない。」と表現しています。

忘却のかなたに忘れ去られた過去を、発掘調査によって掘り起こしたもの本書に掲載しております。

本報告が歴史を研究する糧となり、また将来、地域学習の素材として活用されることを期待しております。

末筆ではありますが、多くの方々から多大なご指導やご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げ序といたします。

平成21年3月

甲府市教育委員会

教育長 奥 田 理

## 例　　言

1. 本書は、平成13・14年度に実施した埋蔵文化財の試掘調査の報告書である。
2. 調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。
3. 調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
4. 調査は甲府市教育委員会が主体となり、文化財保護担当（信藤祐二・伊藤正幸・志村憲一・佐々木満・伊藤正彦・望月秀和・平塚洋一）が実施した。
5. 原則として調査担当者が執筆し、望月秀人（文化振興課長）を編集責任者として、平塚洋一が編集した。
6. 本書の挿図・表は、中村里恵、三神千佳、佐野香織、藤原由香が作成した。
7. 本書に掲載した出土遺物及び記録図面、写真等は甲府市教育委員会で保管している。
8. 陶磁器（一部）の写真実測図化は株式会社シン技術コンサルに、土器（一部）のデジタルトレスは有限会社松風実測部門ツールアートに、金属製品及び木製品の保存処理は帝京大学山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。
9. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の機関および諸氏からご指導・ご協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる（順不同・敬称略）。  
林陽一郎・山梨県教育委員会学術文化財課、萩原三雄・鈴木稔・河西学・畠大介・宮澤公雄・平野修・櫛原功一・中山千恵（山梨文化財研究所）、森原明廣・宮里学（山梨県教育委員会）、小沢忠秋・望月和幸（笛吹市教育委員会）、三澤達也（山梨市教育委員会）、室伏徹（甲州市教育委員会）、大寫正之（甲斐市教育委員会）
10. 発掘調査および整理作業参加者（順不同・敬称略）  
遠藤美子、倉田勝子、小宮通子、清水秀樹、高橋主税、武井美知子、寺田恒造、富永茂樹、長澤晴雄、並木寿子、波木井祥和、花曲敬子、古屋袈裟男、望月貴美子、望月宏美、渡辺茂、渡辺百合子、雨宮英郎、岡 悅子、金井いく代、工藤忠誠、佐田金子、佐藤美喜男、坂本しのぶ、山崎雅恵、小宮通子、小澤四郎、小池幹子、小池孝男、池谷富士子、中村孝一、樋口 進、富永小枝、望月秀和、末木義光、奥水和彦、奥水萬代、浅木一希、野澤南海子、小沢正幸、山口あずさ、長田隆志、本道政清、本道歌子、小林正輝、影山博子、飯室久美恵、高添美智子、岸本美苗、栗田宏一、伊藤公美子、佐藤善幸、荒木昭彦、佐田 畏、宮川 久、福井光幸、青山制子、平沢則子、栗田かず子、内藤真千子、林久美子、笠井博幸、村田勝利、森下 豊、塙原澄子、窪田信一、川口格一、堀内美香、鈴木正文、水上善郎、向井袈裟春、石部祖代、渡部祥子、中込幹一、坂本道穂、深沢春美、雨宮奈麻美、中川三千子、中込 実、北原洋子、丸山隆昭。

## 凡　　例

1. 遺構・遺物番号は、各遺跡の調査地点単位で通し番号とした。
2. 遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。
3. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
4. 図面のスクリーントーンは、図面上に指示してある。



# 本文目次

繪  
序  
例  
言  
例  
凡  
本 文 目 次

## I 平成13年度試掘調査

平成13年度 試掘調査位置図 (1) .....	2
平成13年度 試掘調査位置図 (2) .....	3
13-1 朝氣遺跡 .....	4
13-2 朝氣遺跡 .....	5
13-3 朝氣遺跡 .....	6
13-4 朝氣遺跡 .....	7
13-5 朝氣遺跡 .....	8
13-6 朝氣遺跡 .....	11
13-7 朝氣遺跡 .....	12
13-8 金塚西遺跡 .....	13
13-9 甲府城下町遺跡 .....	16
13-10 甲府城下町遺跡 .....	17
13-11 甲府城下町遺跡 .....	18
13-12 甲府城下町遺跡 .....	19
13-13 小瀬氏館跡 .....	20
13-14 桜井畠遺跡 .....	22
13-15 里吉天神遺跡 .....	23
13-16 塙部遺跡 .....	24
13-17 塙部遺跡 .....	25
13-18 地蔵北遺跡 .....	26
13-19 大手下遺跡・武田城下町遺跡 .....	34
13-20 武田城下町遺跡 .....	35
13-21 武田城下町遺跡 .....	36
13-22 武田城下町遺跡 .....	37
13-23 武田城下町遺跡 .....	38
13-24 武田城下町遺跡 .....	39
13-25 武田城下町遺跡 .....	40
13-26 武田城下町遺跡 .....	42
13-27 武田城下町遺跡 .....	43
13-28 武田城下町遺跡 .....	44
13-29 武田城下町遺跡 .....	46
13-30 武田城下町遺跡 .....	47
13-31 武田城下町遺跡 .....	49
13-32 武田城下町遺跡 .....	50
13-33 武田城下町遺跡 .....	50
13-34 武田城下町遺跡 .....	51
13-35 武田城下町遺跡 .....	52

13-36	武田城下町遺跡	古府中町3147	53
13-37	永井遺跡	小松町428-2他	54
13-38	永井遺跡	小松町427-1他	55
13-39	八幡東遺跡	千塚三丁目1696-2	56
13-40	平石遺跡	荒川一丁目264-1他	57
13-41	富士見遺跡	富士見一丁目1642他	58
13-42	本郷遺跡	善光寺三丁目2352-8	59
13-43	本郷遺跡	善光寺三丁目1939-1	60
13-44	緑が丘二丁目遺跡	緑が丘二丁目833-2	61
13-45	横根久保田遺跡	桜井町643-1他	62

## II 平成14年度試掘調査

平成14年度 試掘調査位置図 (1)		64	
平成14年度 試掘調査位置図 (2)		65	
14-1	朝氣遺跡	朝氣三丁目28-1	66
14-2	朝氣遺跡	朝氣二丁目651-17	67
14-3	居村村上遺跡	池田二丁目363-2他	68
14-4	櫻田遺跡	千塚五丁目2988-2他	69
14-5	金塚西遺跡	千塚三丁目2218	70
14-6	上石田遺跡	上石田三丁目1671	71
14-7	上町天神遺跡	上町1502-1他	72
14-8	上町天神遺跡	上町1807-1他	73
14-9	亀田遺跡	川田町158-3	75
14-10	神田遺跡	千塚三丁目2147-3	77
14-11	新紺屋小学校遺跡・甲府城下町遺跡	武田一丁目131他	78
14-12	甲府城下町遺跡	丸の内二丁目31-9	81
14-13	甲府城下町遺跡	北口二丁目19	83
14-14	甲府城下町遺跡	丸の内一丁目12-1	84
14-15	甲府城下町遺跡	武田二丁目99-1	87
14-16	甲府城下町遺跡	朝日一丁目110	89
14-17	寿町遺跡	寿町475-2他	90
14-18	五本松遺跡	国玉町452-1他	91
14-19	幸町A遺跡	湯田二丁目489	92
14-20	桜井烟遺跡	和戸町1260-1	93
14-21	桜林A遺跡	宮原町183-1他	95
14-22	塩部遺跡	塙部三丁目564-1	96
14-23	塩部遺跡	塙部一丁目273	97
14-24	地蔵北遺跡	東光寺三丁目1743-8他	98
14-25	十丁遺跡	青葉町400-1他	102
14-26	十丁遺跡	青葉町406-3	114
14-27	砂間遺跡	高室町155	115
14-28	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3821-1	116
14-29	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3768-2他	117
14-30	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3648-1他	120
14-31	峰本南B遺跡・武田城下町遺跡	屋形三丁目2498-4	122

14-32	武田城下町遺跡	宮前町11-15	123
14-33	武田城下町遺跡	屋形二丁目2391-1他	124
14-34	武田城下町遺跡	屋形一丁目2087-5	125
14-35	武田城下町遺跡	武田一丁目111他	126
14-36	武田城下町遺跡	屋形三丁目2490-3他	128
14-37	武田城下町遺跡	屋形三丁目1789-1他	129
14-38	武田城下町遺跡	大手二丁目4080-3	130
14-39	武田城下町遺跡	屋形三丁目1579-5	131
14-40	武田城下町遺跡	屋形三丁目1572-3	132
14-41	武田城下町遺跡	古府中町1346-13	133
14-42	武田城下町遺跡	屋形二丁目2299-3	134
14-43	武田城下町遺跡	大手三丁目3814-2他	135
14-44	武田城下町遺跡	屋形三丁目1719-1	136
14-45	武田城下町遺跡	屋形三丁目1747-32他	137
14-46	武田城下町遺跡	武田四丁目18-2	138
14-47	武田城下町遺跡	古府中町3284-1	139
14-48	武田城下町遺跡	大手三丁目3876-6	140
14-49	武田城下町遺跡	武田三丁目415	141
14-50	武田城下町遺跡	屋形三丁目1747-31他	142
14-51	武田城下町遺跡	古府中町1438-3他	143
14-52	武田城下町遺跡	武田三丁目405	144
14-53	武田城下町遺跡	屋形三丁目2480-7	145
14-54	武田城下町遺跡	天神町190	146
14-55	武田城下町遺跡	武田三丁目270	147
14-56	武田城下町遺跡	古府中町3140他	148
14-57	塚腰遺跡	国玉町896-1	149
14-58	天神北遺跡	千塚五丁目3405-1他	150
14-59	天神西遺跡	千塚四丁目3361-6他	152
14-60	天神西遺跡	千塚四丁目3324-5	153
14-61	永井遺跡	小松町414-2	154
14-62	般舟院跡	伊勢三丁目2213-1	155
14-63	東畠遺跡	横根町939-1	156
14-64	富士見遺跡	富士見一丁目1731-2他	157
14-65	船山遺跡	横根町946-1他	158
14-66	本郷遺跡	善光寺三丁目2245-83	165
14-67	緑が丘一丁目遺跡	緑が丘一丁目27-2他	166
14-68	緑が丘一丁目遺跡	緑が丘一丁目74-6	167
14-69	緑が丘二丁目遺跡	和田町758-1他	168
14-70	緑が丘二丁目遺跡	和田町2434-23	173
出土遺物観察表			174

## I. 平成13年度 試掘調査

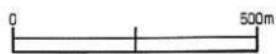


図1 平成13年度調査位置図（1）

0 3000m



図2 平成13年度調査位置図（2）



## 13-1 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目101-1

調査原因 個人住宅建設

対象面積 234.38m<sup>2</sup>

調査面積 4m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年6月12日

調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

古くは東小学校校庭遺跡として山梨県遺跡地名表に記載された。しかし、同遺跡の範囲は広範囲におよぶため、朝氣遺跡と改称され東小学校校庭を中心とした周辺において発掘調査が実施されてきた。

### 調査の結果

2×2mの試掘トレーナーを設定し、人力により掘り下げ調査した。現地表から50cm下層で古墳時代後期から平安時代の土器片とともに、柱穴が8基確認された。

遺構確認面と計画建物の基礎掘り込みの深さとは間層が保たれ、遺跡の保護が図れることから、今回の調査は確認にとどめ終了した。

### まとめ

今回の調査では古墳時代を中心とする朝氣遺跡の遺構・遺物を確認できなかった。しかし、東小学校の敷地を中心に周辺の発掘調査で貴重な発見が相次いでいる。今後の開発にも注意をするべき遺跡である。

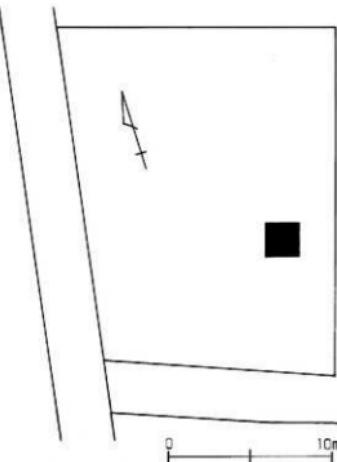
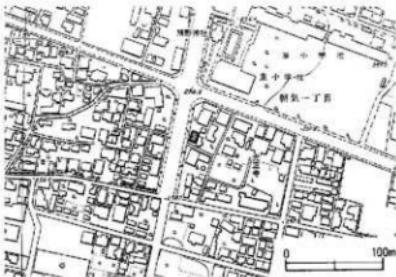


図3 試掘坑配置図

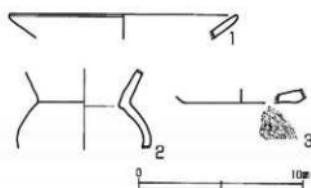


図4 出土遺物

### 調査状況

## 13-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目244

調査原因 個人住宅建設

対象面積 425.00m<sup>2</sup>

調査面積 13.6m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年7月9日～23日

調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は、盆地中央部に位置し、濁川と荒川に挟まれた沖積地に広がる。これまで数次の調査により、古墳時代から平安時代を中心には、多数の遺構・遺物が確認され、良好な資料を得ている。調査地点は遺跡の南端、標高258mを測る住宅地であり、一帯は宅地・店舗が密集する市街地と化している。

### 調査の結果

幅1.7m、長さ8.0mの試掘トレンチを設定し深さ120cmまで掘削したが、地表下約45cmまで盛土及び既存建物解体にともなう整地層が確認された。部分的に深く掘り下げ確認を試みたが、シルト層と砂層の互層が検出されるのみで、遺構・遺物は確認できなかった。

### ま と め

これまでの調査成果から、遺跡が確認される範囲は、包蔵地中央に集中する傾向にあり、本地点を含む南側一帯の遺跡密度は極めて薄いものと考えられる。

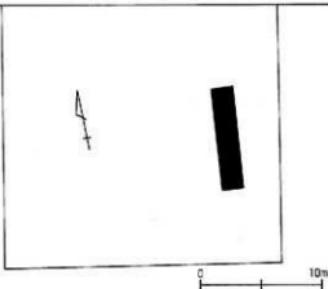


図5 試掘坑配置図



調査状況

### 13-3 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目214-14他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 233.57m<sup>2</sup>  
調査面積 8m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年7月16日～19日  
調査担当 志村憲一

#### 遺跡の概要

調査区は昭和57・59年度に本調査が行われた東小学校の北方約50m地点であり、遺跡範囲の北辺に位置する。標高約257mに位置し、現状周辺は住宅地である。

#### 調査の方法

建物位置に、2m四方のグリッド（A・B）を2か所設定し地表下約1.6m地点まで掘削を行い、土層の堆積状況及び遺構・遺物の確認作業を行った。

#### 調査の結果

両グリッドとも、若干の違いは見られるがほぼ同一の堆積層である。地表下50cm下層の第5層の灰褐色粘質土層と第6層の暗褐色粘質土層からは、炭化物、種子、甲斐型土器片など古代の遺物包含層である。更に地表下150cmの第8層の黒褐色粘土層内からは古墳時代の壺口縁部が3点出土した。遺構に関しては未確認である。

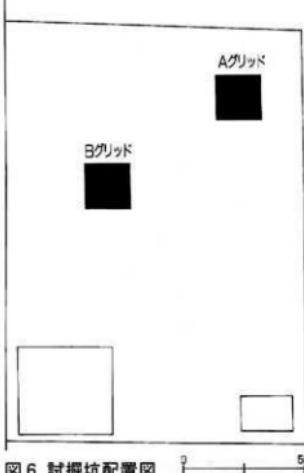


図6 試掘坑配置図



図7 土層柱状図

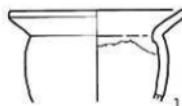


図8 出土遺物

## 13-4 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目21-3  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 142.35m<sup>2</sup>  
調査面積 5m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年9月20日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、朝氣遺跡包蔵地範囲の北西部に位置し、過去に水道工事に際して土器片が多数出土したことのある地点である。調査対象区に2×2.5mのグリッドを設定し、人力によって掘削した。

地表下約30cmまで近現代と考えられる搅乱層で覆われ、その直下において約20cmの水田層が確認された。水田層の床土を除去すると、下層から黒褐色の粘質土が検出された。黒褐色粘質土中からは土師器が多数出土していることから、古墳時代の包含層と考えられた。

黒褐色土層を除去したところで確認作業を行ったものの、明確な遺構は検出されなかった。部分的に地表下約100cmまで掘削し、下層にも何層かの包含層と考えられる粘質土層を確認したが、計画されている住宅基礎深度は包含層まで達しないと判断されたため、埋め戻して調査を終了した。

### 調査の結果

明確な遺構は確認されなかったが、多量の土器片が出土している。調査面積に対する遺物量から推測すると、本地点の敷地内も含めて付近に古墳時代の遺構群が展開する可能性が高く、今後の調査をする上で注意が必要な地域であることが確認されたことは大きな成果であった。

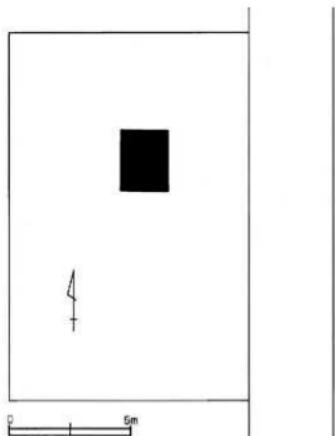


図9 試掘坑配置図



土層堆積状況

## 13-5 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目50-1他  
調査原因 店舗建設  
対象面積 946.70m<sup>2</sup>  
調査面積 100m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年1月16日～29日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

朝氣遺跡はこれまでにも、東小学校の校舎改築をはじめ、都市計画道路の建設、民間アパート建設工事等に先立ち発掘調査が行われ、古墳時代を中心に、弥生時代から平安時代に至る遺構・遺物が確認してきた。

今回の調査は店舗建設に先立つ試掘確認調査で、朝氣遺跡中心部の住宅地内の空閑地に位置し、標高259mを測る。

### 調査の結果

調査は店舗建設を計画している敷地北側に幅2m総延長50m（東西27m、南北23m）の試掘トレンチを設定し、重機で表土を除去した後、人力で精査及び遺構検出を行った。

#### (1) 層序

南北の1号トレンチ（TR1）南端部及び東西の2号トレンチ（TR2）西端部の2か所を基本層序とした。

TR1 南端部において140cmまで掘り下げたが、105cmまでは碎石及び客土され、その下層20cmは赤色粒子を含む茶褐色土の旧耕作土となる。さらに10cmほどの暗青灰色の粘土層をはさみ、白色細粒砂を多く含む黄色土層になるが、この面から江戸時代の遺物が確認されている。90cmを超えると赤色土ブロック及び粒子を多量に含む茶褐色土層になり、この層が古墳時代後期の遺物包含層である。さらに暗茶褐色土層(25cm)、赤褐色粗粒砂層と続く。

TR2 西端部は地表下130cmまで掘り下げた。40cmまでは碎石が充填され、その下層が茶褐色土で、旧表土と判断

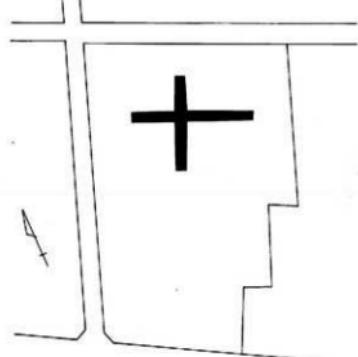
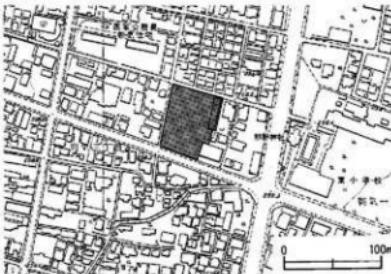


図10 試掘坑配置図

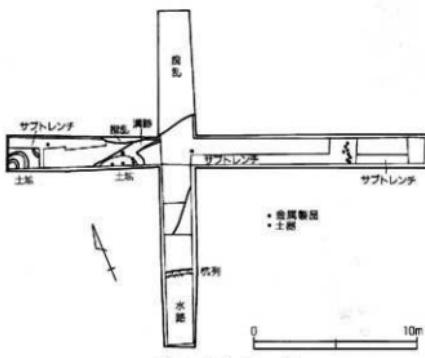


図11 平面図

できた。15cmほどの厚さである。

さらに黄色砂利層、黒色粘土層と続き、その下層の褐色土層及び、5cmほどの固く締まった黄褐色土層を挟んだしまりの弱い黄褐色土層が古墳時代の包含層である。

## (2) 調査の成果

TR 1において、北側7.5mまでは搅乱で、その一部はTR 2へ続く。南端部から6mほどの位置に壁面を杭列で保護した江戸時代の溝跡が確認された。溝の幅は調査区を越えて南に続いている。

TR 2は西側部分で地表下110cmの位置から古墳時代の遺構及び遺物が、東側では地表下130cmの暗青褐色砂層中から、古墳時代後期の遺物が確認されている。

確認された遺構は土塁2基及び溝跡で、どちらも古墳時代後期の所産である。西端部で確認された固くしまった黄褐色土層の上下の層で時代差は認められないが、下層からは遺物を伴う焼土及び灰が確認でき、住居跡の可能性が強い。

出土遺物は壺・高壺及び甕が確認されたほか、金属製品として銀環・鉄環が検出している。

## 調査後の対応

当初の計画では、建物の最深部分が地表下150cmにおよぶものであり発掘調査の実施を前提に協議したが、協議の結果対象地に遺構面と基礎最深部までの間に30cmの保護層が確保できるまで盛り土を施し、埋蔵文化財の保護が図れるよう協力を得られたため、埋設保存とするとともに、今後高層建築物等により地下遺構への影響が避けられない場合には、事前の発掘調査が必要である旨を報告し調査を終了した。

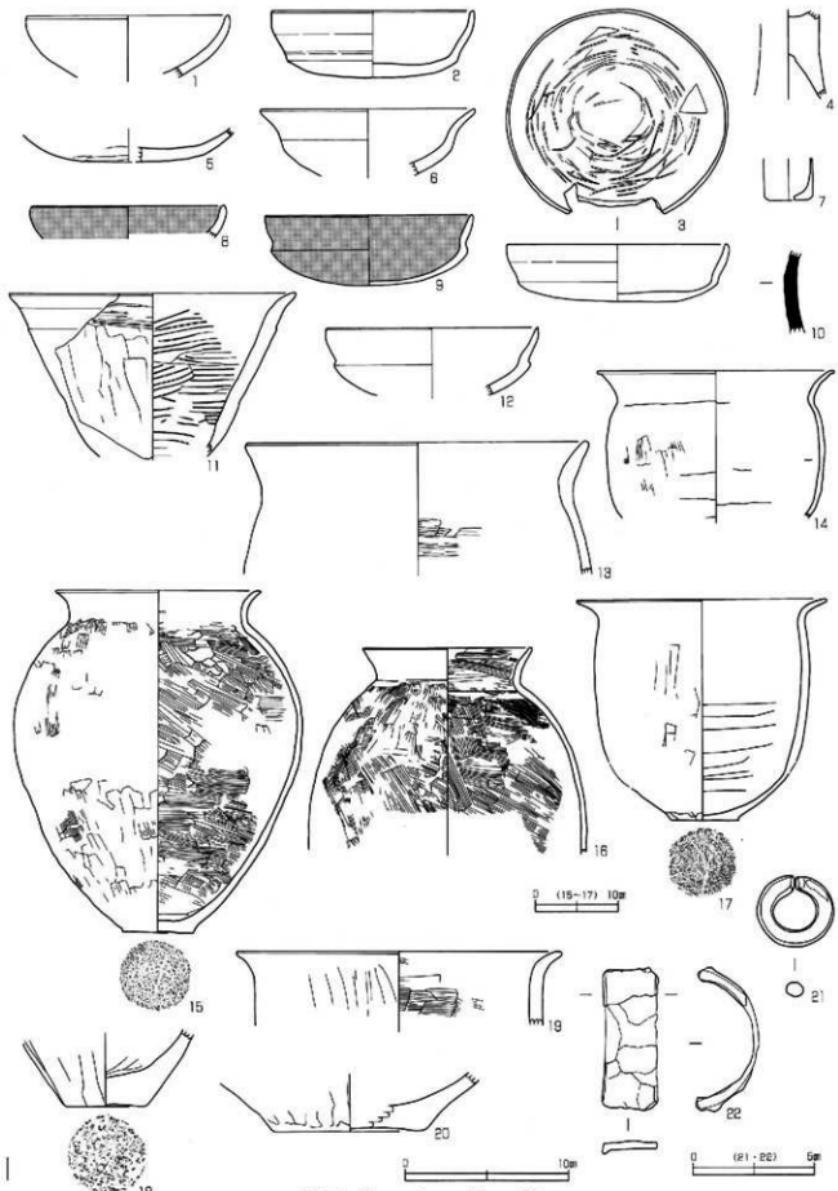


図12 出土遺物

## 13-6 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣1丁目180-5

調査原因 個人住宅建設

対象面積 66.25m<sup>2</sup>

調査面積 8 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年2月4日～5日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は昭和57・59年度に本調査が行われた東小学校の北方約100m地点であり、遺跡範囲の北辺に位置する。標高約257mに位置し、現状周辺は住宅地である。

### 調査の結果

建物位置に、2m四方のグリッド（A・B）を2か所設定し地表下約190cmまで掘削を行い、土層の堆積状況及び遺構・遺物の確認作業を行った。

基本土層としては、第1層は近代の擾乱層である。第2・3層は水田の堆積層である。第4層は黒色粘土層、第5層は黄褐色砂質土層である。第6層の黒色粘土層は微量の炭化物の混入が見られるが、遺物は検出されてはいない。第7層の褐色砂層及び第8層の黒色粘土層はいずれも炭化物等の混入は見られない。

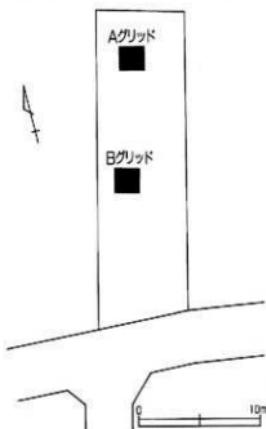


図13 試掘坑配置図



Aグリッド（北壁）

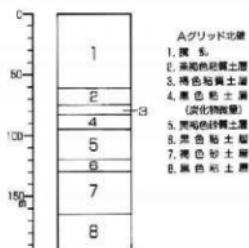


図14 土層柱状図

## 13-7 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目298-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 89.42m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年2月25日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は遺跡包蔵地範囲の南西側、標高約258mに位置し、現状調査区北側には西から東へ流れる水路があり周辺は住宅地である。

### 調査の結果

建物位置に2m四方のグリッドを設定し、地表下約170cm地点まで重機で掘削を行い、土層の堆積状況及び遺構・遺物の確認作業を行った。

地表下約40cmまでは近代の擾乱層である。その直下は、厚さ約40cmの茶褐色粘質土層であり、第3層は厚さ15cmの茶褐色の砂層である。第4・5・6層はいずれも褐色を基調とする粘土層である。いずれの堆積層内からも遺構・遺物は検出されてはいない。

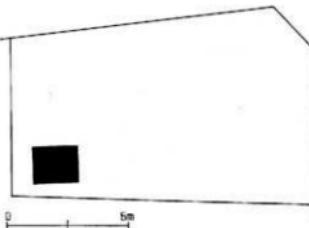
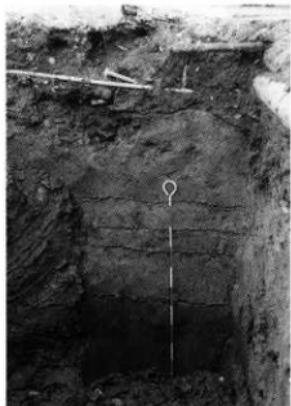


図15 試掘坑配置図



調査状況



図16 土層柱状図

## 13-8 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2242-3他  
調査原因 公園建設  
対象面積 836.61m<sup>2</sup>  
調査面積 156m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年3月5日～27日  
調査担当 幸塚洋一

### 調査の概要

調査対象地は荒川の左岸、標高295m付近に位置する。周辺の調査結果からいえるのは、荒川は文字通り「荒れる川」だったことである。今回の調査結果では、千塚三丁目2242-3、2243-1の区画で荒川の一支流が検出され、古墳時代の後期にその支流が埋没する段階で、溝として利用している状況が確認できた。また、その他に土坑が1基検出できた。近代に開削された暗渠(排水溝)からは円筒埴輪が数点出土している。

また、千塚三丁目2225-3の区画においては、古墳時代前期の竪穴住居跡1基、溝跡1条、柱穴3基が確認できた。

### 出土遺物

1号竪穴住居跡から出土した土器の多くは古墳時代後期に属する土師器である。

トレンチ1からは円筒埴輪の破片が出土している。なかには、幾何学的な模様を沈線で描いた物(39、43)も出土している。

3号溝跡からは古墳時代前期の土師器片がややまとまって出土している。

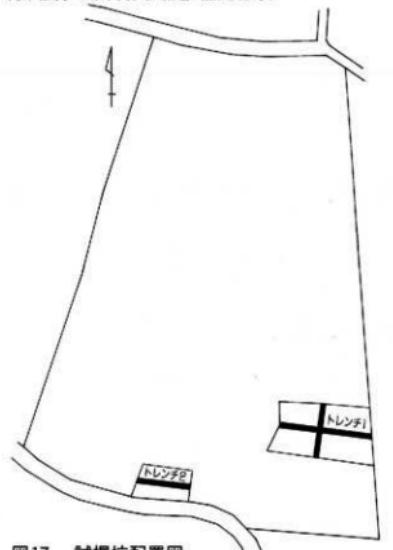


図17 試掘坑配置図

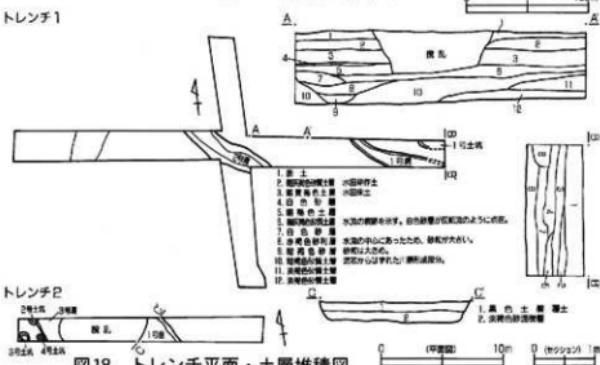


図18 トレンチ平面・土層堆積図

## まとめ

出土した円筒埴輪について、調査区のなかに古墳が存在した可能性は低く、調査地点の北東約100mに所在する加牟那塚古墳に伴うものと考えられる。山梨県内において埴輪の検出例は少なく、甲斐銚子塚古墳や岡銚子塚古墳などわずか12例しか知られていない。加牟那塚古墳はそのうちの1例であり、過去の調査では人物や馬などの形象埴輪の出土も確認されている。

古墳時代前期の堅穴住居が検出されたことにより、ここに居住した集落がどこに奥津城を形成していたのか興味が湧く。羽黒山の山頂に所在する積石塚古墳（通称「おでんぐさん古墳」）と関連があるのか等についても今後の調査に期待したい。

なお、千塚公園の造成にあたっては、できるだけ埋蔵文化財の保護に協力してもらうことで、建築の部署と合意ができており、文化財保護の観点から望ましい対応が取れている。



1号住遺物出土状況



調査状況 (T-2)

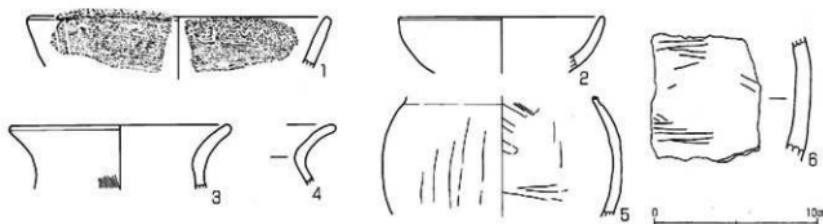


図19 出土遺物 (1)

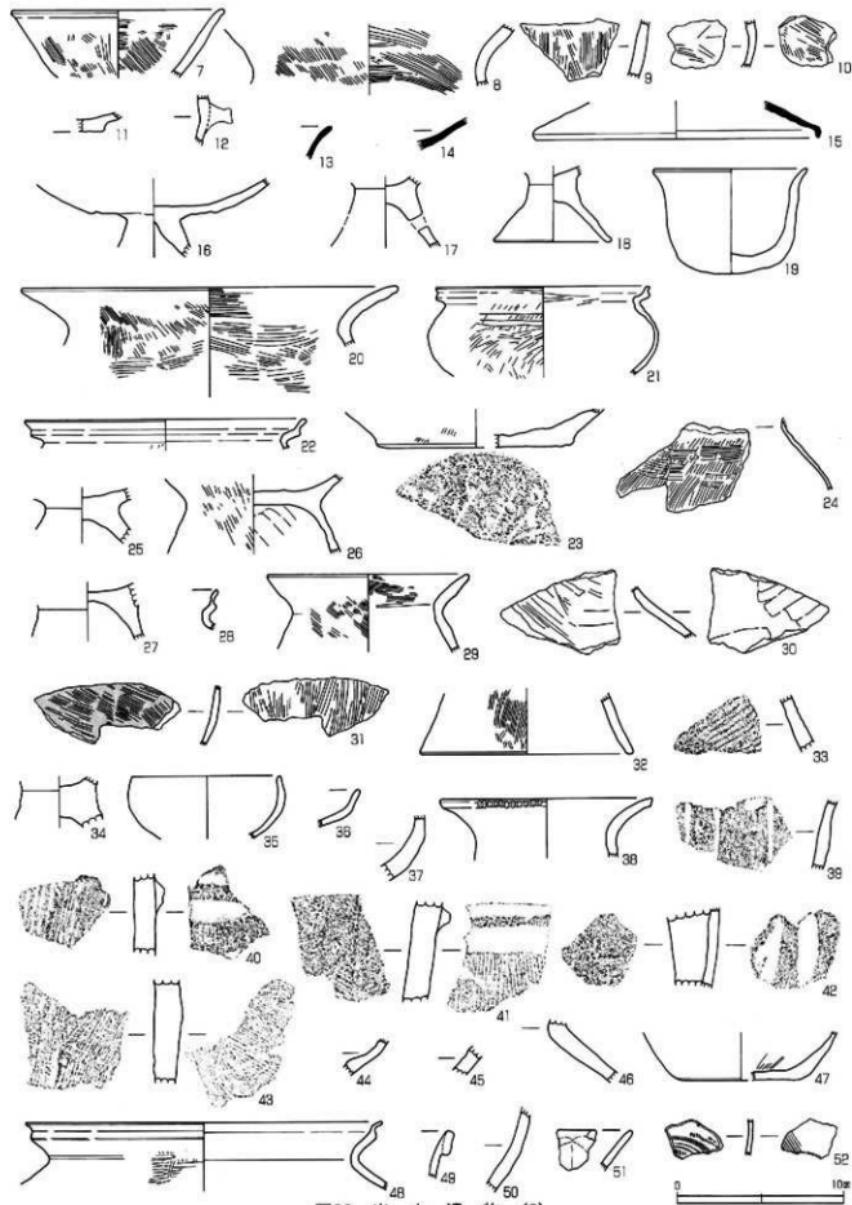


図20 出土遺物(2)

## 13-9 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市宝一丁目102  
調査原因 事務所建設  
対象面積 435.54m<sup>2</sup>  
調査面積 27.6m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年4月5日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は甲府城下町の西辺、甲府城の郭内に通じる「相川町御門」の西側に近接する二の堀と土塁が存在していた場所である。現在も幅約2.3m、深さ約2mの水路があり、二の堀の痕跡をとどめている。



### 調査の結果

調査区に南北方向の2本のトレンチを設定し、重機で深さ約3m掘削を行い、堀北側斜面の立ち上がり部分の確認を行った。

T-1 南北7.4m、幅2mのトレンチである。トレンチ中央部の地表下3mからは堀北側のラインが確認された。堀の堆積層は黒色泥質土であり竹の根等の植物繊維が多く見られた。

堀の深さについては、掘削が不可能であったため不明である。堀の斜面の地山層は礫層である。堀北側の土塁部分は搅乱を受け確認はできなかった。

T-2 南北6.5m、幅2mのトレンチである。トレンチ中央部の地表下3mからは、堀の堆積土である黒色泥質土層が検出され、瀬戸美濃系鉄軸小壺1点が検出された。

今回の調査では、城下町西側の二の堀ラインの深さが3m以上であることが確認された。

また石垣等の石材も検出されなかつたことから、他の調査地点と同様に、素掘りであったことが確認された。また地山層は礫層であることから、旧河川を利用して二の堀が造られたことが推察される。

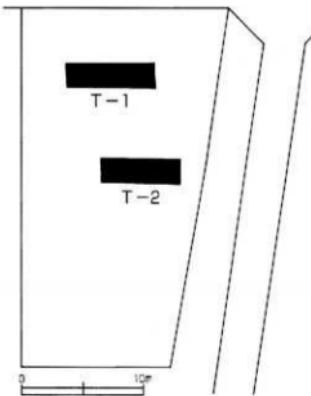


図21 試掘坑配置図

## 13-10 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目13

調査原因 個人住宅建設

対象面積 243.64m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年8月8日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

甲府城下町の北東部に位置し、標高281mを測る。東側70mほどの位置に藤川が流れるが、今回の調査地は藤川に沿う舌状台地上に位置することが地形図から理解できる。周辺は住宅地であるが、調査地は造成により周辺より25cmほど高くなっている。

### 調査の結果

個人住宅建設工事に伴い建物建設に係る部分に2×2mの試掘坑を設定し、人力により95cmまで掘り下げて埋蔵文化財を確認した。

若干擾乱を受けた表土を除去すると黄褐色の粘土層に地表下95cmで達する。この粘土層は部分的に黒色土がジグ状に混入した粘性に富む層である。

遺構・遺物等は検出されず、工事は現地表面から20cmの盛り土による造成後に深さ25cmの布基礎を打つものなので、埋蔵文化財に対する影響は皆無と判断でき、埋め戻し後調査を終了した。

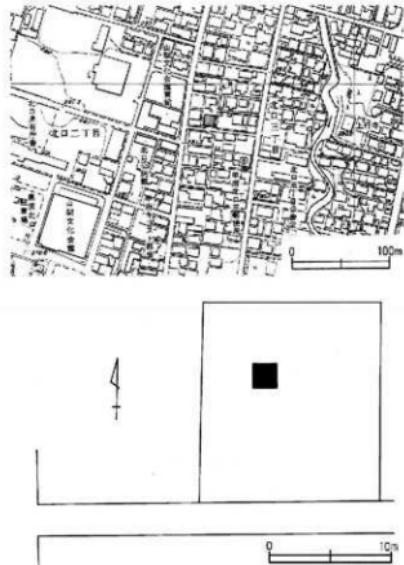


図22 試掘坑配置図



調査風景

## 13-11 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目237-1  
調査原因 商業ビル建設  
対象面積 696.69m<sup>2</sup>  
調査面積 41m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年8月20日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、甲府城跡二の堀内の武家屋敷地に位置する。付近では平成10年度に隣接する市道建設工事に伴い調査を実施し、近世城下町が調査されており(『甲府市内遺跡Ⅲ』)、当初は本地点からも連続する遺構群が検出されると予測したが、調査対象区には昭和50年代まで倉庫が建設されていたことから、残存状況は不良であることも想定された。

試掘調査は、東西方向に長さ20m、幅2mのトレンチを設定し、重機によって掘削した。調査前まで駐車場として利用されたため、アスファルトと碎石層の直下から倉庫のコンクリート基礎が検出された。トレンチ内はすべて同じ状況であったため、部分的に基礎を破碎して下層の確認をしたところ、砂礫層が確認された。当初は攪乱かと思われたが、地表下約150cmまで掘り下げたところでも変化がみられなかったことから、砂礫層は自然堆積であり、近世城下町に関わる遺構面等は倉庫建設時に削平されたと考えられた。

### 調査の結果

残念ながら、期待された城下町関連の遺構・遺物を検出することはできなかったものの、確認された砂礫層は、甲府城と甲府城下町の形成を知る上で重要な情報を与えてくれた。今回確認された砂礫層は自然堆積であり、旧河川の存在を意味する。このことは、一条小山と呼ばれた甲府城築城以前の歴史景観と本地点東側に開削されていた甲府城二の堀の成立を解明する上で重要な手掛かりとなり得る。

この成果から甲府城二の堀は、河川そのものを堀として改修利用したか、旧河川によって形成された谷地形を利用しながら開削された可能性が考えられる。今後付近の調査成果を蓄積し、砂礫層の行方について検証する必要がある。

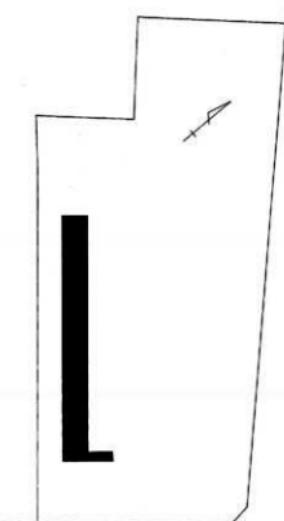
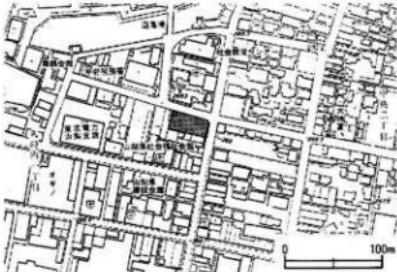


図23 試掘坑配置図

## 13-12 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目261  
調査原因 店舗併用住宅建設  
対象面積 156.71m<sup>2</sup>  
調査面積 10m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年1月25日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

甲府城柳御門の西側に位置し、18世紀前半の柳沢氏の治世には「御作事小屋」、甲府勤番支配の時代は「御米蔵」が古絵図から窺える。明治時代は「甲府刑務所」が置かれていたが、明治45年に移転後は「橘町」として市街地化した。周辺の調査では、調査区東側で16世紀末から明治時代までの遺構・遺物が確認されている。

### 調査の結果

建物位置に2か所グリッドを設定し、地表下約160cmまで掘削を行い、堆積状況の確認を行ったが、遺構は確認されてはいない。

Aグリッドの堆積層は、3層に分層できる。第1層は戦後の搅乱層である。第2層内からは焼塙壺など近世の遺物が検出されたが、第3層が近代石炭等のコークスの堆積層であることから、第1層から第3層までは近代の堆積層である。

Bグリッドは6層に分層できる。第1から第3層は近代の堆積層である。第5層内からは平瓦が1点検出された。第6層は礫分を多く含む地山層である。



Bグリッド（西壁）



図24 試掘坑配置図



図25 土層柱状図

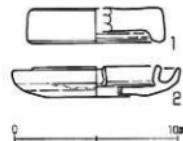


図26 出土 遺物

## 13-13 小瀬氏館跡

調査位置 甲府市小瀬町590-4

調査原因 個人住宅建設

対象面積 287.68m<sup>2</sup>

調査面積 14m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年3月5日～7日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

遺跡の南側には国指定重要無形民俗文化財の「天津司舞」で有名な天津司神社、さらに中世の稻積庄に関係すると考えられる遺跡・文化財が散見できる。

昭和61・62年に五割川の改修工事に伴い発掘調査が実施された。調査では柱穴跡及び土壘の痕跡が確認され、瀬戸美濃系陶器・常滑窯・中国製磁器・かわらけ等13世紀中葉から16世紀後半にかけての遺物が出土している。さらに現在は廃寺となった玉田寺関係の遺物と考えられる、近世段階の遺物も確認された。

### 調査の結果

今回の調査区は館の主郭部と推測される位置である。建物部分に2か所(A・B)、浄化槽部分(C)、浸透升部分(D)の計4か所に調査区を設定した。

各グリッドの基本土層は、地表下20～30cmは耕作層である。第2層の暗褐色土層は厚さ20～30cmであり、中世段階の遺物が出土している。遺構はAグリッドの地表下60cmでピットが10基検出されている。

Aグリッドは、前述のとおり径10～50cmのピットが10基確認された。中世の遺物包含層である第2層の下層に位置することから、中世段階の遺構である。遺物はかわらけ(1)が出土した。

Bグリッドも地表下50cmでAグリッド同様の地層となるが、遺構は確認されなかった。遺物は第2層からかわらけ(2)等多数出土している。

Cグリッドは、地表下80cmでAグリッド同様の地層となり、西側にかけて落ち込んでいる。

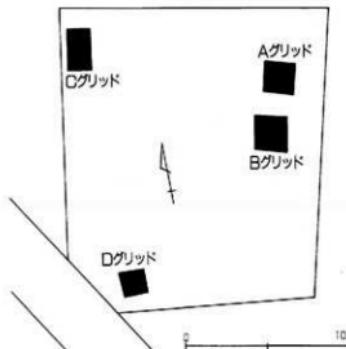


図27 試掘坑配置図

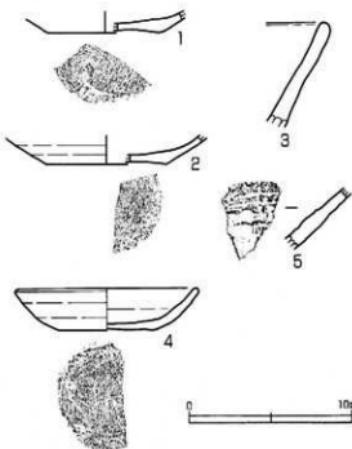


図28 出土遺物

遺物はA・Bグリッドに比べて少ない傾向にあるが、かわらけ（4）が検出されている。

Dグリッドは1.5m四方の規模で、地表下80cmで自然堆積の砂礫層となる。遺構は未確認であるが、上層の搅乱層内から瀬戸美濃系おろし皿（5）と土器片が少量出土した。

#### 調査所見

館の規模は、地籍図から南北100m東西50mと想定でき、堀の痕跡が北と東の水路に見られる。今回の調査地点は館推定地の北西側にあたると推測される。検出された遺構がAグリッドのみであり、東側の畠から中世の遺物が表面採集できることから、館の中心部は調査区の東側に位置すると考えられる。



A グリッド

## 13-14 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市和戸町1325  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 351.87m<sup>2</sup>  
調査面積 20m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年3月5日～27日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

今回の調査対象地の隣接地では、山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施され、古墳時代前期の方形周溝墓、平安時代の集落跡が検出されている。方形周溝墓は3基確認されているが、最大のものは33.4m×27.5mの規模を誇り山梨県内でも最大級である。平安時代の集落の一角から、南側に庇をもつ掘立柱建物が検出され、周辺には「寺」と墨書きされた土器や、小型瓦が出土するなど「村落内寺院」らしき遺構が検出されている。

今回の調査は、2×10mのトレーニングを設定し、試掘調査を行った。

### 調査の結果

地表から70cm掘り下げた地層から平安時代の土器片・灰釉陶器の破片とともに江戸時代末の瀬戸系染付の破片等が出土した。溝状構造からは肥前系および瀬戸系の陶磁器がそれぞれ出土している。

計画建物の基礎掘削の深さは、現地表から40cmを計画しており、遺構確認面まで30cmの保護層が保たれることから、埋蔵文化財への影響はないものと判断した。



T-2

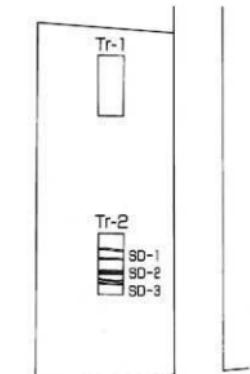
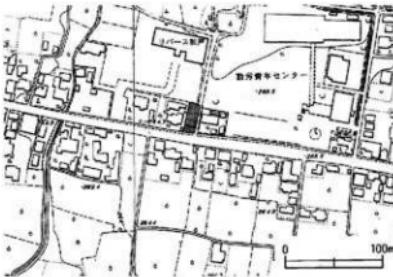


図29 試掘坑配置図

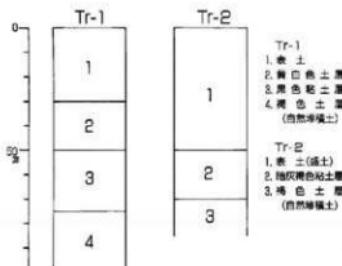


図30 出土 遺物

## 13-15 里吉天神遺跡

調査位置 甲府市里吉三丁目786-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 178.62m<sup>2</sup>

調査面積 6 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年2月13日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は遺跡包蔵地範囲の南辺、標高約256mに位置し、周辺には朝氣遺跡、家の前遺跡、十丁遺跡など古墳～平安時代にかけての遺跡が集中して見られる地域である。現在周辺は住宅が密集している。

### 調査の結果

建物位置に2×3mのグリッドを設定し、地表下約100cmまで重機及び人力で掘削を行い、土層の堆積状況及び遺構・遺物の確認作業を行った。

グリッド東壁で確認された堆積層は7層である。地表下50cm下層の暗褐色土層及び第7層の砂層内からは、古墳時代の土師器が数点検出されたが、遺構に関しては確認できなかった。

建物はペタ基礎工法で建設され、遺物包含層に達しないことが確認されたため、調査を終了した。



調査状況

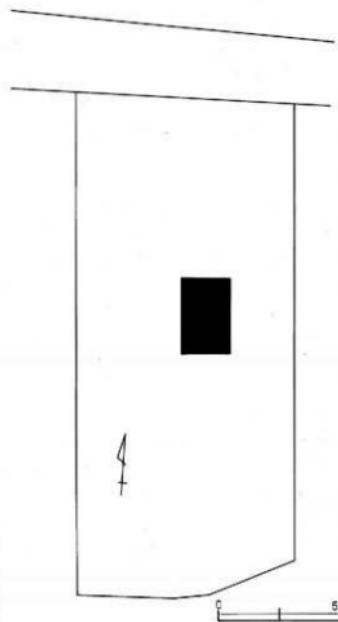


図31 試掘坑配置図

## 13-16 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目572-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 270.87m<sup>2</sup>  
調査面積 10.2m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年11月14日～15日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は、盆地中央部に位置し、相川と荒川に挟まれた沖積地に広がる。これまで数次の調査により、古墳時代から平安時代を中心に、多数の遺構・遺物が確認されている。調査地点は遺跡の中央、標高280mを測る住宅地である。

### 調査の結果

対象地に試掘坑を2か所設定し、重機で掘削後、人力にて遺構及び土層確認を行った。いずれの試掘坑も地表下40cmまでは、表土・整地層、灰褐色土層が堆積し、それ以下より遺物が出土した。出土遺物はすべて古墳時代初頭の土器片であった。部分的に掘り下げを行い、遺物包含層の層厚、地山（青灰色土層）を確認した。

### その後の対応

遺構は確認できなかったものの、多くの遺物を検出し、遺物包含層も厚さ約30cmと安定しているなど開発地に遺跡の存在を確認した。現地にて調査状況を説明しつつ、遺跡の取扱いについて施主と協議を行った。盛土工法により地下の遺構等に影響を与えることなく、遺跡の保存を図ることとした。

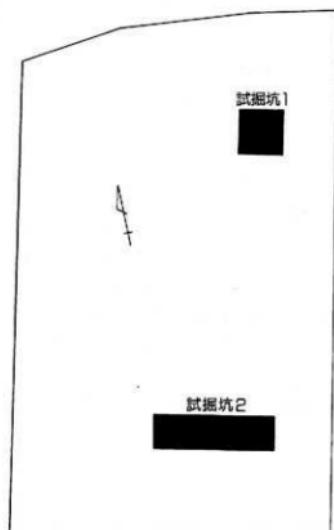
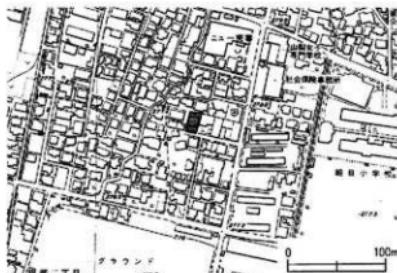


図32 試掘坑配置図

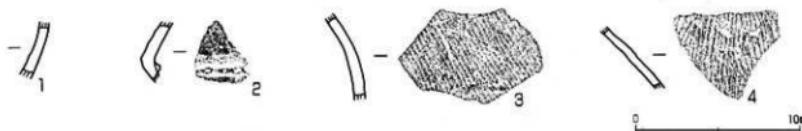


図33 出土遺物

## 13-17 塩部遺跡

調査位置 甲府市飯田一丁目2172-2  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 95.85m<sup>2</sup>  
調査面積 2.25m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年11月8日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

塩部遺跡の西端部に位置し、標高273mを測る。塩部遺跡全体ではこれまでに数次の発掘調査が行われ、古墳時代を中心に弥生時代から近現代に至る遺構・遺物が検出されている。

また今回の調査地に隣接する土地では、昭和59年に公立学校共済組合山梨宿泊保養所の建設に先立ち、山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査（飯田一丁目遺跡）を行い、明瞭な遺構は確認されなかつたが縄文土器・弥生土器及び古墳時代の土師器が確認されている。

### 調査の結果

調査は1.5m四方の試掘坑1か所を設定し、人力により掘下げて埋蔵文化財の有無を確認した。

表面から建物による擾乱を受けており、地表下50cmまで瓦礫が堆積していた。計画では地表下15cmに基礎がされていることから、埋蔵文化財に対する影響はないものと判断し埋め戻して調査を終了した。

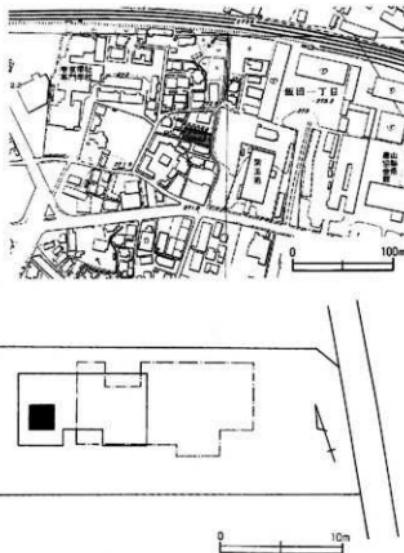


図34 試掘坑配置図

## 13-18 地藏北遺跡

調査位置 甲府市東光寺三丁目1743-1他  
調査原因 宅地造成  
対象面積 1890.65m<sup>2</sup>  
調査面積 310m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年6月25日～7月24日  
調査担当 佐々木 满

### 調査の概要

本地区は、甲府五山に数えられる古刹東光寺の参道沿いに位置するが、当初は地蔵北遺跡の包蔵地対象地外であった。

調査の起因となった宅地造成は、比較的大規模な面積であり、東光寺に近接する場所での開発であることも考慮して、急速事業者と協議した上で事前に試掘調査を実施することとなり、測量及び重機による掘削等の協力をいただくこととなった。

まず、宅地を分譲する上で計画されていた道路部分の試掘調査し、その状況により全体を判断することとしたが、南北方向に2箇所のトレンチを設定した。トレンチ1を掘削したところ、柱穴や溝跡などが確認され、トレンチ2でも柱穴が確認された。

さらに東西方向の状況を確認するため、両トレンチをつなげる形でトレンチ3を設定して掘削したが、溝跡などが確認されたため、そのまま調査を行うこととなった。

### 検出遺構

溝跡4条、井戸跡3基、土坑9基、柱穴118基を検出している。1・2号溝跡については、出土遺物から近世と考えられるが、幅約5.2m、深さ40cmの4号溝跡は、溝の形状も明瞭であり、調査区内で最も古い弥生時代末期の遺構と考えられる。溝跡は粗流砂や砂利などが堆積しており、上流から一定の水量があったものと考えられる。調査区内では他に同時代の遺構は検出されておらず、他遺構は概ね中世段階と考えられる。

井戸跡はすべて素掘りの井戸であり、1・2号井戸跡は五輪塔などの石製品を含む多数の礫で覆われ、人為的に埋め戻されていた。位置的にも並列した関係にあり、同時期に存在した可能性が高い。

土坑では9号土坑が墓坑であり、西向き北枕で屈葬された様子が窺えた。遺物としては六銅鏡の一部と思われる4枚の古鏡が副葬されており、中世後半の墓坑と考えられた。明確な墓坑は1基のみであったが、井戸跡に廃棄された五輪塔の存在などを考えると、この一帯にも墓域が展開していたと想定される。

柱穴の多くは東光寺参道側から検出されており、全体で大小合わせて118基が検出されている。明確な組み合わせとして認識できるものは、3号井戸跡南側でやや大型の柱穴が

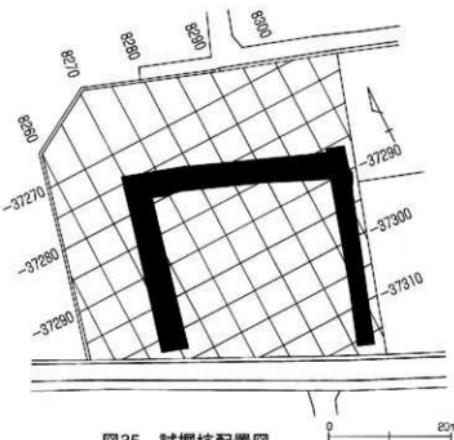
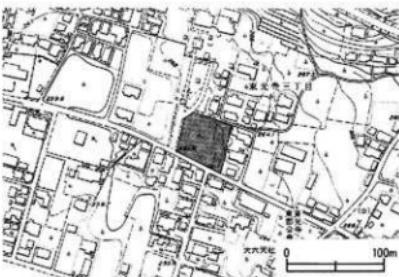


図35 試掘坑配置図

2基検出されており、掘立柱建物跡の可能性がある。その他では配列と深さなどから柱穴列が複数あるものと考えられる。

### 出土遺物

年代的には大きく分けて弥生・平安・中世・近世の遺物が出土しており、中でも弥生末期と中世後期の遺物がまとまっている。4号溝跡からは中部系の台付甕（19・20）などが多数出土しているが、東海系のS字甕などは認められないことから、概ね3世紀代と考えられる。

中世は、3基の井戸跡から多数の遺物が出土している。1号井戸跡のかわらけをみると、(26)は形態的に15世紀後半と考えられるが、(24・25・28)では16世紀初頭から16世紀中葉までの様相がみられる。(27)は近世初頭の遺物であり、2号溝跡との重複による混入と考えたいが、出土状況が不明であることからその段階での廃絶も否定はできない。2号井戸跡からも15世紀後半のかわらけ(31)や内耳鍋(34・35)、時期不明の中国製品(32)などが出土していることから、15世紀後半以降の様相と位置づけられる。なお、他にも(56)の硯や(62)の三脚付香炉など東光寺と関連を窺わせる遺物も出土している。

### まとめ

調査によって検出された遺構は、弥生時代末期と中世後期の遺構であるが、弥生時代末期に位置づけられる4号溝跡の物量からみると、土器を消費した集落跡が北東側の近接地に存在しているものと考えられる。

中世については、東光寺参道に近いトレンチ2付近に柱穴の集中がみられることから、参道沿いに東光寺の塔頭子院があるいは僧坊が存在した可能性がある。

包蔵地対象外であったこともあり、調査対象区全体のうち、道路部分については試掘調査時に多くを調査した。宅地部分については盛土によって保護し、個別の住宅基礎構造によって対応することとした。調査後本調査地点を含む一帯を地蔵北遺跡の包蔵地範囲として変更し、開発等に対応することとした。

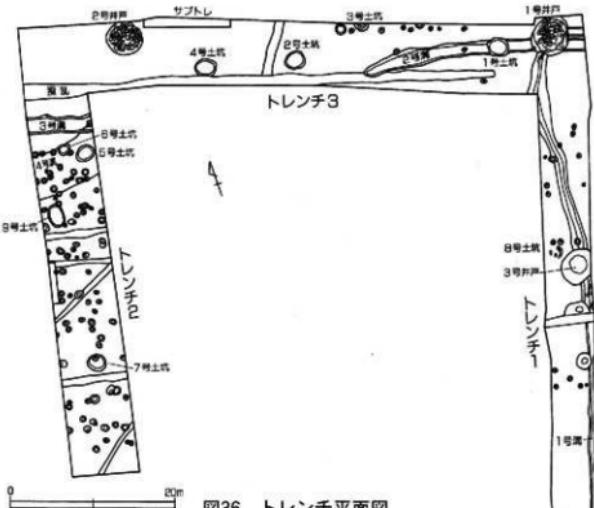


図36 トレンチ平面図

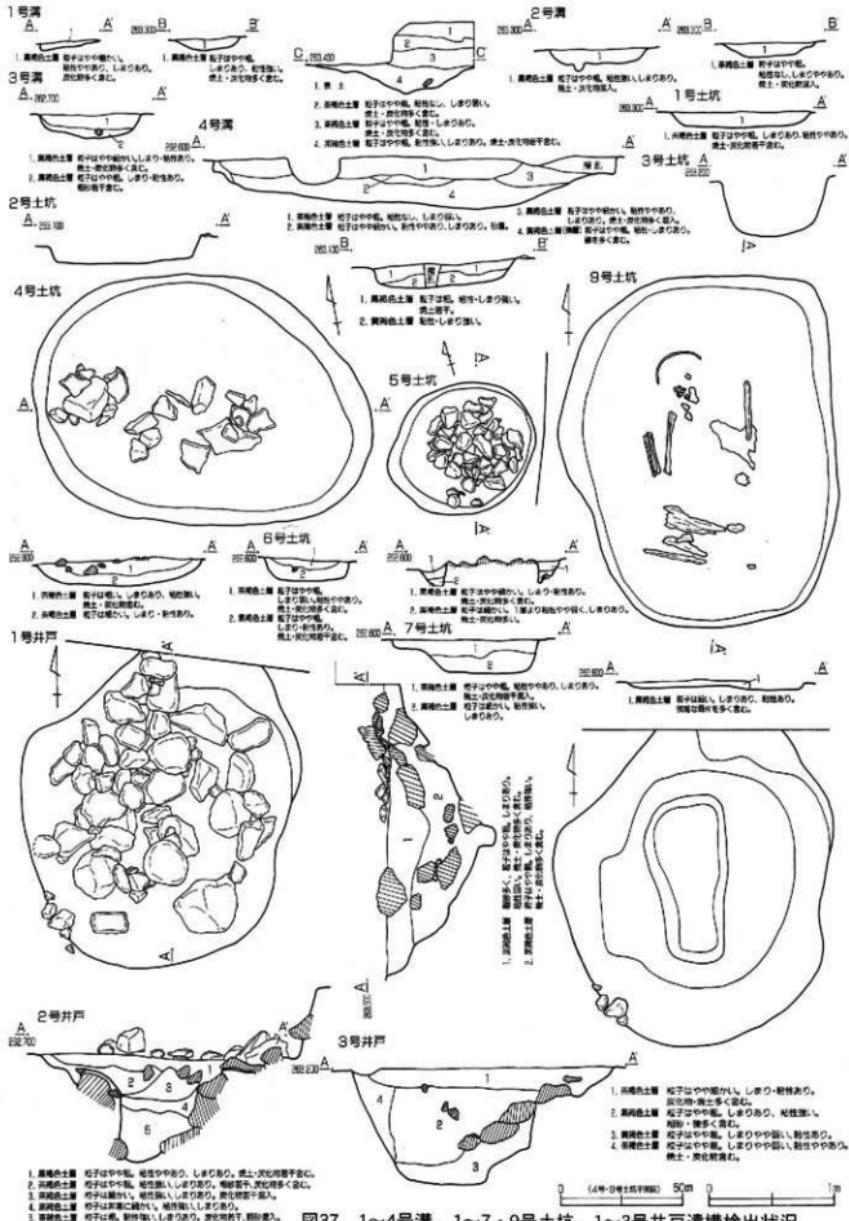


図37 1~4号溝、1~7・9号土坑、1~3号井戸遺構検出状況

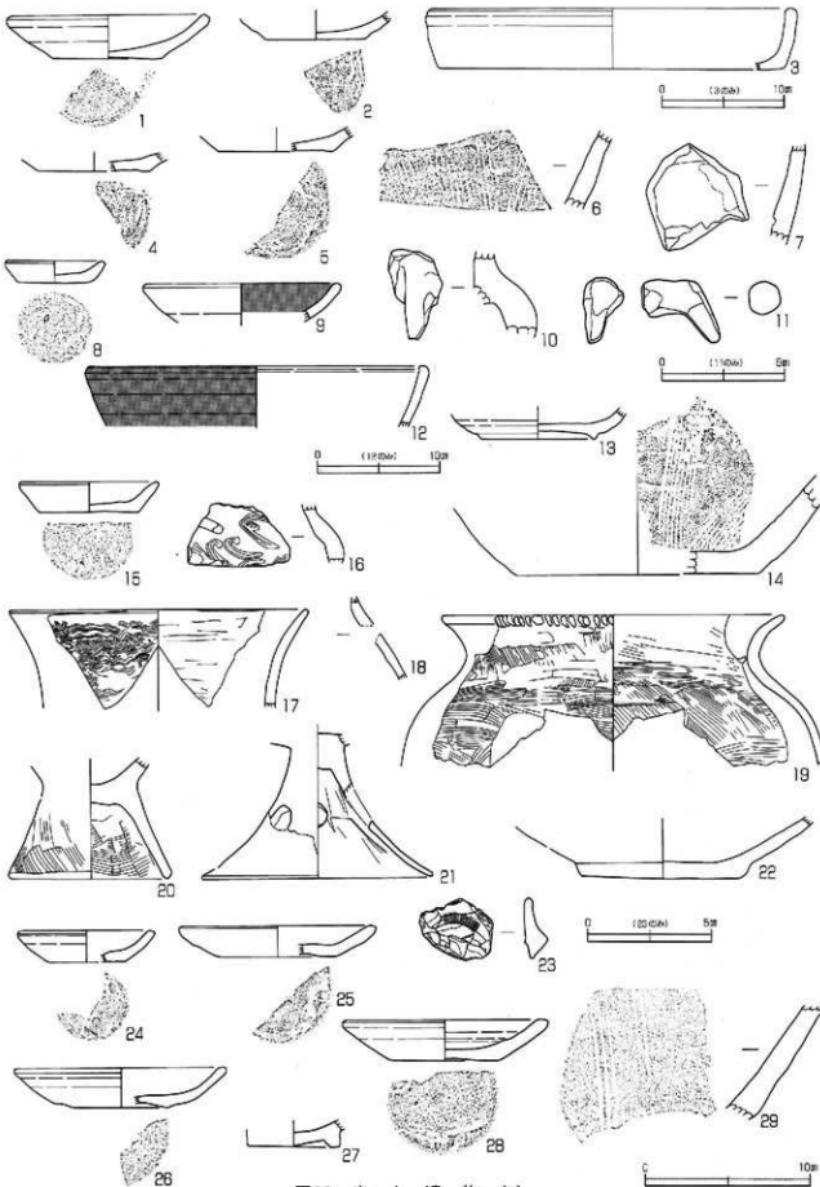


図38 出土遺物 (1)

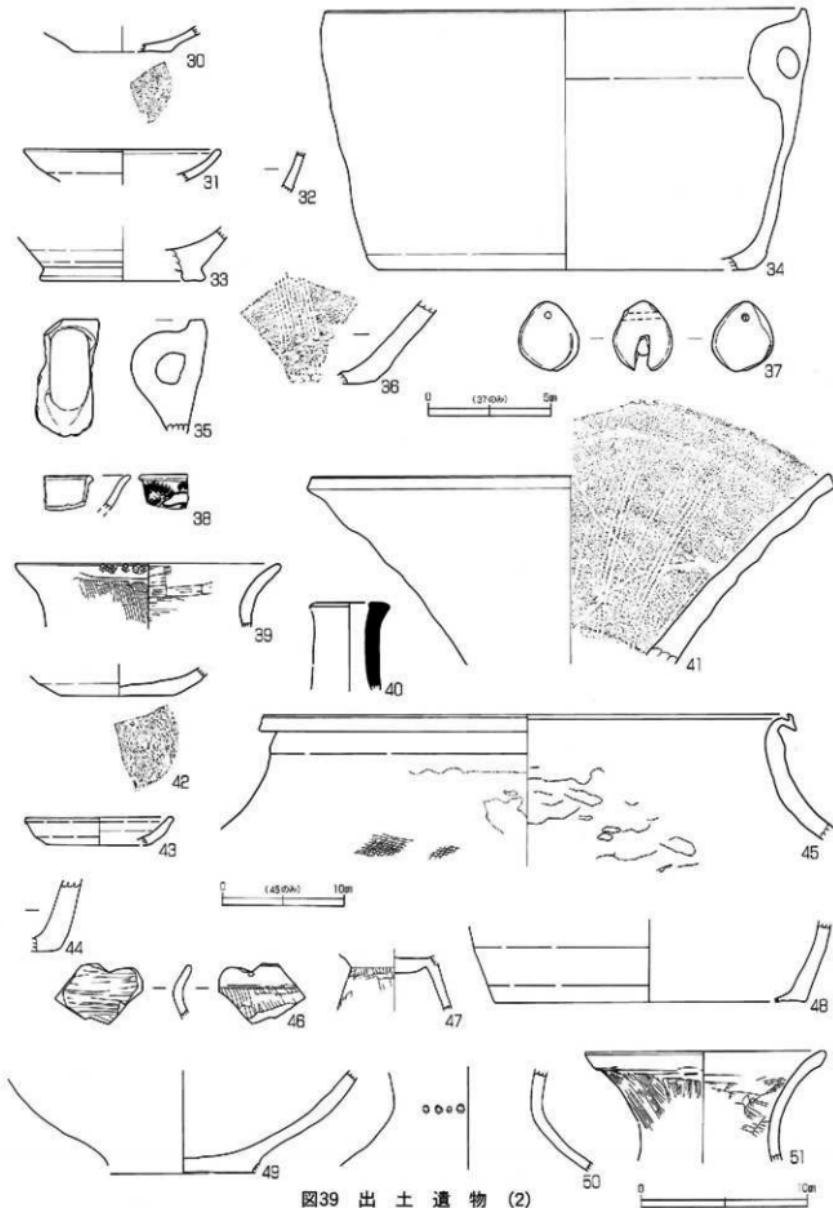


図39 出土遺物 (2)

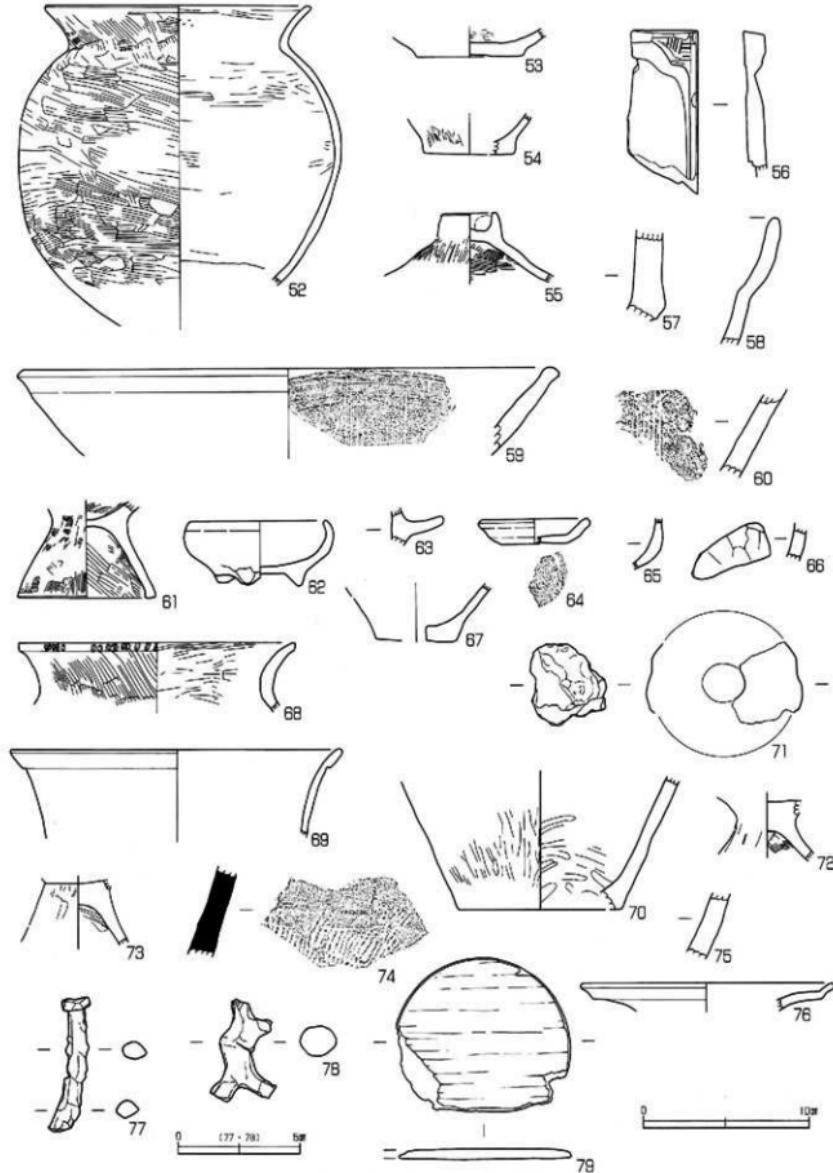


図40 出土遺物(3)

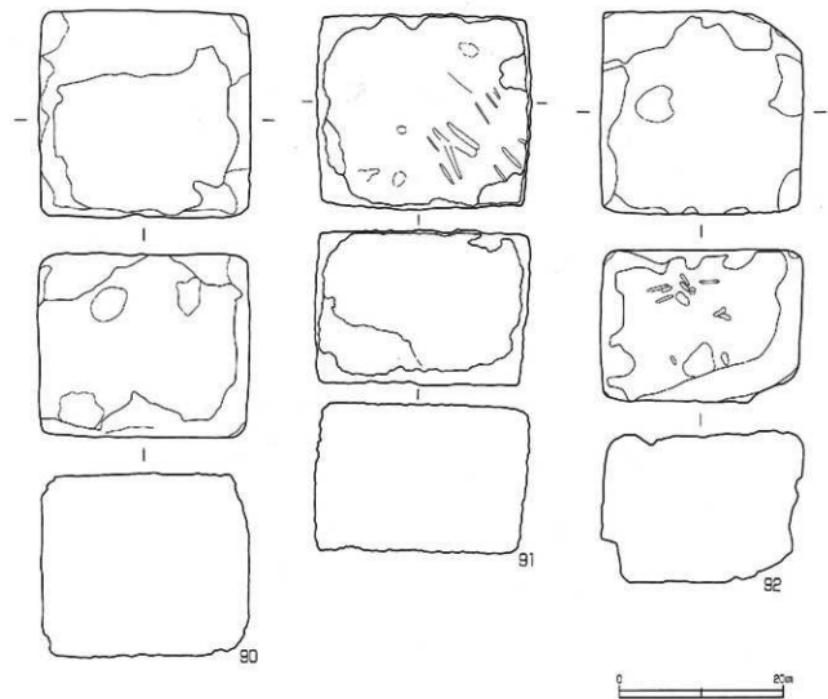
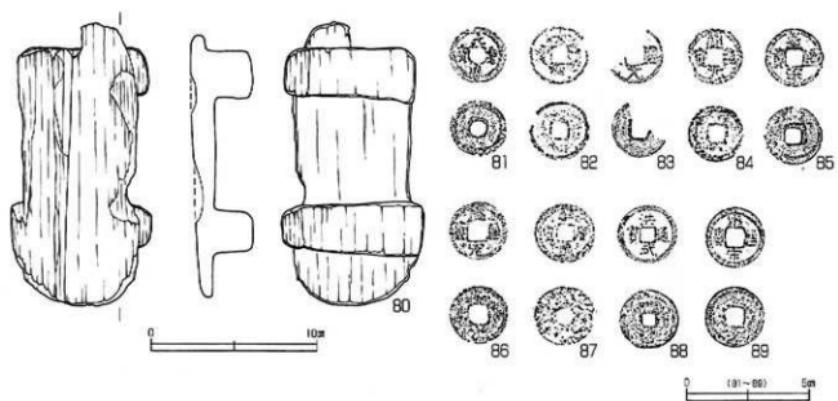


図41 出土遺物 (4)

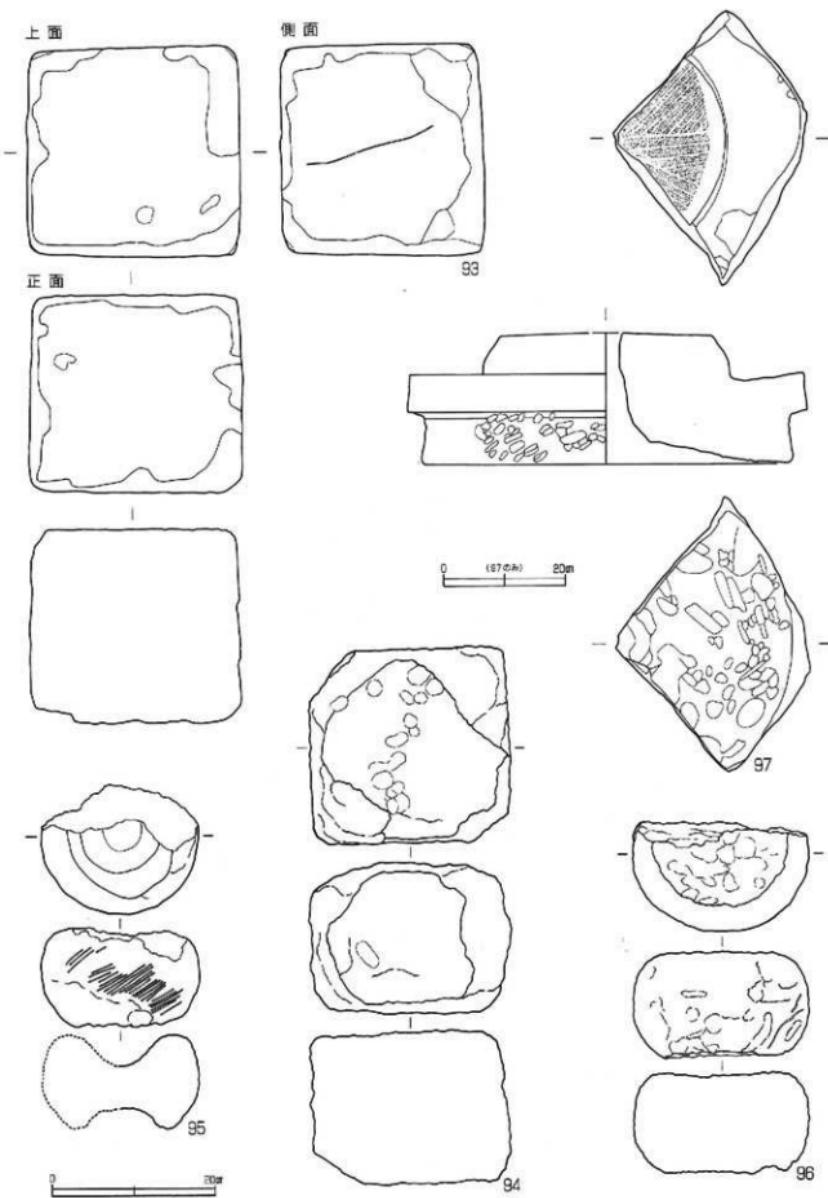


図42 出土 遺物 (5)

## 13-19 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3775他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 258.70m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年4月18日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査対象地は『甲府略史』所収の「古府之図」によると、真田弾正の屋敷跡とされている。

調査対象地点に2×4mのトレンチを設定し調査を実施した。

現地は、南に隣接する宅地と比較して約80cm高い位置にあることから、盛土が施されていることが当初から想定できた。

### 調査の結果

当初の想定に近い75cmの盛土が施されていることが確認できた。盛土の下には黄褐色の旧表土があり、旧表土の下層から焼土や炭化物が散布する硬化面が検出された。この硬化面は近隣の武田氏館跡から検出された地層で、マンガンと思われる黒色土粒子も混入する地層である。このことから、この硬化面を中心における生活面と判断した。なお、遺物は検出されなかった。

計画建物は基礎部分の掘り込みが地表下37cmを予定していることから、遺構面まで30cm以上の間層が保たれるため、埋蔵文化財への影響はないと判断し、調査を終了した。

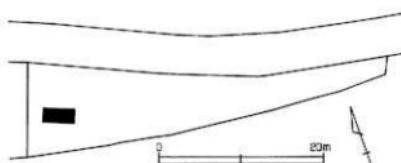


図43 試掘坑配置図

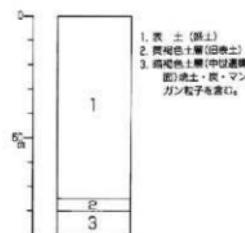


図44 土層柱状図

## 13-20 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田四丁目28他  
調査原因 寺院庫裏建設  
対象面積 2342.17m<sup>2</sup>  
調査面積 14m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年4月5日～6日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

要法寺が立地する町名は近世には元柳町に位置する。『甲斐国社記・寺記』によると武田信玄が開基、修徳院日祇が開山となり(『甲斐国志』によると日祇は竜芳軒日香である)、永禄11年(1568)に開いたとされる。

明治10年(1877)に隣接する寺子屋から出火し堂宇を焼失した、と住職から教授された。

### 調査の結果

調査は2×7mのトレンチを設定して行った。地表から35cm掘り下げた地層から明治10年の火災の痕跡と思われる焼土層が検出できた。地表下60cmから黄褐色の粘土層(自然堆積層)が確認できた。黄褐色粘土層を掘り込んだ暗褐色の土坑がトレンチの中央と東隅で検出できた。土坑は出土遺物を伴わないので時代の特定までは至らなかった。

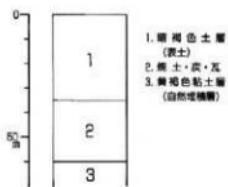


図46 土層柱状図

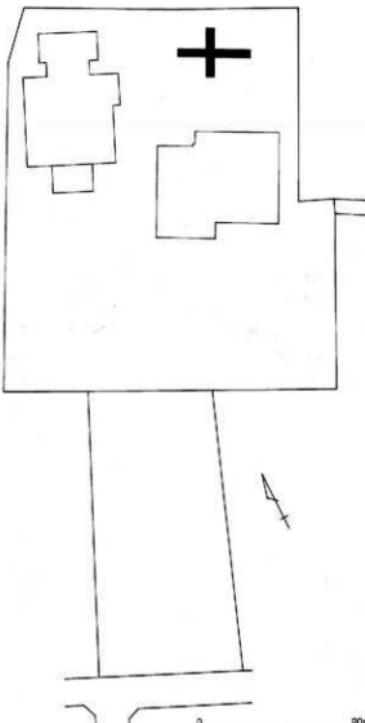
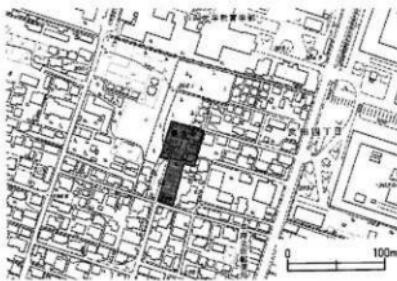


図45 試掘坑配置図



図47 出土遺物

## 13-21 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2021-2

調査原因 集合住宅建設

対象面積 411.39m<sup>2</sup>

調査面積 9 m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年4月16日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は、相川扇状地の相川左岸標高310m地点、武田城下町遺跡範囲の中央部に位置する。調査区東側には「長閑」と字名をもつ家臣屋敷の伝承地もあり、クランク状の通りが見られる部分もある。

調査は建物中央部に南北5m、幅0.9mのトレンチを2本設定し、重機で掘削後、人力で確認作業を行ったが、遺構・遺物とともに確認されなかった。調査区は以前100cm以上の盛土が行われており、今回の建物基礎は地表下約40cmが基礎ベースである。そのため、遺構面が存在したとしても影響は及ばないため、調査は終了した。

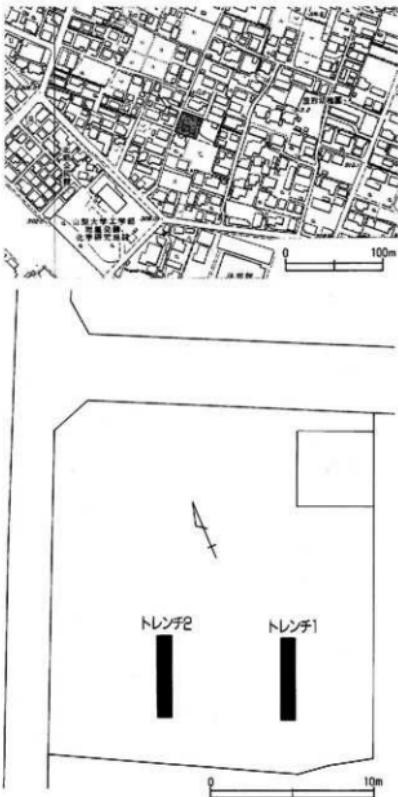


図48 試掘坑配置図



トレンチ 1

## 13-22 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町4882-13他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 63.53m<sup>2</sup>  
調査面積 39m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年4月18日  
調査担当 志村憲一

### 調査区の概要

調査区は、相川扇状地の扇尖部標高約314mに位置する。16世紀段階からの通りである大泉寺小路に接している。過去周辺の調査事例は皆無である。

### 調査の結果

調査区にT字状に東西9.5m、南北17m、幅1.5mのトレンチを設定した。重機で地表下60~70cmまで掘削を行い、人力で遺構確認を行った。

東西トレンチ部分は、地表下70cmの地山層直上から近世から近代にかけての水田面が確認されている。覆土内からは近世から近代にかけての遺物が検出された。

南北トレンチの南側からは、ピット8基と溝1条が確認された。遺構はいずれも地山層地表下70cmの地山層（黄黒褐色粘土質）に掘り込まれ、遺構直上は近世から近代にかけての水田面である。掘削範囲が狭隘なため、ピットの相關関係は未確認であるが、ピット7、8からは古代の土器が検出された。現状幅1.2m、深さ30cmを測る。

### 調査所見

遺構は近世から近代にかけての水田面の直下に位置する地山層から確認されていることから、遺構上面は耕作等により削平を受けているものと考えられる。確認されたピット、溝の覆土は同質の暗褐色土であり、ピットから古代の土器が検出されていることから、平安期の遺構と考えられる。

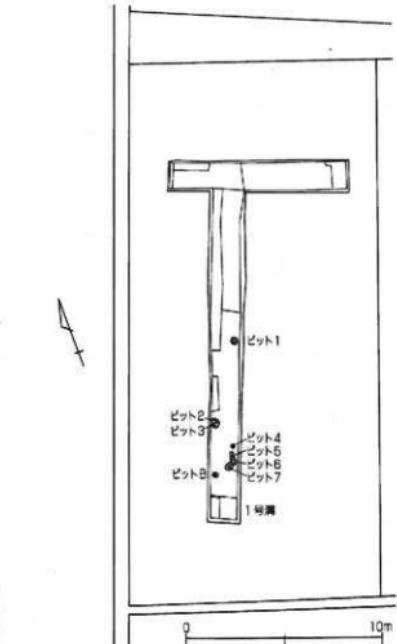


図49 試掘坑配置図

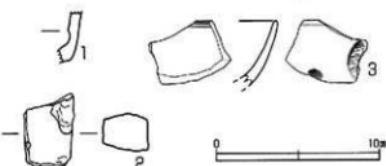


図50 出土遺物

## 13-23 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町86-3他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 55.90m<sup>2</sup>  
調査面積 3 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年5月10日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は相川扇状地の緩斜面標高約293mに位置し、東方70mには藤川が流れる。武田城下町遺跡の南東部であるとともに、調査区北方70mには縄文時代の八幡神社遺跡が位置している。平成12年度に周辺2地点で試掘調査が行われた際には、中世段階のかわらけが検出されている。

### 調査の結果

建物位置2か所にA・Bグリッドを設定し、地表下約0.5~0.7m地点まで掘削を行い、土層の堆積状況及び造構・遺物の確認作業を行った。

Aグリッドは、地表下35cm地点で相川扇状地上で一般的に見られる黄黒褐色土の地山層が確認された。Bグリッドでは地表下80cm地点で、地山層となる。両グリッドとも地山層直上まで造成工事の際の盛土層である。この盛土層内から曾利II~III期の土器小片と近世の陶磁器が検出されている。造構に関しては確認されていない。



図51 試掘坑配置図



Aグリッド

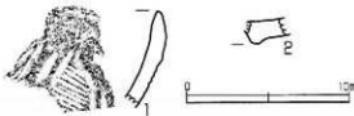


図52 出土遺物

## 13-24 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市星形二丁目2287-2他

調査原因 個人住宅建設

対象面積 195.93m<sup>2</sup>

調査面積 20.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年5月25日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

武田城下町遺跡の中央部標高約310m地点に位置する。16世紀段階に武田家の家臣屋敷が存在した場所と想定され、『甲府略志』の絵図には武田信繁の記載が見られる場所である。調査区は3区画に宅地造成工事が行われた区画に、各2か所、合計6か所のグリッドを設定し入力で掘削を行った。

### 調査の結果

調査区は旧建物の撤去及び宅地造成工事の際に搅乱を受け、各グリッドとも地表下45～50cmで黒褐色土の地山層となり、遺構・遺物ともに確認できなかった。

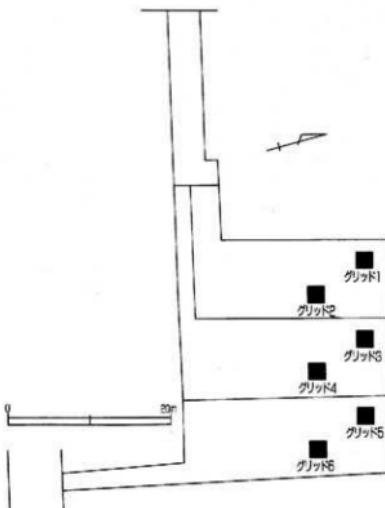
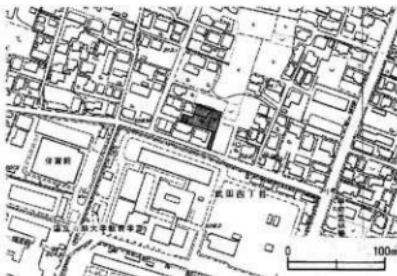
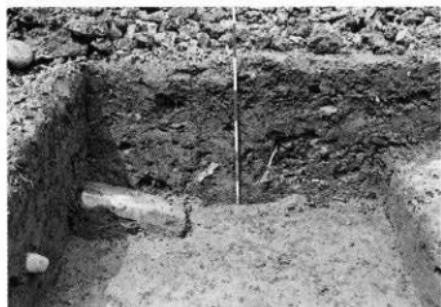


図53 試掘坑配置図



調査状況（北壁）

## 13-25 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目413  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 90.06m<sup>2</sup>  
調査面積 16m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年6月19日～20日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、武田氏館を中心として城下町内に設けられた南北基軸街路の1本に面する場所であり、中世の城下町としては外れに位置すると考えられる。建物の四隅を130cmの深さで掘削し、基礎を立ち上げる計画であったため、その基礎の位置に合わせて2m四方のグリッドを4か所設定し、調査を実施した。

グリッドはそれぞれ1～4まで番号を付けて調査したが、各グリッドとも宅地造成時の盛土層が50cmあり、その下層で20～30cmの水田層が確認された。水田層を除去すると、グリッドによっては地山との間に炭化物を多く含む黒褐色の包含層が僅かに確認された。

地山を精査すると、グリッド1からは2基の土坑が検出され、土坑1からは焼けた壁土とともに炭化物が多数出土した。土坑2からはかわらけと灰釉陶器片が出土し、遺構の年代が中世であることが判明した。グリッド4からは、溝跡1条を検出したが、遺物は得られなかった。

### まとめ

中世の遺構が当該地域で検出されたことは、中世の城下町の範囲を知る上で大きな成果となった。特に火災層とそれに伴う遺構が確認されたことにより、これまでの調査によって確認されている城下町における火災の痕跡を検討する上でも有益なものであると考えられる。

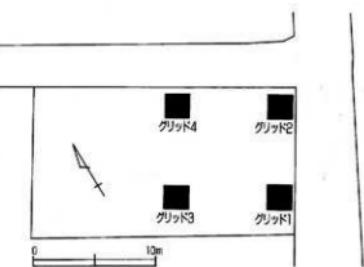


図54 試掘坑配置図

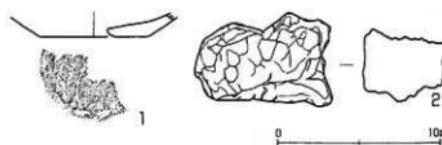


図55 出土遺物

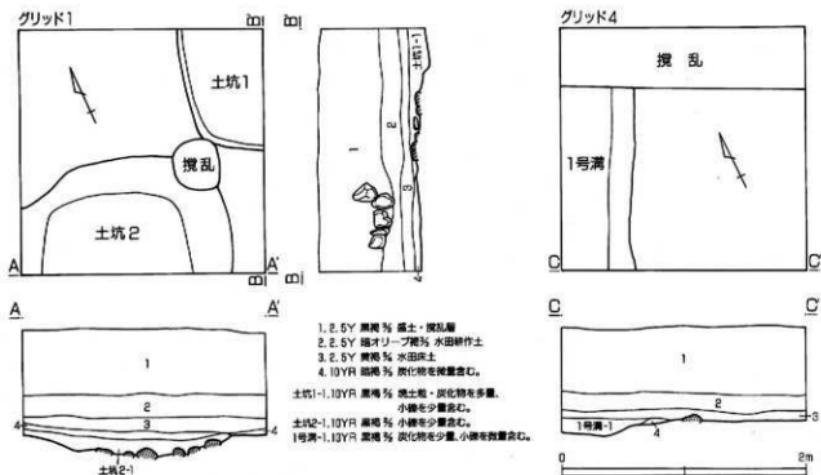
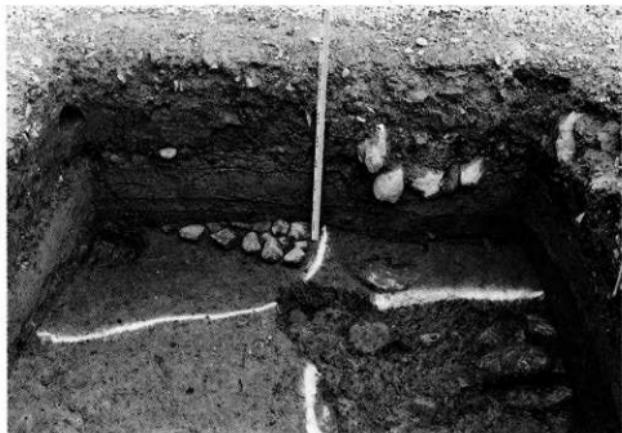


図56 グリッド平面・土層堆積図



グリッド1遺構検出状況

## 13-26 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目1804-2  
調査原因 宅地造成  
対象面積 885.64m<sup>2</sup>  
調査面積 80m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年8月23日～9月2日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

武田城下町遺跡の中央部付近、標高332mに位置する。武田城下町を形成する5本の南北街路のうち、広小路のクラシック（金手）の北西にあたる。調査地は住宅地の中の畝で標高332mを測る。敷地は南及び西に+50cm、東側に-20～-50cm、北側に-70cmの比高差がある。

### 調査の結果

調査は計画道路に幅2m、東西約30m及び南北10mのトレンチを設定し、重機および人力で行った。

ピット（小堅穴）10基、溝跡1条、石組みを伴う暗渠排水路1条が確認された。ピット（小堅穴）は東西トレンチ全体から検出されたが、規則性は認められなかった。溝跡は東南東方向の120cmが確認できたが、調査区外へ延びる。

暗渠排水路は北側に石列を伴い、底部分に拳大の礫が充填していた。遺物がないため時期は不明だが、層序的には小堅穴や溝跡より新しいと考えられる。

出土遺物に陶器の小破片1点及び土師質土器の小破片数点があるが図化できない。

敷地全体的に60～90cmの盛り土を施しての造成工事のため、埋蔵文化財に対する影響は径微であると判断し、埋め戻して調査を終了した。

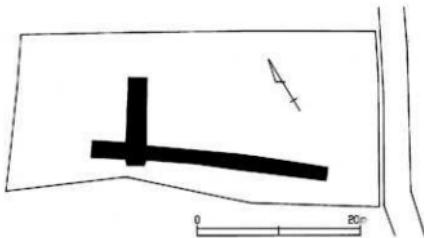


図57 試掘坑配置図

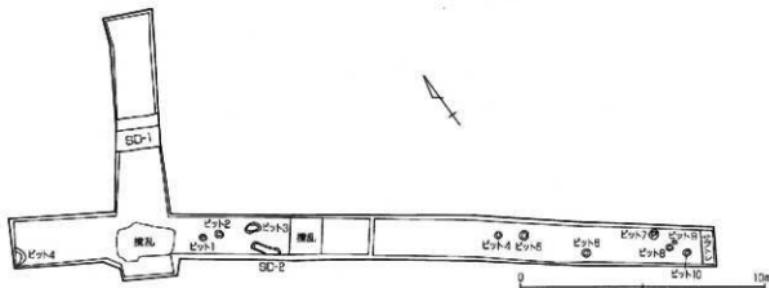


図58 平面図

## 13-27 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町164-1

調査原因 個人住宅建設

対象面積 62.00m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年8月24日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

武田城下町の南西端部に位置し、標高282mを測る住宅地に位置する。相川により開析された扇状地の扇端部にあたる。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を設定し、人力により掘下げ調査した。

深さ60cmで黄褐色の地山に達するが、地山まで3層に分層が可能で、搅乱は第2層の中ほどまで達していた。

遺構・遺物等は確認されず、埋め戻し調査を終了した。



## 13-28 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町329-1他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 1331m<sup>2</sup>  
調査面積 75m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年8月27日～10月3日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地区は、武田城下町遺跡包蔵地範囲の西側に位置し、一帯には「梅屋敷」の字名が残る。調査時には平屋の木造アパートが3棟存在しており、敷地全体が大きく3段の構成となっていた。トレーンチは段差の土層堆積状況を把握するために南北方向に設定して調査を行った。トレーンチは建物が存在しない西側で長さ14m、幅3mに設定し、重機により掘削を実施した。

土層は宅地造成時、あるいはそれ以前の耕地としての表土層が約30cm堆積しており、除去後は直下で地山に達した。掘削中に部分的な精査によって地山面上で溝跡などの遺構が確認されたため、各段差をより詳細に確認するため、そのまま調査区を拡大して確認作業を継続した。

遺構は地山面で柱穴37基、溝跡5条、土坑2基を検出した。そのうち、2～4号溝跡は近世以降のものと考えられ、それを除く遺構が中世段階と考えられた。

柱穴のうちいくつかは柱穴列として想定されるものもあるが、いずれも一列であり、調査区内では掘立柱建物跡など明確な建築物として捉えられるものは確認されなかった。

遺物は包含層が存在しなかったため、調査面積に比して少なく、かわらけや陶磁器など少量の遺物が得られるに止まった。

調査対象のうち、北側は現状地盤維持があるいは盛土がなされ、南側は現況地盤を削平する計画となっていた。少なくとも南側は削平されるため、本調査の必要もあったが、試掘調査の結果、すでに大部分が現状で削平を受けており、遺跡密度も薄かった。また、既

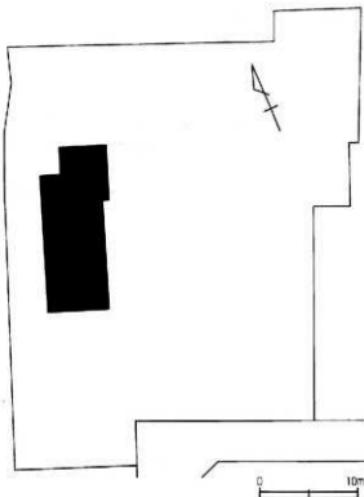


図59 試掘坑配置図

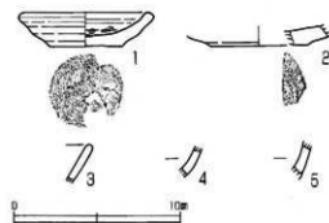


図60 出土遺物

存建物も存在することから遺跡の残存状況は悪いと考えられ、工事着工時の立会で再度確認することとした。後日の立会により搅乱が著しいことが確認された。

### ま と め

城下町では南西端に位置する本地区において、中世の遺構群が検出されたことは大きな成果であった。また、敷地西側が堀状に大きく窪地になっていることと、「梅屋敷」という地名からも何らかの屋敷地が存在していた可能性も高く、今後本地点周辺における調査は慎重な対応が必要である。

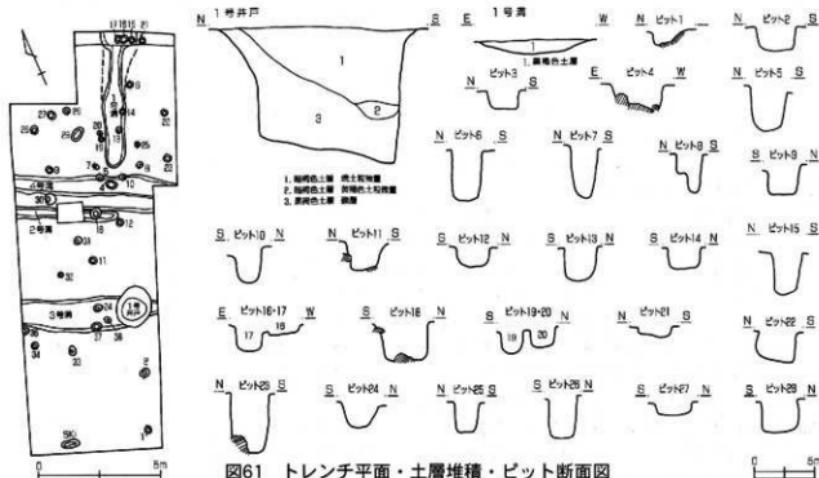


図61 トレンチ平面・土層堆積・ピット断面図



井 戸 跡



全 景 (南から)

## 13-29 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目4289-2他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 114.12m<sup>2</sup>  
調査面積 24m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年10月4日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、武田氏館を中心として城下町内に設けられた南北5本の基軸街路のうち、最も東の街路に面する場所であり、川を越えた東側の山裾には大泉寺が創建されている。城下町としては、この付近での調査事例は少なく、範囲を確認する上でも重要な調査となった。

調査対象地は東西に細長い敷地であり、調査区は敷地の形状に合わせて長さ8m、幅3mで重機により掘削した。以前にも集合住宅が存在しており、解体時に一定の深度まで搅乱されていると考えられたが、50~80cmほど搅乱層を掘削したところで宅地造成前の水田層が15cmほど検出された。

水田層からは出土遺物はなく、時期は不明であったが、最近まで使用されていた水田と考えられた。水田層を除去して確認作業を行ったところ、直下は地山であった。水田造成時による削平であるか、あるいは城下町そのものがこの範囲まで広がっていなかったかは定かではないが、本地点からは城下町に関わる遺構・遺物は確認されなかった。

### 調査の結果

敷地面積に対して一定の調査面積は確保しているが、遺構・遺物は1点も得られていない。水田開発による造成とはいえ、遺物片もないということは、城下町としての利用そのものがなかったと考える方が正しいのかもしれない。今後付近の調査事例の蓄積に期待したい。

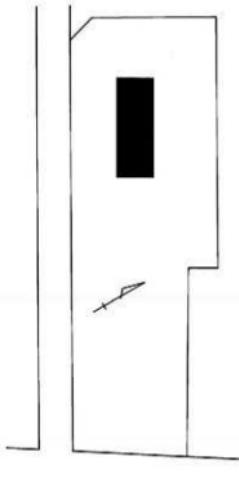


図62 試掘坑配置図

## 13-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町2845-2他  
 調査原因 個人住宅建設  
 対象面積 264m<sup>2</sup>  
 調査面積 21m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成13年10月9日～16日  
 調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、武田氏館跡から北東に位置する。調査対象区の状況から、重機を入れての調査が困難なため、すべて人力による作業となった。トレーナーは長さ7m、幅3mで設定して掘削を行った。水田層を除去すると、約30cmで包含層と考えられる黒褐色土層が検出された。黒褐色土層検出直後には遺構は確認されなかつたが、一部には炭化物が比較的集中する範囲もあり、慎重に精査しつつ確認作業を行つた。

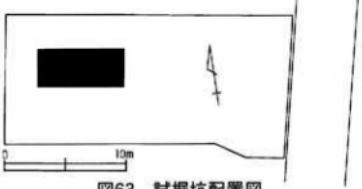


図63 試掘坑配置図

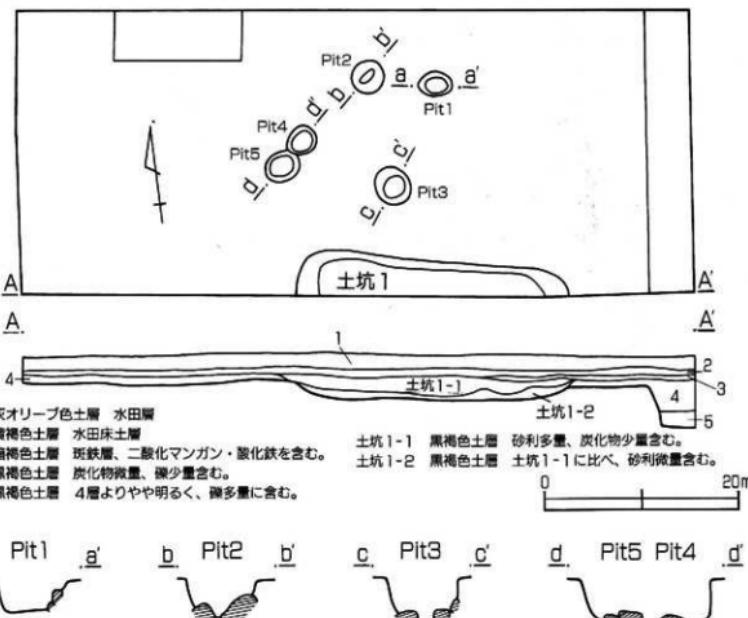


図64 平面・土層堆積図

その結果、黒褐色土層上で柱穴 5 基・土坑 1 基が検出され、出土遺物から中世段階の遺構群と考えられた。さらに部分的に掘り下げるところ、現地表から約 50cm 下で疊混じりの地山を検出し、全体の土層堆積状況を確認することができた。

幸い今回の宅地造成では全体の盛土造成が計画されていたため、発見された遺構面まで住宅基礎は及ばないことが確認されたことから、埋め戻しを行い、調査を終了とした。

### ま と め

本地点の調査によって、中世段階の遺構が当該地域まで展開していることが確認されるとともに、中世段階の造成層が確認されたことは大きな成果であった。



調 査 風 景

## 13-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目4073-1他  
調査原因 建物撤去  
対象面積 1043.21m<sup>2</sup>  
調査面積 40m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年11月16日～12月10日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJ R 甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は南北街路の一つ「鍛冶小路」に隣接し、標高約320mを測る住宅地である。

### 調査の結果

対象地に試掘坑を4か所設定し、重機及び人力にて遺構及び土層確認を行った。試掘坑1、2とも遺構・遺物は確認できなかった。いずれも地表下80cmまで建物建設にともなう盛土層が存在し、それ以下に旧水田耕作土・床土及び水田造成にともなう盛土層が堆積していた。地表下150cmで地山となる。

試掘坑3、4から遺構・遺物が確認された。試掘坑3からピット5基・溝1条、これら遺構とともに、かわらけ・陶磁器・輪の羽口及び鉄滓が出土する。試掘坑4から井戸跡1基・溝1条を検出した。

対象地全体にわたり建物建設にともなう盛土が厚く堆積したが、下層に遺跡が存在する。街路名称の由来となる鍛冶関連遺物が出土するなど貴重な成果が得られた。

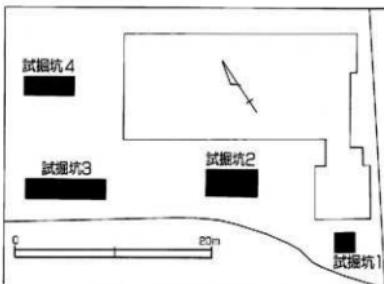


図65 試掘坑配置図



図66 出土遺物

## 13-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1735-6  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 70.68m<sup>2</sup>  
調査面積 10m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年12月12日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は、標高約330mを測る住宅地である。



### 調査の結果

幅2.0m、長さ5.0m、地表下約40cmまで掘削を行ったが、盛土及び既存建物解体にともなう整地層のみで、遺構・遺物は確認できなかった。

## 13-33 武田城下町遺跡

調査位置 宮前町11-13他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 114.12m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年1月25日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

武田城下町遺跡の南東部、藤川の河岸段丘上に位置し、標高は300mを測る。八幡神社前遺跡に隣接している。今回の調査地は旧来の建物を撤去した後、4区画に分けた造成の予定である。



### 調査の結果

2m四方の試掘坑2か所を設定して地表下100cmまで掘下げ、調査を実施した。敷地の東及び北側では比高差は見られないが、西側で+40cm、南側で+70cmの比高差がある。

TP 1では地表下60cmまで客土と旧表土で、旧建物の基礎が混入していた。旧表土を除去すると茶褐色土を含む黒色土層となり、地表下80cmから自然石による暗渠排水路が確認できた。遺構・遺物は皆無であった。

TP 2では地表下70cmで黄褐色土層の地山となる。地山と旧表土の間は茶褐色土層であったが、遺構・遺物等は認められなかった。

## 13-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町11-12  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 84.15m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年2月19日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査区は、武田城下町遺跡として囲繞された遺跡の範囲のなかでもやや東寄りに位置する。北側には武田信虎により勧請され、後に浅野長政により移転されたとされる八幡神社がある。八幡神社の境内北側にある丘の上には巨石が点在し、周辺は縄文時代の遺跡にもなっている。

調査は2×2mの調査グリッドを設定して行った。

### 調査の結果

地表から20~30cmの地層は、瓦礫を盛り上げ整地したものであった。それより下層の地表下70cmまで暗褐色粘土層が堆積する。

地表から70cm下層から、幅約50cmの石組みを伴う溝跡が出土した。石組みは長径約40cmの石を2列×2~3段使用するものであった。

予定建築物の基礎は、最大で地表から100cmを予定していることから、遺跡を破壊する可能性が高いと思われた。埋蔵文化財発掘の届出について埋蔵文化財保護のため設計業者に計画変更を依頼したが、設計変更はされなかった。

### ま と め

今回の調査では中世までさかのぼる可能性のある遺構が検出された。検出状況から周辺まで広がる可能性が極めて高い。それを保護することができないのは大変残念であった。

今後、周辺の開発申請の際には周辺の調査データを提示して、埋蔵文化財保護の具体的な提言ができる体制を整える必要性を感じた。

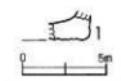


図69 出土遺物



図67 試掘坑配置図

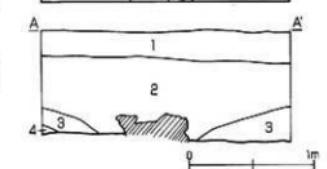
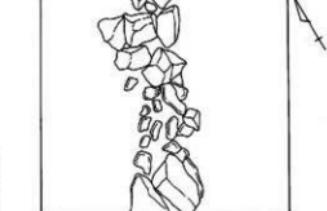
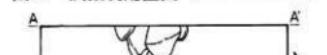


図68 平面・土層堆積図

## 13-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2069-3  
調査原因 店舗建設  
対象面積 130.15m<sup>2</sup>  
調査面積 10m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年3月25日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は相川扇状地扇尖部標高約313m地点に位置する。武田氏館跡西曲輪東側から南下する16世紀代からの街路に接する。『甲府略志』所収の「古府之図」には武田氏の家臣であった長坂長閑斎の屋敷地の記載があり、現在も調査区周辺に「長閑」の字名が残る。

### 調査の方法

建物位置北側に東西4m、南北2.5mのトレンチを設定し、南側に一部拡張した。重機で掘削後、人力で遺構・遺物の確認作業を行った。

### 調査の結果

トレンチ南東隅部の地表下約1m地点からは、南北0.6m、東西1.1mの範囲で、暗黄黒褐色粘土の地山層に掘り込まれた、隅丸方形のプランが確認された。狭隘な範囲のため確認面から深さは60cmまでしか掘削は及ばなかったが、遺構内は拳大の礫が充填され、その間から16世紀代のかわらけが2点出土した。隅丸方形のプランであり、礫が充填された埋没状況から素掘りの井戸と考えられる遺構である。

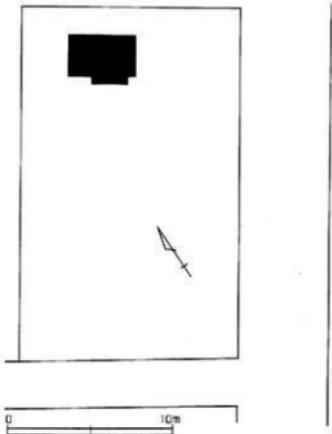
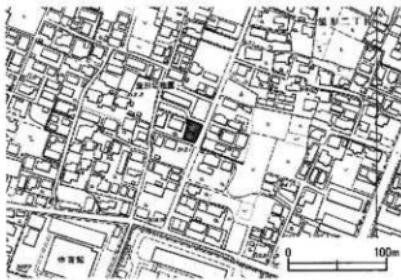


図70 試掘坑配置図

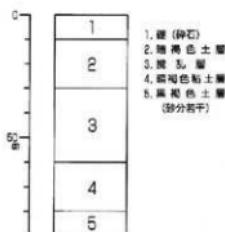


図71 土層柱状図

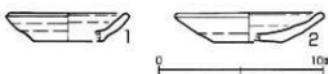


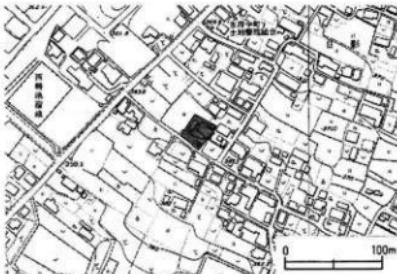
図72 出土遺物

## 13-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町3147  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 659.08m<sup>2</sup>  
調査面積 13m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年3月14日～19日  
調査担当 志村憲一

### 遺跡の概要

調査区は相川扇状地の扇央部、標高約365mに位置する。国史跡武田氏館跡の北側に位置し、周辺は武田信玄の弟である武田道遠軒の屋敷跡の存在をうかがわせる、「道軒屋敷」の字名が残る。また周辺の街路はクランク状の屈曲が多く見られ、16世紀代の街路の痕跡と考えられる。



### 調査方法及び層序

既存建物撤去後、建物部分に3か所の試掘グリッド（Aグリッド2.5×2m、B・Cグリッド2×2m）を設定し、重機及び人力で地表下10～30cm地点の地山層まで掘削作業を行い、遺構・建物の確認作業を実施した。各グリッドの堆積層は2層に分層され、上層は既存建物撤去時の搅乱層であるが、下層は黄褐色礫層の地山層である。

### 調査結果

3か所のグリッドからは地山層に掘り込まれた7基のピットが確認された。Aグリッドは径約10cmのピットが2基、Bグリッドでは径約50cmと30cmが各1基、Cグリッドからは径約30cmが1基と径約25cmが2基検出された。各ピットの時期及び関連性については不明である。またピットの覆土内からは3点の土器が出土したが、小片であるため器種及び時期についての特定は困難であった。



Bグリッド

## 13-37 永井遺跡

調査位置 甲府市小松町428-2他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 89.3m<sup>2</sup>  
調査面積 12m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年11月27日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、永井遺跡包蔵地範囲中央に位置し、個人住宅の建て替えに伴い試掘調査を実施した。調査区は幅1.5m、長さ8mのトレンチを1か所設定し、重機により掘削した。

地表下約40cmまでは旧住宅の造成や解体に伴う盛土層があり、その下層に暗褐色土層が堆積していた。暗褐色土上で遺構等は確認されなかつたため、さらに20cmほど掘り下げたところで地山が検出され、確認作業によって溝跡が1条検出された。溝跡を掘削したが出土遺物はなく、時期は不明であった。

建設予定の住宅基礎計画高は地表下30cmであり、地盤改良等も計画されていないことから、遺跡への影響はないないと判断し、重機によって埋め戻し、試掘調査を終了とした。

### 調査の結果

確認された暗褐色土層からは、掘削の過程で平安時代の土師器片が出土したため、地山に掘り込まれた溝跡の年代は、平安時代かそれ以前の遺構と考えられる。これまでに永井遺跡の調査事例はなかったことから、今回の成果は極めて断片的な情報ではあるものの、平安時代の遺構と遺物の存在を確認できたことは、今後この一帯の取り扱いを考える上で有益な調査となった。

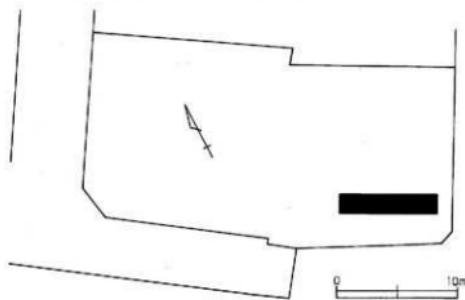


図73 試掘坑配置図

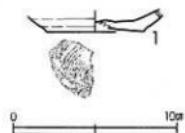


図74 出土遺物



調査状況

### 13-38 永井遺跡

調査位置 甲府市小松町427-1他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 92.29m<sup>2</sup>  
調査面積 1.3m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年2月22日  
調査担当 平塚洋一

#### 調査の概要

調査区は、相川の右岸標高300m付近に位置する。

調査の前日、ハウスメーカーの担当者から基礎の掘削をしてしまったが、試掘調査が必要がある旨の文書を受け、急速試掘調査を行つたものである。

調査は1×1.3mの調査グリッドを設定して行つた。

#### 調査の結果

地表から35cmまでが表土（黄褐色土）、それより下層60cmまでが平安時代の遺物を含む遺物包含層（暗褐色粘土層）で、それより下層は30~50cmほどの大きさの石に暗褐色粘土が混在する地層であった。

遺構は確認されなかったものの、遺物包含層の存在から近隣に平安時代の遺跡が在ることが予想される。

#### まとめ

今回の調査によって確認できた遺物包含層の深さは、地表から35cmであり、基礎掘削が行われたのが地表から30cmだったことから、結果的には遺物包含層も保護できることになる。以前周辺で試掘調査を行つた際、土器とともに人骨が出土した経緯もあることから、今後も周辺の開発には注意が必要である。

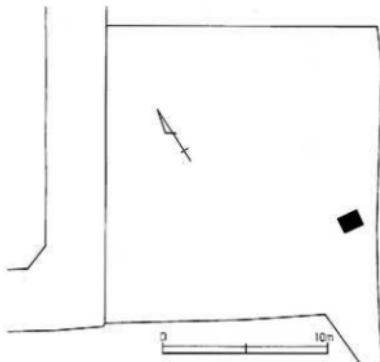


図75 試掘坑配置図

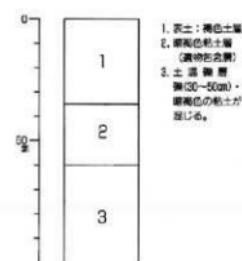


図76 土層柱状図

## 13-39 八幡東遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目1696-2  
調査原因 店舗建設  
対象面積 151.64m<sup>2</sup>  
調査面積 6 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年5月9日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、八幡東遺跡包蔵地範囲南側に位置する。調査前は駐車場として使用されていたため、アスファルトを除去しつつ、長さ3m、幅2mのトレーニングを設定し、調査を実施した。駐車場造成時の碎石層を20cm除去すると、その下層に敷地造成時の盛土層が約20cm確認され、その下から水田層が検出された。水田耕作土層からは縄文時代から古墳時代までの土器片が少量出土したが、すべて流れ込んだものと考えられた。

水田層を掘削すると、下層は砂礫層が厚く堆積しており、包含層なども確認されなかった。部分的に掘り下げたところ地表下約90cmで地山を検出した。遺物は少量出土したものの遺構は確認されなかつたことから、本地点の開発には問題はないとの判断し、調査を終了した。

### 調査の結果

水田は、付近が宅地化する前まで使用されていた比較的新しい水田層であり、その下層は河川の洪水などによってもたらされた砂礫層であったことから、遺構等は確認されなかつた。ただし、水田層から出土した土器は、いずれも破片断面の摩滅が少なく、付近から流れ込んだものと考えられることから、周辺部での今後の調査成果が期待される。

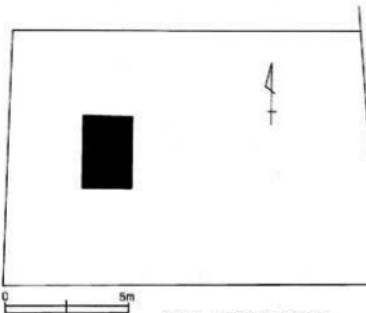


図77 試掘坑配置図

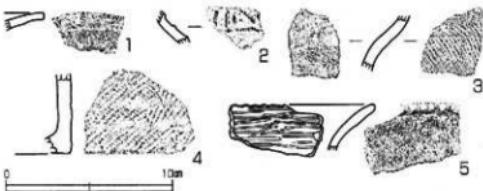


図78 出土遺物

## 13-40 平石遺跡

調査位置 甲府市荒川一丁目264-1他  
調査原因 道路改良  
対象面積 1210m<sup>2</sup>  
調査面積 180m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年1月15日～2月5日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は甲府盆地北辺の荒川右岸標高約286mに位置する。調査区北西には古墳時代後期の穴塚古墳、南東には縄文・平安期の散布地である居村村上遺跡などが散在する。また西方100m地点では平成13年度に本調査が実施され、弥生時代末から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。調査区南側には近世から存続する集落があり、詳細については不明であるが「荒川屋敷」が存在したとされる。

### 調査の結果

調査区にトレンチを7か所設定した。各トレンチは地表下50～60cmで暗褐色土層となる。トレンチ2・3・6・7はこの層から遺物が出土し、特にトレンチ7からは常滑窯片、蓮弁文の青磁碗、土師質土器など13～15世紀代と考えられる遺物が出土している。またトレンチ2では中世の遺物とともに、径約50cm、深さ30cmの土坑が1基確認された。さらにこの暗褐色土層の下層に位置する砂礫層内からは、摩耗が著しい古墳から古代にかけての土器片がわずかに検出されている。

### 調査所見

トレンチ7で中世遺物が出土しているが、他のトレンチと比べて若干多いのみであり、調査区全体としては、遺構・遺物の量は極めて少ない。全体的に荒川の氾濫による砂礫層と搅乱層が多く、遺構・遺物の残存状況が悪いため本調査の対象からは除外した。

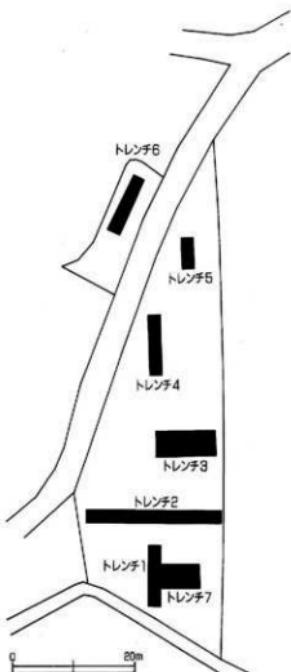
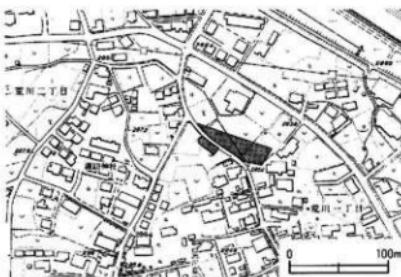
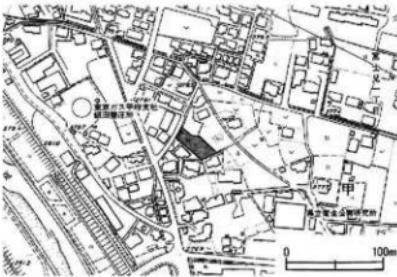


図79 試掘坑配置図

## 13-41 富士見遺跡

調査位置 甲府市富士見一丁目1642他  
 調査原因 集合住宅建設  
 対象面積 204.89m<sup>2</sup>  
 調査面積 40m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成14年3月4日  
 調査担当 志村憲一



### 調査の概要

調査区は荒川左岸約200m地点、遺跡範囲の北西部に位置する。過去、県埋蔵文化財センターにより行われた調査では、調査区南方200m地点では、古墳から平安時代の水田跡が確認されている。また調査区東側の塩部遺跡では、弥生から平安時代にかけての遺構・遺物が確認されている。

### 調査結果

調査区に東西方向20m、幅2mのトレンチを1本設定し重機で表土の掘削を行い、さらに東・西端部分を深掘りし堆積層の確認を行った。土層は右図のとおり4層に分層される。第2層は厚さ20cmの水田層である。第3層からは、近世の陶磁器と時期・器種不明の土器が数点検出された。遺構に関しては未検出である。第4層は荒川の氾濫により形成された砂礫の堆積層である。

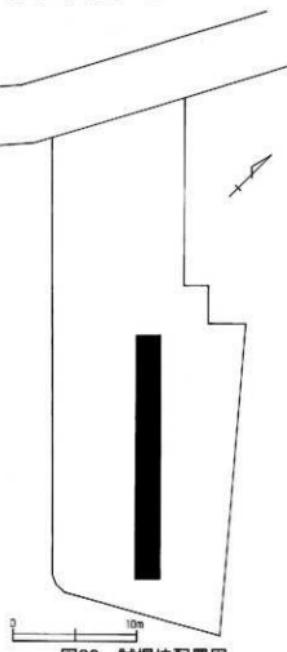


図80 試掘坑配置図

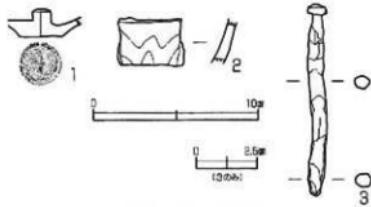


図82 出土遺物

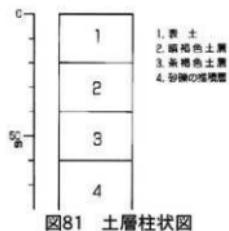


図81 土層柱状図

## 13-42 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2352-8  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 255.73m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年9月6日～7日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

本郷遺跡として括られた範囲のうちの西部に位置する。本遺跡はこれまでに数回の調査が行われ、中世を中心として、縄文時代からの遺構・遺物が確認されている。今回の調査地は住宅地の中の葡萄畑で、標高258mを測る。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を2か所設定して人力で埋蔵文化財を確認した。

両試掘坑とも、10cmほどの耕作土を除去すると明茶褐色土層に達する。この土層からは土師質土器及び陶器が若干確認されるが遺構を伴わない。明茶褐色土層の堆積は30cmを測る。これより下層は締まりの弱い茶褐色土層が30cm堆積している。上部には拳大の礫が15～20cmの厚さで重疊し、また西側の試掘坑では、同層中下部にも確認された。地表下70cmで粘土質の黄色褐色土層(地山)となり、地山上面から若干水が染み出した。

調査地に隣接する畑地には土師器や土師質土器が多く散布していることから、農作業の搅乱により地下に埋蔵される土器が表面に露出したものと思われる。

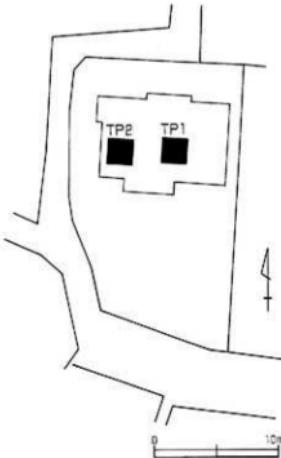


図83 試掘坑配置図

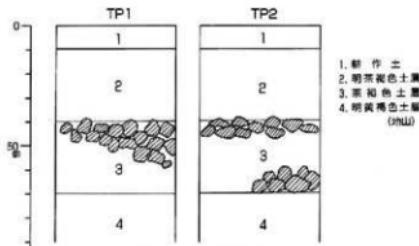


図84 土層柱状図

## 13-43 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目1939-1  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 329.93m<sup>2</sup>  
調査面積 16m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年10月16日～19日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

市営善光寺団地の南西、標高は256mに位置する。善光寺団地建設に先立つ試掘調査で、溝跡・井戸跡等中世の遺構・遺物が検出されている。この地域を「板垣の里」と呼ぶのは、中世の豪族板垣氏によるもので、「殿屋敷」という字名も残されている。

### 調査の結果

集合住宅2棟の建設に先立ち、試掘坑を4か所設定して試掘調査を実施した。

いずれの試掘坑でも耕作土が地山直上まで達していて、遺物包含層及び遺構面は確認できなかった。

TP 3 内北壁に検出された黒色粘土の落ち込み及びTP 4 中南壁際で確認された自然石についても、サブトレンチを設定して精査したが、遺物の検出は認められず、下部構造を含めて遺構は検出できなかった。

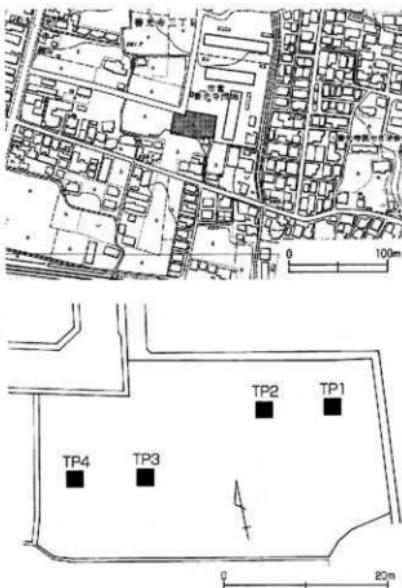


図85 試掘坑配置図

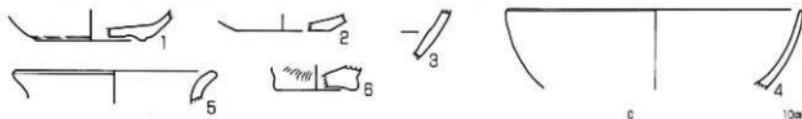


図86 出土遺物

## 13-44 緑が丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目833-2  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 314.66m<sup>2</sup>  
調査面積 5 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年9月12日～13日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、緑が丘二丁目遺跡の包蔵地範囲内でも中央付近に位置する。北側隣接地において試掘調査を実施していることから、その状況も考慮しての調査となつたが、2×2.5mのグリッドを1か所設定し、人力で掘削した。

掘削を進めると、宅地造成時の盛土が予想以上に厚く、最終的に隣接する道路面に合わせて全体を約70cm盛土していたことが判明した。

盛土を除去したところで旧地表にある水田層を検出し、さらに下層の確認作業を行った。水田層直下から炭化物を含む黒褐色土層を検出したが、遺構・遺物は確認することができなかつた。この段階で地表下90cmまで掘り下げていたため、計画されている住宅工事で掘削が及ぶことはないと判断し、調査を終了した。

### まとめ

緑が丘二丁目遺跡の包蔵地範囲内でも本地点は中央に近いが、遺構密度は薄いと考えられる。周辺部の調査状況をみると、むしろ包蔵地範囲の南側と北側に集中域が存在する傾向にあるため、今後取り扱いの再検討が必要である。

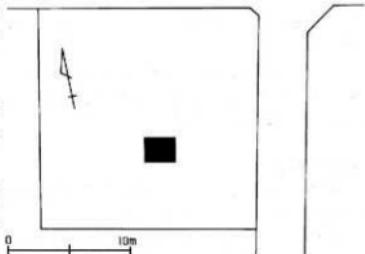
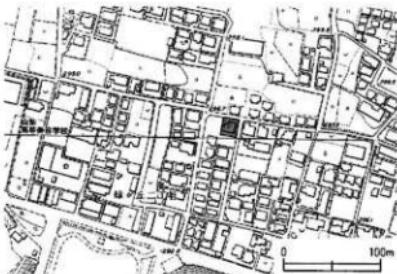


図87 試掘坑配置図



調査状況

## 13-45 横根久保田遺跡

調査位置 甲府市桜井町643-1他  
調査原因 店舗建設  
対象面積 720.80m<sup>2</sup>  
調査面積 96m<sup>2</sup>  
調査期間 平成13年12月10日～18日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

八人山と大藏経寺山に挟まれたこの地域は、古墳時代から平安時代を中心とした著名な遺跡が多く分布する。また、山間部の斜面には140数基の積石塚古墳が分布している。

今回の調査地は大山沢側の右岸、標高250mに位置する。平成11年度に山梨県埋蔵文化財センターが調査した道々芽木遺跡に隣接している。

### 調査の結果

店舗新築工事に先立ち試掘坑4か所を設定、重機により掘り下げ人力により精査した。

試掘坑は建物建設予定箇所に幅2m、長さ27.5m（Aトレンチ）、7.0m（Bトレンチ）、7.0m（Cトレンチ）、6.5m（Dトレンチ）の4本で、それぞれ黒色粘土層まで掘り下げた。

Aトレンチは地表下100cmで黒色粘土層に至る。地表下120cmまで掘り下げたが、埋蔵文化財は確認されていない。

Bトレンチは地表下130cmで黒色粘土層に至る。185cm下層まで掘り下げたが、黒褐色土層中に若干植物遺体が確認された以外に埋蔵文化財は確認されなかった。

Cトレンチは地表下100～115cmの土層から、土師器の小破片及びモモの種子が数点出土した。地表下140cmまで掘り下げたが、湧水が他の試掘坑に比べ多い。

Dトレンチは地表下95cmで黒色粘土層に至る。140cmまで下層まで掘り下げた。3層及び4層中から土師器の小破片が検出された。

4層は部分的に地表下120cmまで下がっていたが、人工的な所作は認められなかった。

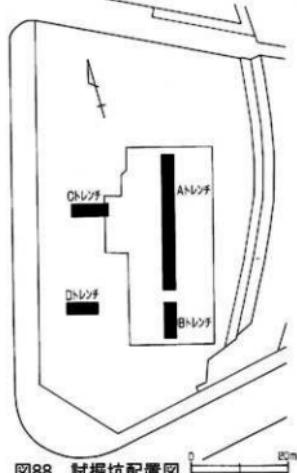
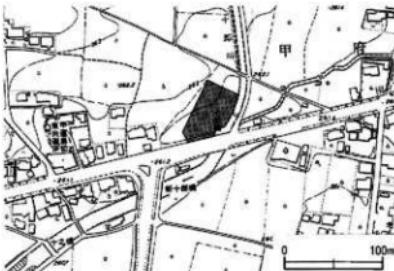


図88 試掘坑配置図

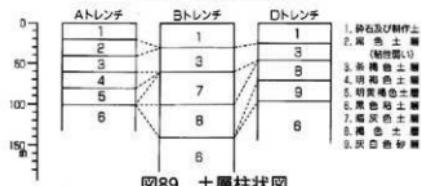


図89 土層柱状図

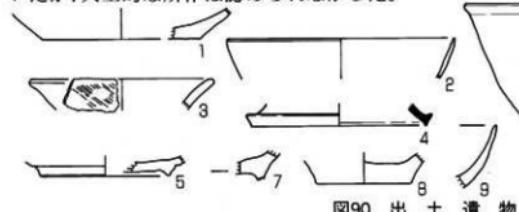


図90 出土遺物

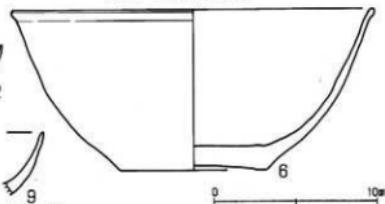


図91 坑の横断面

## II. 平成14年度 試掘調査



図91 平成14年度調査位置図（1）

0 3000m

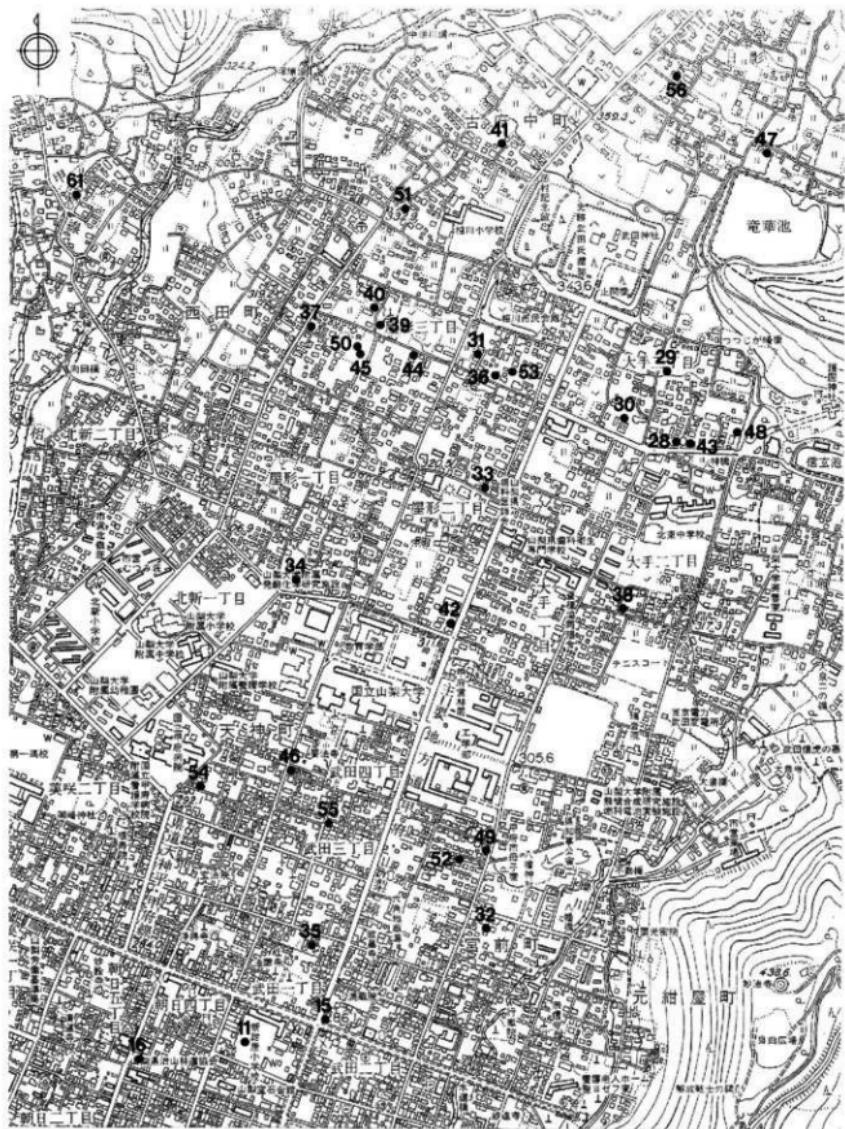
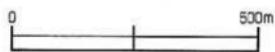


図92 平成14年度調査位置図（2）



## 14-1 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目28-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 214.94m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年7月12日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は遺跡範囲の北西側標高約258mの平坦地であり、現状住宅地である。

調査区北東側の東小学校では、昭和57・59年度に本調査が行われ、縄文時代中期から平安時代にかけての遺物が出土した。特に古墳時代中期から平安時代前期にかけての遺物が顕著に見られた。また、調査区北西側40m地点では方形周溝墓の周溝と考えられる溝が検出されている。

### 調査の結果

建物位置に、2m四方のグリッド(A・B)を2箇所設定し地表下約130cmまで掘削を行い、土層の堆積状況及び造構・遺物の確認作業を行った。

両グリッドとも、若干の違いは見られるがほぼ同一の堆積層である。地表下70cmまで搅乱層である。

第4層の厚さ30cm灰赤褐色粘質土は水田の床土層である。地表下150cm地点に位置する第5層は、厚さ40cmの暗褐色粘質土層であり、古墳時代の土師器が出土している。また第6層においても古墳時代の土師器が少量出土した。造構に関しては未確認である。

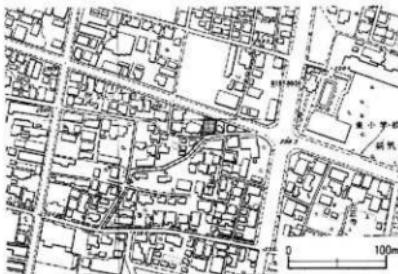


図94 土層柱状図

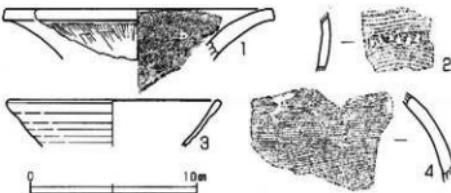


図95 出土遺物

## 14-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣二丁目651-17

調査原因 個人住宅建設

対象面積 92.29m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年1月31日

調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

朝氣遺跡は、古代には甲斐国の中巨摩郡青沼郷に属したと考えられる地城である。

今回の調査地点は東小学校の北東約150mに位置する。周辺の調査では、甲府東小学校の敷地において昭和42年に調査が実施され、古墳時代から平安時代にかけての土器や木製品が出土した。平成19年にも学校の体育館建設とともに発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代にかけての方形周溝墓や集落跡が確認されている。

### 調査の結果

現地に2×2mの試掘グリッドを設定し調査を行った。地表から150cm掘削したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。前述した「青沼」の地名の由来となった沼地(湿地)だったことを示すような青灰色のシルト質の粘土が厚く堆積していた。

### まとめ

今回の調査地点や東小学校の北東地域では、過去の調査においても湿地だったことを示すような青灰色の粘土が厚く堆積し、土器等の出土も少なくなる傾向がある。

遺跡の中心はやはり東小学校の周辺になると推測される。

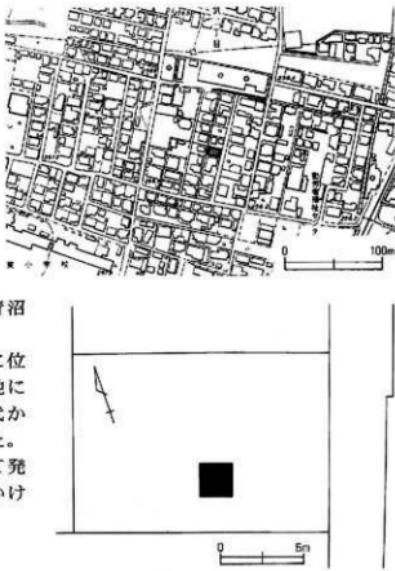


図96 試掘坑配置図



図97 土層柱状図



調査状況

### 14-3 居村村上遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目363-2他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 88.32m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年9月9日～10日  
調査担当 伊藤正彦

#### 遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部に位置し、市街西側、荒川右岸の沖積地に広がる。対象地は現状、畠地となり、荒川と直線距離で約400m離れる。元久年間（1204～1206）創建と伝わる立本寺が近接する。



図98 試掘坑配置図

#### 調査の結果

対象地に試掘坑を2か所設定し、人力で遺構及び土層確認を行った。いずれの試掘坑も地表下30cmまでは、表土、灰白色砂質土が、それ以下に褐色、灰黒色砂質土が堆積していた。試掘坑1は、表層より中世土器及び近世磁器が出土し、試掘坑2からは第4層中から常滑片が出土した。遺構は確認できず、記録写真を撮影し調査を終了した。



図99 土層柱状図

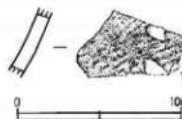


図100 出土遺物

試掘坑2

## 14-4 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目2988-2他  
調査原因 個人住宅増築  
対象面積 19.83m<sup>2</sup>  
調査面積 3 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年11月11日  
調査担当 平塚洋一

### 調査の概要

調査地点は、現在の荒川の流路より約1.5km東の標高約301m付近に位置する。

今回の予定建築物は3.6×4.5mと小規模であるため、調査面積も2×1.5mと小規模な試掘調査となつた。

### 調査の結果

今回の調査地点は周囲の地形と比較して約10cm高かったことから、その分盛土が施されていることが調査前から予想された。

調査の結果、現地表面から約80cmまで耕作（掘削）が及んでいたことが確認できた。

それより下層は浅黄色砂層が地表下120cmまで堆積していることを確認した。周辺の調査状況から、この砂層を自然堆積層と判断した。また、工事による基礎掘削についても地表下120cmまで及ばないため、ここまで掘削で調査を終了した。

出土した遺物は、浅黄色砂層の上面から古墳時代前期のもとのと考えられる台付壺の胸部の破片が1点、釘状鉄製品が1点である。

### まとめ

榎田遺跡の古墳時代の集落の中心は、今回の調査地点より西北西100m方向、標高305m付近の微高地上に展開したものと考えられる。また、過去に実施した榎田遺跡の調査結果から、中世の居館跡もしくは集落が周辺に存在した可能性も挙げられる。

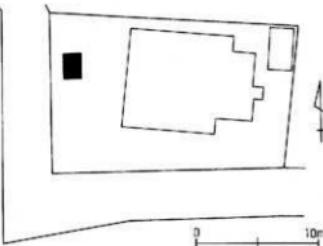


図101 試掘坑配置図

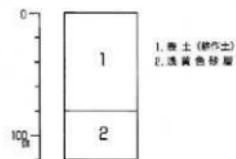


図102 土層柱状図



調査状況

## 14-5 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2218  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 101.02m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年2月12日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は荒川の西、標高298m付近に位置する。調査地点の東約180mには遺跡の名称のもととなった「加牟那塚古墳」が所在する。調査地点の東では公園の造成のため試掘調査を数次にわたり実施しており、遺跡の最も密度の濃い部分は公園建設予定地内の西側地域にあることを把握しつつある。

### 調査の結果

試掘調査は2×2mの試掘グリッドを設定し実施した。現地表面は約50cmの盛土が施されている状況が確認できた。現地表面から約70cm下層から褐色砂質土が検出され、中から平安時代の土器片が出土した。散発的な出土であり、遺構に伴うもとは考えづらい。

さらに地表から約120cm下層から、大きな石が混ざる暗褐色砂質土層が検出された。繩文土器や古墳時代の土器が出土した。こちらも遺構に伴ったものではなく、散発的な出土状況であった。

### まとめ

金塚西遺跡における過去の調査では、古墳時代前期から後期の土器が出土している。古墳時代後期には巨摩郡地域の首長墳と目される加牟那塚古墳があるが、この地域で前期に築造された古墳の存在については全く知られていない。「千塚」の地名があるように、近隣には数多くの古墳があったといわれる。しかし、ほとんどの古墳が原形をとどめず削平され、住宅地となっている。今後も周辺の開発には注意が必要である。

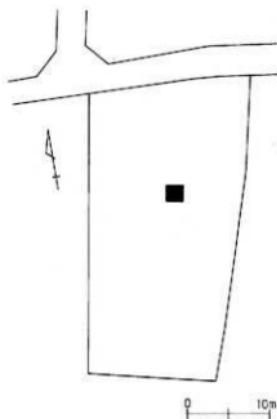
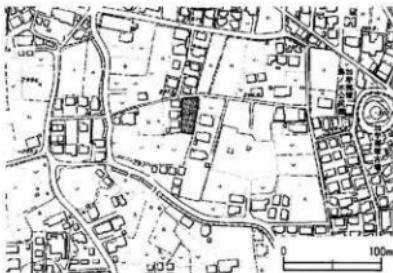


図103 試掘坑配置図



図104 土層柱状図



図105 出土 遺 物

## 14-6 上石田遺跡

調査位置 甲府市上石田三丁目1671  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 260.21m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月19日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

上石田遺跡は昭和44年の区画整理事業の際に発見された縄文時代の遺跡である。区画整理に伴い3回の発掘調査が行われ、竪穴住居跡3軒をはじめ、石畳い土壙墓等の遺構とともに、大型の土器等が確認されている。今回の調査地は上石田遺跡の北東端、標高264mに位置する住宅地である。

### 調査の結果

建物部分に2m四方の試掘坑2か所を設定し、人力により掘削し試掘調査を実施した。

いずれの試掘坑とも川砂が70~75cm堆積しており、その下層が旧水田の耕作土となる。この耕作土は20cmほど確認できた。なお遺物として、川砂中から古墳時代の土師器の小破片2点が検出された。

基礎の掘削は地表から50cm下層までで、埋蔵文化財に対する影響は軽微であるため、埋め戻し調査を終了した。



TP-B層序

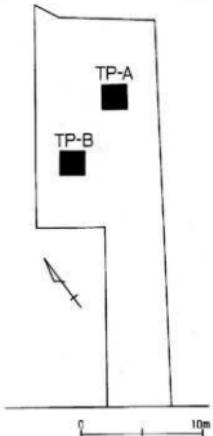


図106 試掘坑配置図

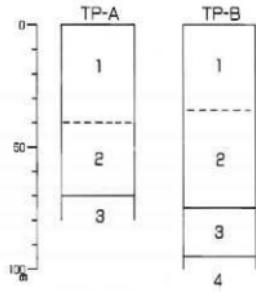


図107 土層柱状図

## 14-7 上町天神遺跡

調査位置 甲府市上町1502-1他  
調査原因 集合住宅建設工事  
対象面積 1020.00m<sup>2</sup>  
調査面積 102m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月3日～12日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、上町天神遺跡の包蔵地南側に位置し、南隣りには諏訪神社が祀られていることから、関連する遺跡が発見されるのではないかと期待された。調査対象区内は水田として利用されてきたため障害物もなく、東西に広い敷地内をT字形にトレンチを設定した。東西方向をトレンチ1とし、規模は長さ29m、幅2mで設定し、南北方向をトレンチ2として長さ12m、幅2mで調査を実施した。

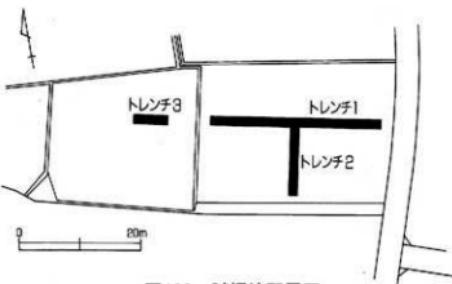


図108 試掘坑配置図

### 調査の結果

トレンチ1では現地表である水田層を除去し、約50cmまで掘り下げたところで砂質の安定した地盤が検出された。トレンチ2も含め全体を50～60cmまで掘削し、精査したところ、出土遺物からみて江戸期の生活面であることが確認された。

また、トレンチ1中央からトレンチ2にかけて所々に噴砂の痕跡が確認された。噴砂は水田造成層を突き抜けていないことから、少なくとも最近の地震等によるものではなく、江戸期に発生した地震によるものではないかと考えられた。

トレンチ1東側を120cmまで掘り下げて土層堆積状況の確認を行ったが、すべて洪水で堆積した砂層であり、生活面などは確認されなかった。それより下に遺跡が存在する可能性もあったが、調査対象区域の地下水位が高く、トレンチ形状の維持が困難であったことからそれ以上掘り下げることができず、下層の調査は断念した。

その後、西側の敷地で長さ約10m、幅2mのトレンチ3を調査したが、状況はトレンチ1、2と同様であったため、近世面を確認し、調査を終了とした。

### まとめ

明確な遺構は確認されなかつたが、近世段階の噴砂が確認されたことは、この地域の災害史を知る上で貴重な成果であった。残念ながら、それより下層は洪水による砂層が厚く、確認することができなかつたが、諏訪神社に関わる遺跡が存在する可能性もあり、今後も注意する必要がある。

## 14-8 上町天神遺跡

調査位置 甲府市上町1807-1他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 2096.42m<sup>2</sup>  
調査面積 86m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月10日～14日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、上町天神遺跡北側に位置し、果樹園として利用されていたため、調査段階では樹木の間にトレンチを設定して調査を実施した。トレンチは全体で4箇所設定し、ある程度敷地全体の様子が把握できるよう努めた。

各トレンチの幅は2mであり、長さはトレンチ1が8m、トレンチ2、3が10m、トレンチ4が15mで設定した。土層堆積状況は、概ね各トレンチとも同じ様相で、地表下30cmまでは耕作土、約60cmで生活面と考えられるやや硬化した土層が確認された。それに伴って江戸後期から幕末・明治にかけての遺物が少量ながら出土した。

遺構はトレンチ3から東西方向の溝跡が1条検出されたが、それ以外の遺構は確認されなかった。溝跡断面には埴砂が確認されたが、上町1502-1地点と同時期の地震によるものと考えられる。

全体に40cm幅で断ち割り、下層の確認を行ったが、約10cm下層でもう1層生活面らしい土層を確認した。中世の遺物も出土したことから、下層に中世と考えられる生活面があることが確認された。それ以下は砂層であり、湧き水の量が多かったことなどから深く掘り下げることは困難であった。

トレンチ3において溝跡が1条検出されたものの、建設される集合住宅の基礎は遺構確認面に達しないことが確認されたことから本調査の必要ないと判断し、確認を終了とした。

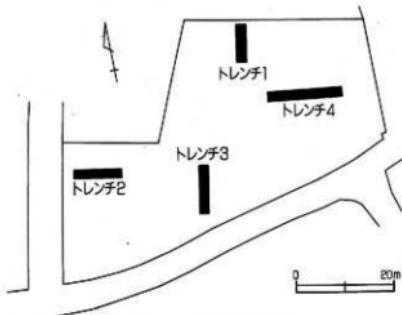
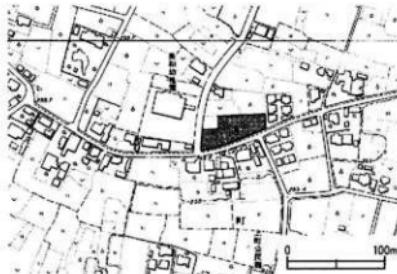


図109 試掘坑配置図

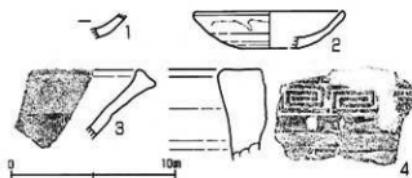


図110 出土遺物

## ま と め

遺物の出土状況から中近世と考えられる生活面の存在が確認されているが、明確な遺構は検出されなかった。本地点北側には堀状の細長い地形などが残されていることから、今後周辺において寺院や集落に関わる遺跡が確認されることも考えられる。

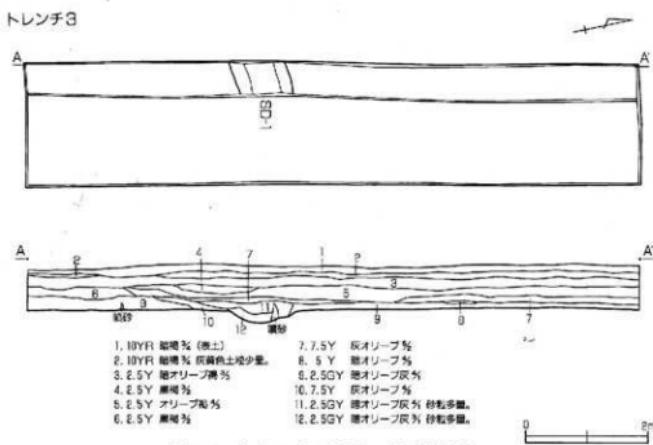


図111 トレーンチ3平面・土層堆積図



## 14-9 亀田遺跡

調査位置 甲府市川田町158-3

調査原因 市道拡張

対象面積 47m<sup>2</sup>

調査面積 45m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年1月14日～24日

調査担当 平塚洋一

### 調査の概要

亀田遺跡は、甲府盆地北縁を形成する大藏経寺山の南麓、平等川の西岸の標高263m付近に位置する。

山梨学院川田運動場を建設するのに先立って、平成11年度から平成17年度にわたって発掘調査が実施された。

地表下70cmで砂層となり、地表下約150cmで黒色粘土層となった。砂層と黒色粘土層との境界から古墳時代前期の土器とともに木片が出土した。遺構が検出できることから、東側に隣接する遺跡の中心から流れ込んだものと判断した。

### 調査の結果

当初、1.5×2mの規模の試掘トレンチを3か所設定し調査を実施した。北側に設定した1トレンチからはわずかに平安時代の土器片が出土するものの、地表下約100cmで自然堆積層となつた。

運動場部分の調査の結果、微高地に沿って古墳時代から平安時代にかけての集落跡が検出された。また、中世の墓坑群や寺院跡と思われる遺構が検出された。



図112 試掘坑配置図

3トレンチでは、地表下約70cmの地層において、約120cm四方の小規模な堅穴状の掘り込みが検出でき、中から平安時代の土器が出士した。

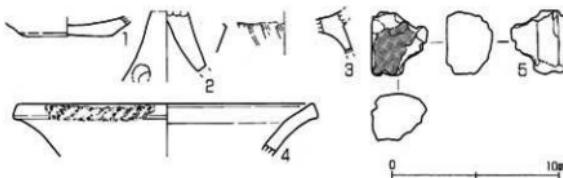
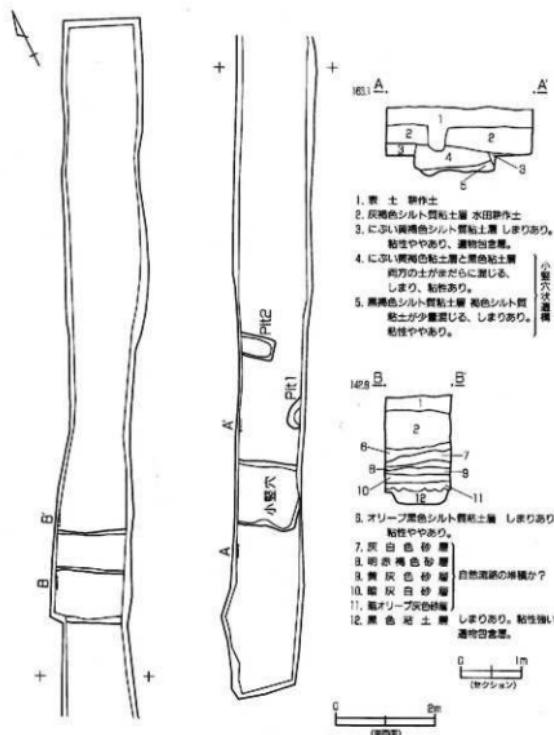
試掘トレンチの調査結果を踏まえ、道路拡張部分のほとんどすべてを調査することとした。

重機で地表下約70cmの深さで掘削し、その後人力で精査し調査を行った。

その結果、遺構は検出されなかった。

### まとめ

今回の調査地点は、東側の隣接地とは約100cmの比高差があることから、微高地の縁辺に位置することが推測でき、古墳時代から平安時代にかけての集落が展開した地域からはややはざれることができた。



## 14-10 神田遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2147-3  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 114.72m<sup>2</sup>  
調査面積 4.5m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月22日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

神田遺跡は、荒川により開析された微高地上に立地する古墳時代を中心とした遺跡のひとつで、標高290～295mほどに位置する。今回の調査地は神田遺跡の中では北西部に位置し標高は295mを測る。

### 調査の結果

個人住宅建設に先立ち試掘確認調査を実施した。建物部分に1.5×3mの試掘坑1か所を設定し人力により地表から85cmまで掘下げて調査をした。調査により庭の整地に伴い客土が40cmあることが確認できた。客土より下層は、灰褐色土層・暗黄褐色土層に分層が可能で、65cm以下が明黄褐色土の地山に達する。いずれの層からも遺構・遺物は確認されなかった。

工事は地表から36cmまで基礎を掘り込む予定だが、これは概ね客土層の掘削にとどまるので、工事による埋蔵文化財への影響はないものと判断し調査を終了した。

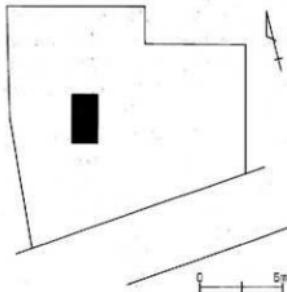


図115 試掘坑配置図



図116 土層柱状図

## 14-11 新紺屋小学校遺跡・甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目131他  
 調査原因 学校施設建設  
 対象面積 975.01m<sup>2</sup>  
 調査面積 225m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成14年10月23日～11月4日  
 調査担当 伊藤正幸、平塚洋一



### 遺跡の概要

平成11年に甲府市内の遺跡の見直しに伴い、新たに史跡武田氏館跡を中心とした中世の「武田城下町遺跡」と、山梨県指定史跡甲府城跡を中心とした近世の「甲府城下町遺跡」が埋蔵文化財の台帳に加えられた。そのため、新紺屋小学校遺跡と甲府城下町遺跡の名前を併用するものである。

調査地点は、三重の堀により囲繞される甲府城下町遺跡のうち、二の堀と三の堀の間に立地する。また、この位置は中世に展開した武田城下町の南端付近に立地すると考えられる。

「新紺屋」の地名が表す通り、紺屋などの商工業者が集住したことが推定される地域である。

### 調査の結果

体育館の建替え工事であり、既存の基礎により埋蔵文化財の保存状態はあまり良好でないことが想定されたため、当初は専門職員の立会いのもとに解体工事が進められたが、埋蔵文化財の保存状態が想定以上に良好だったことから、新築工事により掘削が及ぶ範囲を試掘調査に切り替えた。

調査の結果、柱穴28基、溝跡14条等が検出できた。遺構確認面は調査時の地表面から約40cm下層の黒褐色の粘土層及び、その下層にある黄褐色礫と礫混粘土層である。出土遺物は中世から近世にかけての土器や陶磁器である。

調査区の北西1/4の区画には黒色粘土が堆積し、その粘土中から古代の遺物が僅かであるが出土している。  
 (平塚洋一)

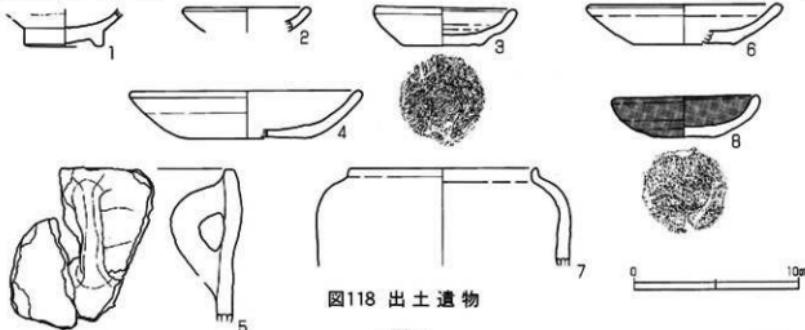


図118 出土遺物

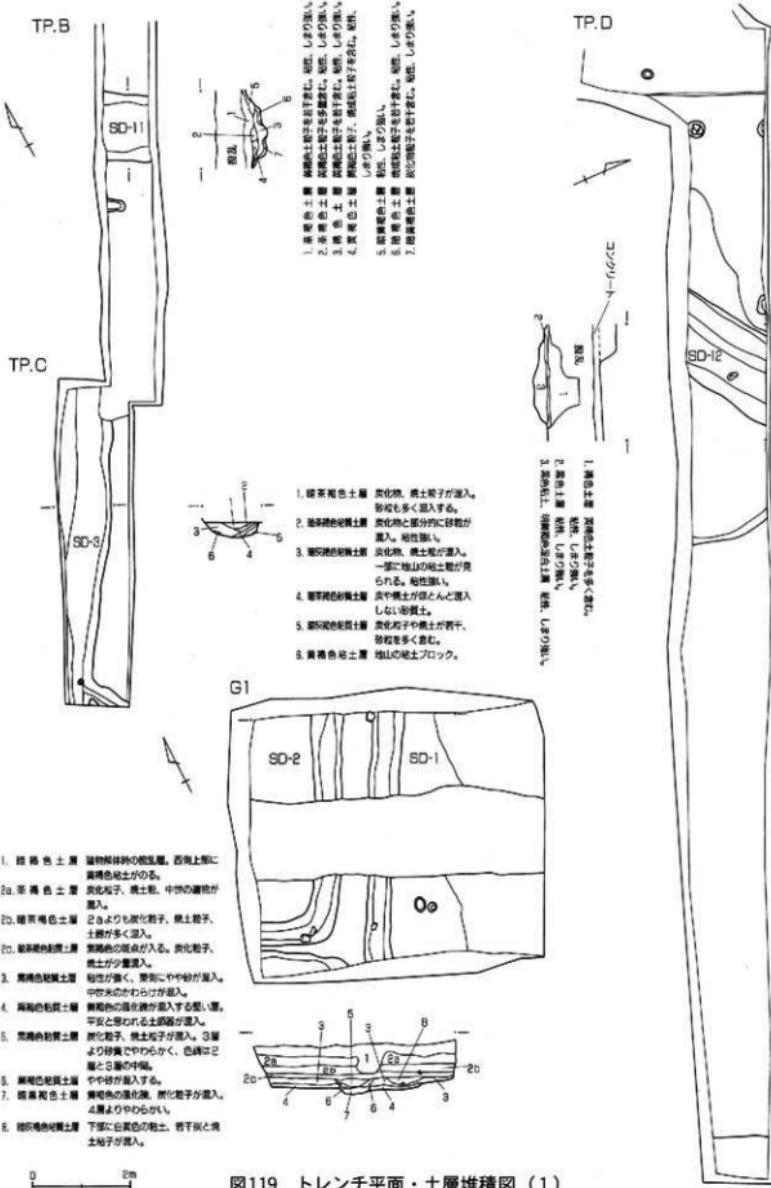


図119 トレンチ平面・土層堆積図（1）

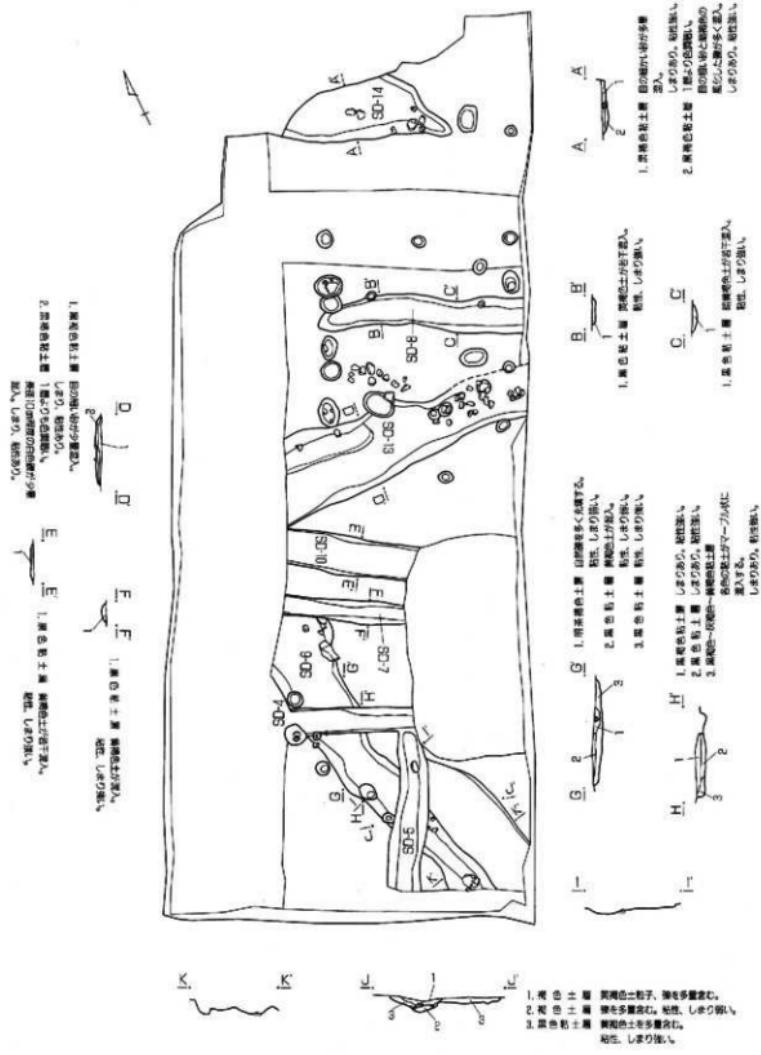


図120 平面・土層堆積図 (2)

## 14-12 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目31-9  
調査原因 店舗併用住宅建設  
対象面積 148.89m<sup>2</sup>  
調査面積 70m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月5日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は甲府城跡柳門の西側約60mに位置する。柳沢文庫所蔵『樂只堂年禄』に描かれた甲府城絵図(1705年頃)によると、「土藏」付近にあたり、『壇宝甲府絵図』(1849年頃)では武家屋敷となっており、「高木」と記される。この人物は文献から勤番同心の高木甚十郎と推測される。

### 調査の結果

2×4mの試掘グリッドには礎石の根固め石がほぼ1間(約180cm)間隔で2箇所、また礎石の根固め石に並行して雨落ち溝らしき溝跡が確認できた。そのため、可能な限り調査区域を拡張して調査を続行した。

その結果、溝跡8条、性格不明な方形の土坑1基、礎石の根固め石4基が検出できた。溝の縁に用いられている石と石の間に白色の粘土を充填しながら形成する技法は、甲府城屋形曲輪で検出されたものと共通し、溝が開削された年代が江戸時代と考えられる。ただし、その覆土中からガラスやレンガの破片が出土することから、廃絶は近代に入ってからと想定できる。



図121 出土遺物

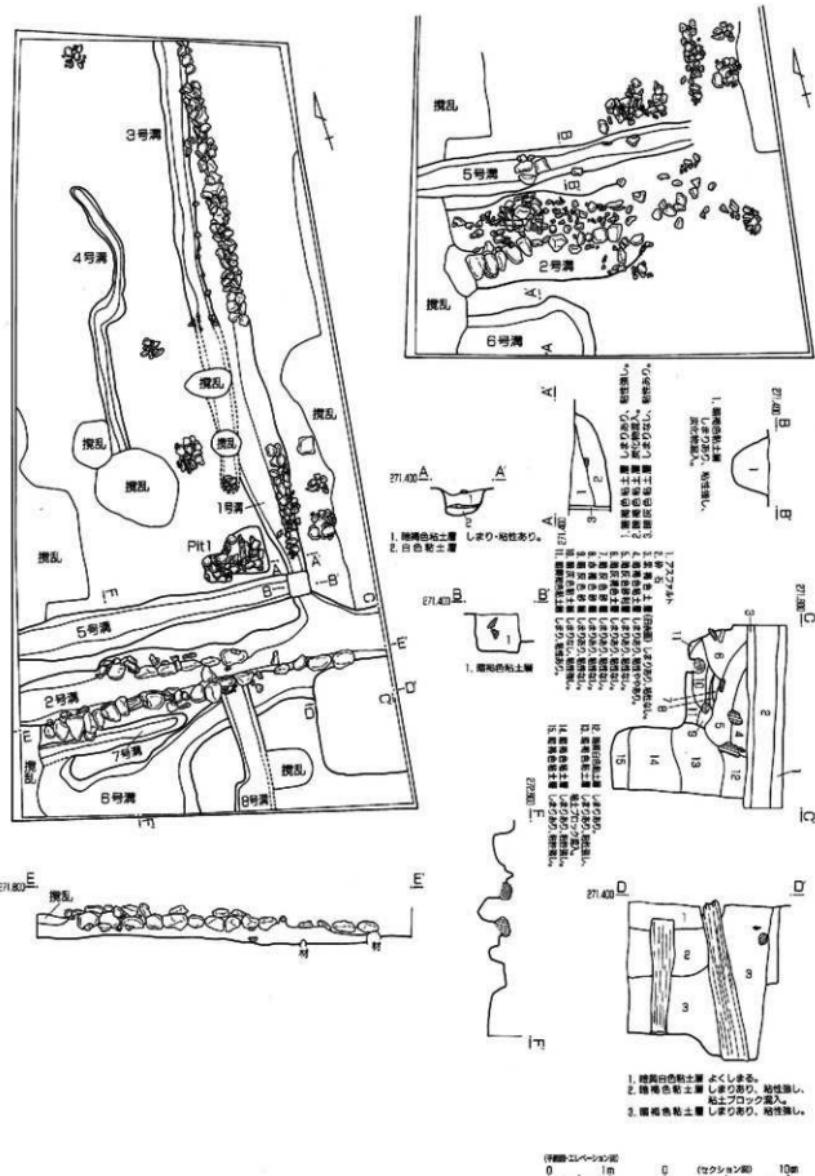


図122 トレンチ平面・土層堆積図

## 14-13 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目19

調査原因 個人住宅建設

対象面積 89.93m<sup>2</sup>

調査面積 6.3m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年5月22日

調査担当 伊藤正幸

### 遺跡の概要

甲府城山手門から500mほど北の標高282mに位置する。南側の道路面より30cmほど高い。平成11年度に実施した『桜シルク跡』調査地点から80m西にあたる。

### 調査の結果

個人住宅建設に先立ち、対象地に2m四方の試掘坑2か所を設定し調査を実施した。

表土を除去すると、両試掘坑とも地表下40cmまでコーカスを多量に含む褐色土層になる。この下層の茶褐色土から土師質土器片等が出土する。

TP1では、試掘坑南西角から、直径約100cm深さ約80cmの土壤が確認された。検出できたのは1/4ほどだが、覆土には炭化物が多量に混入しているのが確認できた。またTP2では円形の搅乱が地表下60cmまで達していた。

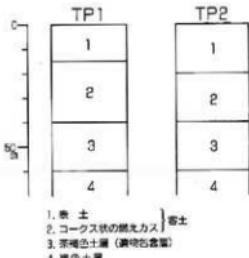


図124 土層柱状図

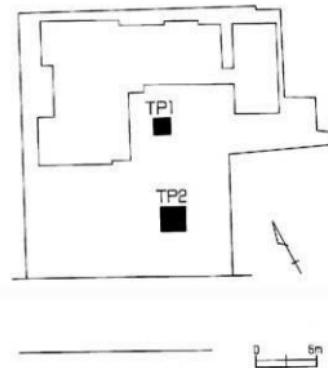


図123 試掘坑配置図

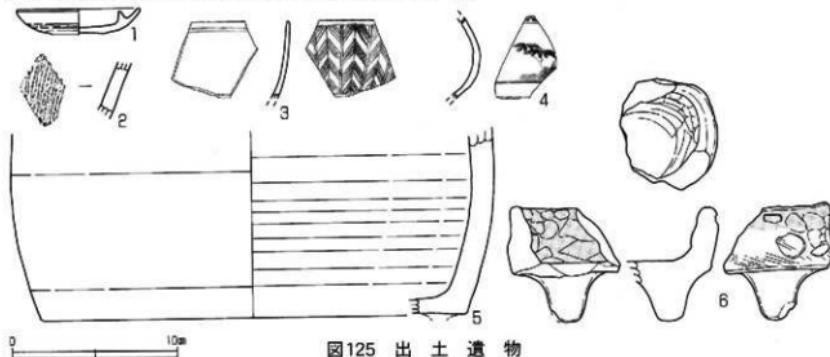


図125 出土 遺 物

## 14-14 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目12-1  
 調査原因 立体駐車場建設  
 対象面積 1342.82m<sup>2</sup>  
 調査面積 110m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成14年6月24日～7月8日  
 調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

城下は盆地北部に発達した相川扇状地の扇端部に位置し、標高304m、比高30mの一条小山に築かれた甲府城を中心に形成される。東西1.7km、南北2.5kmの範囲に広がるが、現在、JR中央本線により南北に分断される。

調査対象地一帯の近世以前の状況は定かではないが、『甲斐国志』や『甲斐国社記・寺記』などのわずかな記述から、長延寺（現光沢寺）の境内地及びそれとともに門前町であったと推量される。

近世以降の状況は、絵図などから土地区分、押領者（所有者）が断片的に判明する。元禄2年（1689）から宝永元年（1704）頃を描いたとする『甲府城内屋敷図（柳沢文庫蔵）』は「御城代岡野伊豆守御屋敷」と注記し、広大な屋敷地を描く。宝永元年から享保9年（1724）頃を描く『柳沢時代ノ甲府ノ郭内郭外図（山梨県立博物館蔵）』は「柳沢權太夫」と表記し、同じく広大な屋敷地と描く。柳沢氏の大和郡山転封後の様子を伝える『元文三年甲府城下町絵図（坂田家蔵）』や文政年中（1818～1830）に描かれたとされる『甲府郭内外邸第図（山梨県立博物館蔵）』は、引き続き広大な屋敷地を描くが、空屋敷となっている。嘉永2年（1849）発行の『懷宝甲府絵図』（図129）は、広大な屋敷地が7区画に分割されていることを伝え、明治30年（1897）の公図写（図130）は、間口が街路に面し、奥行きの長い5筆の屋敷地となっている。

これまでの周辺調査により、鉄道建設にともない2m近く盛土されているものの、下層には近世から明治期に及ぶ遺構・遺物が確認されている。対象地は標高277mを測る駅南口に位置し、駅ビル駐車場として活用されていた。

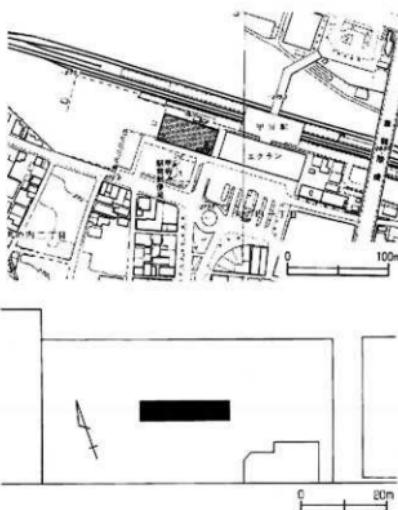


図126 試掘坑配置図

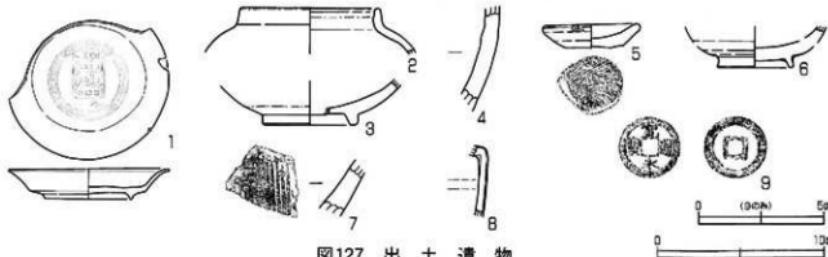


図127 出土遺物

## 調査の結果

幅5m、長さ22mの試掘坑を東西方向に設定し、重機によりアスファルト・碎石・盛土層を掘削・除去後、人力にて調査を行った。遺構確認面は地表下1.6~1.7m程となる。

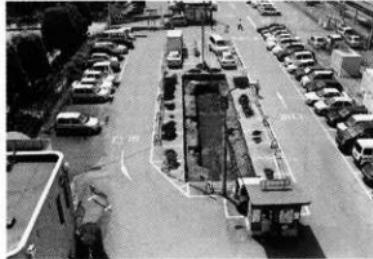
確認した遺構は、幅0.9~1.5m、深さ20~34cm、東西方向に長さ4.0mにわたる1号溝と、幅0.9~1.1m、深さ8~12cm、南北方向にわたる長さ2.6mの2号溝のみであった。これら溝にともない近世から明治期の陶磁器を検出した。明治36年(1903)、鉄道建設により埋め立てられたものと判断でき、いずれも地境となる溝であろう。一部掘り下げを行い、下層遺構の確認を行ったが、土器・陶磁器が出土するだけであった。

## その後の対応

武家屋敷に関する遺構は確認できなかったものの、鉄道建設により埋め立てられ、それ以後、盛土層に厚く覆われていたため明治期の遺構を良好にとどめていると判断された。調査状況を説明しつつ、遺跡の取扱いについて施主と協議を行った。盛土工法により地下の遺構等に影響を与えることなく、遺跡の保存を図ることとした。



1・2号溝検出状況



調査区遠景

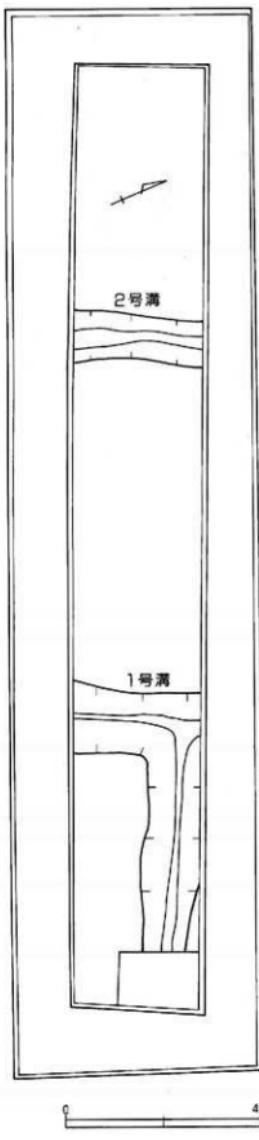


图128 トレント平面図

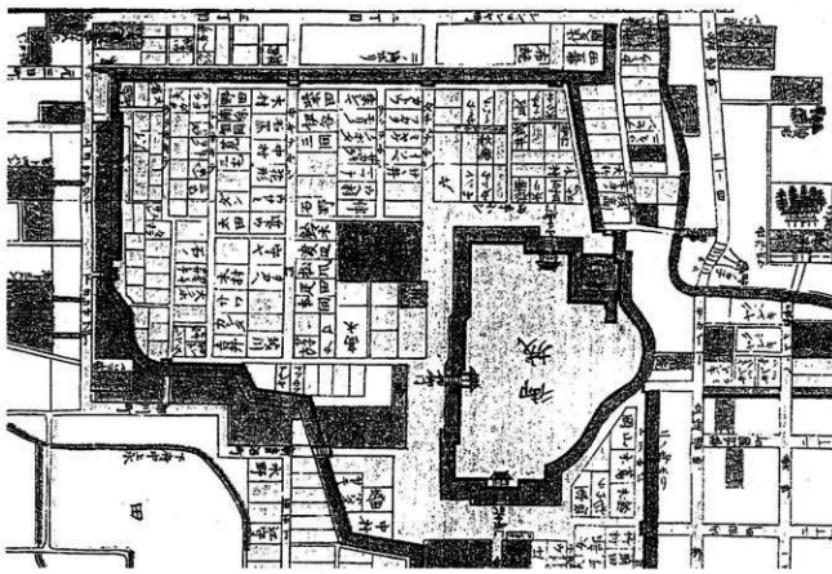


図129『懶宝甲府絵図』嘉永2年(1849)



図130『公図(写)』明治30年(1897)

## 14-15 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田二丁目99-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 89.43m<sup>2</sup>  
調査面積 13m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月24日～26日  
調査担当 志村憲一

### 遺跡の概要

調査区は、甲府城下町北側の二の堀と三の堀の間に位置し、江戸時代は南北の「大工町」と東西の「工町」が交差する町人地であった。また、近年の周辺の調査から武田氏館跡から甲府駅北口周辺にわたる広範囲から16世紀代の遺構・遺物も確認されている。

### 調査の結果

調査区に3か所のグリッドを設定し、地山層まで深さ50～100cmを人力で調査を行った。

Aグリッドは、地表下45cmで黄褐色の地山層となる。遺構・遺物ともに未検出である。

Bグリッドでは、南北方向の溝及び石列が検出された。溝は地山層に掘り込まれ、幅180cm、深さ約50cmである。溝内西側には径10～30cmの自然石が雜然と南北方向に並ぶ。溝内底部は砂礫を多く含む堆積土である。出土遺物はかわらけ、北宋銭など、中世段階の遺物がある。

Cグリッドでは、Bグリッドで確認された溝の延長線が確認された。幅180cm、深さ50cmとほぼ同規模である。石列も同様に検出されているが、部分的に2～3段、高さ30～50cmがある。溝底部は砂礫分が多く堆積し、かわらけ・陶器片など中世段階の遺物が出土した。

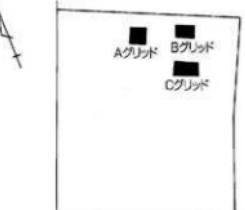
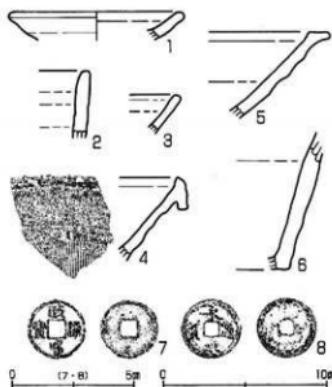


図131 試掘坑配置図



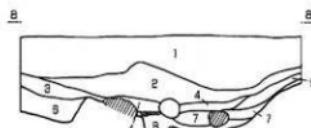
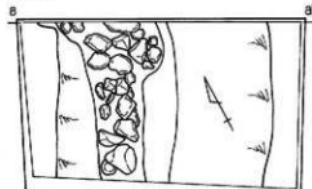
調査結果

図132 出土 遺物

## 調査結果

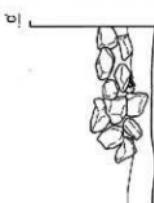
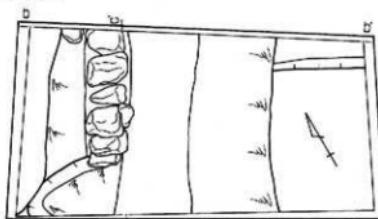
検出された南北方向の溝は、N-31°-W方向であり、現在のこの地域周辺の地割り線と同一の軸線を持ち、地山層を掘り込み、幅180cm、深さ約50cmである。溝内西側には径10~30cmの自然石が雜然と南北方向に並ぶことから、当初は石積みが存在していたことも考えられる。出土遺物から16世紀代の遺構である。

### Bグリッド



1. 黒 灰 土 層 漢化層・底土粒子がやや多く、砂分を含む。しまりややるい。
2. 黑 灰 色 土 層 漢化層・底土粒子・底土塊を多く含む。しまり強い。
3. 黑褐色粘土層 漢化物少量、黄褐色土塊含む。ややほりあり。
4. 黑褐色粘土層 漢化物少量、底土粒子細胞、砂分が多く含む。しまりややるい。
5. 黑褐色粘土層 漢化層・底土粒子細胞、砂分少量。しまりあり。
6. 黑褐色粘土層 漢化層・底土粒子細胞。しまりあり。
7. 黑褐色粘土層 漢化層・底土粒子細胞、砂分多く含む。しまりややるい。

### Cグリッド



1. 黒 灰 土 層 黄褐色に近出土。漢化層・底土粒子がやや多く、砂少量。しまり強い。
2. 黑 灰 色 土 層 漢化層・底土粒子・底土塊を多く含む。しまり強い。
3. 黑褐色粘土層 漱化層・底土粒子・砂礫びご量。しまり強い。
4. 黑 灰 色 土 層 漱化層・底土粒子・砂礫びご量。しまり強い。
5. 黑褐色粘土層 漱化物少量、黄褐色粘土層や多い。しまり強い。
6. 黑褐色粘土層 漱化層・砂分少、底土粒子細胞。しまりあり。
7. 黑褐色粘土層 漱化物少量。しまりあり。
8. 黑褐色粘土層 漩化物少量。やや少しい。
9. 黑色粘土層 漱化層・底土粒子細胞。深・黒褐色土少量。ややるい。
10. 黑色粘土層 黒褐色と類似するが、漢化層・底土・砂分や多い。
11. 黑褐色粘土層 4~15cmの深多く、漢化物少量。

図133 平面・土層堆積図



Bグリッド（北壁）



Cグリッド（溝）

## 14-16 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市朝日一丁目110

調査原因 集合住宅建設

対象面積 101.7m<sup>2</sup>

調査面積 8 m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年1月28日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

甲府城下町の北西部に位置し、二の堀に接する。従来の二の堀を跨ぐように、軽量鉄骨の遊戯施設が建設されていた。商業地域の一角にあり、標高280mを測る。

### 調査の結果

集合住宅建設工事に先立ち、2m四方の試掘坑2か所を設定し、人力で掘下げて確認調査を実施した。

敷地西側に設定したTP1は、地表下60cmまでコンクリートブロック等の瓦礫が多量に埋め込まれていて、その下層は黄褐色粘土の地山となる。またTP2は、TP1同様地表下60cmで地山に至るが、その直上15cmほど、粘性の強い黒色土が確認されている。

旧建物の建設及び取り壊しの段階でかなり攪乱されたものと考えられ、試掘坑内及び敷地内から遺物等が確認できなかったため、埋め戻して調査を終了した。

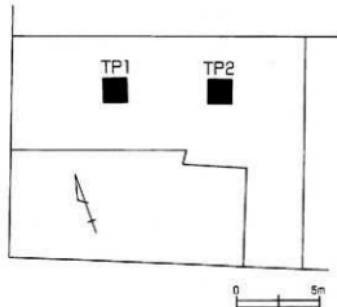
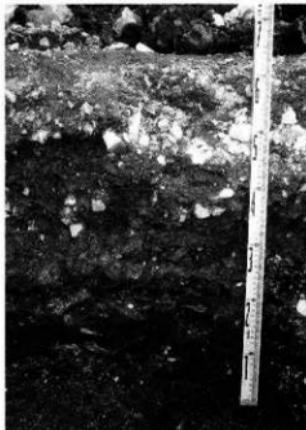
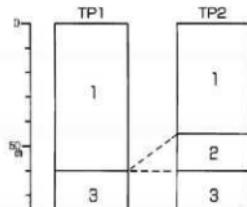


図134 試掘坑配置図



1. 黒ル
2. 明褐色粘土層
3. 黃褐色粘土層(地山)

図135 土層柱状図

TP1 土層堆積状況

## 14-17 寿町遺跡

調査位置 甲府市寿町475-2他

調査原因 個人住宅建設

対象面積 104m<sup>2</sup>

調査面積 8 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年5月7日

調査担当 伊藤正幸



### 調査の概要

寿町遺跡は荒川左岸の扇状地に位置し、標高265mを測る。昭和54年に県民文化ホールが建設された際、古墳時代の遺物が確認されている。

今回の調査地は県民文化ホールに南接する位置で標高270mを測る。先に甲府市により区画整理された宅地にあたる。

### 調査の結果

個人住宅建設に先立ち、対象地に2m四方の試掘坑2か所を設定し人力により地表下100cmまで掘下げた。

擾乱が著しく中央部のTP2では、瓦礫混じりの擾乱が地表下90cmまで達していた。また南部のTP1でも擾乱が-45cmまで確認され、その下層は黄褐色砂層、さらに小礫混じりの白色粗粒砂と続く。

遺構・遺物等埋蔵文化財は皆無で、埋め戻して調査を終了した。

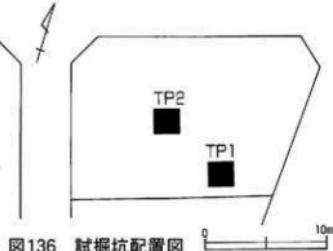


図136 試掘坑配置図



TP-2

## 14-18 五本松遺跡

調査位置 甲府市国玉町452-1他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 2,061m<sup>2</sup>  
調査面積 50m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月26日～31日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

甲府市国玉町に位置する五本松遺跡は、奈良・平安時代の遺跡として周知されている。周辺は葡萄及び蔬菜畑が広がっているが、遺跡の北方100mほどの場所に通称「城東バイパス」が一部分敷設され、また周辺でも宅地開発が行われる等、変化の激しい地域である。

今回の調査地は五本松遺跡の南東端にあたり、標高260mを測る。遺跡の範囲は開発地域の北及び西側の一部であったが、この付近の調査例が少ないので遺跡の範囲確認も含めて全体を対象に試掘調査を実施した。

### 調査の結果

工事計画が独立した共同住宅5棟の建設だったので、対象地に幅2mのトレーナーを十文字に配置するよう調査地を設定、埋蔵文化財が確認された場合に拡張することを前提に、8個の試掘坑を人力により掘下げて調査した。

いずれの試掘坑でも、耕作土を除去すると拳大の礫を含む褐色土層になり（地表下25cm）その下層が明黄褐色の地山であった。地山には人頭大の礫が多く含まれている。土師器の小片が若干検出されたが、耕作土及び褐色土層の上部からの出土であったため、耕作用による混入と思われる。

また五本松遺跡の範囲に近い西端部の試掘坑からも、遺構・遺物等埋蔵文化財は確認されず、埋め戻して調査を終了した。

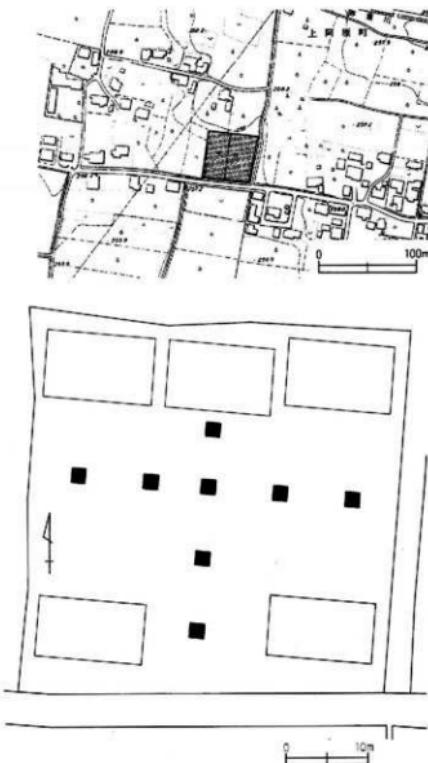


図137 試掘坑配置図

## 14-19 幸町A遺跡

調査位置 甲府市湯田二丁目489  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 88.92m<sup>2</sup>  
調査面積 5 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年5月9日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点周辺では、過去に下水道工事の際に弥生中期の土器群がまとまって出土するとともに、マンション建設に先立つ調査（『甲府市内遺跡III』）によっても弥生後期の遺跡が確認されていることから、今回の調査地点についても同時代の遺跡が確認される可能性も想定して調査を実施した。

調査は2m×2.5mのグリッドを1か所設定し、人力によって掘削を行った。地表下約30~40cmまでは以前の建物解体等に伴う搅乱層であり、その直下から砂質の堆積土層が確認された。

調査区の南側では砂層が検出され、さらに南側に下る様子が確認された。掘り下げたところランダムに打ち込まれた木杭が検出されたことから、水路跡であることが判明した。遺物は、下層から近世陶磁器が出土し、上層からは明治大正期の遺物が出土している。したがって水路の開削は江戸期に始まり、廃絶は大正あるいは昭和初期と考えられた。

その後、調査区を100cmまで掘削したが、弥生時代の遺構・遺物は皆無であった。調査ではひとまず住宅基礎深度より深く掘り下げて確認したため、基礎工事では埋蔵文化財に影響はないと判断し、調査を終了した。

### まとめ

甲府市内では珍しい弥生中期の遺跡として知られる幸町A遺跡であるが、残念ながら今回の調査では該当する資料は得られなかった。より深い掘削によっては弥生期の遺跡が確認される可能性もあるが、周辺における今後の調査に期待したい。

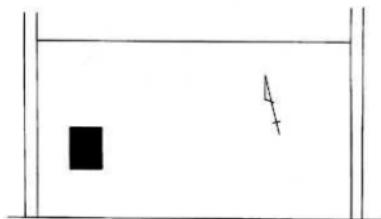


図138 試掘坑配置図

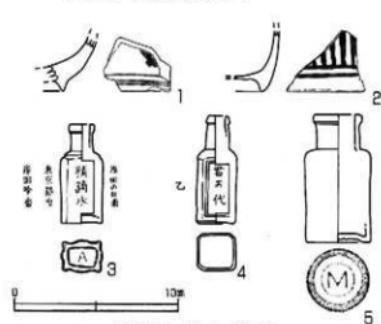


図139 出土遺物

## 14-20 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市和戸町1260-1

調査原因 倉庫建設

対象面積 56.7m<sup>2</sup>

調査面積 3 m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年3月25日

調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は桜井畠遺跡として括られた範囲のなかでも南によりに位置する。周辺の調査事例では、リバース和戸の建築、山梨学院川田運動場を造成するのに先立って発掘調査が実施されている。リバース和戸地点(桜井畠遺跡A地区)では方形周溝墓3基をはじめ、平安時代の集落跡が検出された。そのうち3号方形周溝墓は33.4×27.5mの規模であり、山梨県内で見つかっているもののなかでも最大級である。

また調査地の南側約50mを東西に伸びる現在の国道411号線は、近世には甲州道中として機能していた幹線道路であり、山梨学院川田運動場の調査によって平安時代には既に道路として使用されていた可能性も指摘されている。

### 調査の結果

現況の地表は周囲と比較して約10cm高いことから、盛土が施してあることが当初から想定された。その現地表面から40cm掘削したところで自然堆積層が確認できた。この自然堆積層で遺構が確認できた。試掘グリッドの中央部分で黒褐色土が不整な楕円形で確認でき、また柱穴が1基確認できた。不整楕円形のものを掘削し確認したところ、内容土はかなり締まっていて、遺物の出土もないことから自然堆積の過程でおきたものと判断した。

建築に当たっては、基礎掘削が地表から55cmを予定しているものの、小規模建物であることから埋蔵文化財への影響は少ないものと判断した。

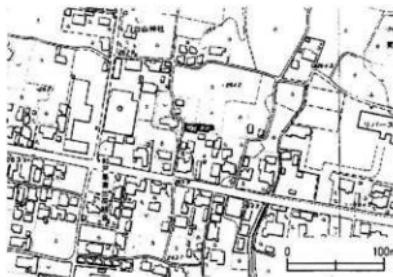


図140 試掘坑配置図

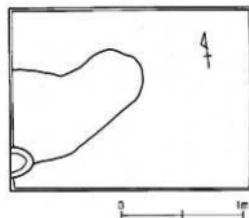


図141 グリッド平面図



図142 土層柱状図



図143 出土物

## まとめ

桜井畠遺跡は、古代には山梨郡の表門郷に所属することがほぼ確実である。表門郷域には、古墳時代の初頭に一辺が30mを超える巨大な方形周溝墓が存在し、また古墳時代の後期にかけて、墳丘を石だけで構築するという特異な形態をした「積石塚古墳」が群集して築かれ、古墳時代の末期から平安時代にかけて瓦や土器の生産を担うという、かなり特殊な集落だったことが想定される。

方形周溝墓の総数は未定ながら規模からだけを考えると、曾根丘陵に存在する「上の平遺跡」のものと同等であることから、古墳時代前期に山梨県地域をリードする曾根丘陵地域のそれと同等の勢力を保持していたことが窺える。古墳時代後期以降には「積石塚古墳」に代表されるように、独自の方向性を目指した可能性がある。これは俗にいわれるよう、古墳時代前期に曾根丘陵の勢力が畿内王権を受け入れ、その結果この地域が凋落していくことを表しているのであろうか。また、その後渡来人を含む窯業技術者が入植し、瓦や土器の生産が行われたのであろうか。今後の調査により解明されることに期待したい。



調査状況

## 14-21 桜林A遺跡

調査位置 甲府市宮原町183-1他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 54.65m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年2月7日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、桜林A遺跡の中央に位置し、調査は長さ4m、幅2mの規模でトレンチを設定したが盛土が厚く、現地表下約50cmまで碎石による造成が施されていた。その直下で旧地表面を確認し調査をしたが、全体的に砂質の土層が堆積していた。トレンチ北側を部分的に掘り下げ、特に西隅では約100cm深く掘り下げたが、土層に大きな変化は見られなかった。

掘削中に土器片が少量確認されたため、さらに下層には遺跡が存在する可能性もあったが、建設される住宅基礎の深度では遺跡への影響はないと考えられたことから、埋め戻しを行い、調査を終了した。

### ま と め

今回の調査では遺構等の発見はなかったものの、全体的に砂質の安定した土層が検出され、遺物も少量ながら出土したことは、直下あるいはこの付近に遺跡が存在する可能性が高いことを示していると考えられる。

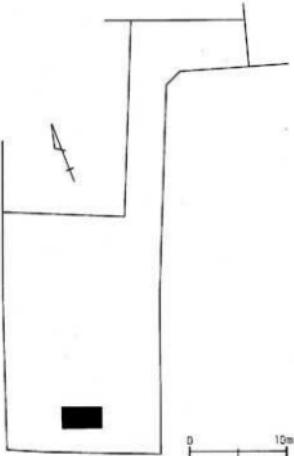


図144 試掘坑配置図



トレンチ（北側）

## 14-22 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目564-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 263m<sup>2</sup>  
調査面積 28m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年5月13日～14日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、平成7年度に山梨県埋蔵文化財センターが県立甲府工業高校校舎建て替え工事に先立って実施した塩部遺跡発掘調査地点から道路を挟んで北側に隣接しており、方形周溝墓など連続した遺構が検出される可能性が高いと考えられた。

個人住宅としては敷地や予定建物規模が大きいこともあり、2×2mのグリッドを1か所設定し、土層堆積状況を確認後にトレンチを2か所に設定して調査を実施した。トレント1は長さ7m、幅2m、トレント2は長さ5m、幅2mとし重機によって掘削した。

地表下約30cmまで旧建物解体時の盛土層で覆われておらず、その下層に水田層が20cmほど断片的に確認された。水田層除去後に厚さ約15cmの黒褐色土層が確認され、かわらけや熔融物が付着した取瓶など中世の遺物が出土した。残念ながら遺構は確認されなかったが、黒褐色土層は中世の包含層と考えられた。

中世の土層を掘削すると、塩部遺跡で検出されることの多い弥生～古墳時代の遺物を含む黒色土層を確認した。黒色土層中からは、古墳時代の遺物が若干出土するに止まり、当初予測していたほどの出土量はなかった。部分的に100cmまで深掘りし、地山まで確認したものの、遺構などは確認されなかったことから、建物基礎も遺跡確認面まで及ばないことが確認されたため、調査はこの時点で終了とした。

### まとめ

塩部遺跡は、近年調査事例の蓄積が著しく、本地点についても遺構は確認されなかったものの、弥生末から古墳時代の遺物が得られたことは、隣接地の方形周溝墓群の範囲も含めて塩部遺跡の範囲を考える上で重要な成果であった。加えて16世紀段階の包含層が確認されたことは、近接する中世三日市場推定地との関連も含め興味深い。

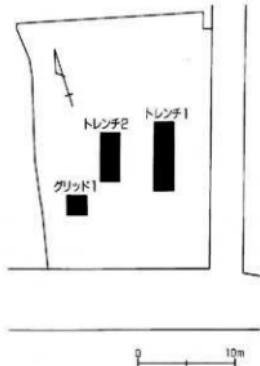
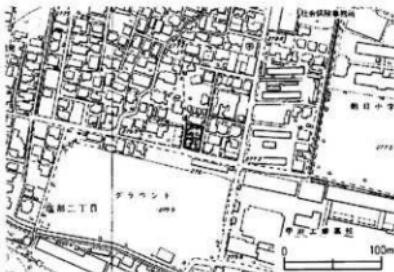


図145 試掘坑配置図

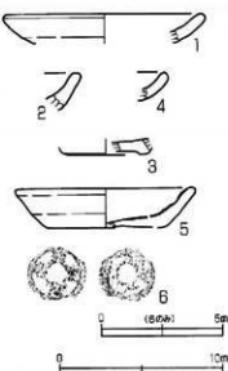


図146 出土遺物

## 14-23 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部一丁目273

調査原因 貯水槽埋設

対象面積 66.70

調査面積 40m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年8月1日～5日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

相川の左岸、相川扇状地の扇端部、標高278mに位置する。塩部遺跡のほぼ中央部にあり、現状は市立朝日小学校の校庭である。南に隣接する甲府工業高校改築の際に山梨県埋蔵文化財センターが行った発掘調査では、弥生時代から近現代に至る集落跡及び方形周溝墓など遺物とともに確認されている。

### 調査の結果

非常用貯水槽埋設工事に先立ち、埋蔵文化財の確認調査を実施した。重機により幅4m、長さ10mの範囲を荒掘りし、壁面及び底面を調整・精査した。

校庭の造成に伴う客土は地表下40cmまで確認され、それより下層5cmが明黄褐色土層になる。さらに暗黄褐色土層・黒色粘土層と続き、地表下115cmで白色砂粒子を多量に含む黒色粘土層に至る。地表下155cmまで掘下げたがこの黒色粘土層に変化は見られず、試掘坑全体からも埋蔵文化財は確認されなかつた。

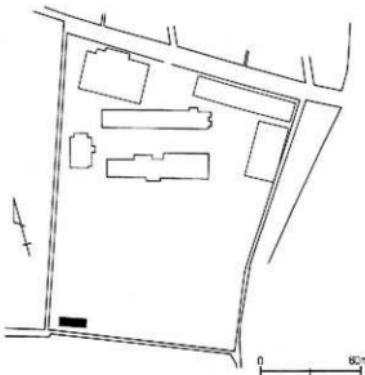
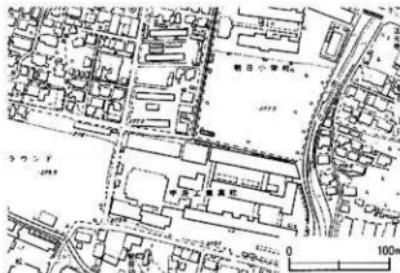
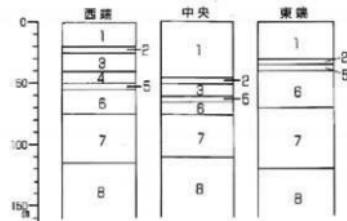


図147 試掘坑配置図



1. 生樹化土層 グラウンド透成  
2. 実施化土層 のための客土  
3. 黒色土層 E. 明黄褐色土層  
E. 暗黄褐色土層  
E. 白色砂粒子を含む。

図148 土層柱状図

## 14-24 地蔵北遺跡

調査位置 甲府市東光寺三丁目1743-8他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 169.72m<sup>2</sup>  
調査面積 70m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年9月17日～10月5日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、平成13年度に調査した宅地造成区画の一つである。宅地造成時には多くが盛土であったため、他の区画は立会で対応したが、本地点については、計画された基礎深度が深かったこともあり、試掘調査とした。

住宅建設予定地を中心に8m×8.5mの規模で地表下約60cmまで重機によって掘削した。包含層と考えられる暗褐色土層からは出土遺物があったため、それ以下は人力で掘削したが、東側など部分的に地山が検出されたところで遺構確認を行った。

掘削段階から集石などが確認されたことから複数の遺構の存在は確実である。

### 検出遺構

検出された遺構は、溝跡2条、井戸跡1基、土坑2基、柱穴8基である。南北方向に走る2条の溝跡のうち、1号溝跡は北側で幅1.3m、南側で2.2m、深さは約30～40cmであり、南に向かって傾斜している。2号溝跡並びに1号井戸跡と重複しており、2号溝跡との重複関係は不明であるが、礫石の充填や堆積土の状況をみると古いためと考えられた。

1号溝跡と重複して検出された1号井戸跡は、幅約2.5mで、深さは安全面と調査後の住宅建設への影響を考え、約1.5mまでの掘削に止めている。礫石が投げ込まれていたことから人為的に廃絶されたと考えられ、15世紀後半と考えられる土器を中心とした遺物が出土している。

### 出土遺物

かわらけ、擂鉢、内耳鍋、土釜などの土器類を中心として15世紀後半から16世紀前半にかけての遺物が1号井戸跡を中心に出土している。陶磁器では1号溝跡から4の徳利や5の祖母懐壺があり、2号溝跡から大窯1段階の灰釉皿、青磁碗、1号井戸跡からは常滑壺や青花皿が出土しているものの数は少ない。

### まとめ

柱穴の分布状況と平成13年度の調査成果を重ねてみても、溝跡から西側に建物など生活の中心地があることは明らかである。いずれも東光寺参道側に偏った分布状況であり、年代的に概ね15世紀後半から16世紀前半の東光寺関連の子院か僧坊などが考えられる。

東光寺は、16世紀になると武田氏の庇護の下で甲府五山にも数えられる格式を有した寺院であったが、調査結果からは15世紀後半にピークを迎えていることが興味深い。



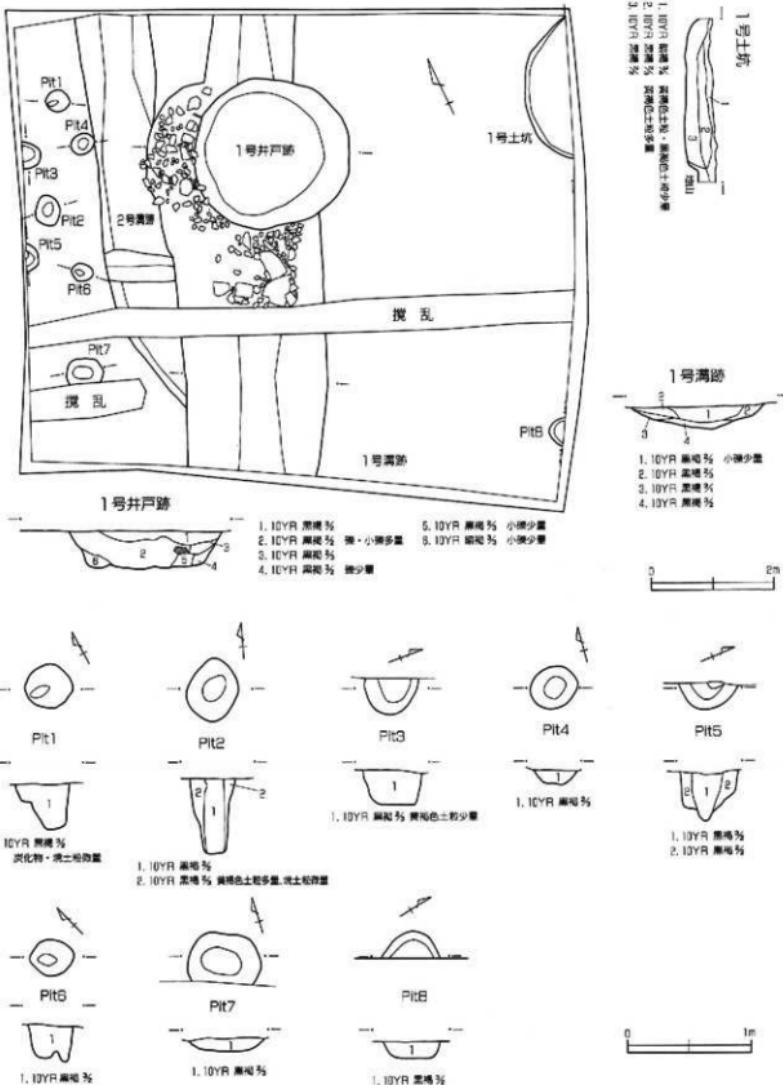


图149 平面・土層堆積図

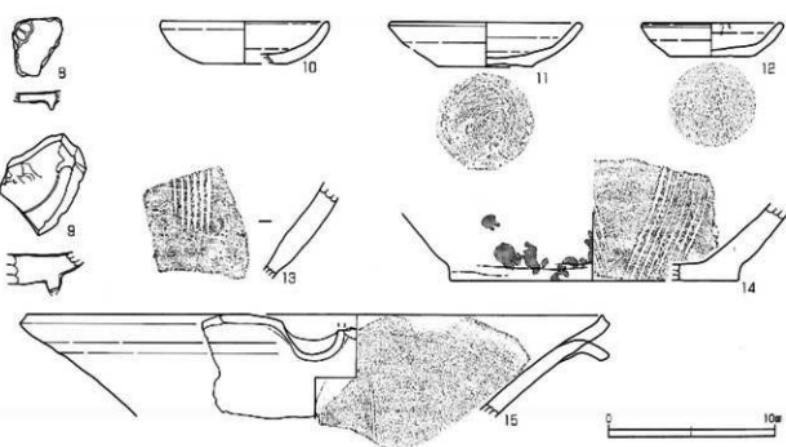
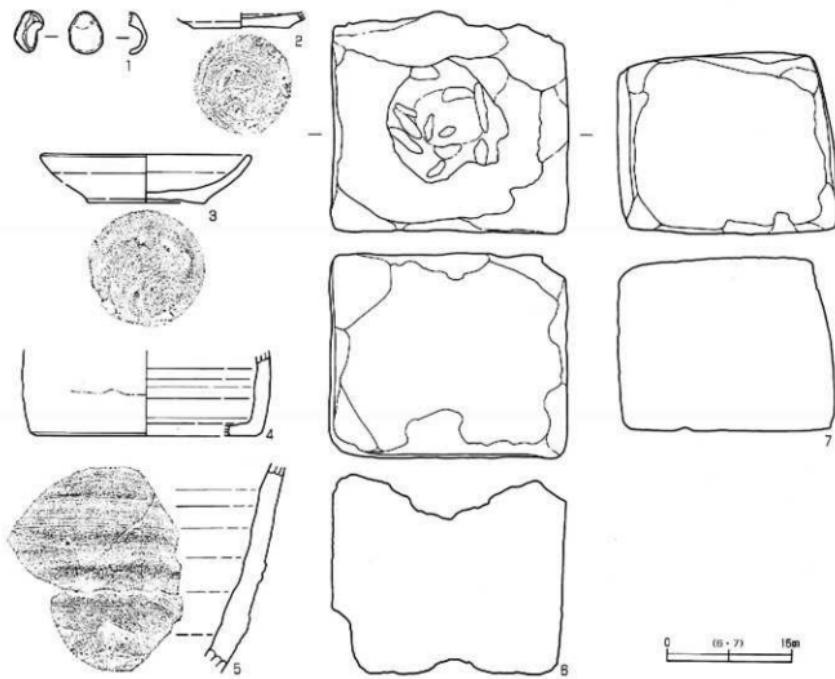


図150 出土遺物 (1)

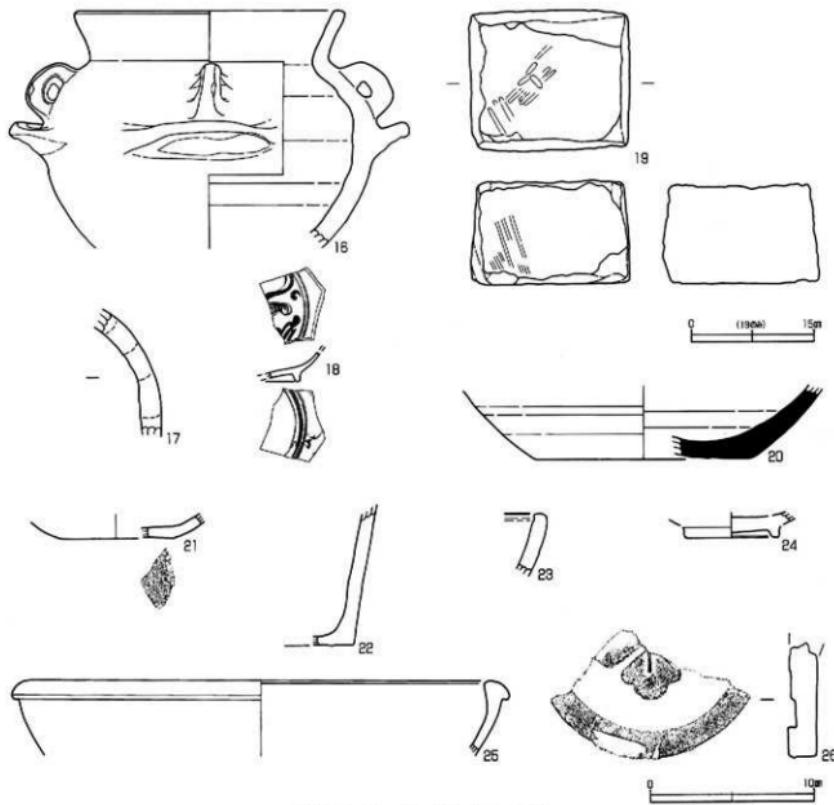


図151 出土遺物（2）

## 14-25 十丁遺跡

調査位置 甲府市青葉町400-1他  
調査原因 道路建設・宅地造成  
対象面積 1,251.96m<sup>2</sup>  
調査面積 450m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年8月16日～10月10日  
調査担当 伊藤正幸・志村憲一

### 調査の概要

濁川氾濫原上、標高257.8mに位置する。この地域は埋蔵文化財までの深さが比較的深く、これまでにも保存状態のよい遺跡が多く分布していることが確認されている。

本遺跡西側には朝氣遺跡があり、また北側に里吉天神遺跡・家之前遺跡等、古墳時代から平安時代の遺跡が拡がる。

本遺跡は昭和59年度の甲府市遺跡詳細分布調査により周知された遺跡で、遺跡の広がりとしては調査地の北東寄りにあったが、一連の開発行為により全体の試掘確認調査を行ったものである。

調査地は住宅地の中にある耕作地で、小水路が調査地を東西に横断している。

### 調査の結果

調査は宅地造成工事に伴う道路敷部分を行ったもので、幅5m、長さ90mの調査区を「L」字型に設定して行った。地表下50～70cmまで重機で掘り下げ、その後人力により埋蔵文化財の検出を行った結果、試掘坑全体から埋蔵文化財が確認された。

### 基本層序

1層 黄色細粒砂層、2層 黒色粘土層、3層 茶褐色土層と続き、ここまでで深さ60cmを測る。このうち1層及び2層は客土で、3層には赤褐色土粒子が多く含まれていた。3層上面及び下面に遺構の掘り込みが確認できる。

遺構の覆土は灰白色土ブロックを多く含む茶褐色土層及び暗黃褐色粘土及び黃褐色細粒砂を多く含む褐色土層の2層が基本であり、遺構によっては暗灰白色土ないし黒色土が確認できた。

### 検出された遺構

調査により住居跡10軒、溝30条、外に土坑及び小堅穴（ピット）等が確認されている。遺構の重複関係から2期ないし3期の変遷が確認できた。

住居跡のうち3号住居跡は、3層上面からの掘り込みが確認できたが、同面から掘り込まれている23号溝により切られていた。住居跡床面から20cmほどの位置に炭化物による黒色土の面が5cmの厚さで確認されている。4号住居跡は4層から掘り込まれ構築されて

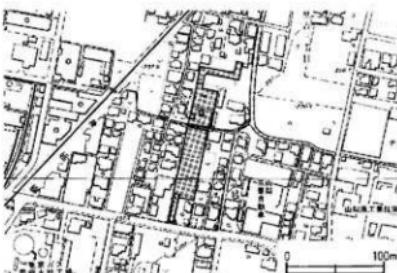
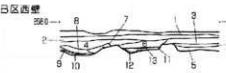
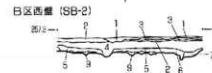
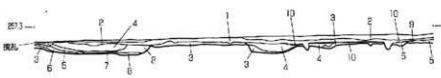
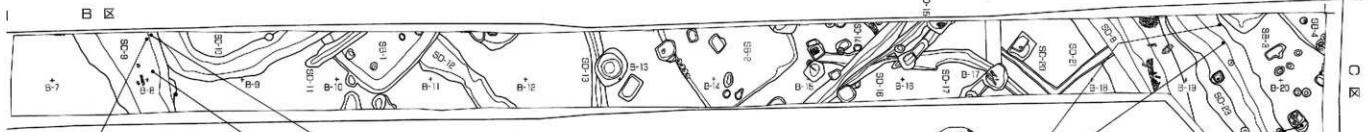


図152 土層柱状図

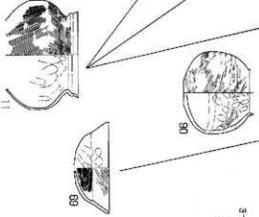
B区



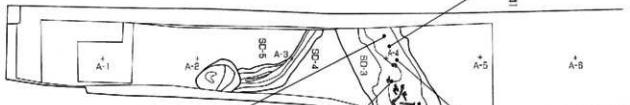
B区



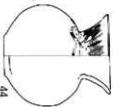
- 断面図 SB-2**
- 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層



A区



- 断面図 A-2**
- 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層



- 断面図 A-2**
- 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
- 断面図 A-5**
- 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層
  - 褐色土層
  - 褐色砂質土層

17

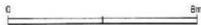
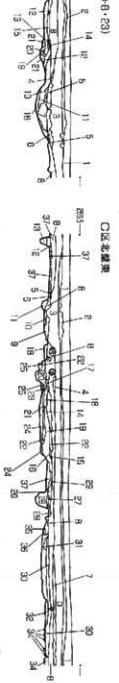
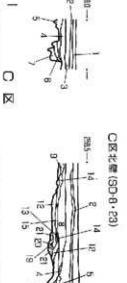


図153 遺物出土状況・土層堆積図

C区北壁

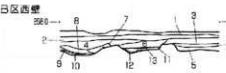


C区北壁 (SB-23)

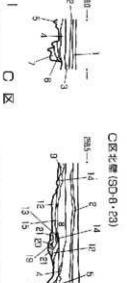
炭化物

1. 灰色土層  
2. 黑色土層  
3. 黑色土層  
4. 黑色土層  
5. 黑色土層  
6. 黑色土層  
7. 黑色土層  
8. 黑色土層  
9. 黑色土層  
10. 黑色土層  
11. 黑色土層  
12. 黑色土層  
13. 黑色土層  
14. 黑色土層  
15. 黑色土層  
16. 黑色土層  
17. 黑色土層  
18. 黑色土層  
19. 黑色土層  
20. 黑色土層  
21. 黑色土層  
22. 黑色土層  
23. 黑色土層  
24. 黑色土層  
25. 黑色土層  
26. 黑色土層  
27. 黑色土層  
28. 黑色土層  
29. 黑色土層  
30. 黑色土層  
31. 黑色土層  
32. 黑色土層  
33. 黑色土層  
34. 黑色土層  
35. 黑色土層  
36. 黑色土層

B区西壁



C区北壁



C区北壁 (SB-23)

1. 灰色土層  
2. 黑色土層  
3. 黑色土層  
4. 黑色土層  
5. 黑色土層  
6. 黑色土層  
7. 黑色土層  
8. 黑色土層  
9. 黑色土層  
10. 黑色土層  
11. 黑色土層  
12. 黑色土層  
13. 黑色土層  
14. 黑色土層  
15. 黑色土層  
16. 黑色土層  
17. 黑色土層  
18. 黑色土層  
19. 黑色土層  
20. 黑色土層  
21. 黑色土層  
22. 黑色土層  
23. 黑色土層  
24. 黑色土層  
25. 黑色土層  
26. 黑色土層  
27. 黑色土層  
28. 黑色土層  
29. 黑色土層  
30. 黑色土層  
31. 黑色土層  
32. 黑色土層  
33. 黑色土層  
34. 黑色土層  
35. 黑色土層  
36. 黑色土層

いる。

調査区北西部に確認された23号溝跡は今回の調査により出土した遺構の中で最も深い掘り込みを有する遺構で、検出面から50cmの深さを測る。なお溝跡については、8号溝跡のように屈曲し、周溝墓の可能性を示唆するものも含めた総数である。

#### 出土遺物

遺物は古墳時代前期を中心にしながらも、古墳時代のほぼ全期に及ぶ。また器形も壺・高壺・甕・壺・器台等多岐にわたって確認されている。3号・8号及び9号溝跡からの出土が目立った。

その他の遺物として、田下駄あるいは大足と思われる木製品と廃土中から中世のかわらけ4点が確認されている。

#### まとめ

十丁遺跡の範囲は当初北西の一部と認識されていたが、調査区全体に広がっていることが確認された。濁川氾濫原上にあり同じ地域に立地する他の遺跡同様、遺構背面が比較的深い位置にあるため、耕作等による影響を受けにくかったと考えられる。甲府盆地底部の遺跡の調査については、今後とも注意を有する。

本遺跡が里吉天神遺跡や家之前遺跡をはさみ、朝氣遺跡から続く一連の遺跡となるかどうかは、今後の調査例の増加を待って改めて検討したい。

(伊藤正幸)



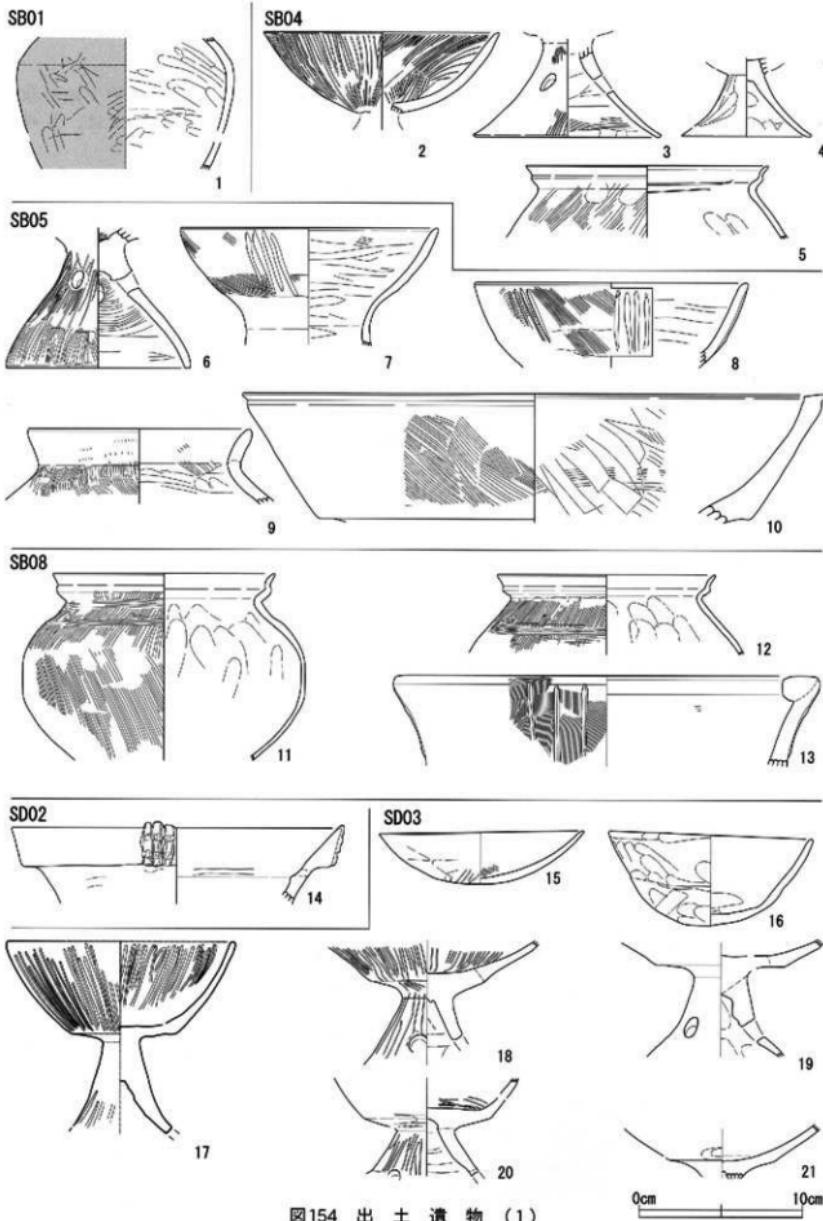


図154 出土 遺 物 (1)

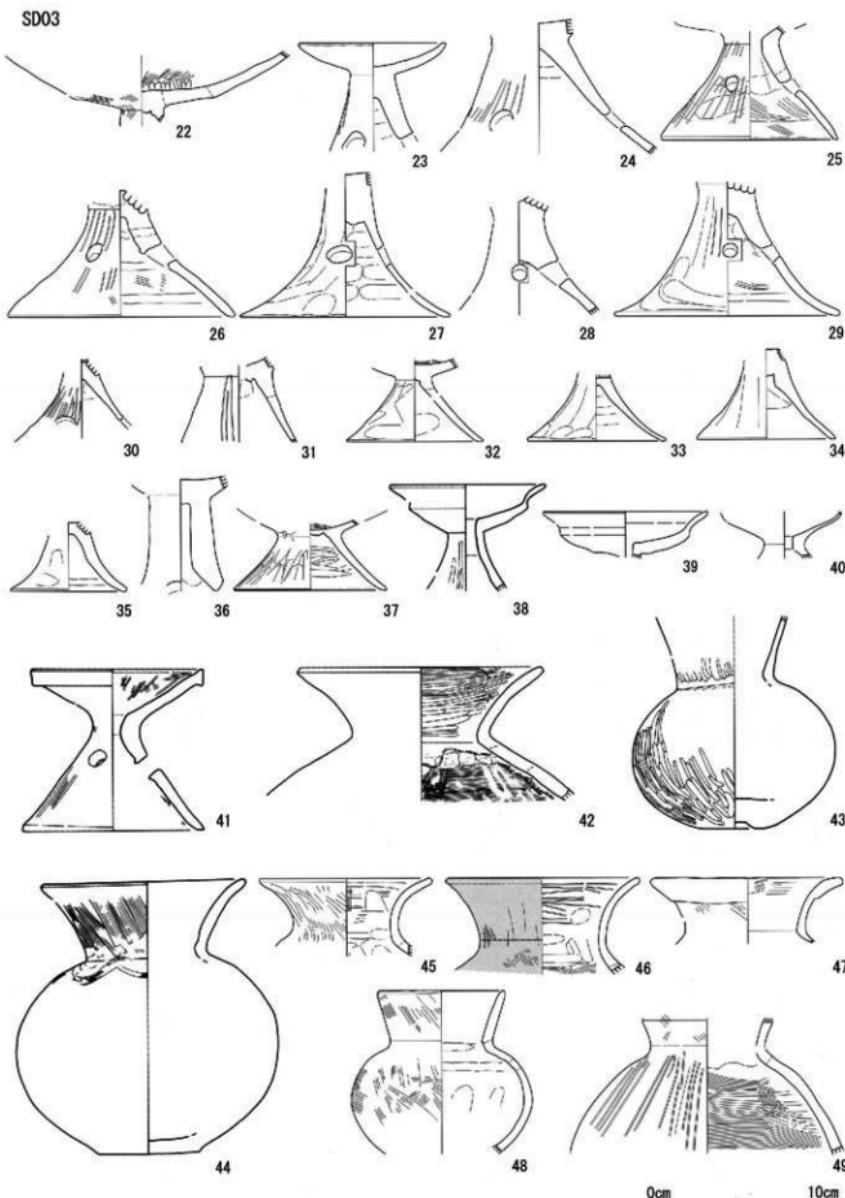
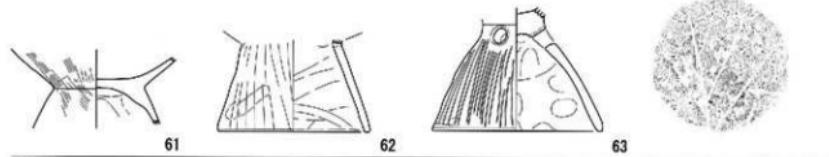
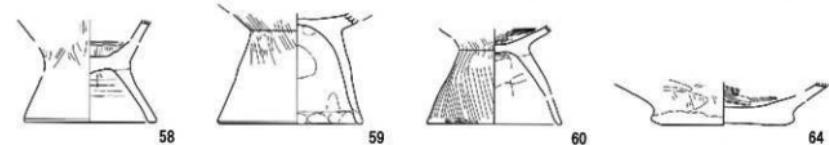
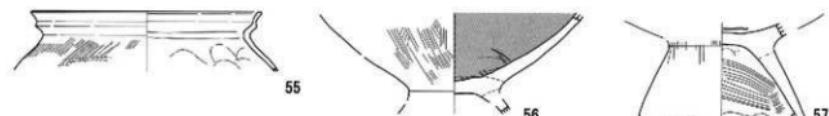
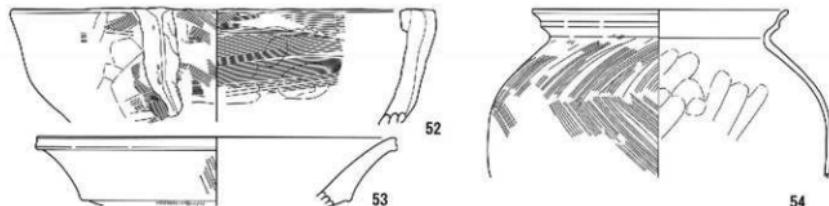
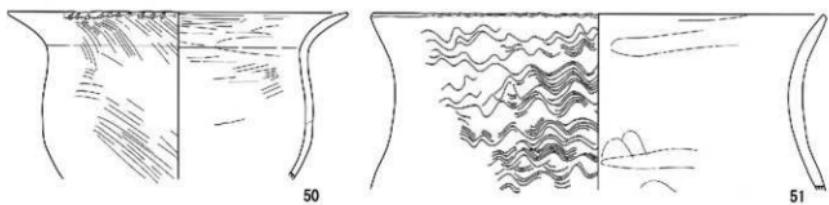


図155 出土遺物 (2)

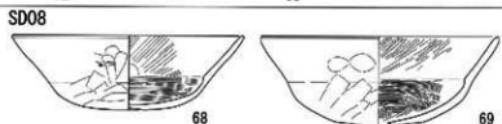
SD03



SD04.5



SD08



SD06



図156 出土 遺物 (3)

SD08

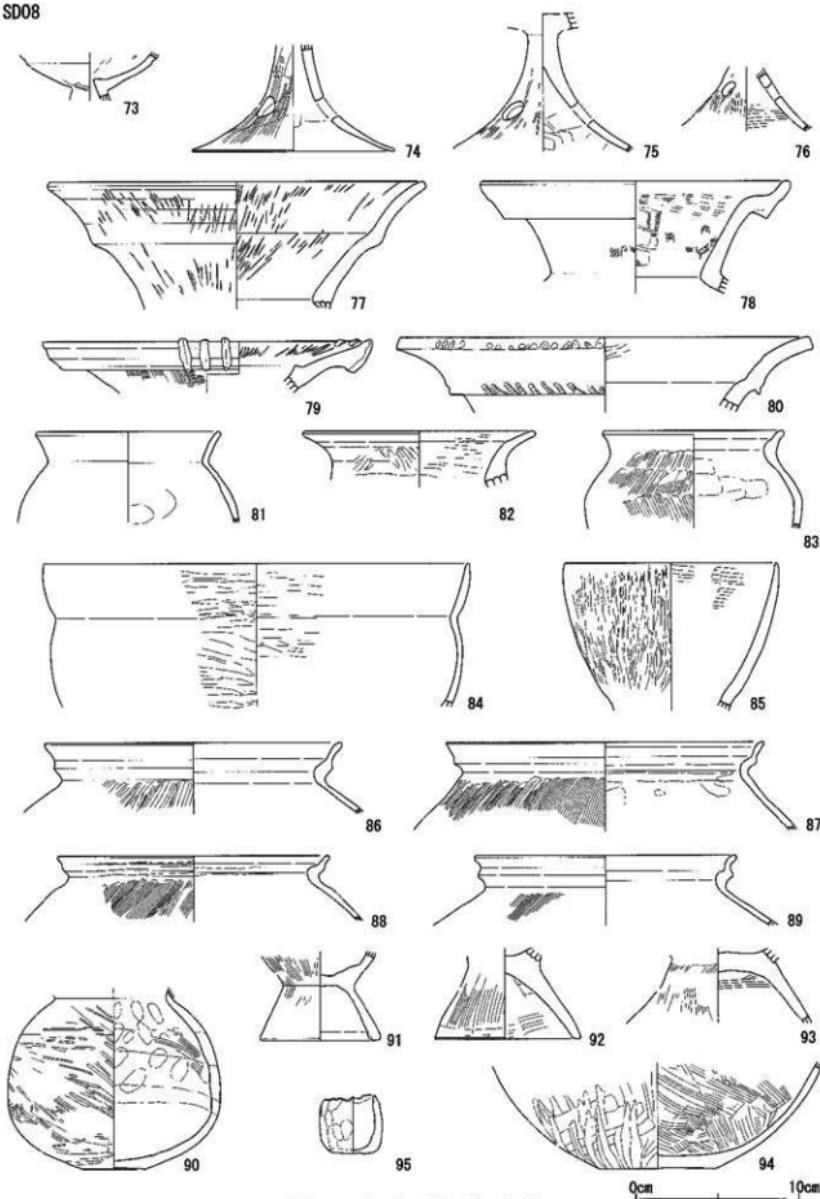


図157 出土遺物 (4)

SD09

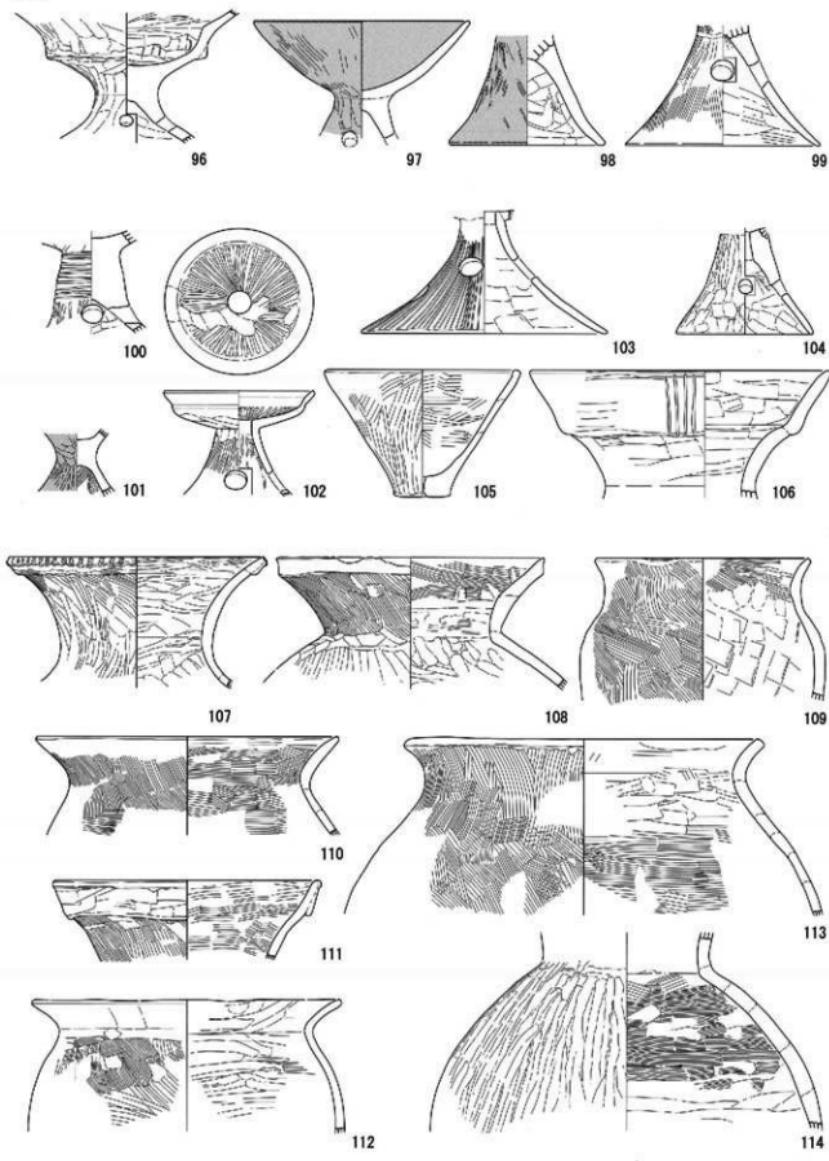
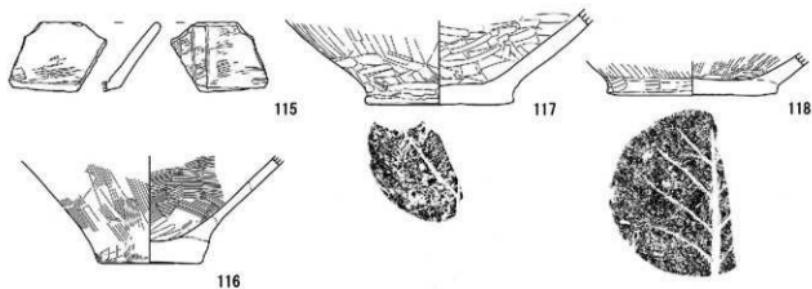
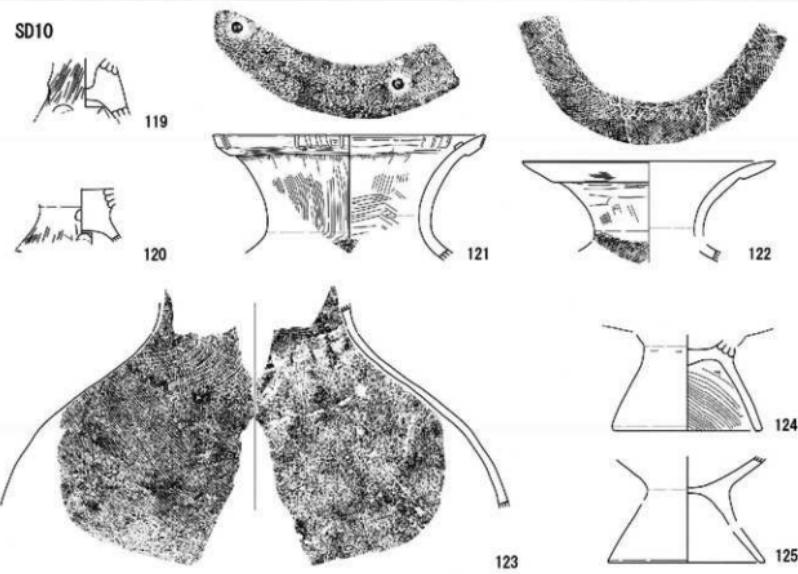


図158 出土遺物 (5)

SD09



SD10



SD11

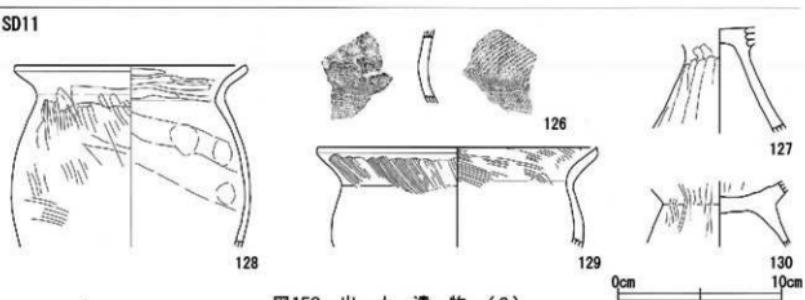
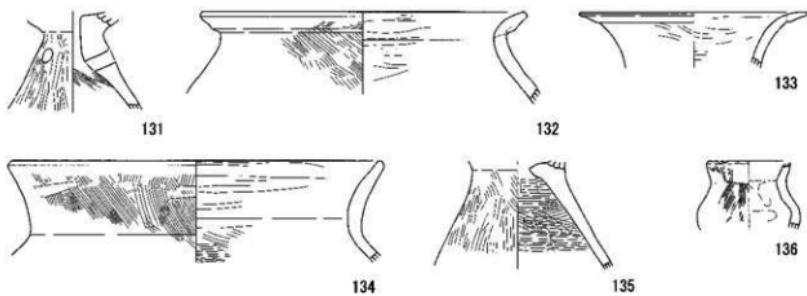
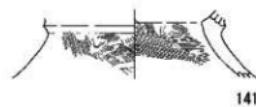
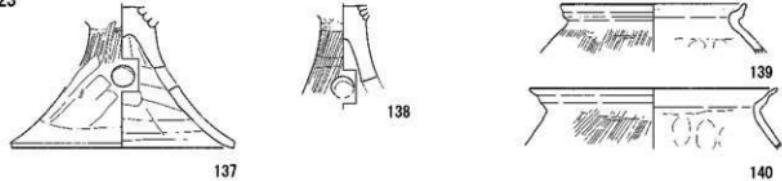


図159 出土遺物 (6)

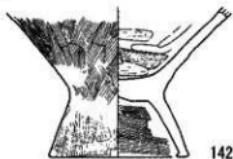
SD14



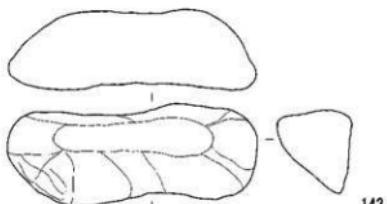
SD23



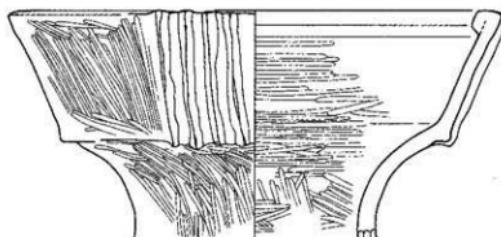
SD24



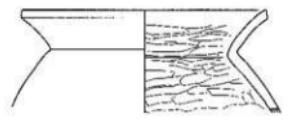
SD25



SK24



SK11



144

145

図160 出土遺物 (7)



一括

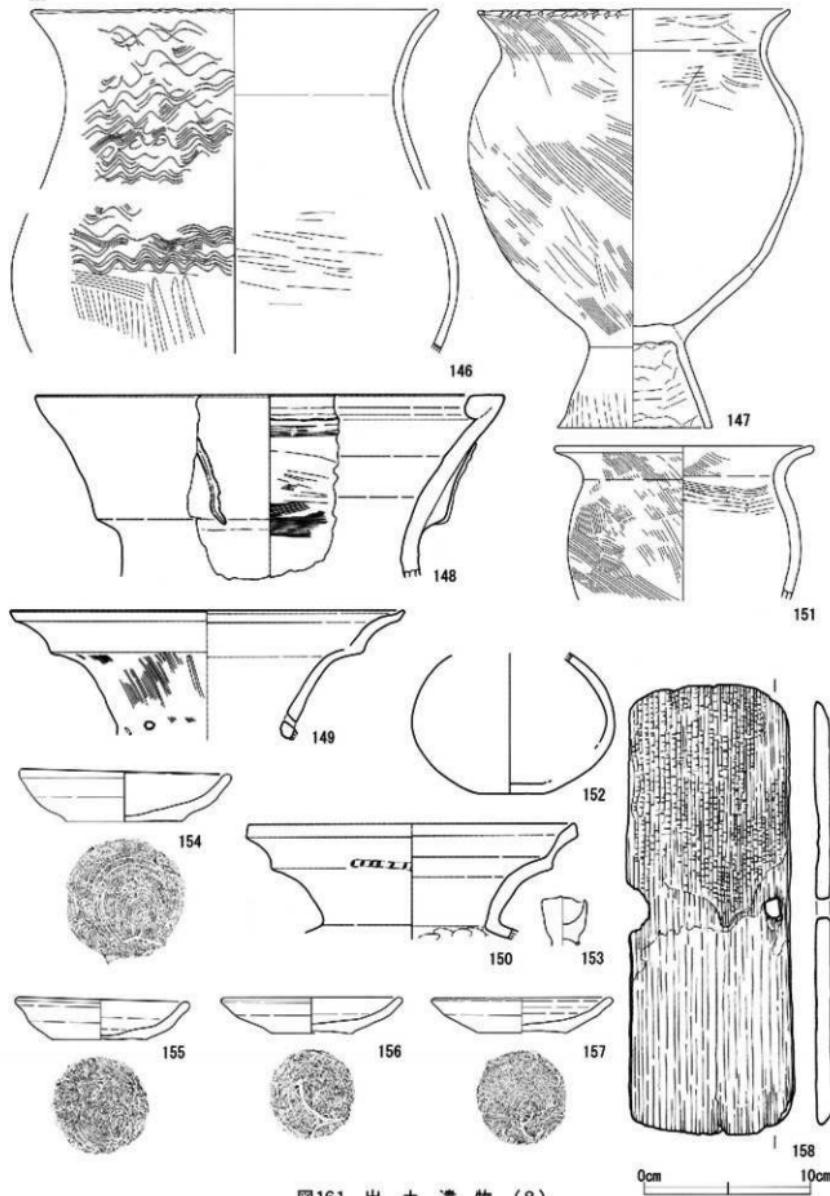


図161 出土遺物 (8)

## 14-26 十丁遺跡

調査位置 青葉町406-3  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 312.53m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年1月9日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

十丁遺跡は古墳時代を中心とする遺跡で、濁川氾濫原に位置する。今回の調査位置は十丁遺跡の南西部分に位置し、標高257mを測る。調査地及び周辺は住宅地で、南に隣接して、平成14年8月に調査が終了した宅地造成地が存在する。

### 調査の結果

個人住宅建設に伴い、試掘調査を実施した。建物部分に2m四方の試掘坑2か所を設定し、人力により掘下げて埋蔵文化財の有無を確認した。試掘坑は北側を第1号試掘坑（TP1）、南側を第2号試掘坑（TP2）とし、TP1を85cm、TP2を125cmまで掘り下げた。

両試掘坑とも-30cmまでは旧建物による搅乱を受けていたが、それ以下は安定した山砂の層であった。埋蔵文化財としては、TP1において-50cmの位置から古墳時代前期の土師器の小破片が4点、TP2においては-70cmの位置から2点が出土したが、いずれも図化には及ばなかった。

住宅の設計がベタ基礎工法で、最深部分が30cmであるため、埋蔵文化財に対する影響は皆無と判断できたので、調査終了後に埋め戻した。

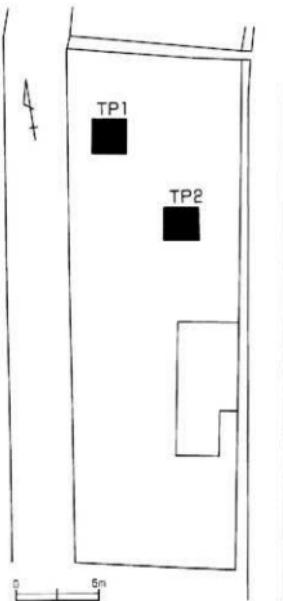
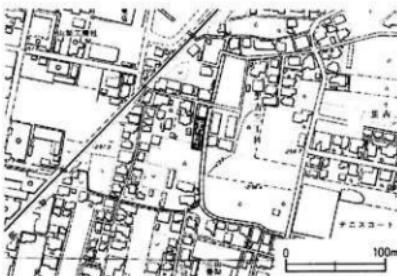


図162 試掘坑配置図

## 14-27 砂間遺跡

調査位置 甲府市高室町155

調査原因 工場建設

対象面積 4579.38m<sup>2</sup>

調査面積 6 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年12月20日

調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は高室町に所在する。高室町は旧甲府市街のうちで最も南西の地区に位置し、標高は約252m、笛吹川支流の鎌田川が北西から南東へと緩やかに湾曲する地点の西侧にあたり、川の東側と比較するとより氾濫の度合いが強かったと想定される地域に位置する。

### 調査の結果

調査は立体駐車場を建設するその基礎部分について行った。基礎の予定位置のうち北端・真中・南端の3箇所の部分について1.2×0.5mの広さで深さを100cm程度掘削して実施した。

調査の結果、全ての調査トレンチで砂の客土が検出された。その堆積は50~80cmであり、それより下層では灰赤色の礫混砂層もしくは青灰色の粘土層が確認できた。土器等の人工的に加工された遺物は全く出土しなかった。この粘土層は自然堆積層と思われ、これ以上の掘削をせず調査を終了した。

### まとめ

旧甲府市街の南部地域は笛吹川や荒川など大規模河川が合流する地域となり、古代までの遺跡の分布も多くはないのだが、中世になると高室氏などが土豪として館を構えた。大里町には「古市場」の地名が残り、かわらけや陶磁器が表面採集できる。中世のいつ頃から南部地域について開拓が行われたのか、今後の調査によって解明されることに期待したい。

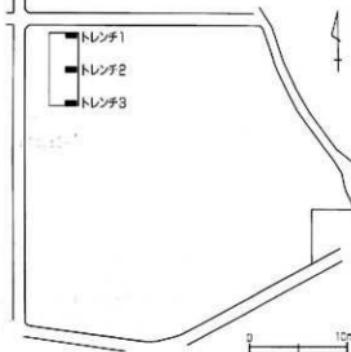
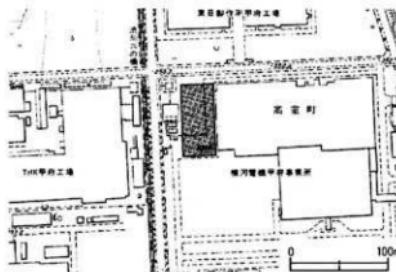


図163 試掘坑配置図

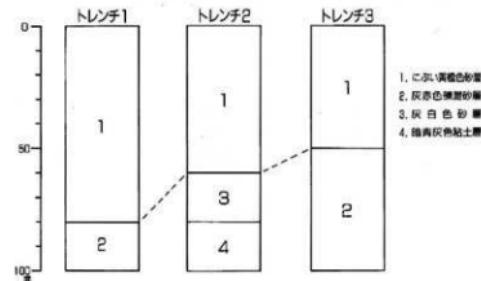


図164 土層柱状図

## 14-28 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3821-1  
調査原因 個人住宅建築  
対象面積 90m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月5日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は標高340m付近に位置し、中世武田城下町を形成する南北5条の街路のうち東から二条目にある鍛冶小路のやや東に位置する。周辺における試掘調査では、「鍛冶小路」を裏付けるような鉱物が溶解して付着した土器の出土もあり、中世には鍛冶職人が集住していたことを想起させる。

### 調査の結果

2×2mの試掘グリッドを設定し調査を実施した。地表から30cmまでは耕作によって擾乱をうけるものの、それより下層には遺物包含層、遺構確認面が残されている状況が確認できた。

検出できたのは、南北方向に伸びる幅約50cmの溝跡1条、中世のものと思われる土器片数点である。

### まとめ

今回の工事で予定されている建築物は、基礎部分の掘り込みが最大で地表から40cm程度であることから、遺構確認面まで達しないことが確認できた。遺構確認面までの間層は約15cmであるが、埋蔵文化財については保護が図れると判断し調査を終了した。

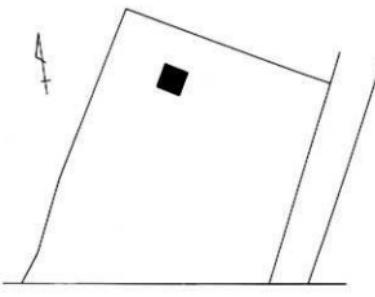


図165 試掘坑配置図

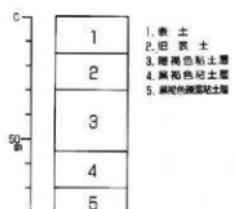


図166 土層柱状図



図167 出土遺物

## 14-29 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3768-2他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 784.35m<sup>2</sup>  
調査面積 54m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月14日～24日  
調査担当 佐々木 満

### 遺跡の概要

本地点は、武田氏館跡の南東部に位置し、「鍛冶小路」と呼ばれる城下町の南北街路に面し、調査対象地南側には金山神社と呼ばれる小社が祀られていることから、中世鍛治町に推定されている。



図168 試掘坑配置図

### 調査の概要

道路に面して東西に細長い地割りであったことから、長さ25m、幅2mのトレンチを東西方向に設定し、調査を実施した。表土から僅か10cm程度で水田層が確認された。水田層は約20cmあり、除去後直下から黒褐色土層が検出されたが、縄文土器や須恵器とともに中世かわらけなどが出土したため、中世の包含層であると考えられた。

黒褐色土層を掘削したところ、20cmほどで地山が検出した。遺構の多くは地山面での確認となったが、柱穴10基、土坑2基が検出されている。調査区中央では石列と集石が確認されたため、その周囲を2m四方のグリッド状に拡張して確認作業を行ったが、遺構の性格は不明である。

主な遺物はかわらけであったが、特筆すべきは、全体の約9割が熔けた金属が付着したかわらけであり、いずれも鍛冶関連で使用されたものと考えられる。中には数点であるが、金粒が付着したものも確認されている。

また、調査区内で部分的に黒色土の堆積が認められた。特に拡張したグリッド部の多くは黒色土であったが、中からは縄文土器が出土していることから、黒色土が堆積した遺構は縄文時代に帰属することが判明した。

調査後の処置については、計画建物の基礎構造をベタ基礎工法に変更し、地下遺構を極力保護することで合意したため、試掘調査で終了とした。

### まとめ

熔けた金属が付着したかわらけが多数出土したことによって、鍛冶小路と呼ばれる本地域における中世鍛冶工房の存在が考古学的に証明されたと言える。かわらけの形態からみても16世紀中葉から後半のものであることは確実であり、武田氏館との位置関係からも武田氏と極めて密接な関係にあった鍛冶職人が本地点一帯に居住していたと考えられる。今後、鍛冶炉跡などの明確な遺構の検出が期待される。

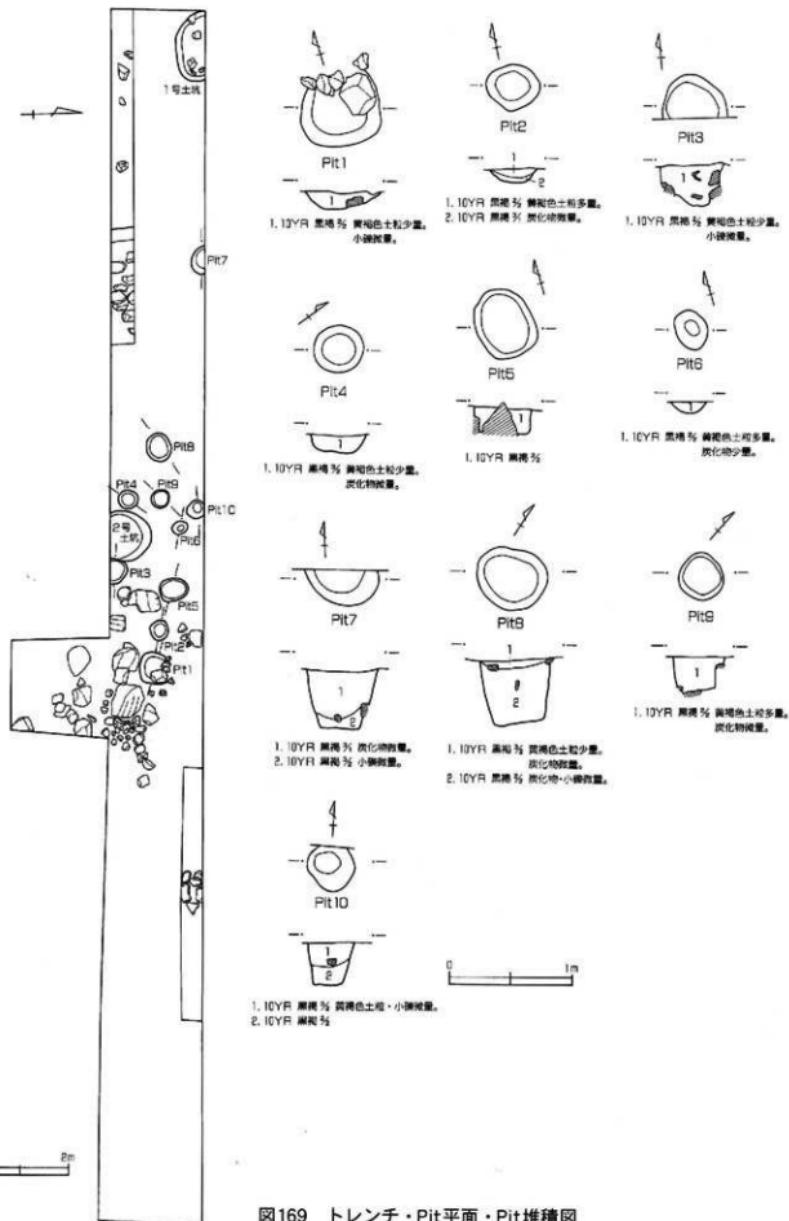


図169 トレンチ・Pit平面・Pit堆積図

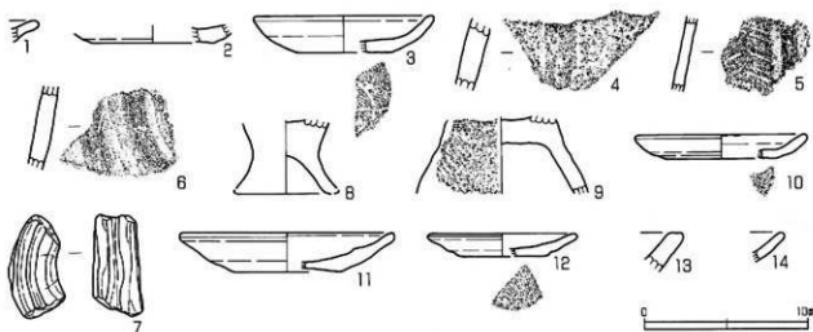


図170 出土遺物



拡張区調査状況

## 14-30 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3648-1他  
調査原因 宅地造成  
対象面積 1179.89m<sup>2</sup>  
調査面積 57m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月10日～18日  
調査担当 平塚洋一

### 調査の概要

調査地点は標高340m付近に位置し、中世武田城下町を形成する南北5条の街路のうち東から二条目の鍛冶小路の西側に面する。宅地造成の区画にあわせ2m幅の試掘トレンチを4条設定し調査を行った。



### 調査の結果

#### トレンチ1

地表から約70cm掘り下げた地層で遺構確認ができた。トレンチの西側を中心に柱穴が24基、溝状遺構が2条確認できた。柱穴は密集しているがそのセット関係の把握を現場で行うことは困難であった。しかし、その覆土から炭化物や焼成粘土塊を多く含むものと、そうでないものの2種類に大別できた。

溝状遺構のうち東西方向に伸びるものを作成した。SD1は当初はもっと上層から掘り込まれたものの、地表に近い部分は後世の搅乱を受けたため、もっとも深く掘り込まれた部分のみが残ったと考えられる。

出土遺物に古銭（慶元通宝もしくは咸淳元宝）、鉄滓、火鉢片、他にかわらけの小片がある。

#### トレンチ2・トレンチ3

遺構・遺物ともに確認できなかった。

#### トレンチ4

2×2mの小規模なトレンチであったが、柱穴が3基、溝状遺構が1条確認できた。遺構が確認できたのは地表から70cmの深さであるが、溝状遺構は断面の観察から、地表から約50cm下層から掘り込まれていた。出土遺物に古銭（判読不能）がある。

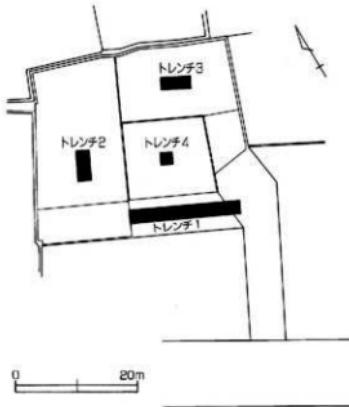


図171 試掘坑配置図

### まとめ

重臣馬場美濃守の屋敷跡とされ、また「鍛冶小路」の遺称のある重要な地点の試掘調査であった。柱穴や溝跡が確認されたものの居住形態や生活様式を検証するまでに至らなかつたことは残念である。埋蔵文化財の保存を図りつつ、現代の生活の利便性も確保し、なおかつ遺跡の特性を把握することは非常に難しいことを実感した調査であった。

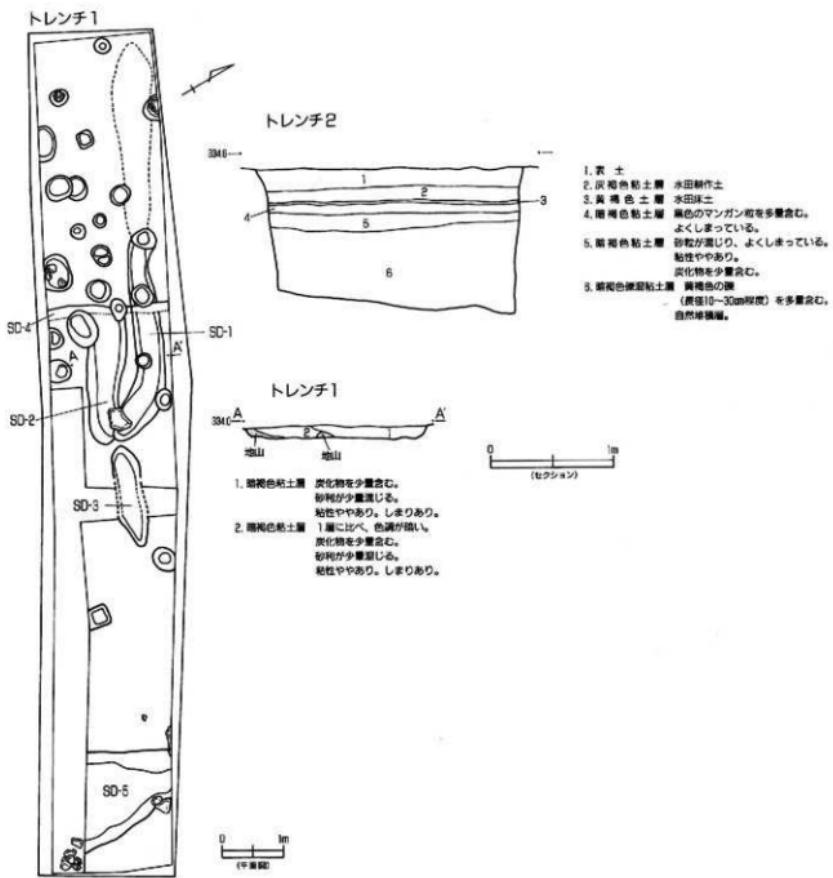


図172 トレンチ1平面図、トレンチ1・2土層堆積図

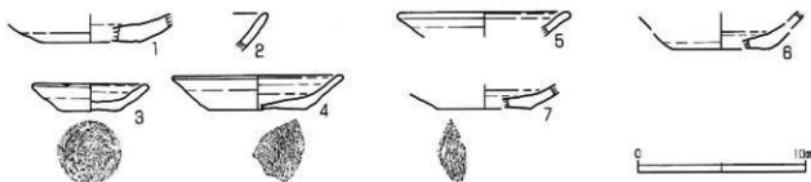


図173 出土遺物

## 14-31 峰本南B遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目2498-4  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 131.75m<sup>2</sup>  
調査面積 8m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月10日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

武田氏館跡梅翁曲輪に南接する一角は、若干農地が存在するが傾斜の強い場所の造成地にあたり、標高340mに位置する。

### 調査の結果

建物計画部分に2m四方の試掘坑を2か所（西側：TP1、東側：TP2）設定し、人力により掘下げて調査を行った。

TP1は、客土の堆積が厚く、南壁面で地表下50cm、北壁面で地表下30cmを測る。その下層は粘性に乏しく締まりの強い明茶褐色土層になり地表下70cmに至る。遺構・遺物等は確認されなかった。

TP2は南東側に2本の排水管が通る。管の下で表面から地表下30cmであるが、全体的に客土の堆積が厚く、南壁面で地表下55cm、北壁面で地表下40cmに至る。北壁中地表下40~60cmの位置には親指大の焼土塊とともに炭化物が確認できたが、客土中からの掘り込みであった。またこの土層から、灰釉陶器の口縁部の小破片及び土師質土器の小破片が1点ずつ確認されている。



## 14-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町11-15

調査原因 個人住宅建設

対象面積 168.56m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年4月4日～5日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は武田城下町遺跡南端の標高約293m地点に位置し、現在は住宅地である。調査区北側には宮前の八幡神社が位置し、神社境内を中心に縄文時代の八幡神社遺跡が存在する。

### 調査の結果

建物位置に2m四方のグリッドを設定し、地表下約0.9m地点まで掘削を行い、土層の堆積状況及び遺構・遺物の確認作業を行った。

地表下0.9mまでの堆積層は2層に分層される。地表下25cmまでは碎石による盛土層である。下層は厚さ65cmの暗褐色粘質土層である。両層はセメント片等が混入する近代の堆積層であり、遺構・遺物とともに確認されなかった。

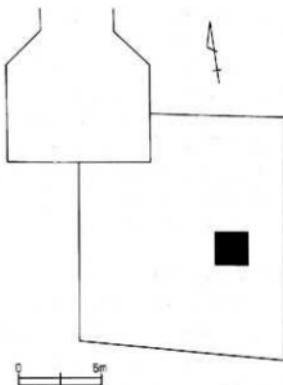


図174 試掘坑配置図



## 14-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2391-1他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 69.14m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月5日～10日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は武田氏館跡南側約450m地点に位置し、周辺は「伊勢の森」と呼ばれ、甲府城下町の建設とともに移転した柳町の「大神宮」の故地である。また南側の通りを挟んだ地域は「天久」の字名が残り、武田信玄の弟「武田信繁」の屋敷跡の伝承地である。

過去に当東側隣接地を調査した際は、地表下60cmの地層から16世紀段階の南北方向の溝と青磁片が検出されている。

### 調査方法及び層序

調査区建物位置に2m四方のグリッドを設定し、人力で掘削を行った。掘削部分が狭隘なため造構の全体像を捉えることは不可能であったが、現在の通りと平行する東西方向の石列と溝の2時期の造構が検出された。

### 検出遺構

第1期は、第2期の溝の上面に位置する東西方向の石列である。長さ30～50cmの自然石を一段一列に並べ南側に面を持つ。裏込め石等は見られない。周辺からかわらけの小片が出土した。

第2期は地山を掘り込んだ東西方向の溝である。北側から45度で落ち込み、溝底部は地表下1.6m地点で確認できた。南側の立ち上がりは未確認である。

### 調査結果

検出された南北方向の石列及び溝は、N-60°-W方向であり、現在の地割り線と同一の軸線を持つ。第2期の溝は16世紀代の遺物が出土していることから、中世段階に比定される。第1期の石列は中世から近世に比定される。

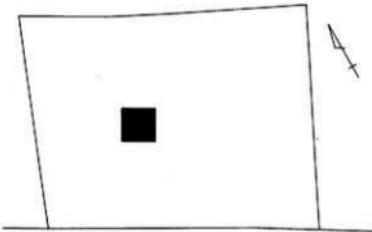


図175 試掘坑配置図

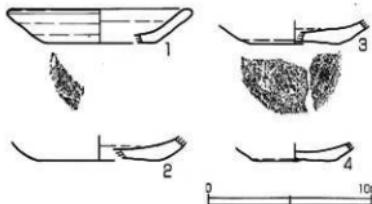
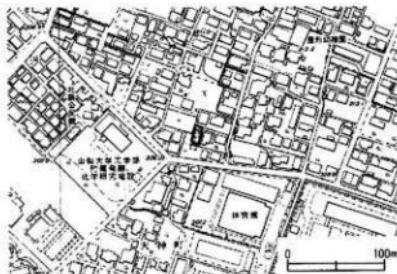


図176 出土 遺物

## 14-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2087-5  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 149.01m<sup>2</sup>  
調査面積 8m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月10日～11日  
調査担当 伊藤正幸



### 調査地の概要

相川扇状地の中央部に位置し、標高310mを測る。調査地点は武田城下町遺跡の西端部にあり、周辺は従来からの住宅地である。

### 調査の結果

集合住宅建設に伴い試掘確認調査を実施した。建物建設予定部分に2m四方の試掘坑2か所を設定し、人力により掘削及び精査を行った。

南側の試掘坑は地表下45cmまで、拳大の礫を多量に含む褐色及び黄褐色の混合土層、さらにその下層20cmが暗黄褐色土層であって、いずれも客土であることを確認した。また北側の試掘坑は、客土・赤褐色土層・茶褐色及び黒色混合土層と続くが、地表下35cmで拳大の礫を多量に含む明黄褐色土層（地山）に至る。いずれの試掘坑にも遺物包含層は確認されず、客土中に土師質土器の小破片が若干混入していたにとどまった。

工事は現地表面から35cmの盛り土を施した後、50cmの深さのベタ基礎工法で実施されるため、埋蔵文化財に対する影響はほとんどないものと判断できたので、記録後埋め戻して調査を終了した。

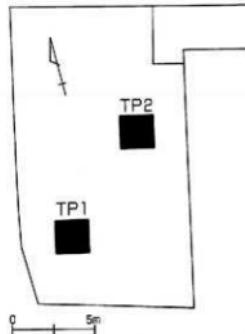


図177 試掘坑配置図



TP-2

## 14-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目111他  
調査原因 事務所建設  
対象面積 834.43m<sup>2</sup>  
調査面積 60m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月24日～5月8日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる中世城下町遺跡であり、城下は、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推定される。近世城下町もこの中世城下を空間的に取り込み形成されており、調査地は江戸時代、甲府城三の堀に接した元絵町に相当する。対象地南側に存在した三の堀は、現在幅1m程の水路となりその痕跡をとどめている。一帯は標高約290mを測る住宅地であり、碎石敷き駐車場として利用されている。

### 調査の概要

対象地に2×30mの試掘坑を南北方向に設定し、土層堆積を確認しつつ重機にて掘り下げたのち、人力により遺構確認を実施した。調査区北側で地表下60cm、南側では地表下80cmに遺構が存在した。

検出遺構は、堀1条・井戸跡1基・暗渠1条・ピット3基・集石2基がある。戦国期まで遡る遺構は確認できず、近世に比定できる遺構は堀のみであり、多くは明治期以降に属するものであった。検出遺構は北側に集中し、8m程の遺構空白地を挟んで、南側に堀が存在する。街路に面し間口を開き、南側奥は庭・菜園などの空間であったと推定される。堀跡は幅8m以上と推定され、石積みなどの護岸施設や柵列などの痕跡も確認できなかった。

### その後の対応

中近世に関する遺構は堀のみであったが、明治期の遺構を良好にとどめていると判断された。調査状況を説明しつつ、遺跡の取扱いについて設計者と協議を行った。盛土工法により地下の遺構等に影響を与えることなく、遺跡の保存を図ることとした。



図178 試掘坑配置図

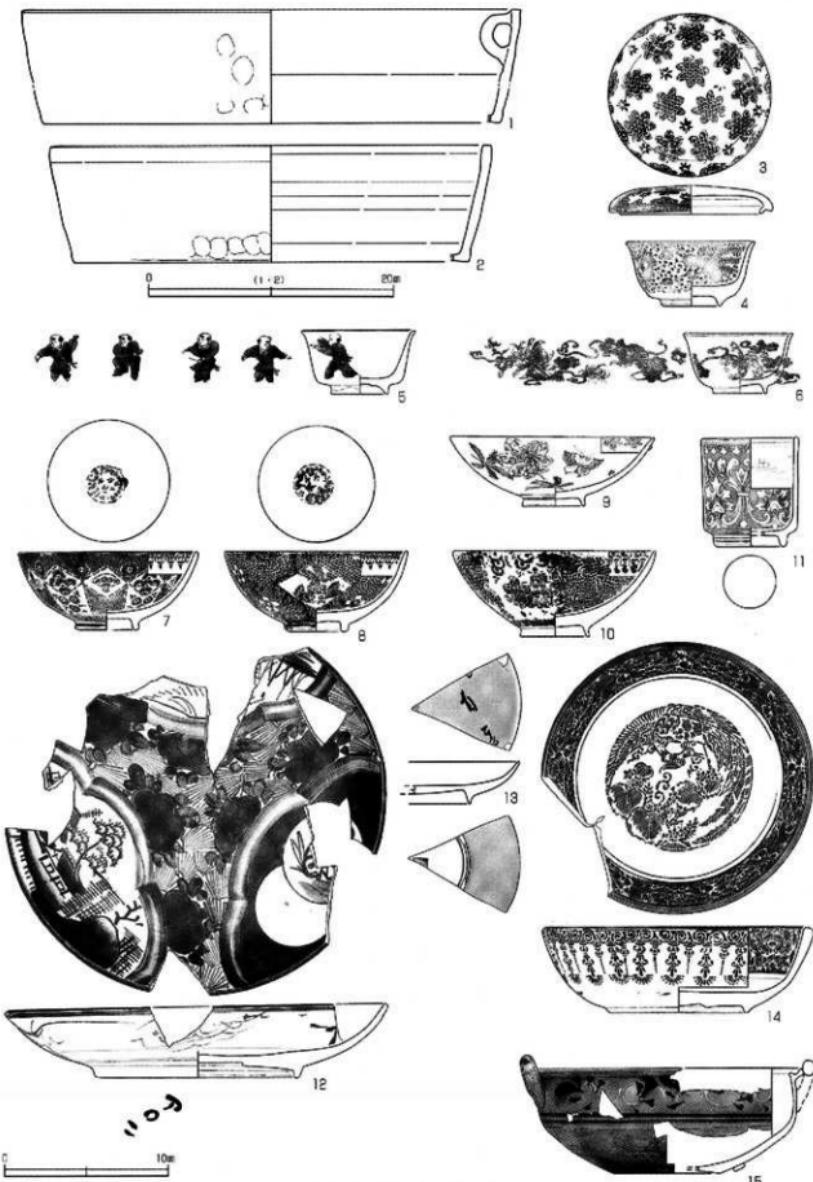


図179 出土遺物

## 14-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目2490-3他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 130.00m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年4月26日  
調査担当 志村憲一



### 調査の概要

調査区は、相川扇状地の相川左岸標高約330m地点、武田城下町遺跡範囲の中央部に位置し、国史跡武田氏館跡梅翁曲輪南側約50mに位置する。『甲府略志』の絵図には「板垣駿河守」、「内藤修理亮」の記載が見られる。過去における周辺の調査地点では、16世紀代の遺構・遺物が検出されている場所もある。

### 調査の方法

調査は建物部分に2m四方の試掘グリッドを2か所設定し、地山層まで深さ約30cm掘削を行った。両グリッドとも3層に分層される。第1層は厚さ20cm前後の耕作土である。暗褐色粘質土である。第2層は暗褐色粘質土である。第3層は黄褐色粘質土の地山層である。いずれの堆積層からも遺構・遺物は確認されてはいない。

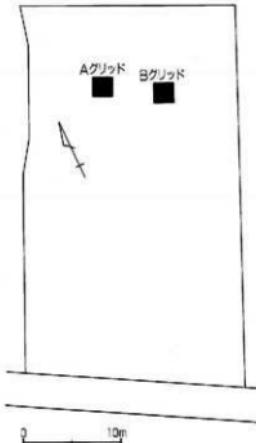
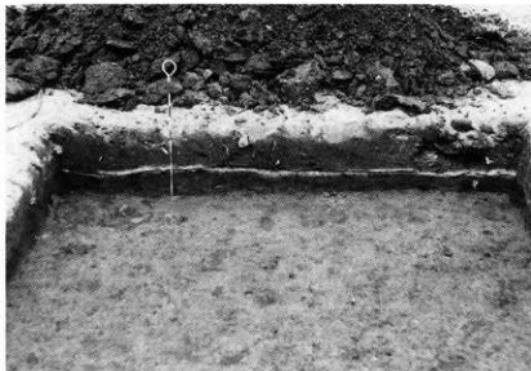


図180 試掘坑配置図



Aグリッド（西壁）

## 14-37 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1789-1他

調査原因 集合住宅建設

対象面積 147.22m<sup>2</sup>

調査面積 22m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年5月22日

調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は、相川扇状地の相川左岸標高約326m地点、武田城下町遺跡範囲の西辺部に位置する。調査区西側の通りは16世紀代から存在したものと考えられる。

### 調査の方法

調査は建物中央部に東西11m、幅2mのトレンチを1本設定し、重機で深さ60cmの掘削を行ったが、遺構・遺物とともに確認されなかった。なお堆積層は3層に分層され、地表下40cmまでは擾乱層である。第2層は厚さ約15cmの褐色粘質土層。第3層は暗褐色粘質土層であり、厚さは5cmである。

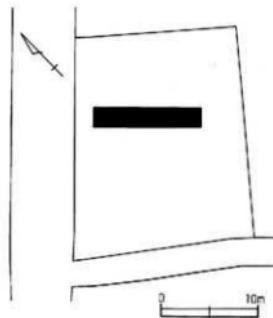


図181 試掘坑配置図



調査状況

## 14-38 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目4080-3  
調査原因 個人住宅増築  
対象面積 16.56m<sup>2</sup>  
調査面積 3.5m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月5日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は相川扇状地の扇央部標高約319mであり、武田城下町遺跡の鍛冶小路の東側約100m地点に位置する。調査地点は道路面より約30~40cm高い庭部分である。調査区は庭石・樹木があるため狭隘な範囲の掘削となった。

### 調査の結果

基礎床面まで約50cm掘削を行ったが、搅乱及び盛土層であり、遺構・遺物が確認されなかったため調査を終了した。

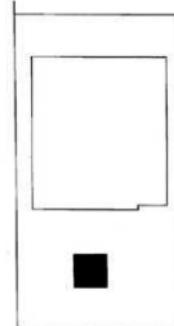


図182 試掘坑配置図

調査状況

## 14-39 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1579-5  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 122.66m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月7日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下は、武田氏居館の南方、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は、標高約330mの住宅地である。

### 調査の結果

地表下約60cmまで掘削を行ったが、表土・碎石層以下は礫が混じる茶褐色土が堆積するのみで、土層堆積に変化はなかった。遺構・遺物は確認できることから、遺構面はすでに削平されているものと判断した。

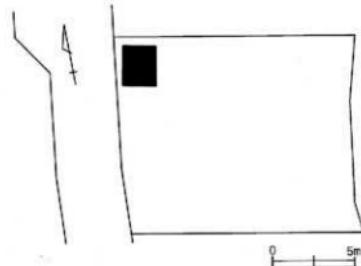
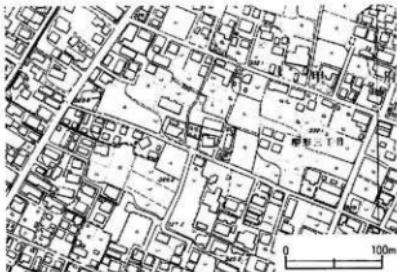


図183 試掘坑配置図



調査状況

## 14-40 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1572-3  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 125.01m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月7日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下は、武田氏居館の南方、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は、標高約330mを測る住宅地である。

### 調査の結果

地表下約90cmまで掘削を行ったが、コンクリート片・ビニール管などが混じり、分譲に際し運び込まれた土層が堆積するのみであった。造構・遺物は確認できず、これ以下に旧表土が存在すると判断された。

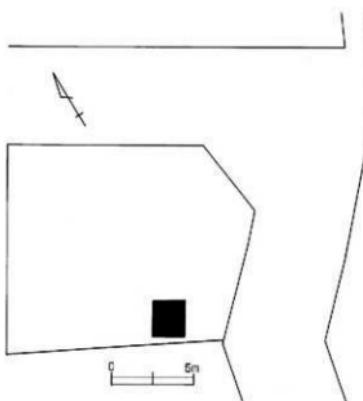


図184 試掘坑配置図



調査状況

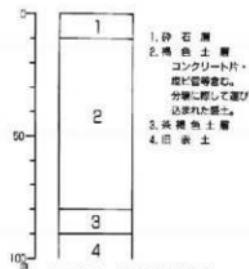


図185 土層柱状図

## 14-41 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町1346-13

調査原因 個人住宅建設

対象面積 100.00m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年7月15日

調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下は、武田氏居館の南方、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は居館西側、標高約350mを測る住宅地である。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を設定し、人力にて掘削を行った。地表下10cmまでは表土、その下層に旧耕作土（厚さ15cm）が確認され、それ以下に礫混じりの黄褐色土（地山層）が堆積していた。遺構・遺物は確認できず、工事が遺跡に与える影響はないものと判断した。



完堀状況

## 14-42 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2299-3

調査原因 店舗併用住宅建設

対象面積 139.75m<sup>2</sup>

調査面積 2.25m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年7月15日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

甲府城下町遺跡の中央部、標高320mに位置する。武田氏館跡の南方約550mにあたる住宅地である。

### 調査の結果

増築部分に1.5m四方の試掘坑1か所を設定し、人力により掘下げて埋蔵文化財を確認した。

地表下20cmで表土を除去すると、造成に伴う拳大から人頭大の礫を多量に含む暗黄褐色粘土層に至り、黄褐色の地山まで続いていた。ここまで地表から45cmである。埋蔵文化財は確認できず建物による影響は考えにくいので、埋め戻して調査を終了した。

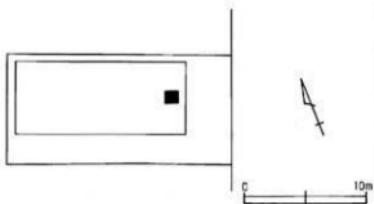


図186 試掘坑配置図

## 14-43 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3814-2他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 104.75m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年8月26日～27日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開削の城下町遺跡である。城下は、武田氏居館の南方、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は、標高約330mを測る住宅地である。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を2か所設定し、重機・人力にて掘削を行った。すでに分譲された区画で、地表下約50cmまで掘削を行ったが、コンクリート片・礫が多量に混じり、分譲に際し運び込まれた土層が堆積するのみであった。遺構・遺物は確認できず、工事が遺跡に与える影響はないものと判断した。

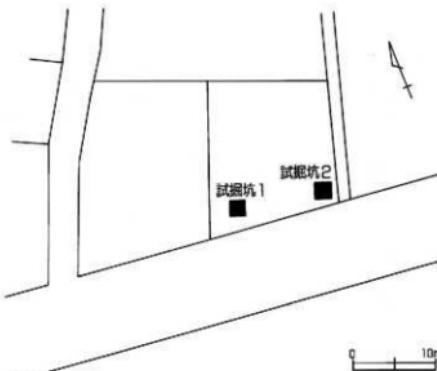


図187 試掘坑配置図



試掘坑2

## 14-44 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1719-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 113.72m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年9月2日  
調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下は、武田氏居館の南方、現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は、標高約330mを測る住宅地である。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を2か所設定し、土層堆積を確認しつつ、人力にて掘削を行った。地表下約10cmまでは小礫を多量に含んだ盛土があり、以下2層茶褐色土(厚20cm)、3層疊混じりの褐色土(厚20cm)が堆積する。その下層、黄褐色土が地山となる。2~3層にかけてかわらけ片が数点出土するのみであった。



試掘坑2

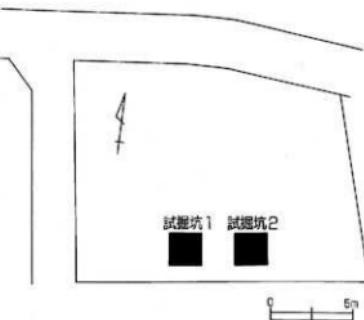
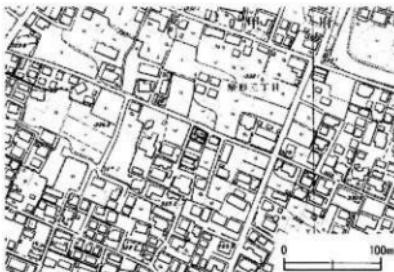


図188 試掘坑配置図

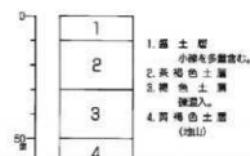


図189 土層柱状図

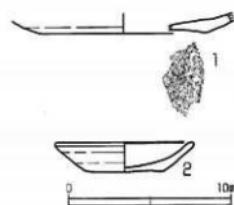


図190 出土遺物

## 14-45 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1747-32他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 143.91m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年10月31日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

相川扇状地の中央部に位置し、標高327mを測る。周辺は若干農地が存在している住宅地で、宅地造成や集合住宅の建設が近年増加している。今回の調査地も造成された住宅地で、敷地西側の水田との比高差で52cmを測る。

### 調査の結果

個人住宅建設に伴い、対象地に2m四方の試掘坑2基を設定し、人力により掘下げて埋蔵文化財の確認をした。両試掘坑とも地表下20cmまでは客土で、その下に造成に伴う盛土が30cm認められた。さらに茶褐色土が20cmほど堆積しているが、この面が旧表土と考えられる。この茶褐色土層を除去すると、人頭大前後の礫を含む黄褐色の自然堆積層となる。

埋蔵文化財は遺構・遺物とも確認できず、埋め戻して調査を終了した。

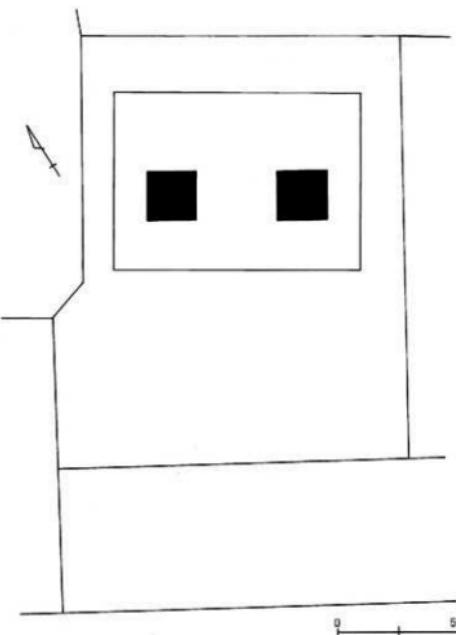


図191 試掘坑配置図

## 14-46 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田四丁目18-2  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 109.39m<sup>2</sup>  
調査面積 2.25m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年10月17日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、武田城下町遺跡西側に位置し、北西側100m先には平成13年度に実施した天神町地内の調査地点がある。個人住宅の建替えに伴う調査であるため、1.5×1.5mのグリッドを1か所設定し、確認作業を実施した。

既存建物解体時後の整地層除去後すぐに地山が確認された。地表からの深さは35cmほどで、包含層は残されていなかった。地山面で遺構確認を行ったところ、南北方向の溝跡2条と東西方向の溝跡1条、柱穴1基を検出した。部分的な確認であったが、南北軸の溝跡は城下町内に設定されていた南北5本の基軸街路と並行しており、中世段階の道路側溝であった可能性も考えられる。

計画された建物基礎深度では遺跡が確認された地山に接する可能性が高いと判断されたため、建築業者側と協議し、基礎構造をベタ基礎工法に変更していただき、遺跡は保存することとなった。

### ま と め

小規模な確認でありながら、中世街路に面する場所からの溝跡の発見は、道路側溝の可能性も想定されることから今後同地域を調査する場合には注意しなければならない。

また、武田城下町遺跡の大部分は、扇状地地形のために現地表から遺跡までの深さが浅いこともあり、遺跡が発見された場合その処置が問題となる。本件については保護する方向で対応できたが、緊急を要する個人住宅などの調査は今後も増加するものと考えられる。

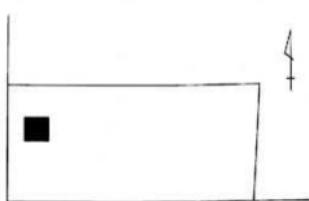


図192 試掘坑配置図



調査状況

## 14-47 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町3284-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 71.25m<sup>2</sup>  
調査面積 8m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年10月18日  
調査担当 望月秀和

### 調査の概要

調査地点は武田氏館跡の北東約100m、農業用溜池である竜ヶ池の北岸から約30mに位置する。周辺の調査では武田氏館跡第39次調査において瓦質の鍋が出土している。

貞享3年（1686）『古府中村日影組村絵図』（武田神社所蔵）、江戸時代の絵図を基に明治以降に作成したと思われる『甲府略志』所収の「古府之図」には、それぞれ民家と思われる建物が描かれている。

調査にあたっては、大正6年の竜ヶ池造成による影響を受けた可能性も考えられた。

### 調査の結果

調査は浄化槽の設置予定地に2×4mのトレンチを設定し行った。

地表から130cmまで既存の建物の基礎掘削により搅乱を受けていた。それより下層の180cmまでが盛土施されている状況であった。地表から186cm下層で水田床土層を確認した。

遺構及び出土遺物は確認できなかった。（平塚洋一）



調査状況

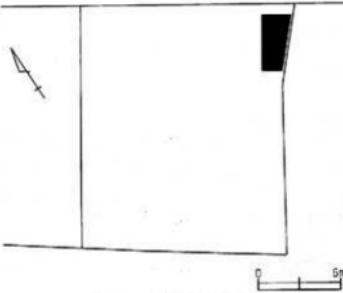
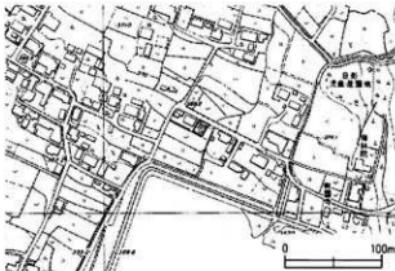


図193 試掘坑配置図

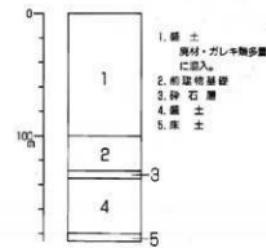


図194 土層柱状図

## 14-48 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3876-6  
 調査原因 個人住宅建設  
 対象面積 93.69m<sup>2</sup>  
 調査面積 8m<sup>2</sup>  
 調査期間 平成14年10月22日～23日  
 調査担当 幸塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は武田城下町遺跡として括られた範囲の中でも西側に位置する。調査区のすぐ東には、江戸時代の中頃に柳沢吉保の菩提寺として建立された永慶寺（現護国神社）がある。調査は建設会社の設定した2m四方の調査グリッドを2か所（東・西グリッドとした）掘削して行った。

### 調査の結果

西グリッドでは地表から約55cmで自然堆積と思われる黒色粘土に達した。礎石を伴う柱穴1基がこの土層で確認できた。出土遺物を伴わなかったため、時代は不明である。

東グリッドでは遺構は検出できなかったが、溶融物が付着したかわらけ片が出土した。

### まとめ

調査区は「鍛冶小路」に面し、周辺の調査事例においても今回と同様の溶融物が付着した土器が出土し、中世には鍛冶職人の「町」が形成されていたことが想定できる。

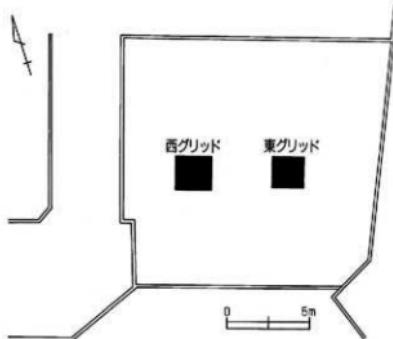


図195 試掘坑配置図

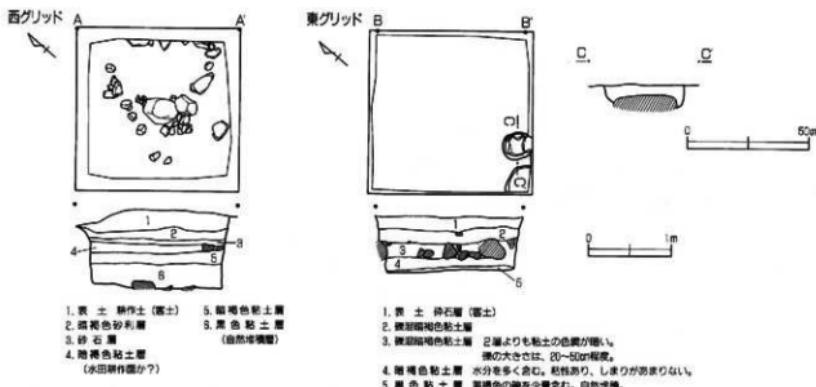


図196 平面・土層堆積図

## 14-49 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目415

調査原因 個人住宅建設

対象面積 158.13m<sup>2</sup>

調査面積 6 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年10月31日～11月5日

調査担当 志村憲一

### 調査区の概要

調査区は、相川扇状地の扇尖部標高約299m地点に位置する。16世紀段階からの通りである鍛治小路に隣接する。調査区西側隣接地の調査結果によると、地表下約60cmの地層から16世紀段階の遺構・遺物が検出されている。

### 調査の状況

調査は敷地中央部に、東西2m、南北3mのグリッドを設定し、地表下120cmまで掘削を行った。

その結果、溝と考えられる落ち込みが検出でき、

堆積土については4層に分層できた。

検出された落ち込みは、グリッドの南側で確認された。現状の東西方向の地割線と平行し、幅40cm、長さ2m、確認面からの深さは約30cmである。落ち込み内からは、中世段階のかわらけ、白磁、染付磁器が出土している。

調査区が狭隘なため現段階において遺構の性格について明言はできないが、中世段階の溝跡と考えられる。



図197 試掘坑配置図



図198 土層柱状図



調査状況（南壁）

## 14-50 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1747-31他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 143.91m<sup>2</sup>  
調査面積 6 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年11月1日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

調査区は相川扇状地の扇央部標高約326mであり、史跡武田氏館跡の梅翁曲輪南西側約200m地点に位置する。過去に隣接する東側の調査を行った際には、地表下約60cmで地山層となるが、遺構・遺物とともに確認されなかった。

### 調査の結果

建物部分に東西3m、幅2mのグリッドを設定し人力で掘削を行ったが、遺構・遺物は検出されてはいない。

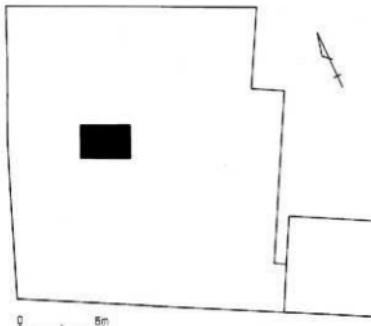


図199 試掘坑配置図



トレンチ

## 14-51 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町1438-3他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 118.02m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年11月14日～15日  
調査担当 志村憲一

### 調査の概要

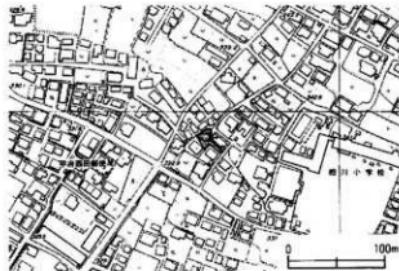
調査区は相川扇状地の扇央部標高約337mであり、史跡武田氏館跡の西側約200m地点に位置する。調査区西側の道路は、16世紀代からの通りである「御厩小路」といわれている。

また、「お塚さん古墳」という古墳が付近に存在していたとされるが、現在は畑と住宅が立ち並び痕跡は見られない。

過去に隣接する東側の調査を行った際には、地表下約60cmで地山層となるが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

### 調査の結果

建物部分に2か所グリッドを設定し、人力で掘削を行った。地表下5～10cmと極めて浅い部分で黄褐色粘質土の地山層が確認された。上面は搅乱を受けており、古墳の周溝などの遺構・遺物は確認されなかった。



Aグリッド（北壁）

## 14-52 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目405  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 65.00m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年11月28日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は甲府市宮前町に所在する八幡神社の西側に位置し、近代まで元城屋町と呼ばれていた地域に該当する。

### 調査の結果

2×2 mの試掘グリッドを設定し調査を実施した。地表から30cmまでは以前の建物の基礎により搅乱を受けていたが、搅乱より下層には黒褐色のマンガニ層が薄く堆積し、相川扇状地に特有の褐色と黒褐色のまだらの粘土が堆積することを確認した。遺構・遺物は確認できなかった。

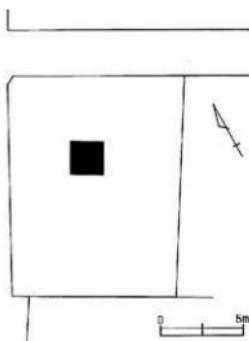


図200 試掘坑配置図



調査状況（西壁）

## 14-53 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形3丁目2480-7

調査原因 個人住宅建設

対象面積 53.82m<sup>2</sup>

調査面積 6.75m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年1月16日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

武田氏館跡梅翁曲輪の南100m、標高330mに位置する。周辺は住宅地で、これまでにも住宅建設あるいは改築等に伴い、数箇所で試掘確認調査が実施されているが、調査の面積的な制約から、城下町に関連する遺構は確認されていない。

### 調査の結果

調査は個人住宅建設に伴い、1.5m四方の試掘坑を3か所設定し、人力により掘削及び精査を行った。

北東部のTP1は、表土を除去すると溜め樹が試掘坑内の1/4を占めたため、調査を中止した。

南西部のTP2及び南東部のTP3は、客土を除去すると旧水田の床土（赤褐色土層）が5cmほど確認でき、その下層には、部分的に搅乱を受けた黒色土ブロックを多量に含む黄褐色土となる。さらに拳大の礫を多量に含む茶褐色土層・人頭大の礫及び黄色粗粒砂を含む茶褐色土層へと続く。この面まで地表から75~80cmを測る。遺物・遺構をはじめとした埋蔵文化財は確認できなかつた。

建設される住宅はベタ基礎工法によるもので、基礎の掘り込みも最深部で地表下45cmなので、試掘範囲以下に埋蔵文化財が存在していたとしてもこの工事による影響はないものと判断し、調査を終了した。

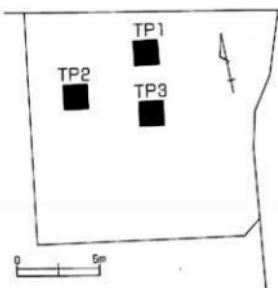
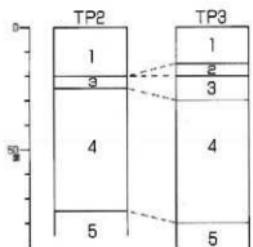


図201 試掘坑配置図



1. 合土  
2. 赤褐色土層  
3. 黄褐色土層  
4. 茶褐色土層  
5. 米褐色土層
- 手人の骨混入。  
人頭大の礫及び粗粒砂混入。

図202 土層柱状図

## 14-54 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町190

調査原因 個人住宅建設

対象面積 130.30m<sup>2</sup>

調査面積 8 m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年2月12日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

相川により開析された扇状地上、標高300mに位置する。今回の調査地は武田城下町遺跡の西端部にあたり、雑段上状に造成された住宅地にある。

### 調査の結果

個人住宅改築に伴い、建物部分に2m四方の試掘坑2か所を設定し、重機による荒掘りの後、人力によって壁面及び底面を調整した。

旧建物の解体に伴う搅乱が、TP1で地表から20cm、TP2では15cmまで確認できたが、それより下層は両試掘坑とも黒色の粘土層が堆積していた。この黒色粘土層は掘り下げるにしたがって黄褐色の粘土の混入が増え、TP1では地表から70cmで、TP2では60cmで黄褐色の地山に達する。両試掘坑とも遺構・遺物は確認されなかった。

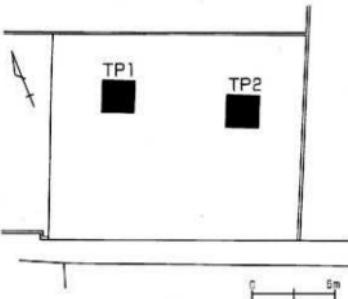
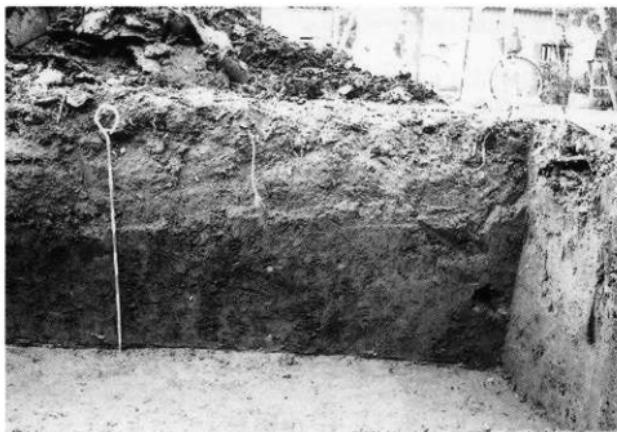


図203 試掘坑配置図



TP-2 (東壁)

## 14-55 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目270  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 49.68m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年2月21日  
調査担当 伊藤正幸

### 遺跡の概要

武田城下町遺跡の南端部に近い標高290mに位置する。調査地西側は旧天尊林寺の寺域で、土壘の痕跡が確認できる。今回の調査は個人住宅改築に伴う確認調査である。

### 調査の概要

対象地に2m四方の試掘坑2か所を設定して人力により掘り下げて実施した。

両試掘坑とも地表から20cmまで旧建物の解体に伴う搅乱を受けており、この搅乱を除去すると明褐色土層になる。さらに下層は小礫が若干混入する暗黄褐色土層となり、この層を地表から75cmまで掘り下げた。遺構・遺物等は確認されなかった。

建物の基礎は地表から30cmまでの掘削予定で埋蔵文化財に対する影響はほとんどないと判断し、埋め戻して調査を終了した。

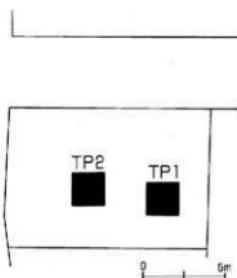


図204 試掘坑配置図



TP-1 (東壁)

## 14-56 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町3140他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 117.12m<sup>2</sup>  
調査面積 4 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年3月20日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は史跡武田氏館跡北側に位置し、木造住宅からの建て替えであったため、地下の保存状況は良好であると予想された。調査は2m四方のグリッドを設定し、人力で掘削した。

建物解体後の整地層を20cmほど掘削したところですぐに地山に達したため、地山面で確認作業を実施した。グリッド南側で溝跡が確認され、掘削したところ石列の一部も残されていた。覆土状況からみると、水路は常時水が流れているものではなく、雨水などを排水するものであったと考えられる。溝跡の年代は、出土遺物からは江戸中期以降と考えられるため、取り壊された建物以前に存在した古い建物に伴うものとある可能性が高い。したがって、溝跡の用途としては、屋敷境の区画溝というよりは建物外周の雨落ち溝であると考えられる。

遺構は江戸期の溝跡のみであり、予定された住宅基礎はベタ基礎であることから、大部分は保護されると判断し、調査はこの段階で終了とした。

### まとめ

残念ながら、中世の遺構は検出されなかったものの、調査した範囲からは、ほかに16世紀の大庶段階の灰釉皿やかわらけが出土したことから、この付近まで中世城下町に関連する遺跡が展開していたことは確実と考えられる。

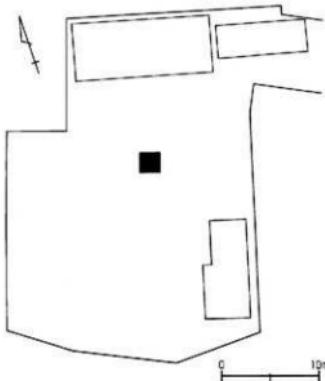


図205 試掘坑配置図



図206 出土遺物



溝（石列）

## 14-57 塚腰遺跡

調査位置 甲府市国玉町896-1  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 600m<sup>2</sup>  
調査面積 40m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年2月3日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

甲府市の南東部、標高256mを測る濁川氾濫原上に位置する弥生～古墳時代に至る遺跡として周知されている。周辺にも該期の遺跡が2か所（熊社遺跡・深田遺跡）存在している。

塚腰遺跡の範囲は対象地の北半分程度なのだが、遺跡の範囲確認も含めて、従来の遺跡の範囲外に建築予定となる建物についても調査を実施した。

### 調査の結果

集合住宅建設に先立ち、2×10mの2本のトレンチを設定し、重機により表土を除去した後人力で精査して、調査を実施した。

両試掘坑とも掘削を開始した直後から瓦礫が大量に埋められていることが判明し、搅乱の深さは150cm以上に達していた。さらに瓦礫の撤去過程で、地表から120cm以上掘削すると溜まり水に阻まれた。また、敷地の西側では同様に150cm以上の瓦礫の堆積が確認できた。

調査対象地はこれまでの経過の中で、産業廃棄物の捨て場にされていた時期があり、地中深くまで埋められているという話を裏付ける結果となった。

以上のような状況から、遺物包含層及び遺構面は既に破壊されていると判断できたので、記録後埋め戻して調査を終了した。

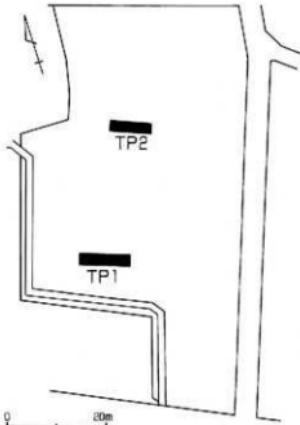
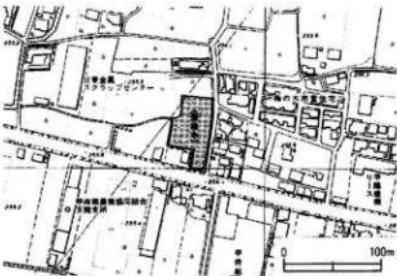


図207 試掘坑配置図

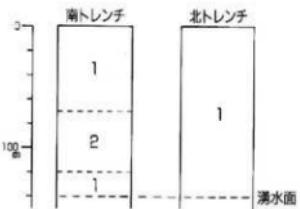


図208 土層柱状図

## 14-58 天神北遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3405-1他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 909.78m<sup>2</sup>  
調査面積 54m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年5月24日～28日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、敷地北東側の一部が天神北遺跡の範囲内であったが、敷地も広く、建設予定の集合住宅のほか受水槽が設置される計画であったため、調査区は建物側にL字状にトレンチ1を設定し、受水槽部にトレンチ2を設定し調査を実施した。

トレンチ1は、地表から40～50cm碎石が敷設され、碎石層除去後に旧水田層が確認された。水田層は約15cmの厚さで形成され、直下から古墳時代から平安時代の遺物を含む黒褐色砂質土層が4層確認された。黒褐色土層上で確認作業を行ったが、明確な遺構は検出されなかつた。部分的に深さ約150cmまで掘り下げ、地表下約130cmで黄褐色の地山層を確認した。

トレンチ2からは、トレンチ1で確認された砂質の黒褐色土層中位から礫を含む溝状の遺構を確認した。溝状遺構は西側のみ立ち上がりを確認できたが、推定で4～5mの規模になるものと推定される。溝跡の土層堆積状況からは、水が流れた痕跡は見当たらなかつたことから、狭い範囲で完結する遺構と考えられ、緩い曲線を考慮すると古墳の周溝となる可能性もあると考えられる。

建物予定地となるトレンチ1では、包含層まで基礎の掘削が及ばないことから本調査の必要性はないと判断した。トレンチ2は遺構が破壊される可能性のある部分が、小規模な範囲であったため、試掘調査で対応した。

### ま と め

トレンチ2で検出された溝跡からは、部分的な確認であったものの、須恵器をはじめとする遺物も出土しており、時代的に古墳であれば円墳となる可能性がある。今後隣接地等も含め、取り扱いに注意が必要である。

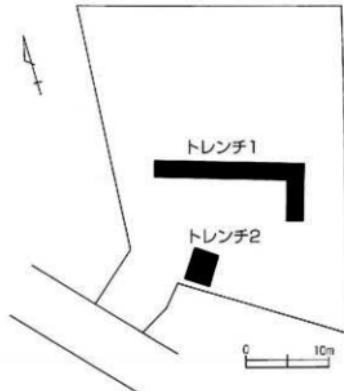


図209 試掘坑配置図

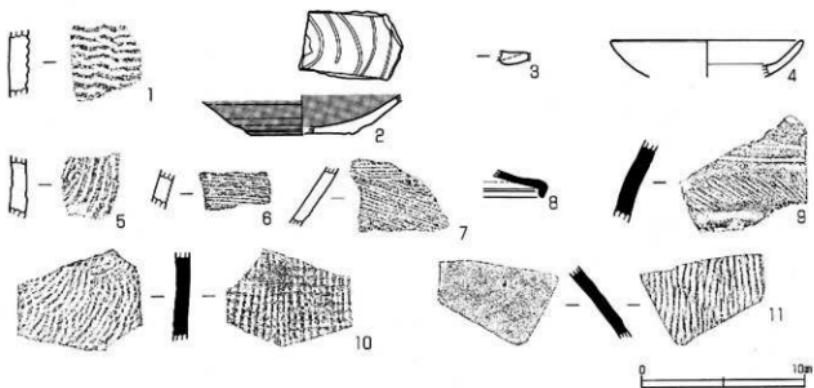


図210 出土遺物



トレンチ2（溝跡内疊検出状況）



トレンチ2（溝跡）

## 14-59 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目3361-6他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 115.58m<sup>2</sup>  
調査面積 6 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成15年1月29日  
調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は荒川左岸の標高310m付近に位置する。調査地点は天神西遺跡として括られた遺跡の範囲の中でも西端に位置する。

### 調査の結果

2×3mの試掘トレンチを設定し調査を行った。現況の地表面から約70cm掘り下げ、精査した結果、暗褐色の砂質土から遺構が検出できた。

調査地点の東側には大きな石が点在し、その付近から古墳時代後期の土器が集中して出土する傾向があった。

検出した遺構は、直径約40cmの浅い土坑で、中には黄色の粘土が充填されていた。土器等は全く入らないことから、小規模な粘土貯蔵穴の可能性が高い。

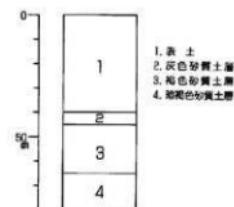


図211 土層柱状図

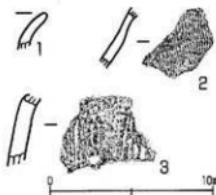


図212 出土遺物



完 塚 状 況

## 14-60 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目3324-5

調査原因 個人住宅建設

対象面積 71.5m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年2月21日

調査担当 平塚洋一

### 遺跡の概要

調査地点は荒川左岸の標高304m付近に位置する。

### 調査の結果

調査地区に2m四方の調査グリッドを設定し調査を行った。現況の地表面から約100cm掘り下げ、精査したが遺構は検出できなかった。この地層から古墳時代の甕の小片が1点、坏片が2点出土している。しかし、小片のため図化は見送った。

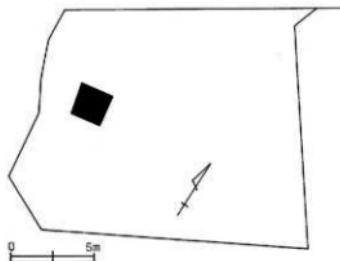


図213 試掘坑配置図



調査状況（南壁）



図214 土層柱状図

## 14-61 永井遺跡

調査位置 甲府市小松町414-2

調査原因 個人住宅建設

対象面積 28.82m<sup>2</sup>

調査面積 8 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年5月28日～29日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

相川により和田山の東に形成された微高地に位置する永井遺跡は、古墳時代および平安時代の散布地として周知されている。周辺には耕作地が多いが、宅地が徐々に広がっている。

今回の調査地は地図上の永井遺跡のほぼ中央部にあり、標高322mを測る、住宅地の中の空閑地である。

### 調査の結果

調査は個人住宅建設に先立ち行われたもので、対象地に2m四方の試掘坑2か所を設定し人力により埋蔵文化財を確認した。

表土を除去すると、固く締まった礫混じりの粘土層が地山まで続く。地山までの深さはTP1で80cm、TP2では55cmを測る。埋蔵文化財は確認されず、記録した後埋め戻して調査を終了した



調査状況(TP2南壁)

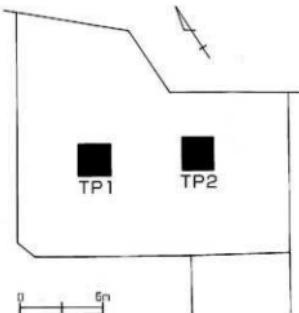
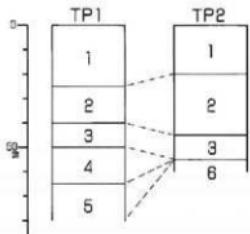


図215 試掘坑配置図



1. 土 青干の砂石を含む。
2. 黄褐色土層 砂大の塊が多量に含む。
3. 灰白色土層
4. 黄褐色土層 砂大の塊が多量に含む。
5. 黄褐色土層 手大～人頭大の塊が多量に含む。  
(地山)

図216 土層柱状図

## 14-62 般舟院跡

調査位置 甲府市伊勢三丁目2113-1  
調査原因 集会場建設  
対象面積 299.41m<sup>2</sup>  
調査面積 28m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月10日～14日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

荒川左岸の氾濫原上、標高258mに位置する。昭和56年9月、下水道工事の際に、多量の墓石が出土し、般舟院の存在が明らかになった。

### 調査の結果

調査は東西7m南北4mの範囲で行い、重機により表土を除去した後、人力によって精査した。

表土は地表下100cmまで達していた。茶褐色を呈し、磁器・プラスチック等が混入している。表土を除去すると砂利混じりの砂層になり、少なくとも地表下250cmまで堆積していることが確認できた。

地表下100cmの砂層（皿層）中に、茶褐色土層を覆土とした溝跡が確認された。最深部で-40cmを測るこの溝跡は砂層中にあり、遺物が伴わないことから、自然堆積によるものと判断できよう。部分的に深掘りを行っても砂層に変化は見られず、記録した後重機により埋め戻しをして終了した。

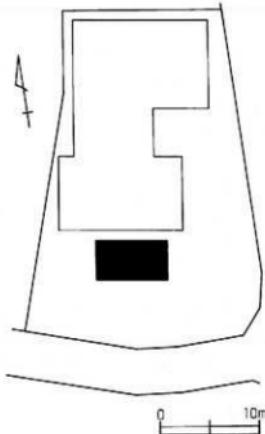


図217 試掘坑配置図



調査状況（南壁）

## 14-63 東畠遺跡

調査位置 甲府市横根町939-1  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 393.00m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年6月26日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

大山沢川により開析された扇状地の扇端部、標高275mに位置する。一帯は葡萄畠が広がる果樹地帯であったが、山梨英和短期大学が移転して以来、宅地開発が進行している。古墳時代を中心とする遺物の散布が濃密な地域である。

### 調査の結果

個人住宅建設に伴い、試掘確認調査を実施した。2m四方の試掘坑2か所を設定し、西側をTP1、東側をTP2とした。

TP1においては耕作土直下が黄褐色土層（地山）で、地山までの深さは25cmである。また、TP2でも地表から、それぞれ北壁で20cm、南壁で40cmの深度で地山に達する。耕作土の下は粘性・しまり共弱い暗黄褐色土層で、耕作がこの層の中ほどにまで及んでいた。

TP1内に不整円形の土坑2基が確認された。1基は石が充填されていたが、いずれも遺物は検出されず、耕作土直下に位置するため、近年の掘り込みであると思われる。



調査状況

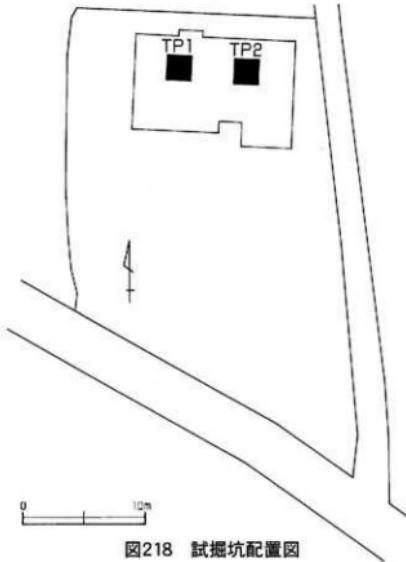


図218 試掘坑配置図

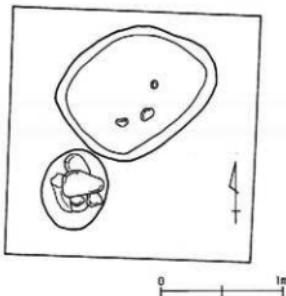


図219 TP1平面図

## 14-64 富士見遺跡

調査位置 甲府市富士見一丁目1731-2他  
調査原因 道路改良  
対象面積 2500m<sup>2</sup>  
調査面積 60m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年7月15日～26日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は富士見遺跡北側に位置し、包蔵地対象外についても県道改良工事に伴う大規模な開発となるため、事前に一括して試掘調査とした。本遺跡では、本地点南側に位置する県立中央病院病棟建て替えに伴い山梨県埋蔵文化財センターが実施した調査によって、古墳時代の水田跡が多数発見されている。そのため、近接する本地点においても連続した遺跡が確認される可能性があると考えられた。

調査対象のうち、西側の範囲については、過去において隣接する個人住宅建設等の立会によって荒川の河川氾濫による砂層が厚いことが確認されており、道路工事の際の立会とした。そのため、トレーンチは中央部のまとまった面積が確保されていた場所で長さ20m、幅3mで調査した。

近年駐車場として使用されていたため、碎石層を除去し、旧水田層も除去したところで灰褐色土層が確認された。しかし、遺構・遺物はなかったため、全体の土層堆積状況を把握するためにトレーンチ東側を地表下180cmまで掘削した。トレーンチ南壁で確認したところ、灰褐色砂層と黒色粘質土が相互に堆積していた。砂層は細粒であり、河川氾濫の直撃を受けた様子ではなく、黒色粘質土からも古墳時代の小規模な水田区画等の痕跡も確認されなかった。

### まとめ

本地点では遺構・遺物は検出されなかったものの、道路改良予定地全体の様相を確認するためには、本地点東側など工区内における未調査範囲を引き続き調査し、より詳細な状況把握をする必要がある。

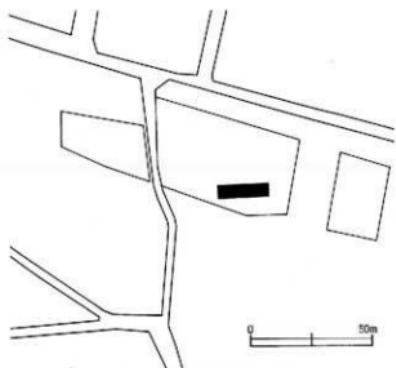
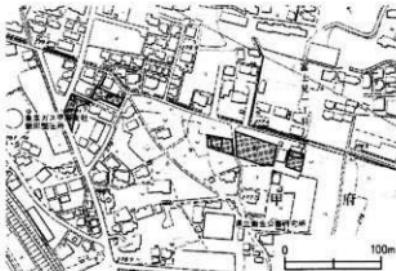
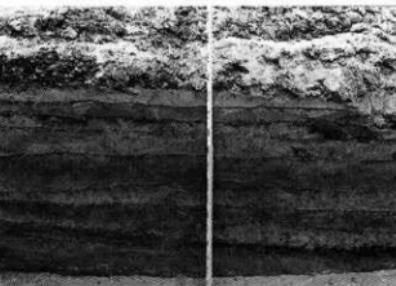


図220 試掘坑配置図



土層堆積状況

## 14-65 船山遺跡

調査位置 甲府市横根町946-1他  
調査原因 宅地造成  
対象面積 2,293m<sup>2</sup>  
調査面積 450m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年10月8日～12月1日  
調査担当 伊藤正幸



### 遺跡の概要

大山沢川によって開析された扇状地の扇端部、標高250～260mに位置する。山梨英和大学が移転し、また西関東自動車道が建設されたことにより、最近十年余りの間に急速に開発が進行した地域である。

この地域は積石塚古墳及び古墳時代の集落跡の分布が顕著である。これまでに行われた発掘及び試掘確認調査でも、埋蔵文化財が濃密に分布することが確認されている。今回の調査地点は道々芽木遺跡及び横根久保田遺跡に隣接し、過去の調査事例からも同一の遺跡である可能性が強い。

### 調査の結果

調査は宅地造成工事に先立ち、道路予定地を中心に実施した。幅2～5mのトレンチを「T」字形に配置し、重機によって荒掘りを行った後、人力で精査及び埋蔵文化財の検出を行った。南北トレンチをA区とし、東西トレンチのうちA区より西側をB区、東側をC区とした。

A区 幅2m、長さ45mを調査した。耕作土の下層には黒色粘土層が堆積している。この状況はA区北端から40mの間におよび、遺構・遺物等は検出できなかった。耕作面から埋蔵文化財包含層までの深さが浅いために、耕作による搅乱が遺構面まで達したためと考えられる。

A区南端部分は、3条の溝跡に伴い、土器が400点以上出土している。遺物の検出面は地表面から約50cm下層であるが、遺存状態は良好であった。遺物は古墳時代の小型壺(壇)を主体に10m四方程度の範囲に集中しており、一括廃棄あるいは何らかの信仰に伴う「手向け」の様相を示す。

B区 耕作土直下の地表下30cmで遺構確認面に達する。住居跡1軒、溝跡2条が確認された。

住居跡はB区西端部から検出された。平安時代の土師器片が重疊するように残り、住居跡東部には人頭大の礫が複数確認できた。溝跡2条は調査区東側からの検出で、古墳時代前期の土師器の出土が多い。

C区 遺構確認面は耕作面から約30cm下層で、耕作に伴う暗渠排水路が遺構面に作られていた。土坑1基、小竪穴(ピット)3基及び溝跡1条が確認されているが、A区・B区に比べて遺物の出土量は少ない。

## まとめ

本遺跡周辺には前述したとおり、古墳時代から平安時代にかけての遺跡が多く分布している。近年の調査により積石塚古墳群、土器を生産した集落跡である大坪遺跡、小金銅仏を出土した東畠遺跡等、寺本庵寺や国分寺等の古代寺院に瓦を供給した川田・上土器両瓦窯跡等、県内でも特異な遺跡が分布する地域と捉えられている。今回の調査でも、小型壺（咲）が集中して大量に出土しており、新たな資料として甲運地域の古代史解明の一助になることであろう。



SD 1土器出土状況



SD 1・SD 2検出状況

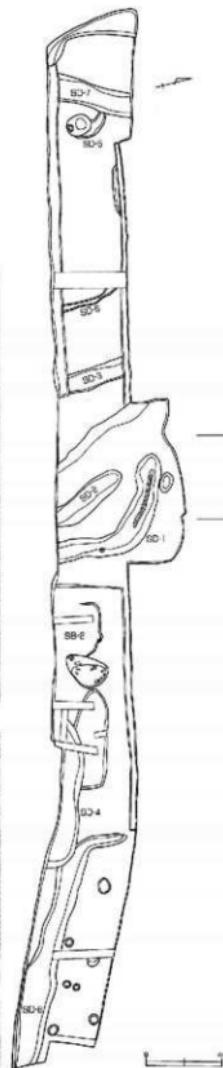


図221 トレンチ平面図

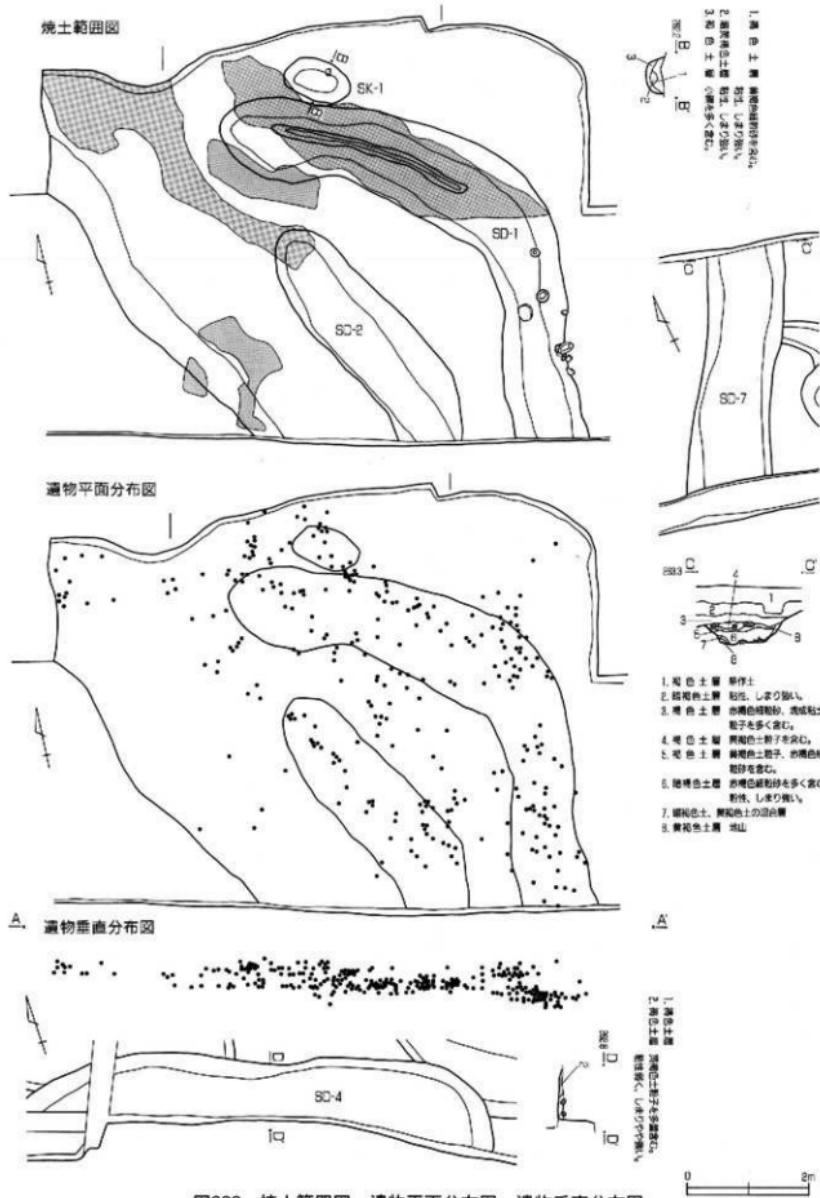


図222 焼土範囲図・遺物平面分布図・遺物垂直分布図

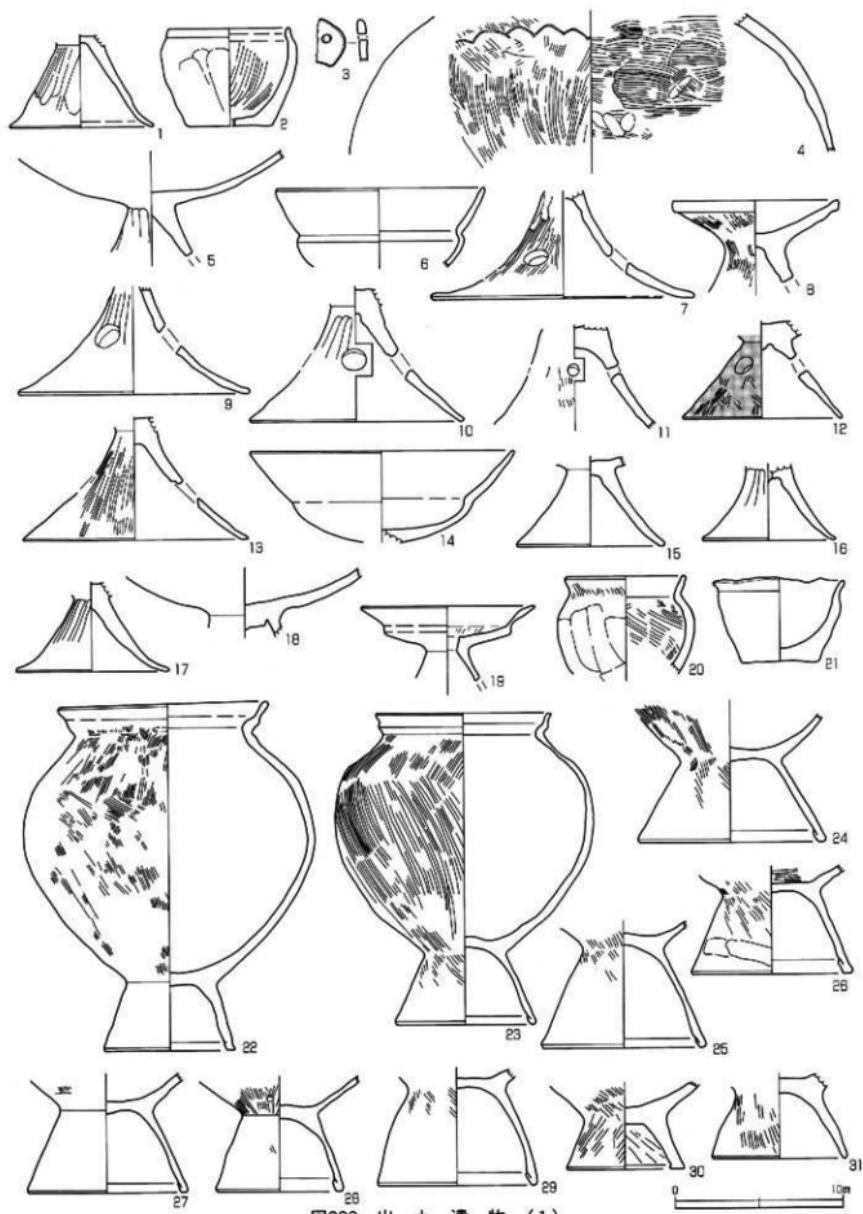


図223 出土遺物(1)

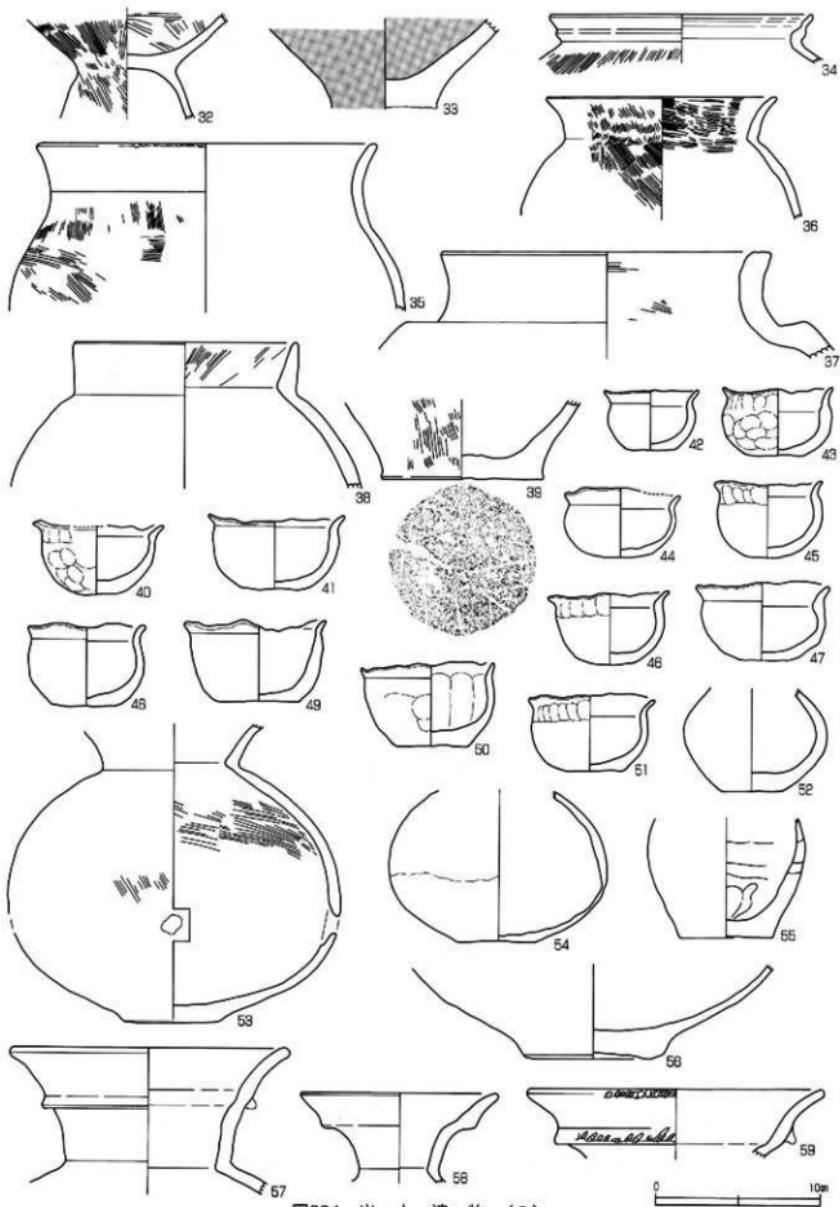


図224 出土 遺 物 (2)

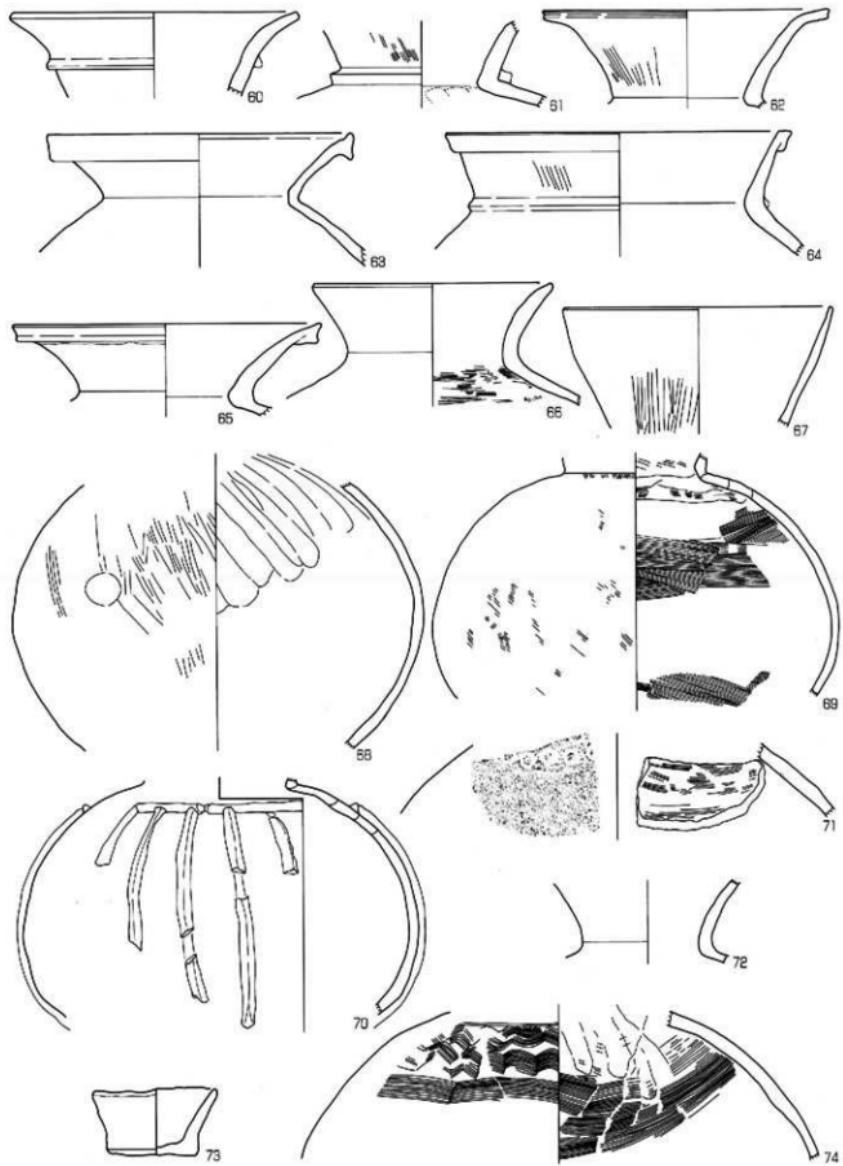


図225 出土遺物 (3)

10mm

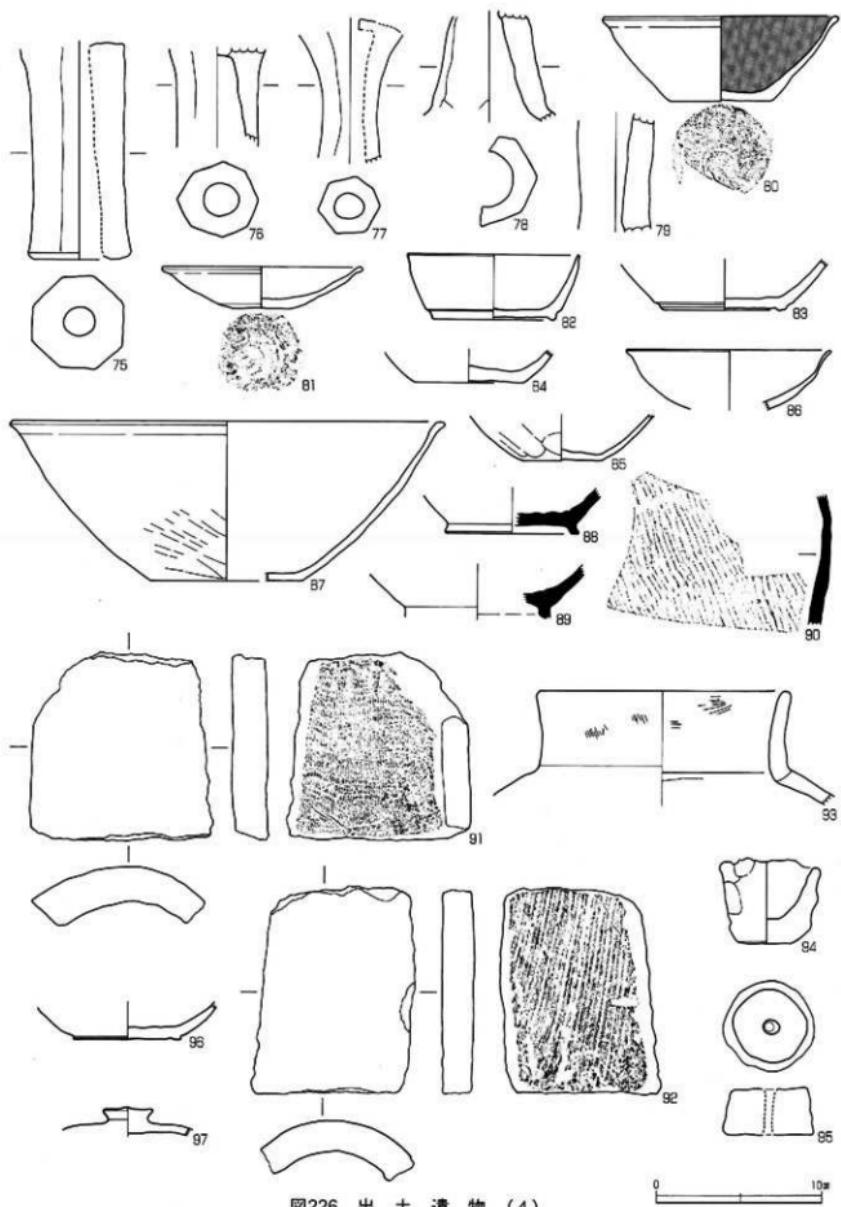


図226 出土 遺 物 (4)

## 14-66 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2245-83  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 60.74m<sup>2</sup>  
調査面積 1.5m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年9月12日  
調査担当 佐々木 満

### 調査の概要

本地点は、昭和60・61年に本調査が実施された市営善光寺団地地点の大円川を挟んだ対岸に位置する。調査は既存建物の基礎解体時に合わせて実施することとし、確認した様子で調査規模を調整することとした。

調査区は、長さ1.5m、幅1mと小規模なトレンドで確認作業を行ったが、地表下約55cmまで擾乱層があり、その下層で黒褐色土層が確認された。深さ約60cmまで掘り下げたところで自然堆積層が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。建設予定の住宅基礎は、擾乱層で收まることが確認されたため、この時点で調査は終了とした。

### ま と め

小規模な調査ではあったが、周辺部の調査例も合わせて判断すると、本地点を含む大円川左岸は遺跡密度が薄いと考えられ、改めて本郷遺跡の範囲を確認することができた。

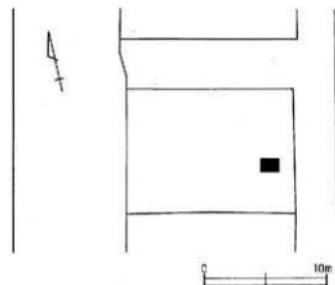


図227 試掘坑配置図



調査状況

## 14-67 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目27-2他  
調査原因 個人住宅建設  
対象面積 122.23m<sup>2</sup>  
調査面積 8 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年7月1日  
調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

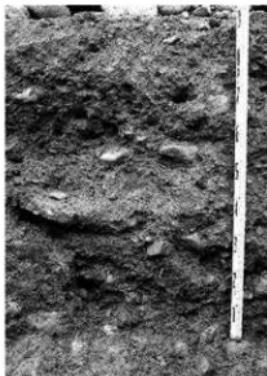
本遺跡は緑が丘二丁目遺跡の北に隣接する、古墳時代を主体とした遺跡である。相川沿いの微高地上に存在し、標高285~292mに拡がる。全体が住宅地で、今回の調査地も造成された住宅地における個人住宅の建替えに先立つもので、東側隣接地とは2.2m、南側で1.0mの比高差が確認できる。

### 調査の結果

調査は2m四方の試掘坑2か所を設定し、人力により掘下げた。

瓦礫及び客土の堆積が厚く、TP1が地表から90cm、TP2では120cm以上下層まで確認できる。TP1については、瓦礫を除去すると明茶褐色土層、褐色土層と続き、褐色土層中から土師器の小破片が3点確認されたこととなる。

工事はベタ基礎工法で行われ、最も深い部分でも地表から30cmの掘削なので、埋蔵文化財に対する影響はないものと判断できたので、記録後埋め戻して調査を終了した。



TP1層序

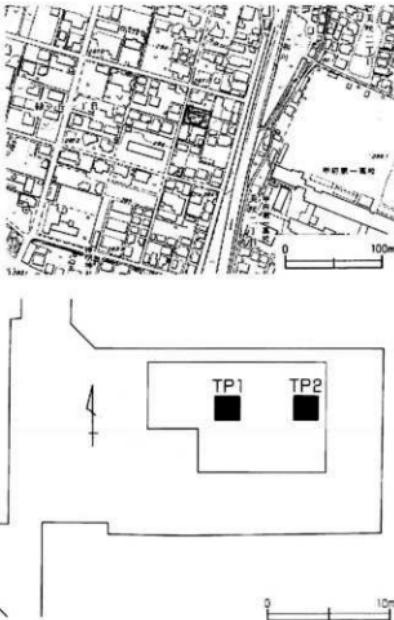


図228 試掘坑配置図

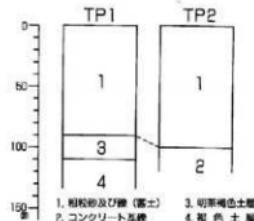


図229 土層柱状図

## 14-68 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目74-6

調査原因 個人住宅建設

対象面積 119.23m<sup>2</sup>

調査面積 4 m<sup>2</sup>

調査期間 平成14年7月29日～30日

調査担当 伊藤正彦

### 遺跡の概要

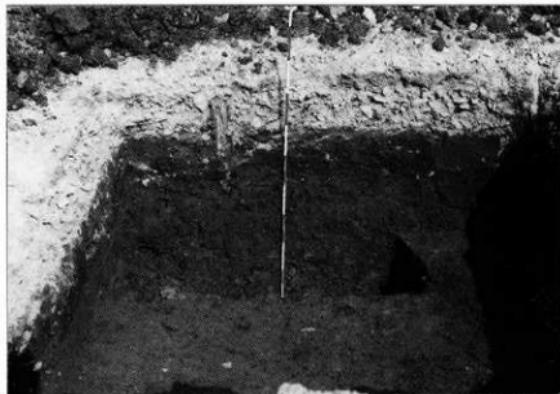
本遺跡は甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。相川は、扇状地西縁を南流し、荒川と合流した後、さらに盆地内を南流する。遺跡の西から北側背後にかけて湯村山・堂ノ山が迫り、東から南側前面に盆地が広がる。

微地形分析から度重なる相川・荒川の流路変更により一帯には後背湿地・旧河道の他、自然堤防・扇状地等が埋没しており複雑な地形を形成していたことが判明している。

調査地は相川に近接し、標高約286mを測る。一帯は縄文時代から平安時代の遺跡として周知されるものの、すでに宅地化されている。

### 調査の結果

対象地に2m四方の試掘坑を設定し、土層堆積を確認しつつ、人力にて掘削を行った。地表下約20cmまでは1層砕石層があり、2層旧耕作土(厚15cm)、3層褐色土(厚25cm)が堆積する。以下、4層黄褐色土(地山)となる。遺構・遺物は確認できず、工事が遺跡に与える影響はないものと判断した。



調査状況

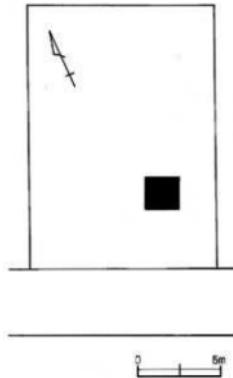


図230 試掘坑配置図



図231 土層柱状図

## 14-69 緑が丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市和田町758-1他  
調査原因 集合住宅建設  
対象面積 1186m<sup>2</sup>  
調査面積 35m<sup>2</sup>  
調査期間 平成14年10月23日～31日  
調査担当 志村憲一

### 遺跡の概要

調査区は甲府盆地北側の相川扇状地の相川右岸に標高約297mに立地する。北側には標高約350mの山塊が迫り、西側には標高450m以上の湯村山が見られる。調査区は遺跡範囲の北側に位置し、周辺の調査においては調査区南東側では、古墳時代及び中世の遺物が検出された地点も見られた。

### 調査の方法

建築予定地に東西方向の4本トレンチを設定し、重機で掘削後、人力で遺構・遺物の確認作業を行った。溝が14条と土坑が1基確認された。遺物については、古墳時代中期から奈良時代にかけての土師器及び須恵器が出土した。特に遺構・遺物は調査区東側の1及び3トレンチに集中して見られる。

### 調査の結果

#### (1) 1トレンチ

調査区北東側に位置し、東西12.2m、幅2mの掘削を行った。堆積層は6層に分層され、地表下40cmの第4・5層及びその下層の第6層が遺物包含層である。特に第6層から多数の土師器が検出されている。検出された遺構は、地表下約40cmの第4・6層に掘り込まれた、南北方向の6号溝と、南北から東西方向にL字状に曲がる7号溝の2条の溝が検出された。両溝とも幅30~50cm、深さ100cmを測る。覆土は同質の灰色粘質土であり、土師器が少量検出されている。両溝の新旧関係については不明である。

出土遺物(1~17)は、古墳時代6世紀代を中心とした壺・高壺・長胴甕などの土師器と須恵器であるが、遺構に伴うものではない。

#### (2) 2トレンチ

調査区北西側に位置し、東西4.8m、幅2mの掘削を行い、部分的に南東側を拡張した。南北方向3条、東西方向3条の合計6条の溝が確認された。溝は地表下約30cmに位置する第5層の暗褐色土層に掘り込まれた状況で検出され、幅20~50cm、深さは約5cmと浅い。また1号土坑は、円形状の幅70~100cm、深さ35~65cmの溝により構成される。上面からは植物遺体が検出されたが、底部からは平安期の土師器が出土した。溝は古代まで遡る可能性があるが、土坑に関しては植物遺体の検出状況から近代の耕作等に伴う遺構と考えられる。出土遺物(25~27)は、古墳時代後期のものである。

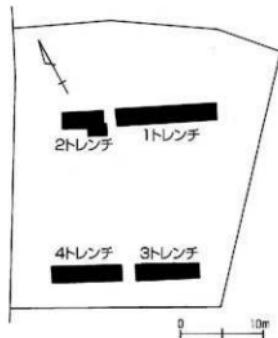
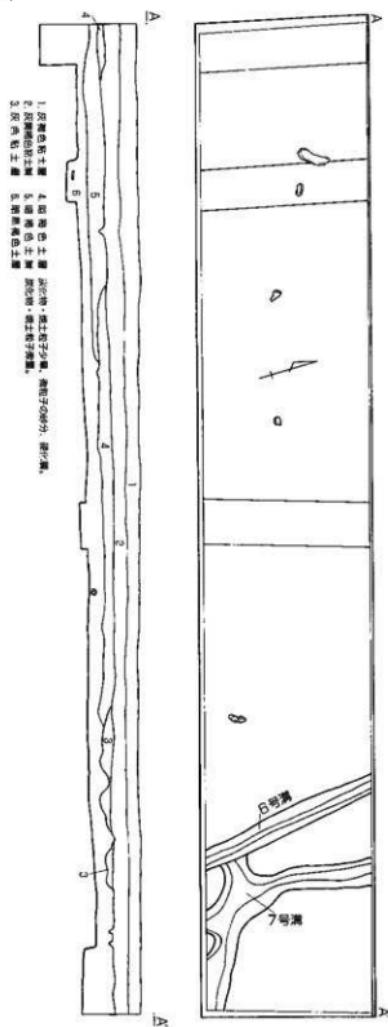


図232 試掘坑配置図

T-1



T-3

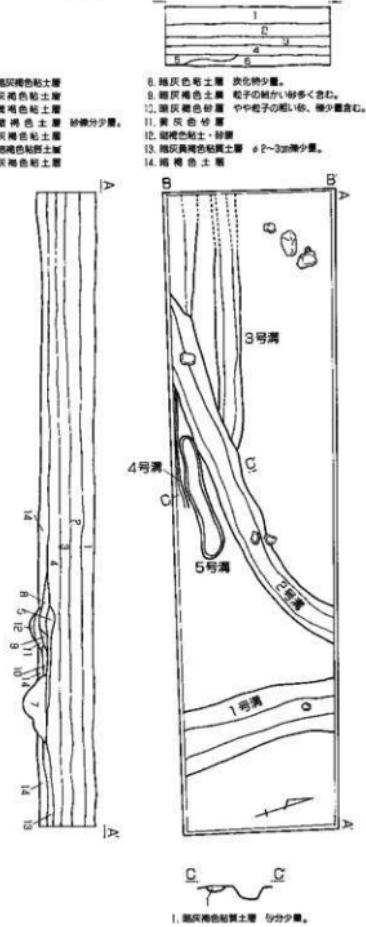
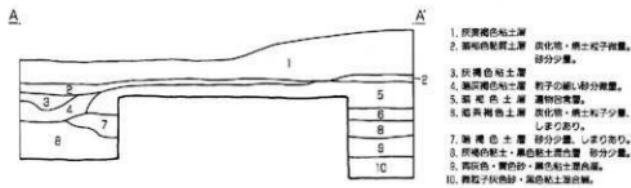


図233 トレンチ1・3平面、土層堆積図

T-2



T-4

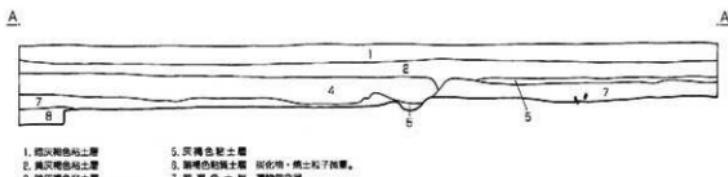
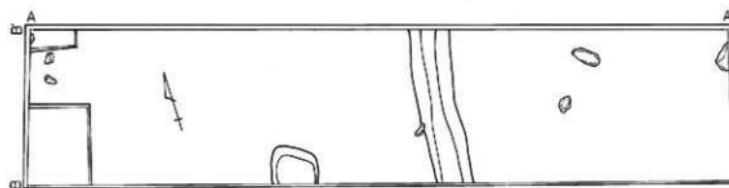


図234 トレンチ2・4平面、土層堆積図

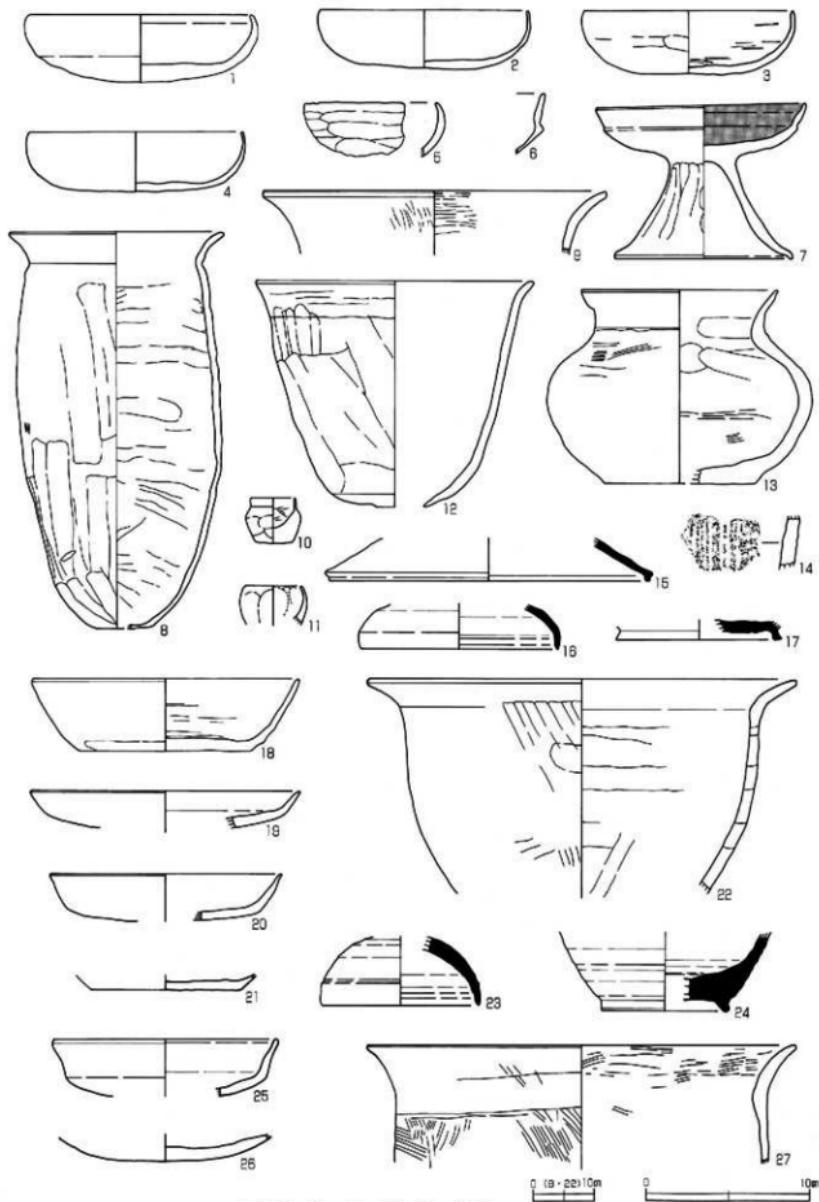


図235 出土遺物 (1)

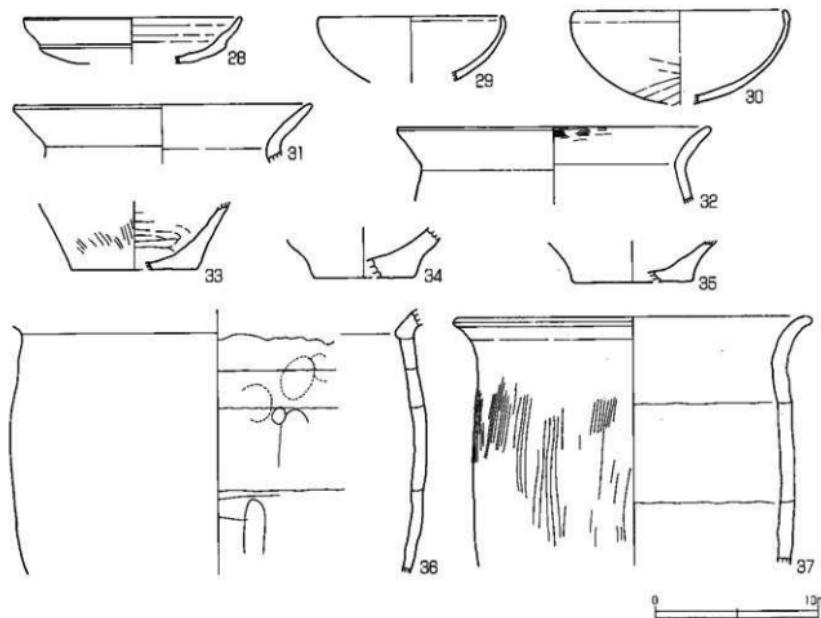


図236 出土遺物(2)

### (3) 3トレンチ

調査区南東側に位置し、東西7.7m、幅2m掘削を行った。地表下70cmから溝が5条確認された。1号溝は南北方向に軸線をとり、幅60~75cm、深さ約20cmを測る。覆土は灰褐色粘土層であり、北壁の堆積状況から西側の2号溝を切る。2号溝は東西方向をとり、幅約40cm、深さ約20cmを測る。溝上層は暗灰褐色粘土、下層は砂粒子の堆積が確認された。3・4号溝の2条は平行し、東西方向に軸線をとる。計測できる範囲において、幅30cm、深さ約10cmと浅く、覆土は灰褐色粘土である。4号溝は2号溝に切られる。5号溝については、長さ150cm、幅15~20cm、深さ5cm以内と浅い。覆土は暗灰褐色粘質上であり、炭化物及び土師器が確認されている。出土遺物(18~24)は、古墳時代後期から奈良時代にかけてのものである。

### (4) 4トレンチ

調査区南東側に位置し、東西8.5m、幅2m掘削を行った。堆積層は8層に分層され、地表下40cmの第6~8層が遺物包含層である。トレンチ中央部分で幅50~60cm深さ約20cmの溝が検出されたが、この溝を境に第7層は東側で約30cm高く、遺物の出土量も多い。図版掲載遺物(28~37)であり、古墳時代中期から後期にかけての遺物が多く出土した。

## 14-70 緑が丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市和田町2434-23

調査原因 個人住宅建設

対象面積 269.26m<sup>2</sup>

調査面積 4.5m<sup>2</sup>

調査期間 平成15年1月29日

調査担当 伊藤正幸

### 調査の概要

緑が丘二丁目遺跡は、湯村山と三光寺山に挟まれた地域に存在する、縄文時代から平安時代に至る遺跡である。今回の調査地は遺跡の北西部分にあたり、標高297mを測る。周辺は住宅地であり、今回の調査地も住宅地の中の造成地に位置する。調査対象地は西側に1.6m、北側に0.4mの比高差がある。

### 調査の結果

個人住宅建設に伴い、対象地に1.5m四方の試掘坑2か所を設定し、人力により掘削して調査した。

TP1は造成に伴う客土が地表から55cmまで、TP2では70cmまで施されていて、両試掘坑とも客土下には砂層が20cm確認された。

住宅は全体にベタ基礎工法で行われ、基礎の掘り込み最も深い部分で地表から35cmなので、工事による埋蔵文化財への影響はないものと判断できたので、埋め戻して調査を終了した。



TP2

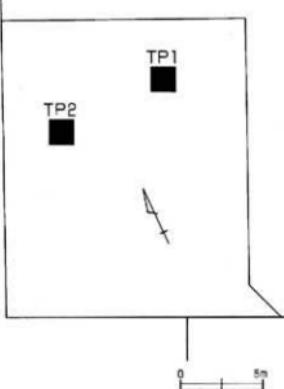
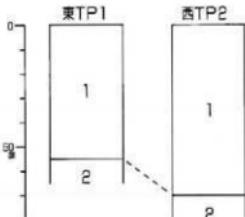


図237 試掘坑配置図



1.客土(填土)  
2.粘砂層

図238 土層柱状図

出土遺物鑑定表(1)

圖 No	編號 番号	出土遺物 出土地點 地点	埋深 深度	器種 種類	口徑 直径	器高 高度	底徑 底径	西拉 シリヤ		出土 出土	備考 参考
								新氣遺跡 ヒガシイ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	口徑 直径
4	2	13-1	新氣遺跡 ヒガシイ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(13.6)	口徑 直径	口徑 直径	口徑 直径	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
5	3	13-3	新氣遺跡 ヒガシイ	一括 ヒラタ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(1.0)	口徑 直径	口徑 直径	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
6	4		新氣遺跡 ヒガシイ	A(リ)トト ヒガシイ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(0.2)	(3.6)	(4.3)	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
7	5		新氣遺跡 ヒガシイ	B(リ)トト ヒガシイ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	?			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
8	6		新氣遺跡 ヒガシイ	R(リ)トト ヒガシイ	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(1.2)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
9	7		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(1.2)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
10	8		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	1.35	3.5	口徑 直径	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
11	9		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	1.27	4.3	口徑 直径	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
12	10		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(1.7)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
13	11	13-5	新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(13.0)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
14	12		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(20.6)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
15	13		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(24.5)	(41.6)	8.7	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
16	14		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	20.9			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
17	15		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(30.4)	(27.0)	8.1	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
18	16		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	19.6		4.9	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
19	17		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(19.6)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
20	18		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(3.2)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
21	19		新氣遺跡 ヒガシイ	TR2	金屬製品 金属製品	袋 袋	直径21.5 直径21.5	直径11.75 直径11.75	厚0.6 厚0.6	新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
22	20		新氣遺跡 ヒガシイ	TR1	金屬製品 金属製品	袋 袋	(18.6)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
1	21		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(12.6)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
2	22		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(3.6)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
3	23	13-8	金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(8.0)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
4	24		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
5	25		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
6	26		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
7	27		金屬製品 金属製品	2号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓	(13.0)			新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
8	28	13-8	金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
9	29		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ
10	30		金屬製品 金属製品	1号住	土壘跡 土塁跡	圓 圓				新氣遺跡 ヒガシイ	新氣遺跡 ヒガシイ

図 面 No	出 土 地 點 名	出土 地 點 名	種 別	形 状	量 目	量 度	標示項目(実跡・測量・文様)		地 質	考 察
							幅 度(cm)	厚 度(cm)		
11	金匱西造跡	1号溝	土師器	壺		(6.0)	直筒	ロコル形	中空	やや厚、金雲母、長石、石英
12	金匱西造跡	2号溝	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ	薄	やや厚、金雲母、長石、石英
13	金匱西造跡	2号溝	須恵器	壺			口輪部	ロコル形	薄	金雲母
14	金匱西造跡	2号溝	須恵器	壺			体部	ロコル形	薄	金雲母
15	金匱西造跡	2号溝	須恵器	壺			口輪部	ロコル形	中空	金雲母、長石、石英
16	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			休透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
17	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
18	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
19	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			口輪～底	ロコルナフ	中空	金雲母、長石、石英
20	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ・ロコル	中空	金雲母、長石、石英
21	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			口輪～底	ロコル	中空	金雲母、長石、石英
22	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			口輪部	外表面ナフ・内側面ナフ・斜面ナフ・S字彫	中空	金雲母、赤色粒子、長石、石英
23	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			休透	外表面ナフ・内側面ナフ・斜面木更集	中空	金雲母、長石、石英
24	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			側透	外表面ナフ・内側面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
25	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
26	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			休透	内外面ナフ・四曲指透通	中空	金雲母、長石、石英
27	金匱西造跡	3号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
28	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ・S字彫	中空	金雲母、長石、石英
29	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			休透	内外面ナフ	中空	金雲母、S字彫
30	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ・内側面ナフ・ハケ	中空	長石、石英
31	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ・内側面影	中空	金雲母、長石、石英
32	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			側透	外表面ナフ・内側面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
33	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			休透	内外面ナフ	中空	長石、石英
34	金匱西造跡	4号溝	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、S字彫
35	金匱西造跡	7区	土師器	壺			口輪部	ロコル形	中空	金雲母、長石、石英
36	金匱西造跡	7区	土師器	壺			休透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
37	金匱西造跡	7区	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
38	金匱西造跡	7区	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ・口輪透視目	中空	金雲母、長石、石英
39	金匱西造跡	7区	土師器	壺			側透	内外面ナフ・内側面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
40	金匱西造跡	7区	土師器	壺			側透	外表面ナフ・内側面ナフ・ハケ	中空	金雲母、長石、石英
41	金匱西造跡	7区	土師器	壺			側透	外表面ナフ・内側面ナフ・ハケ	中空	金雲母、長石、石英
42	金匱西造跡	7区	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
43	金匱西造跡	7区	土師器	壺			休透	外表面ナフ・内側面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
44	金匱西造跡	7区	土師器	壺			休透	ロコル形	中空	長石、石英
45	金匱西造跡	7区	土師器	壺			休透	内外面ナフ	中空	金雲母
46	金匱西造跡	7区	土師器	壺			休透	ロコル形	中空	金雲母
47	金匱西造跡	8区	土師器	壺			休透	内外面ナフ・内側面文	中空	赤色粒子
48	金匱西造跡	8区	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ・S字彫	中空	長石、石英
49	金匱西造跡	8区	土師器	壺			口輪部	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英
50	金匱西造跡	8区	土師器	壺			側透	内外面ナフ	中空	金雲母、長石、石英

## 出土遺物編目表(3)

國	No	施設番号	出土場所	出土地點	種別	器種	口径(cm)	高さ(cm)	幅径	體積	長さ所見(底形・原長・文様)	出土	備考	
26	51	13-8	金匱西遺跡	8区	普通	碗	7	-	-	口縁部 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	L.O.型片 内外面輪郭	施設		
26	52	13-8	金匱西遺跡	8区	普通	土器	蓋	8.1	2.1	7.9	口縁～底部 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設	
26	1	13-12	甲賀町下野瀬遺跡	A(1)1/2	陶器	灯明皿	(10.2)	1.8	(6.0)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設	底径の著	
26	2	13-12	甲賀町下野瀬遺跡	A(1)1/2	陶器	土器	圓	-	(6.7)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
26	2	13-13	小浜氏遺跡	B(1)1/2	陶器	土器	圓	-	(7.4)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
26	3	13-13	小浜氏遺跡	B(1)1/2	陶器	土器	圓	-	(7.4)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
26	4	13-13	小浜氏遺跡	C(1)1/2	陶器	土器	圓	11.0	2.5	6.0	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設	
5	5	小浜氏遺跡	C(1)1/2	陶器	豆皿	圓	-	-	-	内外面輪郭	内外面輪郭	施設		
1	1	小浜氏遺跡	TP-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭	内外面輪郭	施設		
33	2	13-16	金匱北遺跡	TP-2	土器	甕	圓	-	-	内外面輪郭	内外面輪郭	施設		
3	3	13-16	金匱北遺跡	TP-2	土器	甕	圓	-	-	内外面輪郭	内外面輪郭	施設		
4	4	13-16	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	(11.8)	(2.7)	(6.6)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設	
1	1	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
2	2	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
3	3	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
4	4	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
5	5	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
6	6	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
7	7	金匱北遺跡	SD-1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
8	8	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	8.8	1.4	4.5	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
9	9	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	(11.8)	(2.0)	(6.6)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
10	10	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
11	11	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
12	12	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
13	13	金匱北遺跡	SD-2-SD-4	陶器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
36	14	13-16	金匱北遺跡	SD-2	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設	
15	15	金匱北遺跡	SD-3	土器	甕	圓	(8.2)	(2.9)	(6.0)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
16	16	金匱北遺跡	SD-3	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
17	17	金匱北遺跡	Tr-2-サ(2)1	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
18	18	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
19	19	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
20	20	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
21	21	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
22	22	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
23	23	金匱北遺跡	SD-4	土器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
24	24	金匱北遺跡	S-1	土器	甕	圓	(6.0)	(2.0)	(4.6)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
25	25	金匱北遺跡	S-1	土器	甕	圓	(11.8)	(2.0)	(7.0)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
26	26	金匱北遺跡	SE-1	土器	甕	圓	(13.0)	(2.4)	(5.6)	底面 内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		
27	27	金匱北遺跡	SE-1	陶器	甕	圓	-	-	-	内外面輪郭、輪郭間隔系切口縦	内外面輪郭	施設		

## 出土遺物編目表(4)

図	No	地點	出土地點	種類	容積	法面(m)	断面	採取所見(採集調査文様)	粘土	備考	
38	26	13-18 地盤北造跡	Sb-1	土器	量	(12.0) (2.5)	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英		
	20	地盤北造跡	Sb-1	土器	筒状	(6.6)	周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	やや厚、金雲母、長石、石英		
39	30	地盤北造跡	SE-2	土器	量	(11.8)	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	厚、金雲母、長石、石英	Nb.3と同一?	
	31	地盤北造跡	SE-2	土器	量	—	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	厚、金雲母、長石、石英	Nb.3と同一?	
40	32	地盤北造跡	SE-2	瓦質土器	鉢	(26.6) (15.9)	(0.8) (22.6)	休形	ロクロ丸形	微細	
	33	地盤北造跡	SE-2	瓦質土器	鉢	(26.6) (15.9)	(0.8) (22.6)	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形	厚	
41	34	地盤北造跡 Sb-1-2-1/3	土器	焰口	—	—	休形	ロクロ丸形	厚	内Ⅱ	
	35	地盤北造跡	SE-2	土器	焰口	—	休形	ロクロ丸形	厚	内Ⅱ	
42	36	地盤北造跡	SE-2	瓦質土器	筒狀	—	休形	ロクロ丸形	厚	外Ⅱ	
	37	地盤北造跡	SE-2	土器	土師	長2.6/幅1.5/高1.9	兀形	休形	休形	外Ⅱ	
43	38	地盤北造跡	SE-2	罐	量	—	口縁部	休形	休形	外Ⅱ	
	39	地盤北造跡	SE-3	土器	量	—	口縁部	ロクロ丸形、外側ハケ	—	外Ⅱ	
40	40	地盤北造跡	SE-2	土器	直腹型	(4.4)	口縁部	ロクロ丸形	—	外Ⅱ	
	41	地盤北造跡 SE-3-SD-1	土器	直腹型	筒狀	(31.2)	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
42	42	地盤北造跡	SE-3	土器	量	—	休形	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	43	地盤北造跡	SK-3	土器	焰口	(7.9)	休形	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
44	44	地盤北造跡	SK-3	土器	焰口	(11.7)	(0.4)	休形	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ
	45	地盤北造跡	SK-4-1-2	陶器	大腹	(42.6)	—	休形	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ
46	46	地盤北造跡	SK-7	土器	要	—	休形	外側ハケ(側斜にて不規則)、内側ナド	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	47	地盤北造跡	SK-7/素石下	土器	台付型	—	休形	外側ハケ(側斜にて不規則)、内側ナド	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
48	48	地盤北造跡	SK-9	土器	要	—	(18.0)	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	49	地盤北造跡	SK-9	土器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
50	50	地盤北造跡	SK-9	土器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	51	地盤北造跡	SP-27	土器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
52	52	地盤北造跡	Tr-2-SR42	土器	直腹型	(14.2)	口縁～底部 周縁	ロクロ丸形、施磨回条状切の上を二ラテ?	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	53	地盤北造跡	Tr-2-SR42	土器	直腹型	15.9	(6.4)	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
54	54	地盤北造跡	SP10/10	土器	量	(3.4)	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	55	地盤北造跡	SP46	石製品	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
56	56	地盤北造跡	SP10/10	土器	焰口	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	57	地盤北造跡	SP10/10	土器	焰口	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
58	58	地盤北造跡	SP10/6	土器	筒狀	(3.2)	口縁部	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	59	地盤北造跡	SP10/10	土器	筒狀	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
60	60	地盤北造跡	SP10/10	土器	筒狀	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	61	地盤北造跡	SP11/11	土器	直腹型	8.3	—	—	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
62	62	地盤北造跡	SP11/11	土器	直腹型	5.1	4.0	5.4	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	63	地盤北造跡	SP11/11	土器	直腹型	(6.4)	(1.5)	(4.0)	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
64	64	地盤北造跡	Tr1	陶器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	65	地盤北造跡	Tr1	骨器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
66	66	地盤北造跡	Tr2-SA-1	骨器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	
	67	地盤北造跡	Tr2-SA-1	土器	量	—	休形	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	少小帶、金雲母、赤色粒子、長石、石英	外Ⅱ	

圖 號	出土地點	出土地層	種類	器形	法長(cm)	寬徑	部位	鏡面所見(底形、背形、文樣)		胎土	備考
								口徑	腹徑		
68	地北水道	Tr2	土師器	鉢	(20.0)	—	口沿緣	口唇緣凹圓	外圓八分	中半幅、赤色胎土、長石、石英	
69	地北水道	Tr2+4~7+1	土師器	鉢	(10.0)	—	口沿緣	十子	中半幅、金鑄母、赤色胎子、長石		
70	地北水道	Tr2	土師器	鉢小邊	橫徑長4.7cm	橫徑4.5	口沿緣	十子	中半幅、長石		
71	地北水道	Tr2	土師器	鉢	—	—	休部	—	中半幅、金鑄母、長石、石英		
72	13~16	地北水道	Tr1	土師器	台形甕	—	休部	八角	中半幅、金鑄母、長石、石英		
73	地北水道	BS	土師器	台形甕	—	休部	斜腹	八角	中半幅、金鑄母、長石、石英		
74	地北水道	Tr3	陶器	甕	—	—	休部	斜腹	中半幅、金鑄母、長石、石英		
75	地北水道	Tr3	陶器	甕	(18.0)	—	休部	斜腹	中半幅	中半幅、金鑄母、赤色胎子	第?
76	地北水道	Tr3	陶器	甕	長5.32、寬大腹1.05、厚0.74、重3.4kg	—	口沿緣	十子	中半幅、金鑄母、赤色胎子		
77	地北水道	Sf1~4	金屬製品	A鉢	—	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
78	地北水道	Sf1~4	金屬製品	?	長4.11、寬大腹1.38、厚0.78、重10.7g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
79	地北水道	Sf1~2	木漆器	鉢	殘存長10.5cm、殘存寬6.35cm、厚0.95	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
80	地北水道	Sf1~2	木漆器	下鉢	—	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
81	地北水道	Sf1~2	木漆器	鉢	殘存長11.75cm、寬1.9	—	本穴鐵	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
82	地北水道	Sf1~3	鉢	鉢	長2.6、寬0.6、厚0.1cm、重1.3g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
83	地北水道	Tr1	鉢	鉢	長2.4、寬0.6、厚0.1cm、重1.3g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
84	地北水道	Sf1~9	鉢	鉢	長2.32、寬0.65cm、厚0.17cm、重2.4g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
85	地北水道	Sf1~9	鉢	鉢	長2.42、寬0.65cm、厚0.14cm、重3.1g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
86	13~18	地北水道	Sf1~9	鉢	長2.42、寬0.77cm、厚0.11cm、重2.4g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
87	地北水道	Sf1~9	鉢	鉢	長2.46、寬0.63cm、厚0.15cm、重1.4g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
88	地北水道	Tr2	鉢	鉢	長2.46、寬0.5cm、厚0.15cm、重1.4g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
89	地北水道	Tr2	石器物	五輪塔	長2.51、寬0.76、厚0.11cm、重2.4g	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
90	地北水道	—	石器物	五輪塔	長2.5、寬0.76、厚0.11cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
91	地北水道	—	石器物	五輪塔	長1.6、寬0.6、厚0.1cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
92	地北水道	—	石器物	五輪塔	長2.49、寬0.24、厚1.7cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
93	地北水道	—	石器物	五輪塔	長2.19、寬0.25cm、厚2.3cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
94	地北水道	—	石器物	五輪塔	長1.71、寬0.24cm、厚1.64cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
95	13~16	地北水道	—	石器物	五輪塔	長1.13、寬0.19.2cm、厚5.3	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
96	地北水道	—	石器物	五輪塔	長1.28、寬0.21.0cm、厚11.5	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
97	地北水道	—	石器物	五輪塔	長0.32、寬0.10.8cm	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
47	1~13~20	武田村附水道	土器	甕	—	—	口沿緣	沙7.5cm、口切痕影	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
2	武田村附水道	—	陶器	天目茶碗	—	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
1	武田村附水道	—	陶器	鉢	—	—	休部	口切痕影、外側斷面	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
50	2~13~22	武田村附水道	—	石器皿	瓶	—	—	—	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
3	武田村附水道	—	陶器	瓶	—	—	休部	盒	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
52	1~13~23	武田村附水道	—	陶器	蓋文土器	蓋	—	口沿緣	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
55	1~13~25	武田村附水道	—	陶器	青瓷	—	—	瓶底	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
56	2~13~26	武田村附水道	Sf1~1	土器皿	甕	—	—	瓶底	盒	中半幅、金鑄母、赤色胎子	
60	1~13~26	武田村附水道	Sf1~1	土器	—	—	口沿	沙7.5cm、口切痕影	—	中半幅、金鑄母、赤色胎子	

No	番号	出土地點	種別	器形	法長(cm)	縦幅	部位	発見所見(形態・調査・文様)	出土	備考
2		武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺	(6.2)	底盤	小口付、口クロス彫、腹側斜め切欠	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英		
60	3-12-26	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺			口縁部	内外面磨耗	劣	
60	4	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺			体部	内外面磨耗	劣	
60	5	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺			体部	内外面磨耗	やや粗	
1	12-31	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺			耳口	二次焼成による表面溶解	やや細、金雲母、長石、石英	
67	2-13-31	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺			肩部		粗	
69	1-13-34	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺	(8.6)	(4.2)	口縁	かわらけ、ロクロス彫	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
72	1-13-35	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺	(7.1)	(1.0)	口縁	かわらけ、ロクロス彫	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
72	2	武田城下町道跡 トランシーフ	土器	壺	(6.1)		底盤	かわらけ、ロクロス彫	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
74	1-13-37	水谷道	土器	壺			口縁部	外側斜め切欠	やや細、金雲母、長石、石英	
1	2	八幡原道跡	土器	壺			外側斜め切欠	外側土壁、口部斜め切欠	やや細、金雲母、長石、石英	
76	3-13-39	八幡原道跡	土器	壺			肩部	外側土壁、内側幅狭	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
4	4	八幡原道跡	土器	壺			肩部	外側土壁、内側幅狭	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
5	5	八幡原道跡	一柄	壺			底盤	外側斜め切欠	やや細、金雲母、赤色粒子、長石	
82	2-13-41	富士見道跡	一柄	舟形			底盤	外側斜め切欠	やや細、金雲母、赤色粒子、長石	
1	3	富士見道跡	一柄	舟形			底盤	外側斜め切欠	やや細、金雲母、赤色粒子、長石	
1	1	本郷道跡	11-12	土師器	坪	(6.5)	底盤	ロクロス彫	やや細、赤色粒子、長石	
2	2	本郷道跡	11-12	土師器	壺	(5.6)	底盤	内外面ナード	やや細、金雲母、赤色粒子、長石、石英	
3	3-13-43	本郷道跡	13-14	土師器	壺	(10.0)	底盤	ロクロス彫	やや細、赤色粒子	
4	4	本郷道跡	13-14	土師器	壺	(12.4)	底盤	内外面ナード	やや細、金雲母、長石、石英	
5	5	本郷道跡	13-14	土師器	壺	(4.8)	底盤	外面ツサ、内面ナード	やや細、金雲母、長石、石英	
6	6	桃林久保田道跡	トランシーフ	土師器		(9.8)	底盤	内外面ナード	やや細、金雲母、赤色粒子	
1	7	桃林久保田道跡 トランシーフ	トランシーフ	土師器	(14.0)		口縁部	内外面ナード	やや細、金雲母、赤色粒子	
2	3	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器	(11.3)		口縁部	外面ツサ、内面ナード	粗、長石、石英	
4	4	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器	(10.6)		口縁部	ロクロス彫、内面泡施	粗、金雲母、赤色粒子、長石	
90	5-13-46	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器	(8.0)		底盤	ロクロス彫	やや細、金雲母、長石、石英	
6	6	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器	(22.0)	9.8	口縁~底盤	ロクロス彫	やや細、金雲母、長石、石英	
7	7	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器			底盤	内外面ナード、萬葉文	やや細、金雲母、赤色粒子	
8	8	桃林久保田道跡 トランシーフ	土師器	土師器		(5.6)	底盤	内外面ナード	やや細、金雲母、長石、石英	
9	9	新光道跡	土師器	土師器	(16.1)		口縁部	ロクロス彫、外側ハサカガナ	やや細、金雲母、赤色粒子、長石	
95	1-14-1	新光道跡	土師器	土師器			肩部	外側ツサ、軸穴	やや細、赤色粒子、金雲母、長石	
95	2	新光道跡	土師器	土師器			底盤	ロクロス彫	赤色粒子、金雲母	
95	3	新光道跡	土師器	土師器			底盤	ロクロス彫	赤色粒子、金雲母	
106	4	新光道跡	土師器	土師器			底盤	ロクロス彫、内ハサカ	やや細、赤色粒子、金雲母、長石	
105	1-14-5	房村上山跡	日式リット	土器			底盤	外側年号	匂、金雲母、長石	
105	1	金坂西道跡	日式リット	土器			底盤	外側に白色系の化粧土使用	匂、金雲母、石英、長石	

圖 號	No 番号	出土場所	出土地點	種類	器形	高度 (mm)	口径 (mm)	體積 (cm <sup>3</sup> )	部位	鐵器 銘文	出土 地點	備考
鐵器類(後漢・劉備・魏・西晉)												
105	3 14-5	金匱西邊路	土器	灰口鑄 鋤頭合背 鋤	鋤頭	—	—	—	口沿部	ロコガ型鋤頭・口鋤部銘文、新漢・口鋤、内外面ハツ 内外面ハツ	やや細、赤色粒子、金・墨色斑、石英、長石	—
106	4	金匱西邊路	土器	輪馬車輪 鋤頭	鋤頭	—	—	—	口沿部	ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、全墨色、長石	—
1	1	上街天門路	トレンチ	土器	鋤頭	—	—	—	口沿部	ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、全墨色、赤色粒子	—
110	2 14-6	上街天門路	トレンチ	陶器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
110	3 14-6	上街天門路	トレンチ	陶器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
110	4 14-6	上街天門路	トレンチ	陶器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
114	2	烏市南邊路	トレンチ	土器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
114	3 14-9	烏市南邊路	トレンチ	土器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
114	4	烏市南邊路	トレンチ	土器	鋤頭	皿	(9.0)	2.3	(3.6)	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文、新漢・口鋤	やや細、赤色粒子、全墨色	—
5	1	新嘉小城 - 中段下町通	SU1	土器	鋤頭	碗	—	—	口沿部	口承部銘文	—	—
5	2	新嘉小城 - 中段下町通	SU3	土器	鋤頭	皿	7.4	—	4.4	口沿部	口承部銘文	—
5	3	新嘉小城 - 中段下町通	SU3	土器	鋤頭	皿	8.6	2.5	5.0	口沿部	口承部銘文	—
116	4 14-1	新嘉小城 - 中段下町通	SU3	土器	鋤頭	皿	11.2	2.5	6.1	口沿部	ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	山陽道先秦化時期 山陽道先秦化時期
116	5	新嘉小城 - 中段下町通	SU3	土器	鋤頭	皿	13.5	2.0	7.6	口沿部	ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	山陽道先秦化時期 山陽道先秦化時期
6	6	新嘉小城 - 中段下町通	SU6	土器	鋤頭	皿	(12.0)	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、赤色粒子、黑褐色、石英、長石	—
7	7	新嘉小城 - 中段下町通	SU6	土器	鋤頭	皿	9.4	2.7	4.2	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、赤色粒子、黑褐色、石英、長石	—
8	8	新嘉小城 - 中段下町通	SU6	土器	鋤頭	皿	—	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、赤色粒子、黑褐色、石英、長石	—
1	9	甲院城下町通	SD1	鉢器	鉢	碗	—	—	口沿部	口承部銘文、質入	—	—
2	2	甲院城下町通	SD2	鉢器	鉢	碗	—	—	口沿部	口承部銘文、質入	—	—
3	3	甲院城下町通	SD3	鉢器	鉢	碗	—	—	口沿部	口承部銘文、質入	—	—
121	4 14-12	甲院城下町通	SD5	鉢器	鉢	碗	—	—	口沿部	口承部銘文、質入	—	—
5	5	甲院城下町通	ガラス目録	陶器	明治瓦	皿	(6.6)	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	青色透明、乳白色 青色透明、乳白色	—
6	6	甲院城下町通	ガラス目録	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	青色透明、乳白色 青色透明、乳白色	—	
7	7	甲院城下町通	ガラス目録	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	青色透明、乳白色 青色透明、乳白色	—	
1	1	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	(7.4)	1.5	3.2	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—
2	2	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	(8.4)	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—
125	3 14-13	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—	
4	4 14-14	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—	
5	5	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—	
6	6	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—	
7	7	甲院城下町通	陶器	陶器	明治瓦	皿	—	—	口沿 ~ 鐵頭 ロコガ型鋤頭・鋤頭表面銘文切妻面、内外面黒色 内外面黒	やや細、全墨色、長石	—	

出土遺物類別表(6) ( )は推定値、則は現存部数

図 No	番号	出土地点	種別	法長(cm)	口径	器高	底径	部位	種所見(実影、模様、文様)		附注	備考
									直径	底径		
127	8	14-14 甲府城下町通路	青磁	直徑2.44/乳頭0.82/厚0.3/重2.4g	口縁	10.4	5.8	かわら形、口吻成形	やや細、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石	金糸通室		
9	1	甲府城下町通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、口吻成形	やや粗、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石		
2	トレンジA	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、口吻成形	やや粗、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
3	トレンジB	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、口吻成形	やや粗、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
132	4	甲府城下町通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、内外面無釉	やや粗、金・銀粉、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石	浅戸美濃系	
5	トレンジC	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、内外面無釉	やや粗、金・銀粉、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
6	トレンジD	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、内外面無釉	やや粗、金・銀粉、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
7	甲府城下町通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、内外面無釉	やや粗、金・銀粉、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
6	甲府城下町通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	かわら形、内外面無釉	やや粗、金・銀粉、赤色粒子、金・銀粉、石灰、長石			
1	1	甲府城下町通路	電器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
2	2	甲府城下町通路	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
139	3	14-19 甲府城下町通路	ガラス瓶	直	1.5	8.1	2.6	口縁	白色透明、乳白色	白色透明、乳白色		
4	4	甲府城下町通路	ガラス瓶	直	1.7	6.6	2.3	口縁	多吹き形、可視化	多吹き形、可視化		
5	5	甲府城下町通路	ガラス瓶	直	2.0	7.8	3.3	口縁	吹き抜き形、吹き抜きの板、口縁部の板、吹き抜きの板、吹き抜きの板	吹き抜き形、吹き抜きの板、吹き抜きの板		
143	1	14-20 桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形	口吹き形	口吹き形	
2	2	桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形	口吹き形	口吹き形	
146	3	14-22 桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形、加热による瓦質化	口吹き形、加热による瓦質化	口吹き形、加热による瓦質化	
4	4	桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形、加热	口吹き形、加热	口吹き形、加热	
5	5	桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形、加热	口吹き形、加热	口吹き形、加热	
6	6	桂根相手通	陶器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	口吹き形、加热	口吹き形、加热	口吹き形、加热	
1	1	SD-1 地蔵本通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
2	2	SD-1 地蔵本通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
3	3	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
4	4	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
5	5	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
6	6	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
7	7	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
8	8	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
9	9	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
10	10	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
11	11	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
12	12	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
13	13	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
14	14	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
15	15	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
16	16	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
17	17	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	
18	18	SD-1 地蔵北通路	土器	直	1.7	1.7	1.7	口縁	金部	金部	金部	

図	No	出土地点	出土遺物	種類	器形	法面 長17.2/幅19.1/厚2.1/重7kg	部位	種類所見(変形・調整・欠損)	出土	参考
	19	地蔵堂遺跡	SE-1	石造物	五輪塔	高さ約 13.0	頂部 外輪一輪	ロコ模様	中空幅、長石	
	20	地蔵堂遺跡	SP6	土器	壺	7.0	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
	21	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	7.0	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、長石、石英	
151	21	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	7.0	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
151	22	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	7.0	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
151	23	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	7.0	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
151	24	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	5.7	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
151	25	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	5.7	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
151	26	地蔵堂遺跡	活	土器	壺	5.7	底部 内輪一輪	ロコ模様	中空幅、金環付、赤色粒子、長石、石英	
1	1	下丁道跡	SD-1	土器	壺	14.4	肩部～腹部 内輪一輪	外輪ラックツメ根付方ナメ、外輪系部、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
2	2	下丁道跡	SD-4	土器	壺	6.0	口縁	内輪ミガナ・外輪ナメ、口縁外側に刺繡	斜、素・白・墨色粒子	
3	3	下丁道跡	SD-4	土器	壺	6.0	口縁	外輪方ナメ、内輪ナメ、口縁ナメヘタケナメ、孔	斜、素・白・墨色粒子	
4	4	下丁道跡	SD-4	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
5	5	下丁道跡	SD-4	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
6	6	下丁道跡	SD-5	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
7	7	下丁道跡	SD-5	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
8	8	下丁道跡	SD-5	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
9	9	下丁道跡	SD-5	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
10	10	下丁道跡	SD-5	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
154	11	下丁道跡	SD-6	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
12	12	下丁道跡	SD-6	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	所々スズ付着
13	13	下丁道跡	SD-6	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
14	14	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
15	15	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
16	16	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
17	17	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
18	18	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
19	19	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
20	20	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
21	21	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
22	22	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
23	23	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
24	24	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
25	25	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
26	26	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
155	27	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
28	28	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
29	29	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
30	30	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
31	31	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	
32	32	下丁道跡	SD-7	土器	壺	6.0	口縁	外輪ナメナメ、内輪ナメ	斜、素・白・墨色粒子	

図 No	施号	出土地點	種別	器形	口径	器高	底径	法面(cm)	縦横	部位	縦横見(実形・側面・文様)		削土	備考
									外寸	内寸	底径	外寸	内寸	
33		十丁道跡	SD-3	土師器	高杯	—	(8.2)	底盤	外寸子・ヘケズリ・引鉢底板、内面ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
34		十丁道跡	SD-3	土師器	高杯	—	(8.4)	底盤	外寸ナデ・ヘナチ、内面ナデ・ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
35		十丁道跡	SD-3	土師器	高杯	—	7.0	底盤	外寸ナデ・ヘナチ、内面ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
36		十丁道跡	SD-3	土師器	高杯	—	—	底盤	内面凹底板、4孔	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
37		十丁道跡	SD-3	土師器	高杯	—	(9.7)	底盤	外寸ヘナチ・ミガチ・内面ナデ・ハラチ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
38		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	9.4	—	口縁～底盤	内面凹底板	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
39		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	片唇	内外面ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
40		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(7.2)	—	所感の底部	内外面ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
155	41	十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(10.5)	9.9	11.1	口縁～底盤	内面口縁凹底板3孔、3耳	やや幅、深幅、白・赤色粒子			
42		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(14.8)	—	口縁～底盤	輪郭堅厚、外縁ミガキ	やや幅、金銀母、黄石、赤色粒子				
43		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	—	4.1	口縁～底盤	内面口縁凹底板3孔、輪郭堅厚	やや幅、金銀母、黄石、赤色粒子				
44		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	—	6.3	口縁～底盤	外寸口縁凹底板、輪郭堅厚3孔	やや幅、金銀母、黄石、赤色粒子				
45		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(10.4)	—	口縁～底盤	外寸口縁凹底板、輪郭堅厚3孔	やや幅、金銀母、黄石、赤色粒子				
46		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(11.4)	—	口縁～底盤	外寸ヘナチ・ミガチ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
47		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(13.8)	—	口縁～底盤	内外面ナデ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
48		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(15.1)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
49		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(20.6)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
50		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(27.2)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
51		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(24.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
52		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(21.6)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
53		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(15.4)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
54		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(13.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
55		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
56		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(8.0)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
57		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
58		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
59		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	口縁～底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
60		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(6.2)	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
61	14-25	十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.2)	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
62		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(10.3)	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
63		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	8.5	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
64		十丁道跡	SD-3	土師器	高台	(9.8)	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
65		十丁道跡	SD-4-5	土師器	高台	—	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
66		十丁道跡	SD-4-5	土師器	高台	—	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
67		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	8.3	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
68		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	14.0	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
69		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	14.3	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
70		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	7.8	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
71		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	9.8	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				
72		十丁道跡	SD-4	土師器	高台	12.9	—	底盤	外寸ナデ・ハナ・ハタ・カガキ	やや幅、深幅、白・赤色粒子				

出土遺物目次表(11)

図 No	出 場 場 所 名	出 土 地 点	種 類	器 形	法 長 (cm)	口径 直径 (cm)	底 径 (cm)	部位	種類所見(変形、斑紋、文様)		施 工 者
									外 部 部 分	内 部 部 分	
73	十丁道場	SD-8	土師器	器台	—	—	—	外面部の底面	外面部ハナナ、内面部ガキ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
74	十丁道場	SD-5	土師器	器台	12.4	—	—	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部テラカゲリ、2孔	外面部ハナナ、内面部ミガキ、2孔	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
75	十丁道場	SD-6	土師器	高杯	—	—	—	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
76	十丁道場	SD-8	土師器	高杯	(23.0)	—	—	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
77	十丁道場	SD-6	土師器	器台	(18.8)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、3孔	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
78	十丁道場	SD-6	土師器	器台	(20.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、3孔	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
79	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(25.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部火	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
80	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(11.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ガキ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
81	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(14.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
82	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(11.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
83	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(26.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ハケ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
84	十丁道場	SD-8	土師器	片	(13.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
85	十丁道場	SD-6	土師器	器台	(18.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
86	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(19.4)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
87	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(16.4)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
88	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(16.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
89	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(13.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
90	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(12.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
91	十丁道場	SD-8	土師器	器台	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
92	十丁道場	SD-5	土師器	合付器	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
93	十丁道場	SD-6	土師器	合付器	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
94	十丁道場	SD-8	土師器	器台	7.0	—	—	底部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
95	十丁道場	SD-8	土師器	手付土器	3.5	2.5	—	底部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、内面部ハケ	白・赤・黒・金色粒子	白・赤・黒・金色粒子
96	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
97	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
98	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
99	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
100	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
101	十丁道場	SD-9	土師器	高杯	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
102	十丁道場	SD-9	土師器	器台	—	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
103	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
104	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
105	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(12.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ	—	—
106	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(18.4)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
107	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(18.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
108	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(18.4)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
109	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(13.2)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
110	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(18.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
111	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(16.4)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子
112	十丁道場	SD-9	土師器	器台	(18.0)	—	—	口縁部	外面部ハナナ、内面部ミガキ、3孔	白色粒子	白色粒子

図 No	出 品 番 号	出土場 所	種 別	器 形	法 寸 (cm)	特 徴	附 注	備 考
158	113 14-25	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 22.0	内外面ハケ、内面ナデ 外側ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
114	-	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
115	-	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
116	-	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 6.5	内外面ハケ、外側口沿部有施 内外面ハケ	やや粗 赤褐色子
117	-	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 10.4	内外面ハケ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
118	-	十丁須地	SD-9	土師器	壺	口縁～器底 10.4	内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
119	-	十丁須地	SD-10	土師器	器台	口縁～器底 16.0	内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
120	-	十丁須地	SD-10	土師器	器台	口縁～器底 15.4	内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
121	-	十丁須地	SD-10	土師器	壺	口縁～器底 15.4	内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
122	14-25	十丁須地	SD-10	土師器	壺	口縁～器底 14.2	内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施 内外面ハケ、内面ナデ、外側口沿部有施	やや粗 赤褐色子
123	-	十丁須地	SD-10	土師器	壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
124	-	十丁須地	SD-10	土師器	台付壺	口縁～器底 9.4	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
125	-	十丁須地	SD-10	土師器	台付壺	口縁～器底 9.5	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
126	-	十丁須地	SD-11	土師器	壺	口縁～器底 19.8	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿 内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
127	-	十丁須地	SD-11	土師器	壺	口縁～器底 14.2	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿 内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
128	-	十丁須地	SD-11	土師器	壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
129	-	十丁須地	SD-11	土師器	台付壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
130	-	十丁須地	SD-11	土師器	台付壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
131	-	十丁須地	SD-14	土師器	器台	口縁～器底 19.8	内外面ハケ、内面ナデ、34.5±0.2mmは不適 内外面ハケ、内面ナデ、34.5±0.2mmは不適	やや粗 赤褐色子
132	-	十丁須地	SD-14	土師器	壺	口縁～器底 19.8	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿 内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
133	-	十丁須地	SD-14	土師器	壺	口縁～器底 22.7	内外面ハケ、内面ナデ	やや粗 赤褐色子
134	-	十丁須地	SD-14	土師器	壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ	やや粗 赤褐色子
135	-	十丁須地	SD-14	土師器	台付壺	口縁～器底 17.0	内外面ハケ	やや粗 赤褐色子
136	-	十丁須地	SD-14	土師器	手拂土壺	口縁～器底 5.0	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿 内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
137	-	十丁須地	SD-23	土師器	壺	口縁～器底 13.6	内外面ハケ、内面ナデ、ミガキ、穿孔 内外面ハケ、内面ナデ、ミガキ、穿孔	やや粗 赤褐色子
140	138-14-25	十丁須地	SD-23	土師器	壺	口縁～器底 11.2	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿 内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
140	-	十丁須地	SD-23	土師器	台付壺	口縁～器底 15.1	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
141	-	十丁須地	SD-23	土師器	壺	口縁～器底 15.1	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
142	-	十丁須地	SD-24	土師器	台付壺	口縁～器底 8.6	内外面ハケ、内面ナデ、外側指沿	やや粗 赤褐色子
143	-	十丁須地	SD-25	石器品	全長15.1/厚4.3/重150g	口縁～器底 14.8	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
144	-	十丁須地	SD-24	土師器	壺	口縁～器底 27.6	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
145	-	十丁須地	SD-24	土師器	板口壺	口縁～器底 27.6	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
146	-	十丁須地	-15	土師器	壺	口縁～器底 19.8	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
147	-	十丁須地	-15	土師器	台付壺	口縁～器底 27.6	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
148	-	十丁須地	-15	土師器	板口壺	口縁～器底 27.6	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
149	148-14-25	十丁須地	-15	土師器	壺	口縁～器底 19.8	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
150	-	十丁須地	-15	土師器	壺	口縁～器底 15.5	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
151	-	十丁須地	-15	土師器	壺	口縁～器底 4.5	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子
152	-	十丁須地	-15	土師器	壺	口縁～器底 15.5	内外面ハケ、内面ナデ、指沿	やや粗 赤褐色子

No.	編 番	出土場	出土点	種別	手標	法面 (cm)	寸幅 高 底径	経度	測定 所見(底形、頂形、文様)	測定 所	備考
153	-	十ヶ浦	-	土器	手標土器	2.5	1.5	7.1	平行 小口付、口内切妻、底面斜面有り	中央部、赤色胎子	
154	-	十ヶ浦	-	土器	土器	12.5	10.2	5.6	平行 小口付、口内切妻、底面斜面有り	中央部、赤色胎子、長石、小石	
155	14-25	十ヶ浦	-	土器	土器	10.2	10.0	5.0	平行 小口付、口内切妻、底面斜面有り	中央部、黒斑母、長石	
156	-	十ヶ浦	-	土器	土器	10.0	10.0	5.0	平行 小口付、口内切妻、底面斜面有り	中央部、赤色胎子、長石	
157	-	十ヶ浦	-	土器	土器	10.7	2.1	5.4	平行 小口付、口内切妻、底面斜面有り	中央部、赤色胎子、小石	口縁底面化粧付
158	-	十ヶ浦	-	木胎品	木胎品	長38.9 幅13.3 厚1.4				片頭の手元付有り	
167	1 14-2	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (6.0)	6.0	6.0	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、長石	
168	2	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (5.0)	5.0	5.0	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	
1	-	大手下-武田山下町通	SK-1	土器	土器	直 (5.0)	5.0	5.0	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
2	-	大手下-武田山下町通	C-10区	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
3	-	大手下-武田山下町通	F区	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
4	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (10.0)	(8.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
5	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (12.0)	(8.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
6	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (8.0)	(5.0)	(5.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
170	7 14-25	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
9	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (10.0)	(8.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
10	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (12.0)	(8.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
11	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (8.0)	(5.0)	(5.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
12	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
13	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
14	-	大手下-武田山下町通	-	土器	土器	直 (6.0)	(5.0)	(5.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
1	2	大手下-武田山下町通	S01	土器	土器	直 (5.0)	(4.0)	(4.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	
3	-	大手下-武田山下町通	七ヶ10	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	
173	4 14-30	大手下-武田山下町通	七ヶ15	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
5	-	大手下-武田山下町通	七ヶ16	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
6	-	大手下-武田山下町通	七ヶ16	土器	土器	直 (5.0)	(4.0)	(4.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
7	-	大手下-武田山下町通	七ヶ16	土器	土器	直 (10.0)	(7.0)	(6.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
176	2 14-35	武田山下町通	武田山下町通	土器	土器	直 (7.0)	(5.0)	(5.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
4	-	武田山下町通	-	土器	土器	直 (5.0)	(4.0)	(4.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
1	-	武田山下町通	2号磐石	土器	土器	直 (3.0)	(2.0)	(2.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
2	-	武田山下町通	2号磐石	土器	土器	直 (3.0)	(2.0)	(2.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
179	4 14-35	武田山下町通	5	磁器	磁器	直 (7.0)	(6.0)	(4.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
6	-	武田山下町通	6	磁器	磁器	直 (6.0)	(3.5)	(3.5)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合
7	-	武田山下町通	7	磁器	磁器	直 (6.0)	(4.0)	(4.0)	平行 小口付、口内切妻	中央部、赤色胎子、系縄子、系石、石英	手縫縫合

図 No	出 発 場 名	出 土 地 点	種 類	器 形	法 長 (cm)	幅 径 (cm)	厚 径 (cm)	被 覆 材 料		備 考
								口縁	底	
8	武田城下町通路		陶器	碗	11.2	5.0	3.0	窄穴形	素村	新石
9	武田城下町通路		陶器	碗	12.5	4.3	3.7	窄穴形	素村	新石
10	武田城下町通路		陶器	碗	12.3	5.3	4.2	窄穴形	素村	新石
11	武田城下町通路		陶器	浅盘	5.8	6.7	4.1	口縁一輪	素村	新石
179	武田城下町通路		陶器	浅盘	23.9	6.6	1.2	口縁一輪	素村	新石 底面に墨
12	武田城下町通路		陶器	圆				口縁一輪	素村	新石
13	武田城下町通路		陶器	圆				口縁一輪	素村	新石
14	武田城下町通路		陶器	盆				口縁一輪	素村	新石
15	武田城下町通路		陶器	盆	16.2	6.5	6.4	口縁一輪	素村	新石
16	武田城下町通路	漆器刷毛1	土器	圆				小口付一輪	ロクロ底、内面糊付	深
190	1 14-44	武田城下町通路	漆器刷毛1	土器	圆	8.7	1.8	4.0	休唇一輪	小口付一輪
190	2	武田城下町通路	漆器刷毛1	土器	圆	8.7	1.8	4.0	休唇一輪	小口付一輪
206	1 14-56	武田城下町通路	漆器	?	?			直唇	内外面糊付	漆
1	天神北通路	里番区1	陶器	浅盘				直唇	内外面糊付	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
2	天神北通路	里番区1	土器	圆				休唇一輪	内外面糊付、内面繪文	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
3	天神北通路	里番区1	陶器	圆				直唇?	外表面糊	やや粗
4	天神北通路	里番区1	陶器	圆	(11.1)			口縁一休唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
5	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
6	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
210	6 14-58	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘			直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
7	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
8	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
9	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
10	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
11	天神北通路	里番区2	陶器	浅盘				直唇	外表面糊	やや粗、金葉裏絵、灰石、石英
1	2 14-59	天神西通路	土器	盆				口縁四脚	内面糊付	やや粗、黑空模、赤色绘、灰石、石英
2	天神西通路	土器	盆	?				直唇	口縁四脚、外腹ハナ	やや粗、黑空模、赤色绘、灰石、石英
3	天神西通路	土器	盆	?				直唇	口縁四脚	やや粗、黑空模、赤色绘、灰石、石英
1	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ	やや粗、赤色绘子、石英
2	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ	やや粗、赤色绘子、石英
3	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ	やや粗、赤色绘子、石英
4	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、2脚	やや粗、赤色绘子、石英
5	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
6	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
7	船山通路	A区1号溝	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、2脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
223	8 14-65	船山通路	土器	高杯	9.3			口縁一輪	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
9	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
10	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
11	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
12	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
13	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ、内面ナナフ、3脚	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
14	船山通路	A区	土器	高杯	16.0			直唇	外腹カブリナナフ	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英
15	船山通路	A区	土器	高杯				直唇	外腹カブリナナフ	やや粗、金葉日、赤色绘子、石英

出土遺物整理表(15)

図	No.	組別	出土地点	地質	断面	深度	口径	蓋高	底径	部位	新潟所見(成形・調査・文様)		備考
											法面(m)	底面(m)	
	16		船山遺跡	A区	土師器	高环	(7.8)	1.5	7.8	外輪	外輪六ヶ所、内面ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石	
	17		船山遺跡	A区	土師器	高环	(9.7)	1.5	9.7	外輪	外輪六ヶ所、内面ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石	
	18		船山遺跡	A区	土師器	高环	(10.2)	1.5	10.2	外輪	内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石	
	19		船山遺跡	A区	土師器	器台	(10.2)	1.5	10.2	口沿	一帯輪	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ケツリ	
	20		船山遺跡	A区	土師器	小型壺	(17.7)	1.5	17.7	口沿	一帯輪	外輪六ヶ所ナナフ	
	21		船山遺跡	A区	土師器	小型壺	7.6	5.2	4.4	口沿	一帯輪	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	
	22		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	12.8	7.8	7.8	口沿	一帯輪	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ、S字彫	
223	23	14-65	船山遺跡	A区	土師器	台付壺	10.4	18.1	8.2	口沿	一帯輪	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ、S字彫	
	24		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	(11.0)	1.5	11.0	脚部	ハンドルナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	25		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	(9.8)	1.5	9.8	脚部	ハンドルナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	26		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	9.4	1.5	9.4	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石、石英	
	27		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	9.6	1.5	9.6	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	28		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	7.6	1.5	7.6	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	29		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	5.4	1.5	5.4	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	30		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	7.2	1.5	7.2	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石、石英	
	31		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	(7.6)	1.5	7.6	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	32		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	—	—	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	33		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	—	—	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	34		船山遺跡	A区	土師器	台付壺	(15.8)	1.5	15.8	口部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	35		船山遺跡	A区	土師器	要	(20.0)	—	—	口部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	36		船山遺跡	A区	土師器	要	(13.8)	—	—	口部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石、石英	
	37		船山遺跡	A区	土師器	要	(20.0)	—	—	口部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	38		船山遺跡	A区	土師器	要	(13.4)	—	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	39		船山遺跡	A区	土師器	要	—	—	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石、石英	
	40		船山遺跡	A区	土師器	小容器	7.9	4.7	9.6	内面輪ナナフ、指詰輪	内面輪ナナフ、指詰輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	41		船山遺跡	A区	土師器	小容器	8.1	4.6	3.6	口沿・底部	内面輪ナナフ、千筋輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	42		船山遺跡	A区	土師器	小容器	5.7	3.7	2.9	内面輪ナナフ、千筋輪	内面輪ナナフ、千筋輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	43	14-65	船山遺跡	A区	土師器	小容器	6.6	4.2	3.0	口沿・底部	外輪六ヶ所ナナフ、指詰輪、丁鉢輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	44		船山遺跡	A区	土師器	小容器	6.5	4.3	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	45		船山遺跡	A区	土師器	小容器	6.5	4.6	—	脚部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	46		船山遺跡	A区	土師器	小容器	6.7	4.5	—	脚部・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	47		船山遺跡	A区	土師器	小容器	8.0	4.5	—	脚部・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	48		船山遺跡	A区	土師器	小容器	7.0	5.0	—	口沿・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	49		船山遺跡	A区	土師器	小容器	8.3	5.0	4.7	口沿・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	50		船山遺跡	A区	土師器	小容器	8.0	5.2	4.4	口沿・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	51		船山遺跡	A区	土師器	小容器	7.3	4.7	—	口沿・底部	外輪六ヶ所ナナフ、手根輪	やや厚、金墨斑、灰石	
	52		船山遺跡	A区	土師器	小容器	—	—	—	脚部	内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、灰石	
	53		船山遺跡	A区	土師器	要	—	—	—	口沿	内面輪ナナフ、指詰輪	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石	
	54		船山遺跡	A区	土師器	要	—	—	—	脚部	内面輪ナナフ	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石	
	55		船山遺跡	A区	土師器	要	—	—	—	脚部	内面輪ナナフ、指詰輪	やや厚、金墨斑、赤色斑子、灰石	

出土遺物類別表(16)

番 号	器 名	出土遺跡	所在地	種類	器形	法面(m)	直径	厚さ	縦断測量(底面・頂面・穴)		出土	備考
									外側	内側		
36	釜	南山遺跡	八区	土師器	釜	8.4	8.4	8.4	口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、石英	
224	57 14-65	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(8.5)			口縫	内外側手平	やや幅、赤色粒子、長石	
58	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(8.0)			口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
59	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(9.0)			口縫	内外側手平	やや幅、赤色粒子、長石、石英		
60	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(8.0)			口縫	内外側手平	やや幅、赤色粒子、長石、石英		
61	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(8.1)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
62	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(8.1)			口縫	内外側手平	やや幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
63	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(10.2)			口縫	内外側手平	やや幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
64	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(10.5)			口縫	内外側手平	やや幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
65	南山遺跡	A区	土師器	有格口縫釜	(10.4)			口縫	内外側手平	やや幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
725	67 14-85	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石	
68	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石		
69	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石		
70	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
71	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石		
72	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石		
73	南山遺跡	A区	土師器	釜	(10.2)			口縫	内外側手平	中や幅、金雲母片、赤色粒子、長石、石英		
74	南山遺跡	B区1号住	土師器	小口鉢	(7.3)	4.2	6.7	口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石		
75	南山遺跡	B区1号住	土師器	小口鉢	(7.3)	4.2	6.7	口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
76	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
77	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
78	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
79	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
80	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
81	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
82	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
83	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
84	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
226	85 14-95	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环			口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
86	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
87	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
88	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
89	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
90	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
91	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
92	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
93	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
94	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		
95	南山遺跡	B区1号住	土師器	高环				口縫	内外側手平	中や幅、赤色粒子、長石、石英		

出土遺物綱索表(17)

國	No.	出土地點	出土地點	種類	器形	高度 (m)	部位	範例遺見(遺形・測量・文跡)		附註	備考
								口幅	底面		
226	96	尾山遺跡	尾山遺跡	土師器	环	3.0	(6.4)	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
97		尾山遺跡	尾山遺跡	土師器	环	(13.5)	4.1	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
1		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(12.6)	3.6	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
2		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(12.6)	3.6	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
3		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(12.6)	3.9	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
4		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(13.0)	3.6	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
5		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(12.6)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
6		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	环	(13.2)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
7		繩紋二日月遺跡	T-1	土師器	高环	12.7	3.5	10.6	口縫	口縫底	口縫底、底面
8		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	垂	(11.4)	32.5	3.8	口縫	口縫底	口縫底、底面
9		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	垂	(21.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
10		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	ミチコウ	(2.6)	2.8	2.4	口縫	口縫底	口縫底、底面
11		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	ミチコウ	(2.4)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
12		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	垂	16.6	13.6	7.8	口縫	口縫底	口縫底、底面
13		繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	垂	(11.8)	11.8	(9.0)	口縫	口縫底	口縫底、底面
235	14	繩紋二日月遺跡	T-1	土师器	垂	(20.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
15		繩紋二日月遺跡	T-1	須恵器	垂	(12.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
16		繩紋二日月遺跡	T-1	須恵器	垂	(10.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
17		繩紋二日月遺跡	T-1	須恵器	傾	(14.2)	4.4	10.4	口縫	口縫底	口縫底、底面
18		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	环	(16.4)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
19		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	环	(14.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
20		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	环	(9.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
21		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	垂	(35.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
22		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	垂	(8.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
23		繩紋二日月遺跡	T-3	土师器	垂	(7.8)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
24		繩紋二日月遺跡	T-3	須恵器	垂	(13.6)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
25		繩紋二日月遺跡	T-2	土师器	环	(18.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
26		繩紋二日月遺跡	T-2	土师器	环	(19.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
27		繩紋二日月遺跡	T-2	土师器	垂	(25.2)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
28		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	环	(13.6)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
29		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	仙林	(11.8)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
30		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	仙林	(12.8)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
31		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(18.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
32	33	繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(18.0)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面
236	34	繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(7.6)	—	瓶	瓶底	瓶底、底面	瓶底、底面
35		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(6.0)	—	瓶	瓶底	瓶底、底面	瓶底、底面
36		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(7.0)	—	瓶	瓶底	瓶底、底面	瓶底、底面
37		繩紋二日月遺跡	T-4	土师器	垂	(21.4)	—	口縫	口縫底	口縫底、底面	口縫底、底面



13-3 朝氣遺跡(B グリッド西壁)



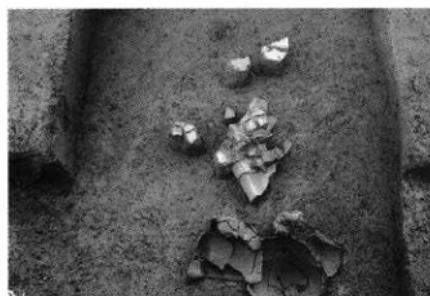
13-9 武田城下町遺跡(T1・T2)



13-5 朝氣遺跡(TR 2)



13-10 甲府城下町遺跡(東壁)



13-5 朝氣遺跡(TR 2)



13-11 甲府城下町遺跡



13-5 朝氣遺跡(TR 2、銀環出土状況)



13-16 塩部遺跡(TP 2)



13-18 地蔵北遺跡(遠景)



13-18 地蔵北遺跡(トレンチ2全景)



13-18 地蔵北遺跡(井戸2)



13-18 地蔵北遺跡(土坑墓)



13-18 地蔵北遺跡(トレンチ3)



13-19 大手下・武田城下町遺跡



13-20 武田城下町遺跡



13-22 武田城下町遺跡(南北トレンチ)



13-29 武田城下町遺跡(北壁)



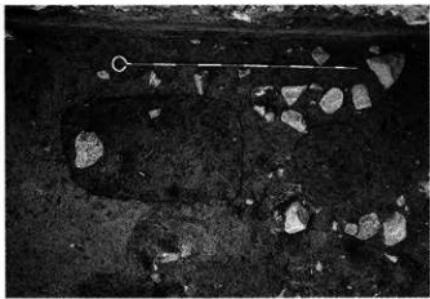
13-31 武田城下町遺跡(試掘坑3造構確認状況)



13-30 武田城下町遺跡(全景西から)



13-32 武田城下町遺跡



13-31 武田城下町遺跡(試掘坑3造構確認状況)



13-34 武田城下町遺跡(石組み確認状況)



13-35 武田城下町遺跡(井戸跡検出状況)



13-38 水井遺跡



13-39 八幡東遺跡



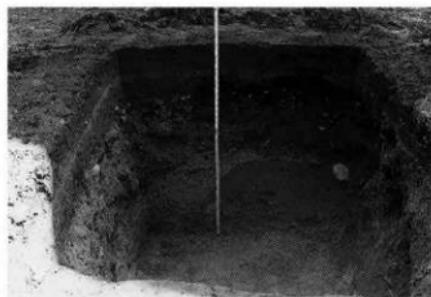
13-40 平石遺跡(T-2西壁)



13-40 平石遺跡(T-6南壁)



13-40 平石遺跡(完掘)



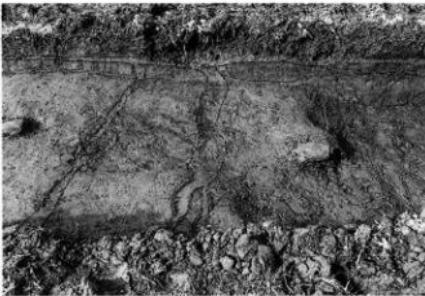
13-41 富士見遺跡(深堀り部分東壁)



14-1 朝氣遺跡(Bグリッド北壁)



14-5 金塚西遺跡



14-7 上町天神遺跡



14-8 上町天神遺跡(トレンチ1・西壁)



14-9 亀田遺跡(小豎穴・西壁)



14-11 新紺屋小学校・甲府城下町遺跡(TPE)



14-11 新紺屋小学校・甲府城下町遺跡(TPD)



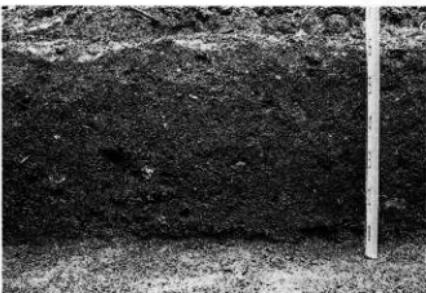
14-11 新紺屋小学校・甲府城下町遺跡(SD11遺物出土状況)



14-12 甲府城下町遺跡(SD1・3)



14-12 甲府城下町遺跡(全景)



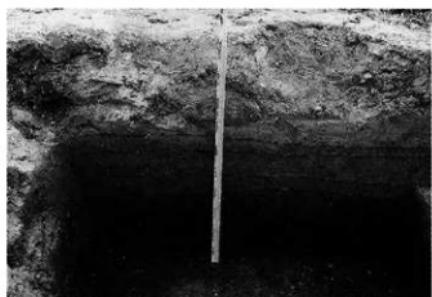
14-13 甲府城下町遺跡



14-13 五本松遺跡



14-19 幸町 A 遺跡(調査区・西壁)



14-22 塩部遺跡(トレンチ1・深掘)



14-24 地蔵北遺跡(溝2全景)



14-25 十丁遺跡



14-25 十丁遺跡



14-25 十丁遺跡



14-25 十丁遺跡



14-26 十丁遺跡(TP 2)



14-27 砂間遺跡(トレンチ 2)



14-29 大手下・武田城下町遺跡(拡張区)



14-28 大手下・武田城下町遺跡(溝状構造、穴掘)



14-29 大手下・武田城下町遺跡(トレンチ中央)



14-30 大手下・武田城下町遺跡(トレンチ 1)



14-30 大手下・武田城下町遺跡(トレンチ1・SD2出土遺物)



14-32 武田城下町遺跡(南壁)



14-33 武田城下町遺跡(グリッド西壁)

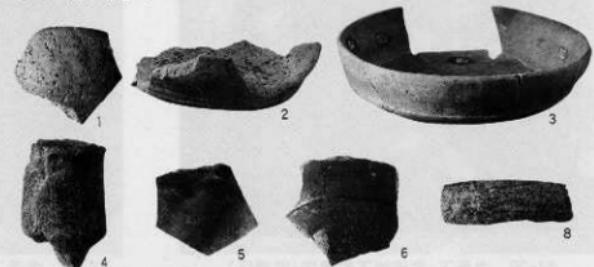


14-48 武田城下町遺跡(西グリッド)

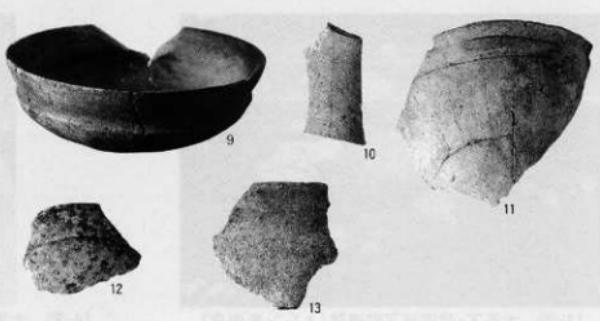
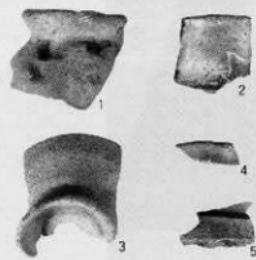
13-1 朝氣遺跡



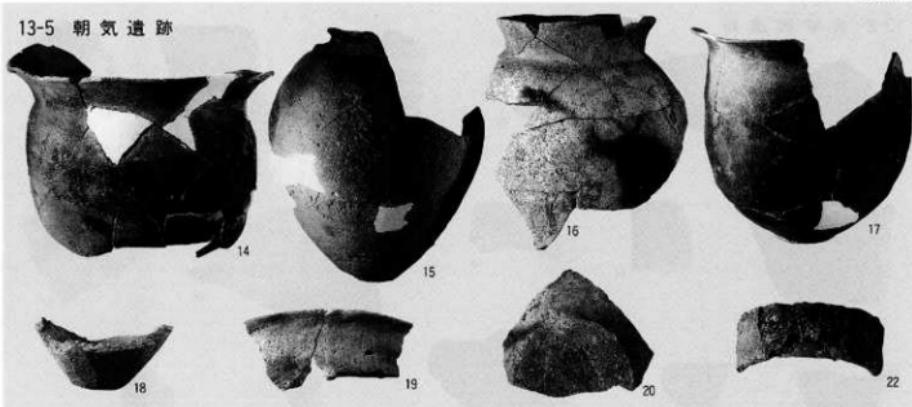
13-5 朝氣遺跡



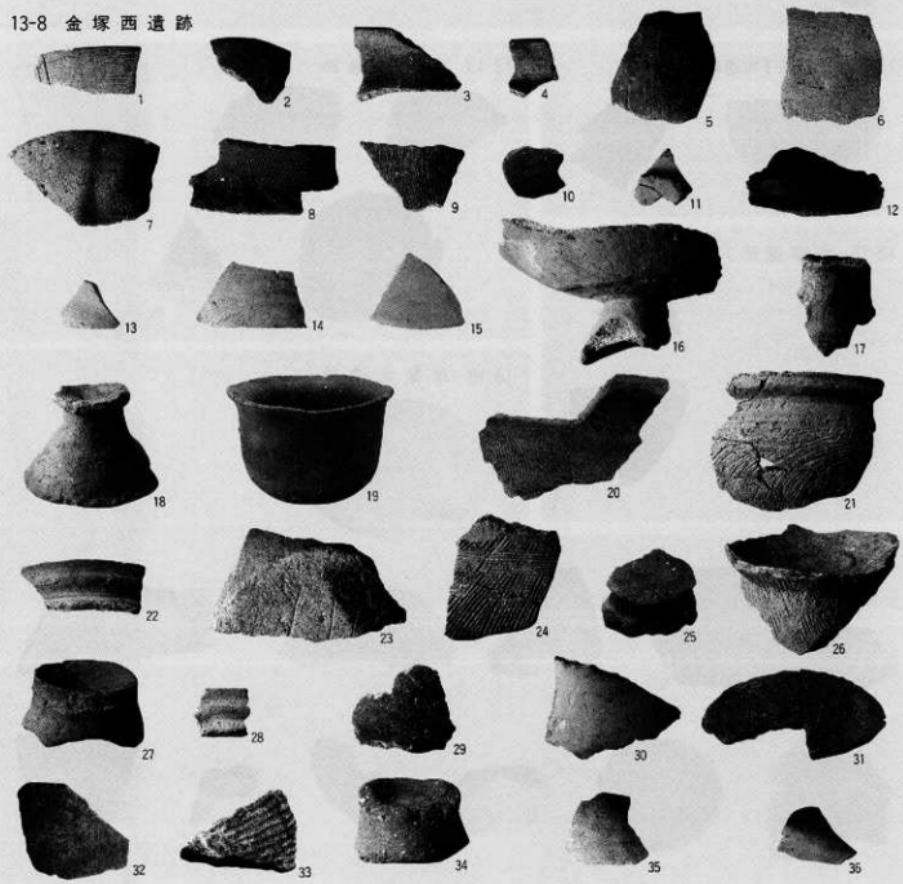
13-3 朝氣遺跡



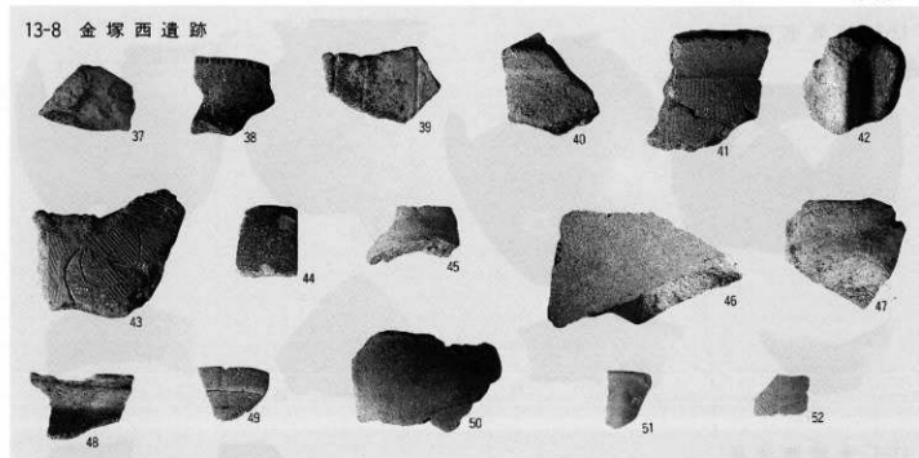
13-5 朝氣遺跡



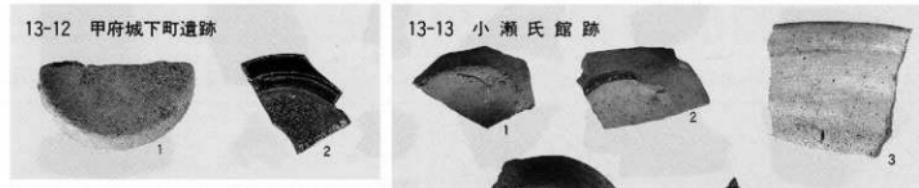
13-8 金塚西遺跡



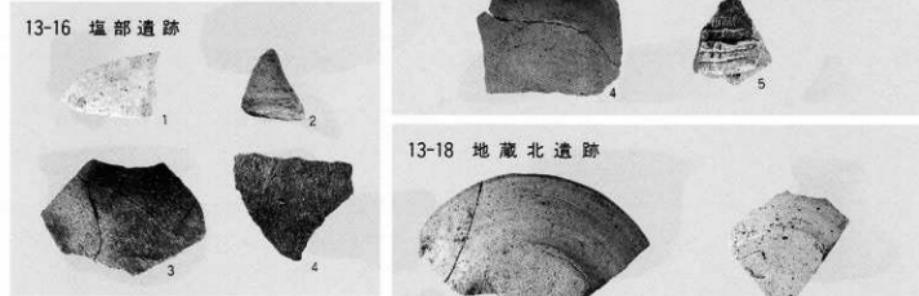
13-8 金塚西遺跡



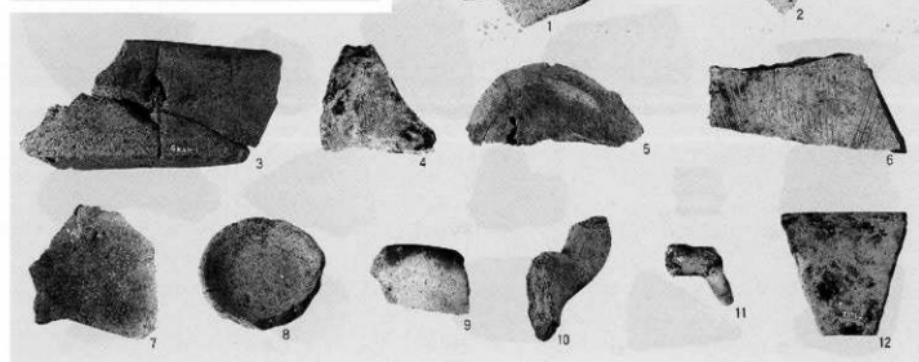
13-12 甲府城下町遺跡



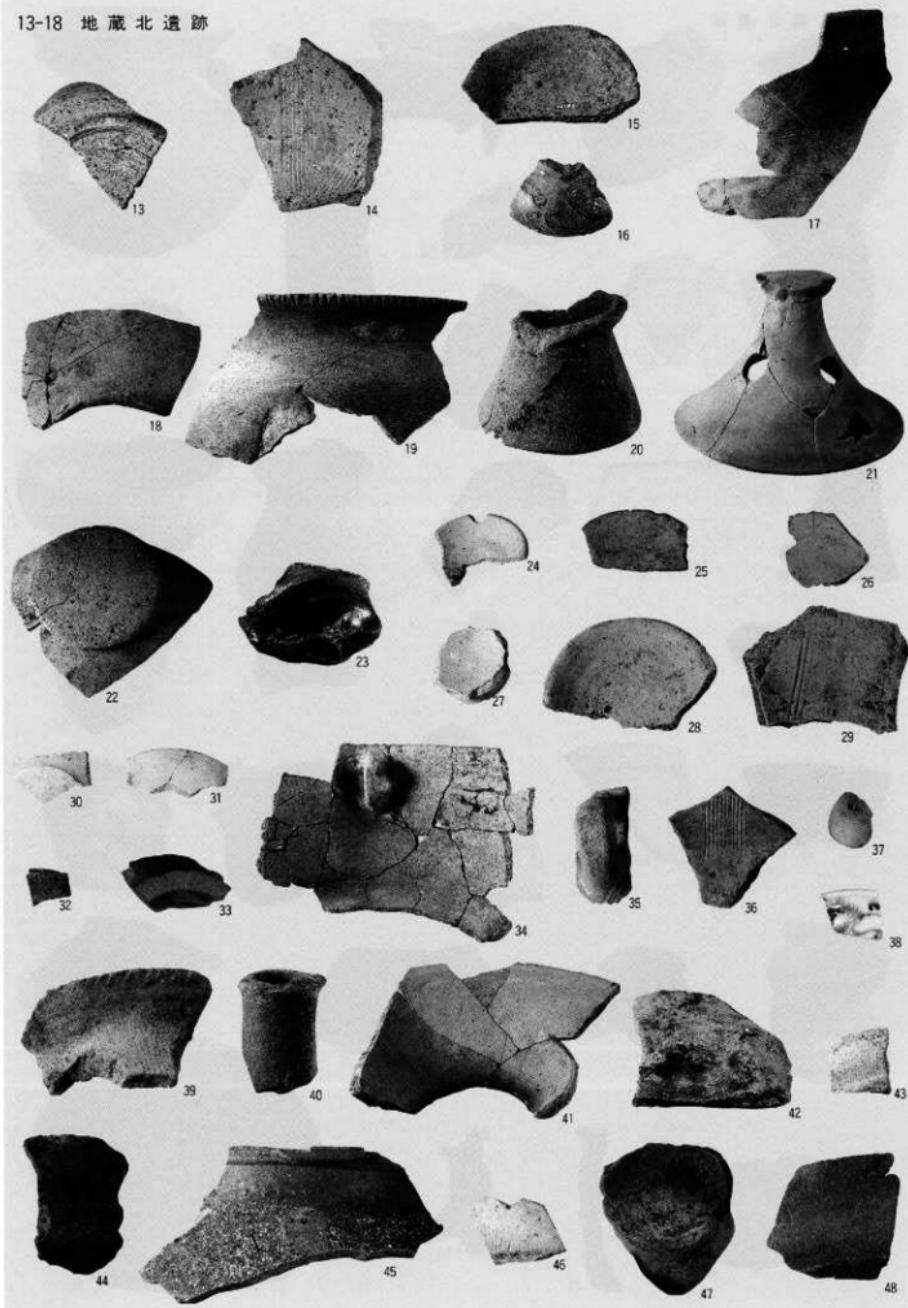
13-16 塩部遺跡



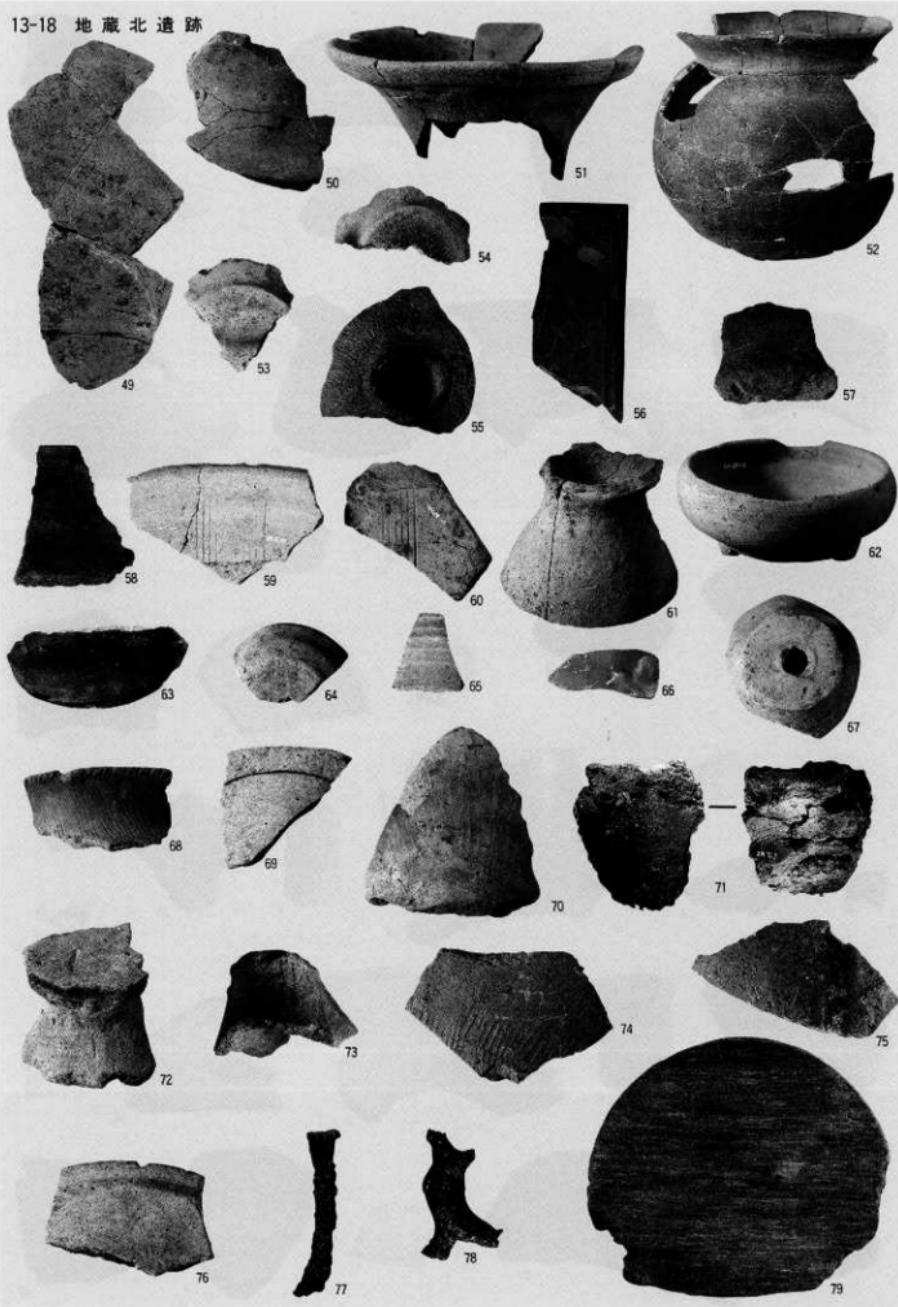
13-18 地蔵北遺跡



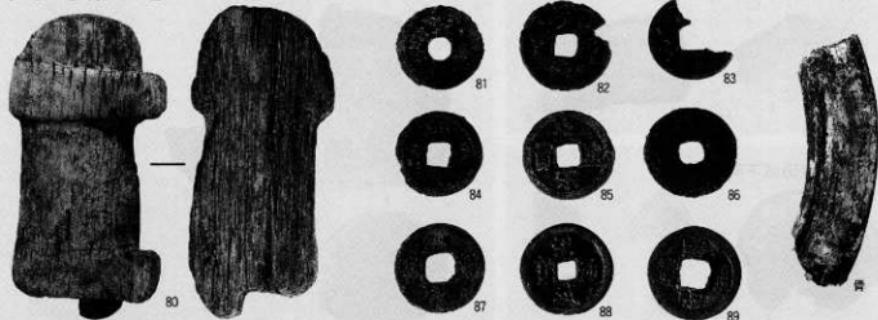
## 13-18 地藏北遺跡



13-18 地藏北遺跡



13-18 地藏北遺跡



13-20 武田城下町遺跡



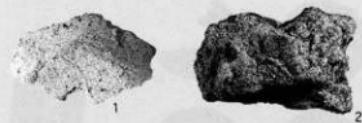
13-23 武田城下町遺跡



13-22 武田城下町遺跡



13-25 武田城下町遺跡



13-28 武田城下町遺跡



13-34 武田城下町遺跡



13-35 武田城下町遺跡



13-37 永井遺跡



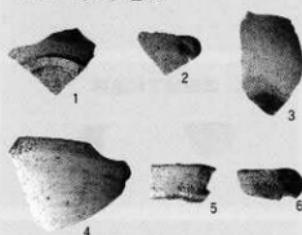
13-39 八幡東遺跡



13-41 富士見遺跡



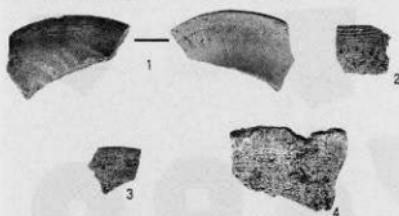
13-43 本郷遺跡



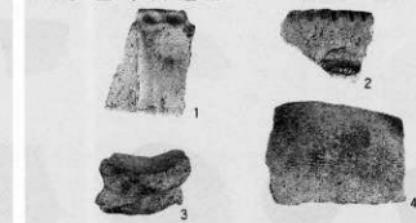
13-45 横根久保田遺跡



14-1 朝氣遺跡



14-5 金塚西遺跡



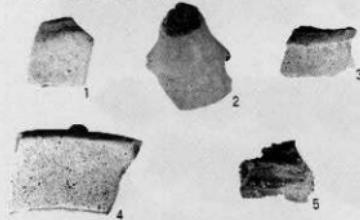
14-3 居村村上遺跡



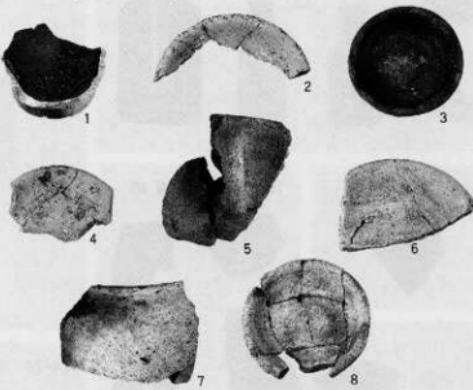
14-8 上町天神遺跡



14-9 亀田遺跡



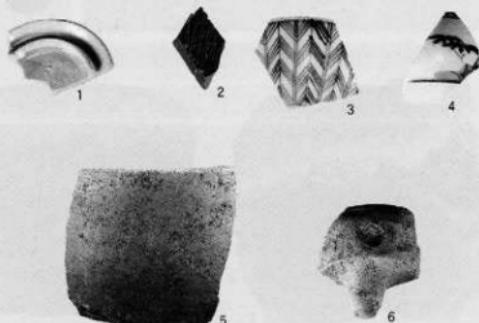
14-11 新紺屋小学校・甲府城下町遺跡



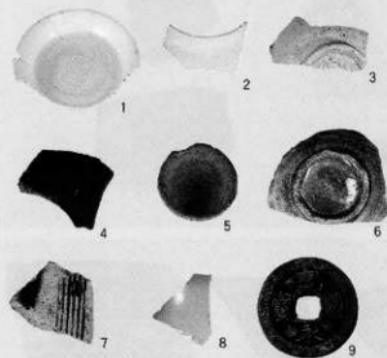
14-12 甲府城下町遺跡



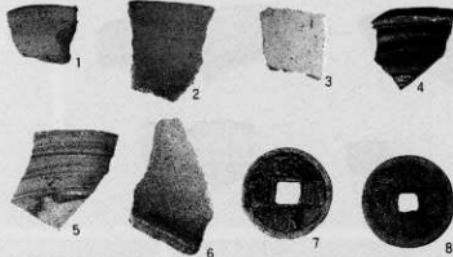
14-13 甲府城下町遺跡



14-14 甲府城下町遺跡



14-15 甲府城下町遺跡



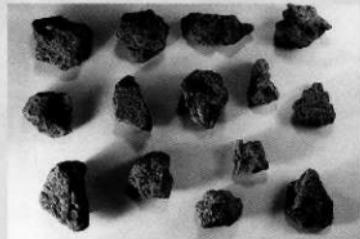
14-19 幸町A遺跡



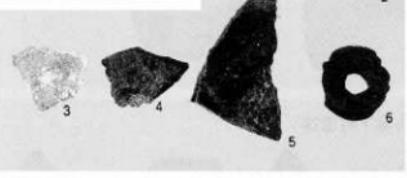
14-20 桜井畠遺跡



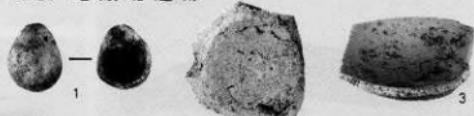
14-22 塩部遺跡



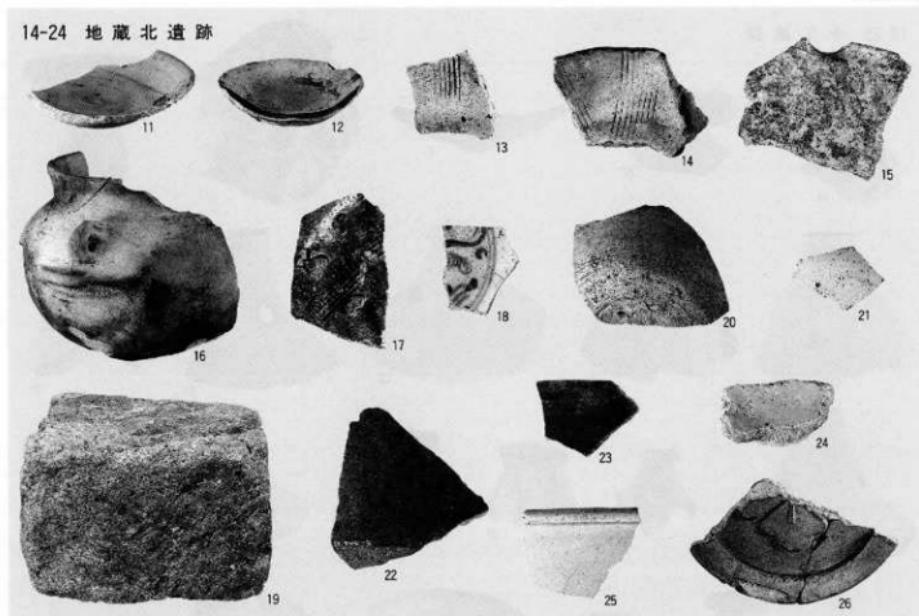
礫土



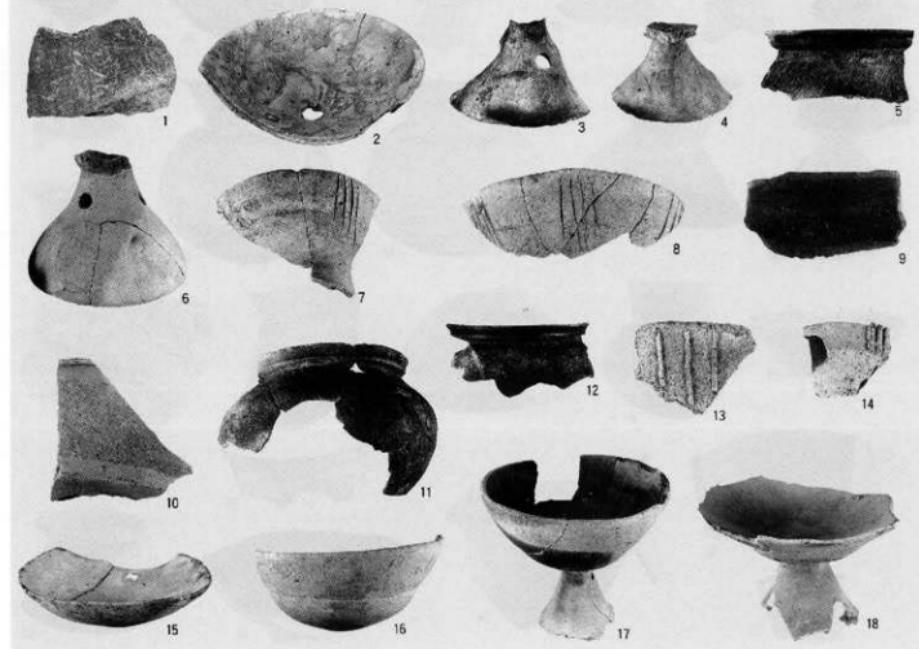
14-24 地藏北遺跡



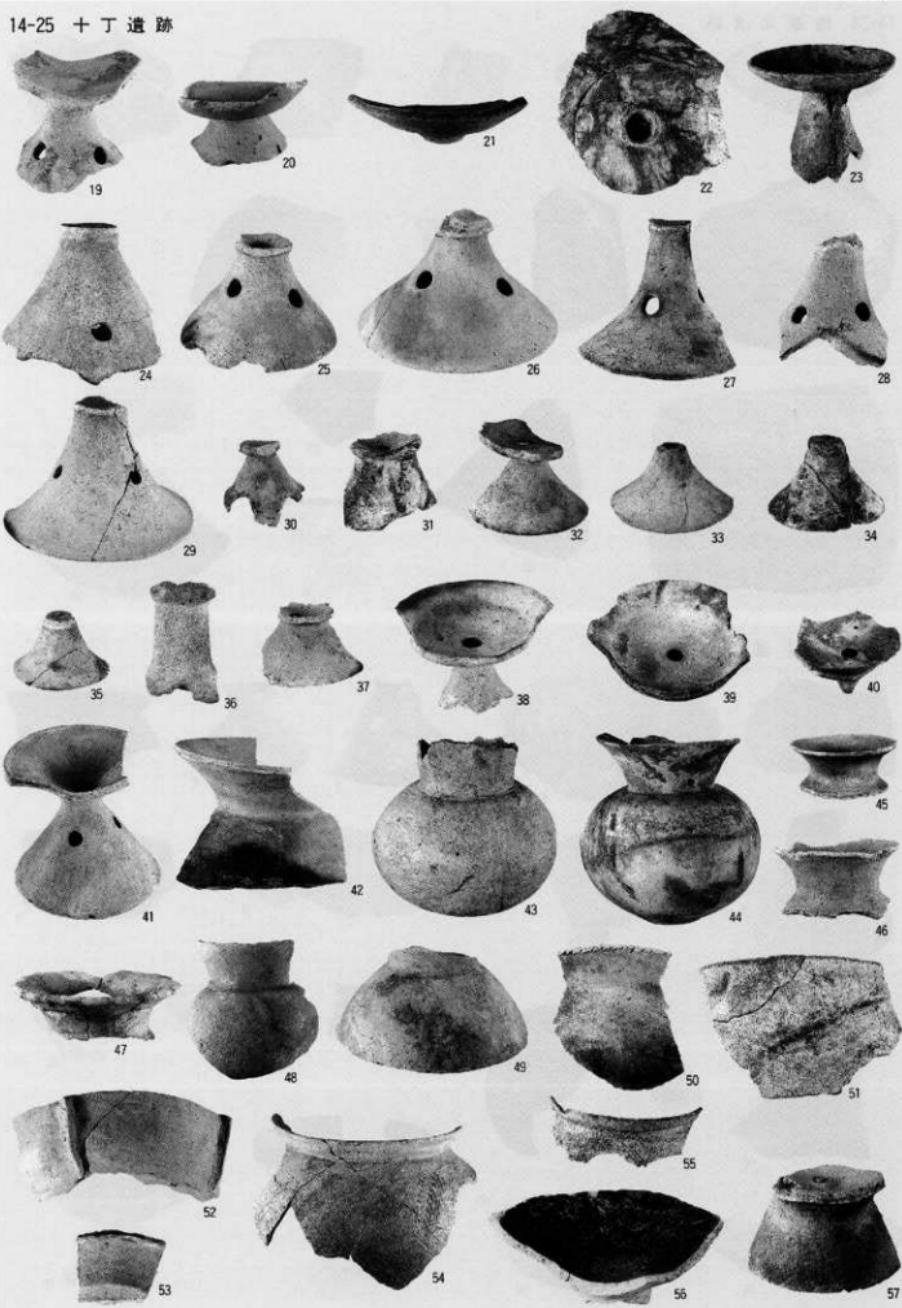
14-24 地藏北遺跡



14-25 十丁遺跡



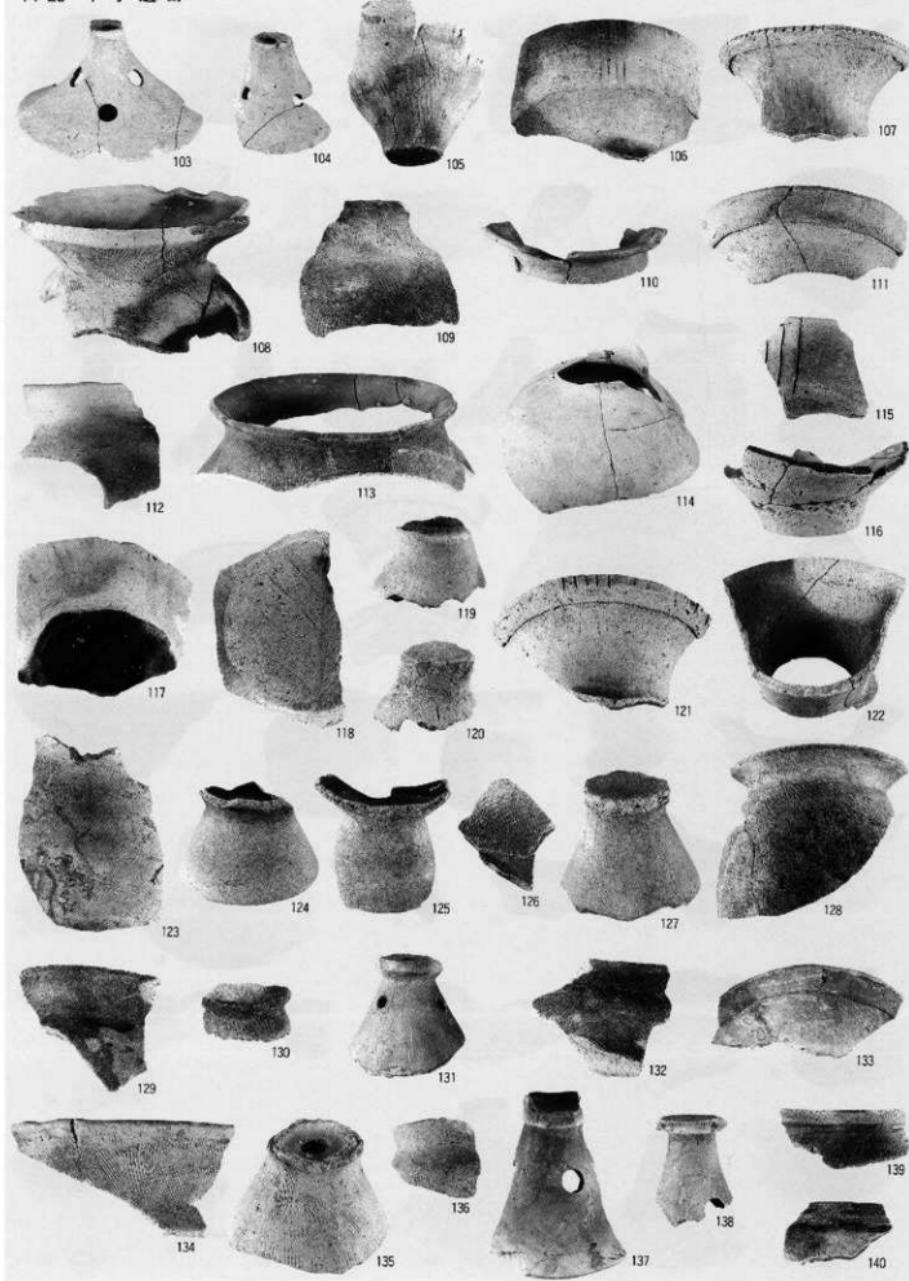
## 14-25 十丁遺跡



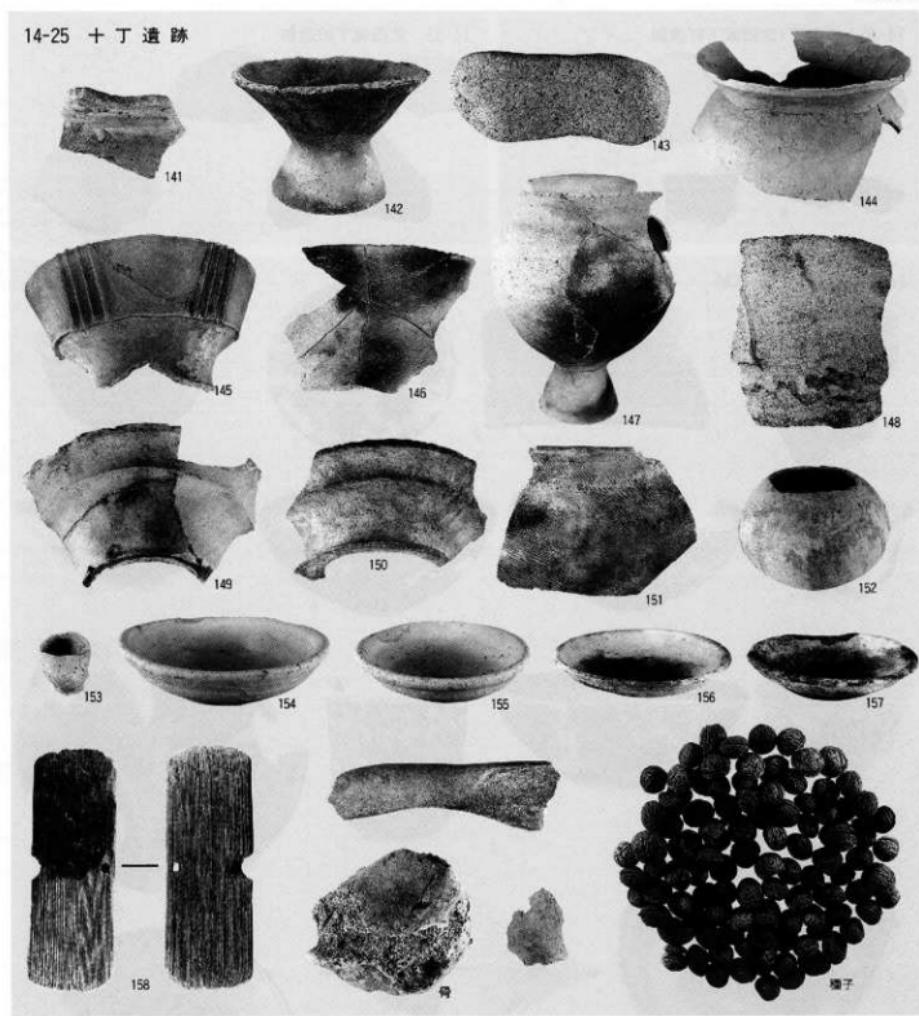
14-25 十丁遺跡



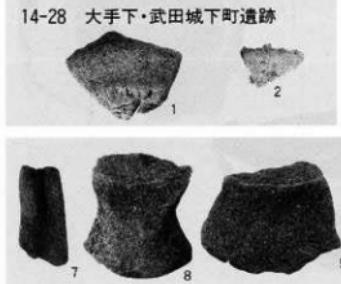
14-25 十丁遺跡



14-25 十丁遺跡



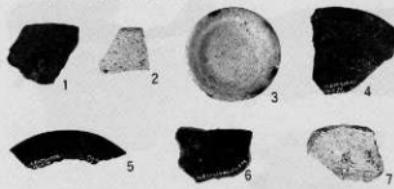
14-28 大手下・武田城下町遺跡



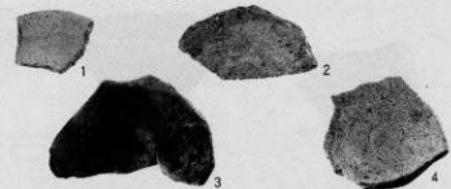
14-29 大手下・武田城下町遺跡



14-30 大手下・武田城下町遺跡



14-33 武田城下町遺跡



14-35 武田城下町遺跡



14-44 武田城下町遺跡



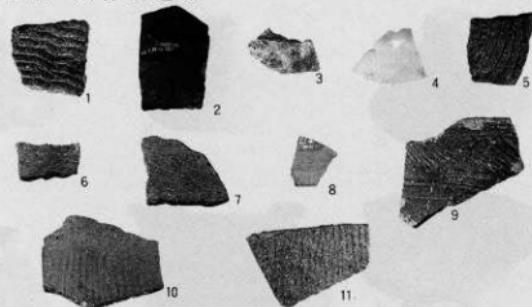
14-56 武田城下町遺跡



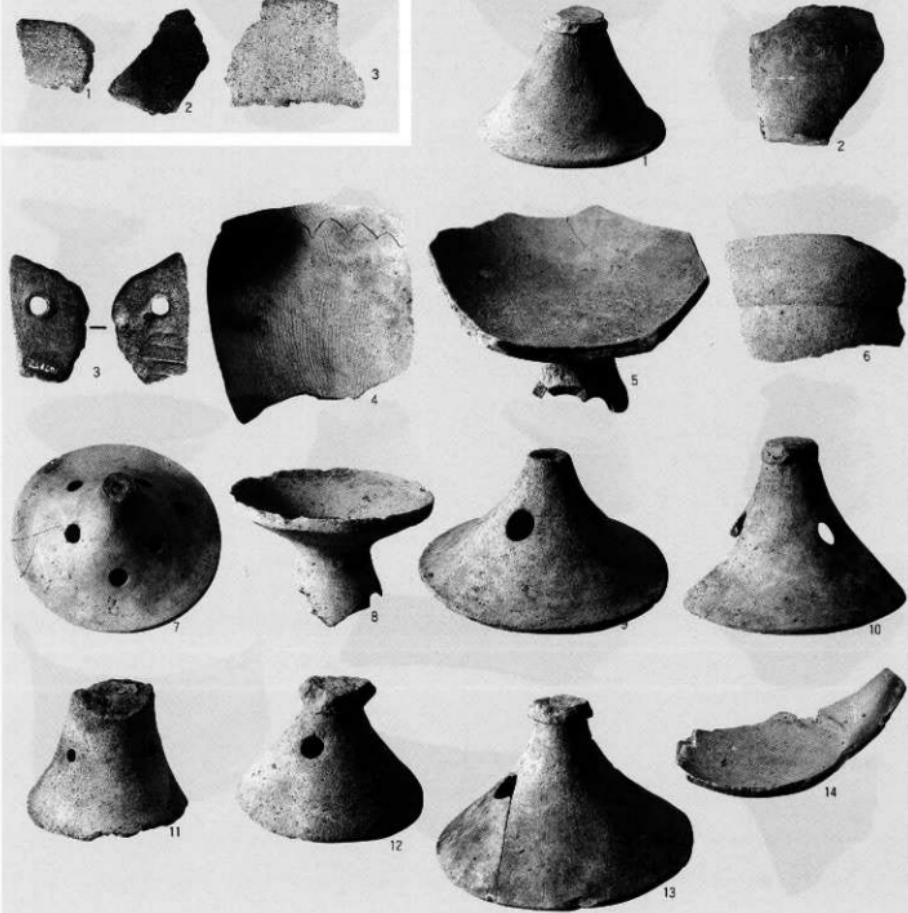
14-59 天神西遺跡



14-58 天神北遺跡



14-65 船山遺跡



## 14-65 船山遺跡



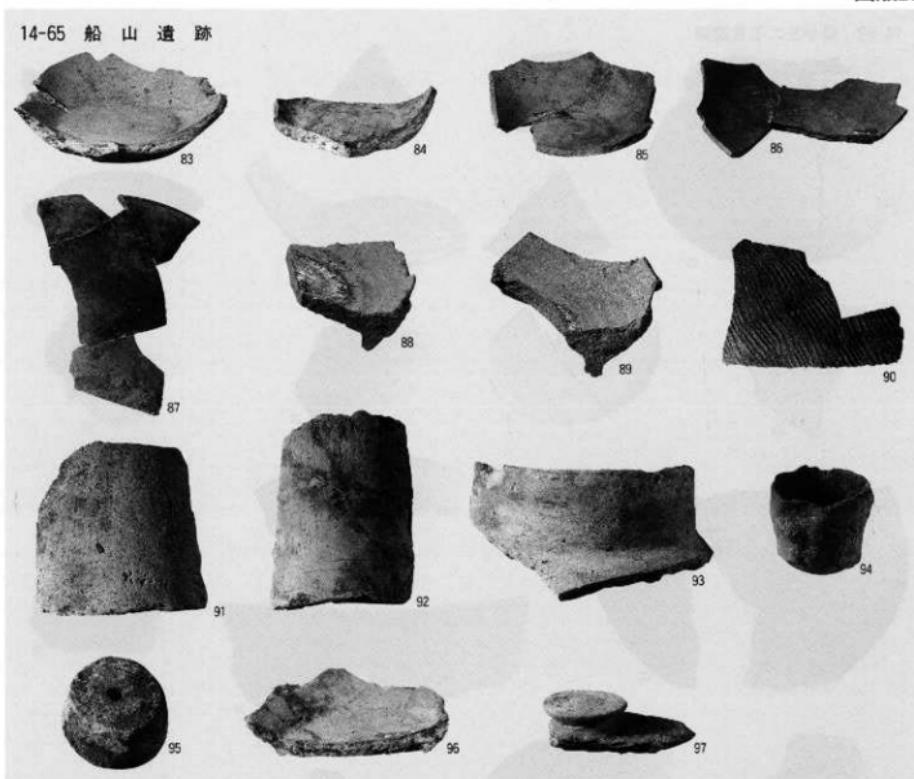
## 14-65 船山遺跡



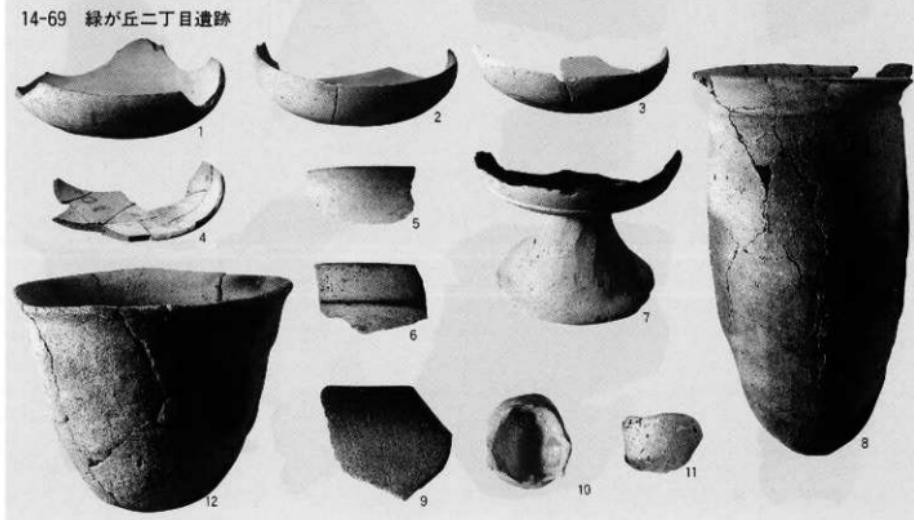
## 14-65 船山遺跡



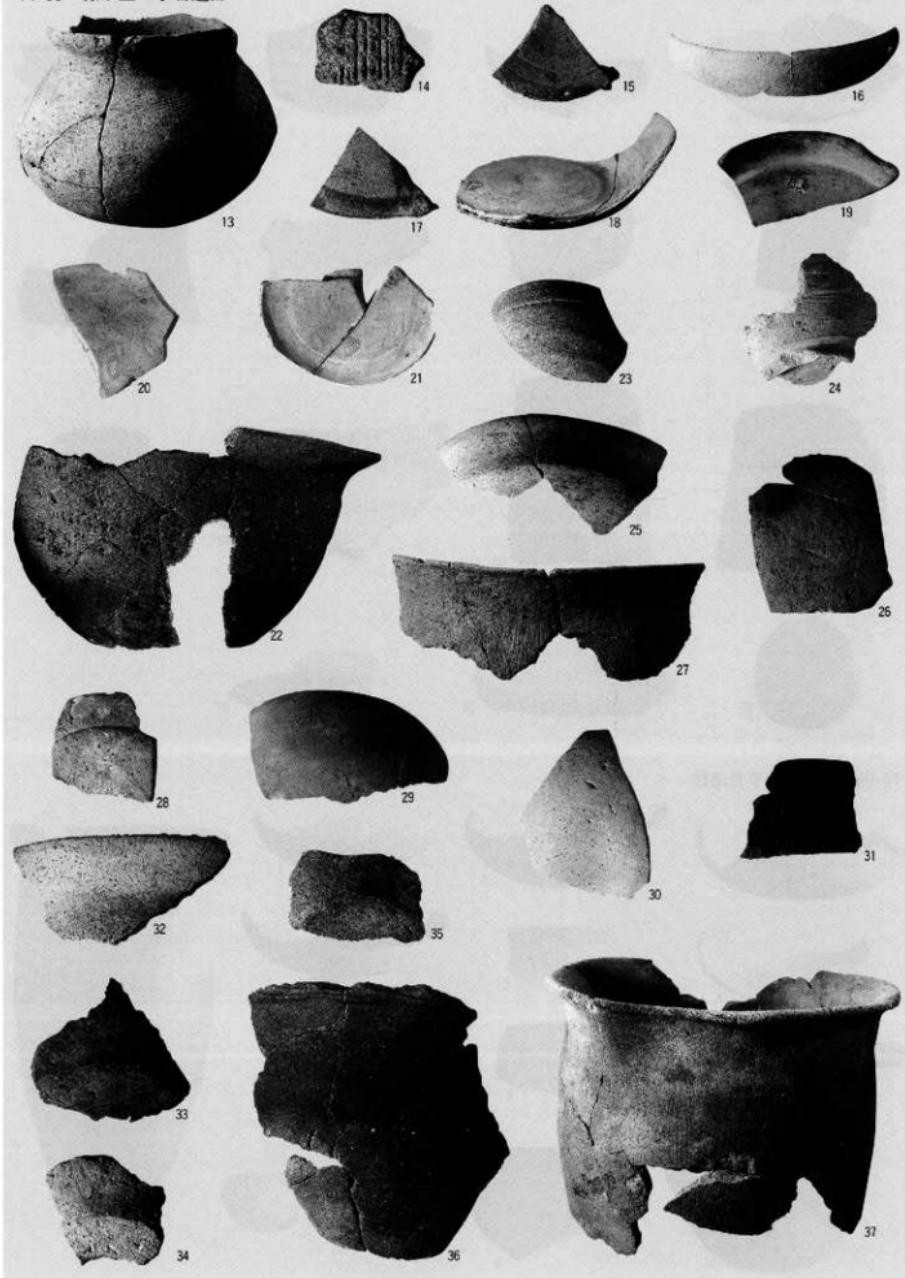
14-65 船山遺跡



14-69 緑が丘二丁目遺跡



14-69 緑が丘二丁目遺跡



## 報告書抄録

ふりがな	コウフシナイイセキ 6				
書名	甲府市内遺跡 VI				
副書名	平成13・14年度 試掘調査報告書				
次					
シリーズ名	甲府市文化財調査報告				
シリーズ番号	41				
編集機関	甲府市教育委員会				
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話055(223)7324				
発行年月	平成21年3月31日				
番号	フサナ	コード	北緯	調査期間	調査面積
ブリガナ	所在地	吉野村番号	東経		調査原因
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	
13-1	朝氣二丁目101-1 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安	柱穴	土器	113.6.12 4m <sup>2</sup>
13-2	朝氣二丁目244 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安			H13.7.9～7.23 8m <sup>2</sup>
13-3	朝氣二丁目214-1他 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安		土器・師器	H13.7.16～17.19 8m <sup>2</sup>
13-4	朝氣二丁目21-3 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安		土器	H13.9.20 5m <sup>2</sup>
13-5	朝氣二丁目50-1他 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安	溝跡・窓穴居	土器・鉢類	H14.1.16～1.29 100m <sup>2</sup>
13-6	朝氣二丁目180-5 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安	溝跡	土器	H14.2.4～2.5 8m <sup>2</sup>
13-7	朝氣二丁目298-3 朝氣遺跡 集落跡	縄文～平安	溝跡	土器	H14.2.25 4m <sup>2</sup>
13-8	千歳三丁目2242-3他 金坂西遺跡 散布地	縄文・古墳	堅穴住居・溝跡	土器・陶器	H14.3.5～3.27 156m <sup>2</sup>
13-9	千歳二丁目102 甲府城下町遺跡	近世	溝跡	土器	H13.4.5 27.6m <sup>2</sup>
13-10	千歳二丁目13 甲府城下町遺跡	近世	溝跡	土器	H13.8.8 4m <sup>2</sup>
13-11	丸の内一丁目237 甲府城下町遺跡	近世	溝跡	土器	H13.8.20 41m <sup>2</sup>
13-12	丸の内一丁目261 甲府城下町遺跡	近世	溝跡	土器	H14.1.25 10m <sup>2</sup>
13-13	小瀬町590-4 小瀬氏館跡	中世	溝跡	土器・陶器	H14.3.5～3.7 14m <sup>2</sup>
13-14	和戸町1325 後井畠遺跡	古生～平安	溝跡	土器	H14.2.13 20m <sup>2</sup>
13-15	黒吉二丁目786-3 里吉天神遺跡	古墳	古墳	土器	6m <sup>2</sup>
13-16	塙部二丁目572-3 塙部遺跡	弥生～平安	溝跡	土器	H13.11.14～11.15 10.2m <sup>2</sup>
13-17	鮑田一丁目2172-2 塙部遺跡	弥生～平安	溝跡	土器	H13.11.8 2.25m <sup>2</sup>
13-18	東光二丁目1743-1他 地蔵化遺跡	古墳	上坑窓・溝跡	土器・上部器・陶器	H13.6.25～7.24 310m <sup>2</sup>
13-19	大手二丁目3755 大手下遺跡	中世	溝跡	土器	H13.4.18 8m <sup>2</sup>
13-20	武田四丁目28他 武田城下町遺跡	縄文			個人住宅建設
	城下町	中世			寺院庫裏建設

番号 プリガナ 所取遺跡名	ブリガナ 所在地	ヨード 主な時代	北緯 市町村番号 東經 地番	調査期間		調査面積 主な遺物	調査原因
				西暦	調査面積		
13-21 武田城下町遺跡	甲府市一丁目2021-2 城下町	中世	19201   252	35° 40' 41" 138° 34' 24"	H13.4.16 9m <sup>2</sup>		集合住宅建設
13-22 武田城下町遺跡	古府町4882-13 城下町	中世	19201   252	35° 40' 32" 138° 34' 55"	H13.4.18 39m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-23 武田城下町遺跡	宮前町86-3他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 13" 138° 35' 41"	H13.5.10 3m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-24 武田城下町遺跡	墨形二丁目2287-2他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 37" 138° 34' 32"	H13.5.25 20.5m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-25 武田城下町遺跡	武田三丁目413 城下町	中世	19201   252	35° 40' 21" 138° 34' 49"	H13.6.15~6.20 16m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-26 武田城下町遺跡	墨形二丁目1804-2 城下町	中世	19201   252	35° 40' 47" 138° 34' 33"	H13.8.23~9.2 80m <sup>2</sup>		宅地造成
13-27 武田城下町遺跡	天神町164-1 城下町	中世	19201   252	35° 40' 23" 138° 34' 15"	H13.8.24 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-28 武田城下町遺跡	大神町329-1他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 29" 138° 34' 23"	H13.8.27~10.3 75m <sup>2</sup>		集合住宅建設
13-29 武田城下町遺跡	大手二丁目4289-2他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 25" 138° 34' 51"	H13.10.4 24m <sup>2</sup>		集合住宅建設
13-30 武田城下町遺跡	古府中町2845-2他 城下町	中世	19201   252	35° 41' 08" 138° 35' 02"	H13.10.9~10.16 21m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-31 武田城下町遺跡	大手二丁目4073-1他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 38" 138° 34' 49"	H13.11.16~12.10 40m <sup>2</sup>		建物撤去
13-32 武田城下町遺跡	墨形三丁目1735-6 城下町	中世	19201   252	35° 40' 50" 138° 34' 29"	H13.12.12 10m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-33 武田城下町遺跡	宮前町11-13他 城下町	中世	19201   252	35° 40' 15" 138° 34' 39"	H13.1.25 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-34 武田城下町遺跡	宮前町11-12 城下町	中世	19201   252	35° 40' 16" 138° 34' 39"	H14.2.19 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-35 武田城下町遺跡	墨形二丁目2069-3 城下町	中世	19201   252	35° 40' 40" 138° 34' 31"	H14.3.25 10m <sup>2</sup>		店舗建設
13-36 武田城下町遺跡	吉府中町3147 城下町	中世	19201   252	35° 41' 10" 138° 34' 54"	H14.3.14~3.19 13m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-37 永井遺跡	小松町428-2他 敷布地	古墳～平安	19201   45	35° 41' 03" 138° 34' 07"	H13.11.27 12m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-38 永井遺跡	小松町427-1他 敷布地	古墳～平安	19201   45	35° 41' 03" 138° 34' 08"	H14.2.22 1.3m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-39 八幡東遺跡	千塚二丁目1696-2 敷布地	古墳～平安	19201   27	35° 40' 41" 138° 32' 54"	H13.5.9 6m <sup>2</sup>		店舗建設
13-40 下石遺跡	荒川一丁目264-1他 敷布地	平安	19201   68	35° 40' 21" 138° 32' 33"	H14.1.15~2.5 180m <sup>2</sup>		道路改良
13-41 富士見遺跡	富士見一丁目1642他 敷布地	古墳～平安	19201   73	35° 40' 10" 138° 33' 07"	H14.3.9 40m <sup>2</sup>		集合住宅建設
13-42 本郷遺跡	青光寺三丁目2352-8 山麓地	掘文～古墳～	19201   130	35° 39' 34" 138° 38' 46"	H13.9.6~9.7 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-43 本郷遺跡	青光寺三丁目1939-1 山麓地	掘文～古墳～	19201   130	35° 39' 31" 138° 35' 48"	H13.10.16~19 16m <sup>2</sup>		集合住宅建設
13-44 緑が丘二丁目遺跡	緑が丘二丁目833-2 敷布地	古墳～平安	19201   42	35° 40' 48" 138° 33' 51"	H13.9.12~9.13 5m <sup>2</sup>		個人住宅建設
13-45 横根久保田遺跡	横根町643-1他 敷布地	古墳～平安	19201   249	35° 39' 22" 138° 37' 07"	H13.12.16~12.18 96m <sup>2</sup>		店舗建設

番号 フリガナ 所蔵者名	ブリガナ 種別	所在地 土な時代	ヨード 土な遺構	北緯		調査期間 西面面積	調査原因
				市町村番号	度数	東經度数	
14-1 朝氣遺跡	朝氣二丁目28-1 集落跡	朝氣二丁目28-1 満文~平安	19201 121	35° 38' 54"	H14.7.12		
				138° 35' 02"	8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-2 朝氣遺跡	朝氣二丁目65-17 集落跡	朝氣二丁目65-17 満文~平安	19201 121	35° 38' 58" 138° 35' 17"	H14.5.31 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-3 忍村上遺跡	忍村上丁目363-2他 散布地	忍村上丁目363-2他 満文~平安	19201 69	35° 40' 11" 138° 32' 32"	H14.9.9~9.10 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-4 板田遺跡	千坂五丁目2988-2他 散布地	千坂五丁目2988-2他 弥生~平安	19201 17	35° 40' 56" 138° 32' 31"	H14.11.11 3m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-5 金坂西遺跡	千坂五丁目2218 散布地	千坂五丁目2218 紙文~平墳	19201 24	35° 40' 53" 138° 32' 40"	H15.2.12 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-6 上石川遺跡	上石川二丁目1671 集落跡	上石川二丁目1671 満文	19201 114	35° 38' 55" 138° 33' 37"	H15.3.19 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-7 上町大神遺跡	上町1502-1他 散布地	上町1502-1他 古墳~平安	19201 225	35° 37' 42" 138° 35' 11"	H15.3.3~3.12 102m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-8 上町大神遺跡	上町1807-1他 散布地	上町1807-1他 古墳~平安	19201 225	35° 37' 46" 138° 35' 11"	H15.3.10~3.14 86m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-9 龜田遺跡	川田町158-3 散布地	川田町158-3 古墳~	19201 172	35° 39' 08" 138° 37' 29"	H15.1.14~1.24 45m <sup>2</sup>		市道拡張
14-10 神田遺跡	千坂三丁目2147-3 散布地	千坂三丁目2147-3 弥生~平安	19201 26	35° 40' 15" 138° 32' 40"	H14.4.22 4.5m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-11 新紹尾小学校遺跡	武田二丁目131他 散布地	武田二丁目131他 城下町	19201 75 253	35° 40' 07" 138° 34' 21"	H14.10.23~11.4 225m <sup>2</sup>		学校施設建設
14-12 中府城下町遺跡	中府城下町遺跡 城下町	近世		溝跡	十器・南磁器		
14-13 中府城下町遺跡	丸の内二丁目31-9 城下町	近世	19201 253	35° 39' 44" 138° 34' 13"	H14.4.5 70m <sup>2</sup>		店舗併用 住宅建設
14-14 中府城下町遺跡	北口二丁目19 城下町	近世	19201 253	35° 39' 59" 138° 34' 24"	H14.5.22 6.3m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-15 中府城下町遺跡	丸の内二丁目12-1 城下町	近世	19201 253	35° 39' 50" 138° 34' 16"	H14.6.24~7.8 110m <sup>2</sup>		立体駐車場建設
14-16 中府城下町遺跡	武田二丁目95-1 城下町	近世	19201 253	35° 40' 09" 138° 34' 27"	H14.6.24~6.26 13m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-17 中府城下町遺跡	朝日一丁目110 城下町	近世	19201 253	35° 40' 05" 138° 34' 11"	H15.1.28 8m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-18 寺遺跡	寺町475-2他 包廃地	寺町475-2他 古墳~	19201 112	35° 39' 14" 138° 33' 55"	H14.5.7 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-19 幸町A遺跡	幸町1452-1他 散布地	幸町1452-1他 古墳~	19201 212	35° 38' 51" 138° 36' 27"	H15.3.26~3.31 50m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-20 幸町B遺跡	幸町1260-1 包廃地	幸町1260-1 弥生~平安	19201 171	35° 39' 00" 138° 37' 31"	H15.3.25 3m <sup>2</sup>		倉庫建設
14-21 桜林A遺跡	宮原町183-1他 散布地	宮原町183-1他 古墳~中世	19201 229	35° 37' 05" 138° 33' 35"	H15.2.7 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-22 塙部遺跡	塙浜三丁目564-1 仙廻地	塙浜三丁目564-1 弥生~平安	19201 74	35° 40' 07" 138° 33' 42"	H14.5.13~5.14 28m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-23 塙部遺跡	塙新二丁目273 包廃地	塙新二丁目273 弥生~平安	19201 74	35° 40' 06" 138° 33' 47"	H14.5.1~8.5 20m <sup>2</sup>		貯水槽埋設
14-24 地藏化遺跡	東光寺二丁目1743-8他 散布地	東光寺二丁目1743-8他 古墳~平安	19201 94	35° 39' 50" 138° 35' 29"	H14.9.17~10.5 70m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-25 十丁遺跡	青葉町100-1他 散布地	青葉町100-1他 古墳	19201 195	35° 38' 39" 138° 35' 13"	H14.8.6~10.10 450m <sup>2</sup>		道路建設 宅地造成

番号 フリガナ 所取遺跡名	ジグナ 所在地 種別	ヨード 市町村番号 主な時代	北緯 東経	調査期間		調査面積 個人住宅建設
				市町村番号	遺跡名 主な遺物	
14-26 ト丁遺跡	青葉町406-3 散布地	19201 195	35° 38' 42" 138° 35' 15"	H15.1.9 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-27 妙間遺跡	高重町155 散布地	19201 235	35° 36' 35" 138° 33' 27"	H14.12.20 6m <sup>2</sup>		工場建設
14-28 大手下遺跡 武田城下町遺跡	大字三丁目3821-1 散布地	19201 244 252	35° 40' 47" 138° 34' 55"	H14.4.5 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-29 大手下遺跡 武田城下町遺跡	大字三丁目3768-2他 散布地	19201 244 252	35° 40' 52" 138° 34' 54"	H14.6.14~6.24 54m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-30 大手下遺跡 武田城下町遺跡	大手下町 散布地	19201 244 252	35° 40' 49" 138° 34' 51"	H15.3.10~3.18 37m <sup>2</sup>		宅地造成
14-31 峰本南B遺跡 武田城下町遺跡	峰形二丁目2498-4 散布地	19201 56 252	35° 40' 53" 138° 34' 39"	H15.3.10 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-32 武田城下町遺跡	峰形二丁目11-15 散布地	19201 252	35° 40' 15" 138° 34' 40"	H14.4.10~4.5 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-33 武田城下町遺跡	峰形二丁目2391-1他 城下町	19201 252	35° 40' 44" 138° 34' 40"	H14.4.5~4.10 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-34 武田城下町遺跡	峰形二丁目2087-5 城下町	19201 252	35° 40' 38" 138° 34' 24"	H14.4.10~4.11 8m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-35 武田城下町遺跡	武田城下町111他 城下町	19201 252	35° 40' 14" 138° 34' 26"	H14.4.24~5.8 60m <sup>2</sup>		事務所兼設
14-36 武田城下町遺跡	峰形二丁目2490-3他 城下町	19201 252	35° 40' 52" 138° 34' 40"	H14.4.26 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-37 武田城下町遺跡	峰形二丁目1789-1他 城下町	19201 252	35° 40' 55" 138° 34' 25"	H14.5.22 22m <sup>2</sup>		集合住宅建設
14-38 武田城下町遺跡	大手二丁目4080-3 城下町	19201 252	35° 40' 36" 138° 34' 51"	H14.6.5 3.5m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-39 武田城下町遺跡	峰形二丁目1579-5 城下町	19201 252	35° 40' 55" 138° 34' 31"	H14.6.7 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-40 武田城下町遺跡	峰形二丁目1572-3 城下町	19201 252	35° 40' 56" 138° 34' 30"	H14.6.7 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-41 武田城下町遺跡	古府中町1346-13 城下町	19201 252	35° 41' 07" 138° 34' 41"	H14.7.15 4m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-42 武田城下町遺跡	峰形二丁目2299-3 城下町	19201 252	35° 40' 35" 138° 34' 37"	H14.7.15 2.25m <sup>2</sup>		店舗併用住宅
14-43 武田城下町遺跡	大手三丁目3814-2 城下町	19201 252	35° 40' 47" 138° 34' 56"	H14.8.26~8.27 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-44 武田城下町遺跡	峰形二丁目1719-1 城下町	19201 252	35° 40' 56" 138° 34' 34"	H14.9.2 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-45 武田城下町遺跡	峰形二丁目1747-32他 城下町	19201 252	35° 40' 53" 138° 34' 29"	H14.10.31 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-46 武田城下町遺跡	武田町18-2 城下町	19201 252	35° 40' 25" 138° 34' 24"	H14.10.17 2.25m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-47 武田城下町遺跡	古府中町3284-1 城下町	19201 252	35° 41' 07" 138° 35' 02"	H14.10.18 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-48 武田城下町遺跡	大手二丁目3876-6 城下町	19201 252	35° 40' 48" 138° 35' 00"	H14.10.22~10.23 8m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-49 武田城下町遺跡	武田町145 城下町	19201 252	35° 40' 20" 138° 34' 40"	H14.10.31~11.5 6m <sup>2</sup>		個人住宅建設
14-50 武田城下町遺跡	屋形二丁目1747-31他 城下町	19201 252	35° 40' 53" 138° 34' 25"	H14.11.1 6m <sup>2</sup>		個人住宅建設

番号 フリガナ 所収遺跡名	位置 種別 所在地	主な時代	小町村番号 土な遺構	二丁目 北緯 東経	調査期間 測量面積 主な遺物	調査原因
14-51 武田城下町遺跡	古府中町1438-3他 城下町	中世	19201	252 35°41'03" 138°34'32"	H14.11.14~11.15 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-52 武田城下町遺跡	武山三丁目105 城下町	中世	19201	252 35°40'20" 138°34'38"	H14.11.28 4m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-53 武田城下町遺跡	星形三丁目2480-7 城下町	中世	19201	252 35°40'52" 138°34'42"	H15.1.16 6.75m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-54 武田城下町遺跡	天神町190 城下町	中世	19201	252 35°40'24" 138°34'17"	H15.2.12 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-55 武田城下町遺跡	武山二丁目270 城下町	中世	19201	252 35°40'22" 138°34'27"	H15.2.21 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-56 武田城下町遺跡	古府中町3140他 城下町	中世	19201	252 35°41'12" 138°34'55"	H15.3.20 4m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-57 大伴北遺跡	国玉町896-1 散布地	弥生~古墳	19201	214 35°38'39" 138°36'15"	H15.2.3 40m <sup>2</sup>	集合住宅建設
14-58 大伴北遺跡	千原五丁目3405-1他 散布地	古墳~平安	19201	15 35°41'03" 138°32'19"	H14.5.24~5.28 54m <sup>2</sup>	集合住宅建設
14-59 天神西遺跡	千原四丁目3361-6他 散布地	古墳~平安	19201	16 35°40'59" 138°32'16"	H15.1.29 6m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-60 天神西遺跡	千原四丁目3324-5 散布地	古墳~平安	19201	16 35°40'55" 138°32'19"	H15.2.21 4m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-61 小松町414-2 水井遺跡	小松町414-2 散布地	古墳~平安	19201	45 35°41'04" 138°34'07"	H14.5.28~5.29 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-62 伊勢三丁目2213-1 般用施設	伊勢三丁目2213-1 寺跡	中世	19201	183 35°38'20" 138°34'11"	H14.6.10~6.14 28m <sup>2</sup>	集会場建設
14-63 東畠遺跡	横根町039-1 伝藏地	古墳~平安	19201	247 35°39'27" 138°36'58"	H14.6.26 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-64 富士見遺跡	喜士見一丁目1731-2他 散布地	古墳~平安	19201	73 35°40'11" 138°33'10"	H14.7.15~7.26 60m <sup>2</sup>	道路改良
14-65 船山遺跡	横根町946-1他 散布地	古墳~奈良	19201	153 35°39'23" 138°37'03"	H14.8.~12.1 450m <sup>2</sup>	宅地造成
14-66 本郷遺跡	誓光寺三丁目2245-83 伝藏地	古墳~平安	19201	130 35°39'32" 138°35'52"	H14.9.12 1.5m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-67 緑が丘二丁目遺跡	緑が丘二丁目27-2他 散布地	古墳	19201	43 35°40'28" 138°33'55"	H14.7.1 8m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-68 緑が丘二丁目追跡	緑が丘二丁目74-6 散布地	古墳~古墳~	19201	43 35°40'28" 138°33'54"	H14.7.29~7.30 4m <sup>2</sup>	個人住宅建設
14-69 緑が丘二丁目遺跡	和出町758-1他 散布地	古墳~平安	19201	42 35°40'49" 138°33'55"	H14.10.23~31 35m <sup>2</sup>	集合住宅建設
14-70 緑が丘二丁目遺跡	和田町2434-23 散布地	古墳~平安	19201	42 35°40'51" 138°33'46"	H15.1.29 4.5m <sup>2</sup>	個人住宅建設

### 甲府市文化財調査報告 41

## 甲府市内遺跡 VI

- 平成13~14年度試掘調査報告書 -

平成21年3月31日

発行 甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055(223)7324

FAX 055(226)4889

印刷 ㈱内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号

